

宗像市基礎調査

令和6年5月

目次

ベンチマーク都市について……………	3
Ⅰ.人口……………	4
Ⅱ.産業・経済……………	32
Ⅲ.子育て・教育……………	57
Ⅳ.医療・福祉……………	85
Ⅴ.生活環境……………	94
Ⅵ.行政……………	118

ベンチマーク都市

調査で使用しているベンチマーク都市一覧

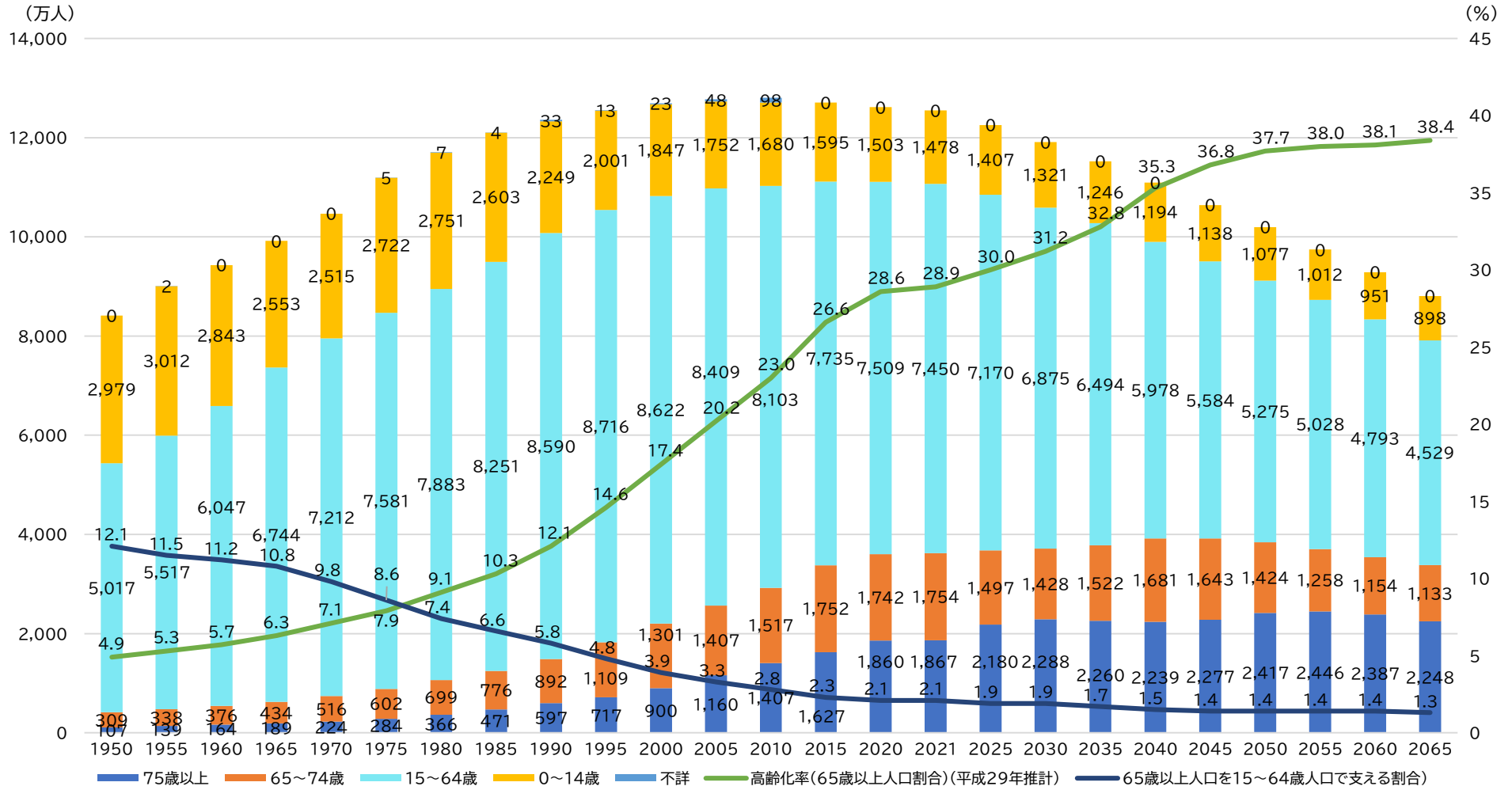
✓ 下表のとおり、宗像市の各データとの比較対象として、ベンチマーク都市を設定した。

NO.	都道府県	団体名	備考
1	福岡県	古賀市	福岡都市広域圏の市
2	福岡県	福津市	福岡都市広域圏の市
3	福岡県	大野城市	福岡都市広域圏の市
4	福岡県	春日市	福岡都市広域圏の市
5	福岡県	筑紫野市	福岡都市広域圏の市
6	福岡県	太宰府市	福岡都市広域圏の市
7	福岡県	那珂川市	福岡都市広域圏の市
8	福岡県	糸島市	福岡都市広域圏の市
9	福岡県	新宮町	宗像市近辺の市町
10	福岡県	宮若市	宗像市近辺の市町
11	福岡県	岡垣町	宗像市近辺の市町
12	福岡県	北九州市	※一部参考値として使用
13	福岡県	福岡市	※一部参考値として使用

I.人口 | 1.将来人口推計

日本の人口推移

- ✓ 少子高齢化の進行により、我が国の生産年齢人口(15~64歳)は1995年をピークに減少しており、2050年には5,275万人に減少すると見込まれている。
- ✓ 生産年齢人口の減少により、労働力の不足、国内需要の減少による経済規模の縮小などの社会的・経済的課題の深刻化が懸念される。

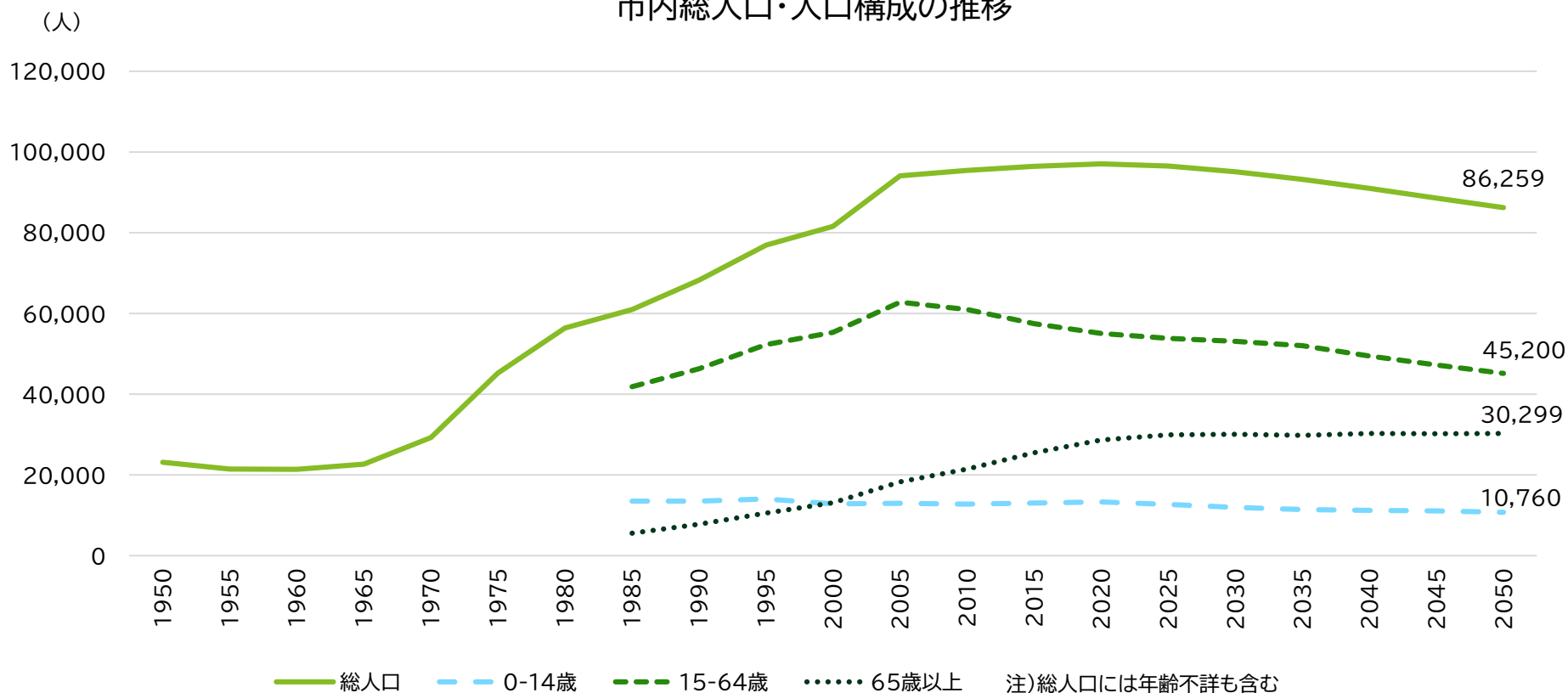


I.人口 | 1.将来人口推計

市内総人口と人口構成の推移

- ✓ 宗像市の総人口は2020年をピークに減少し、2050年には86,259人になると推計されている。
- ✓ 生産年齢人口(15～64歳)は2005年以降一貫して減少傾向にある一方、老年人口(65歳以上)は1985年以降増加し続け、2020年以降も同程度の人口で横ばいに推移していくと予測されている。
- ✓ 2025年には老年人口が総人口の30%に達し、その後も割合の増加が見込まれることから、今後高齢化が加速する市へのさらなる対策が必要になるといえる。

市内総人口・人口構成の推移



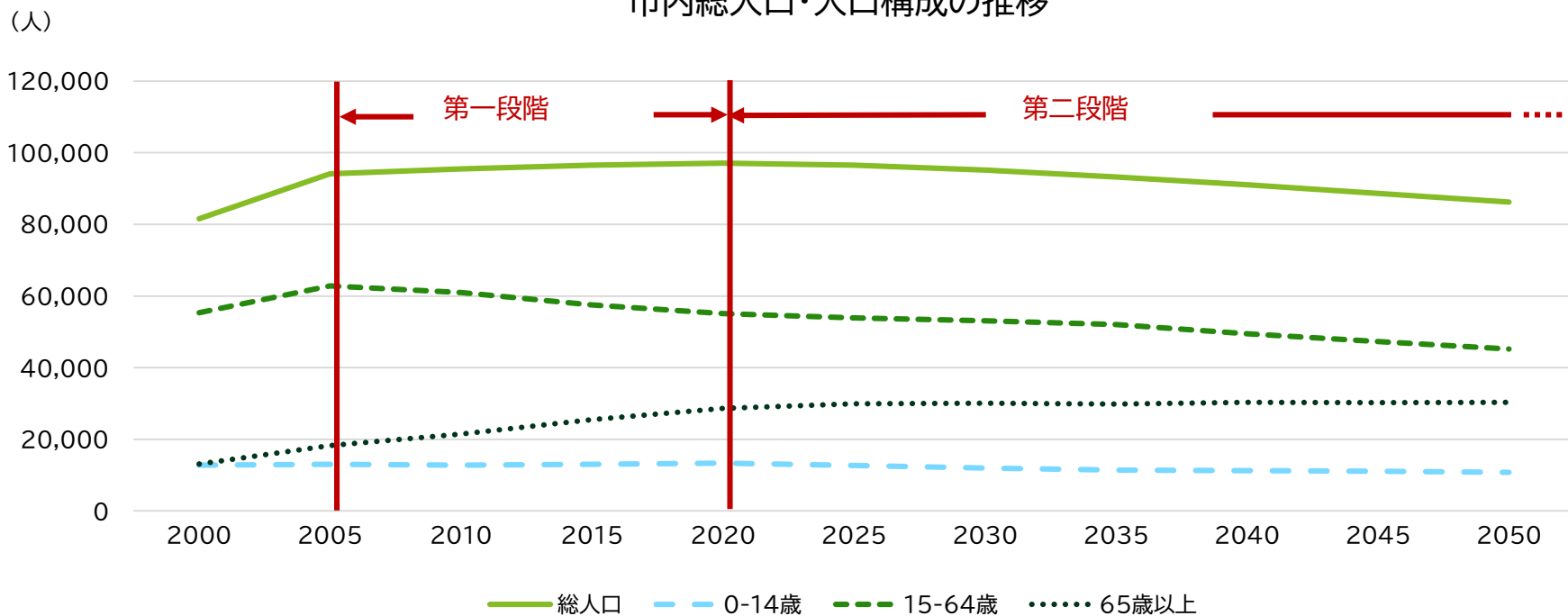
※1950年は1954年に合併予定の市町村の人口合計値。

I.人口 | 1.将来人口推計

人口減少段階の分析

- ✓ 宗像市の人口推移を「人口減少の三段階」に当てはめてみると、生産年齢人口(15～64歳)が減少を始める2005年が第一段階の起点となり、その後、老年人口(65歳以上)が横ばいに推移し始める2020年以降が第二段階となると分析される。
- ✓ 2050年まで第三段階には差し掛からない推測であるものの、現在はすでに第二段階であり、人口減少が進行していることがわかる。

市内総人口・人口構成の推移



○人口減少は3つのプロセスを経て進行。大都市や中核市は第一段階にあるのに対して、地方では既に第二段階、さらには第三段階に差し掛かっている地域もある。

第一段階：老年人口増加 + 生産年齢・年少人口減少

第二段階：老年人口維持・微減 + 生産年齢・年少人口減少

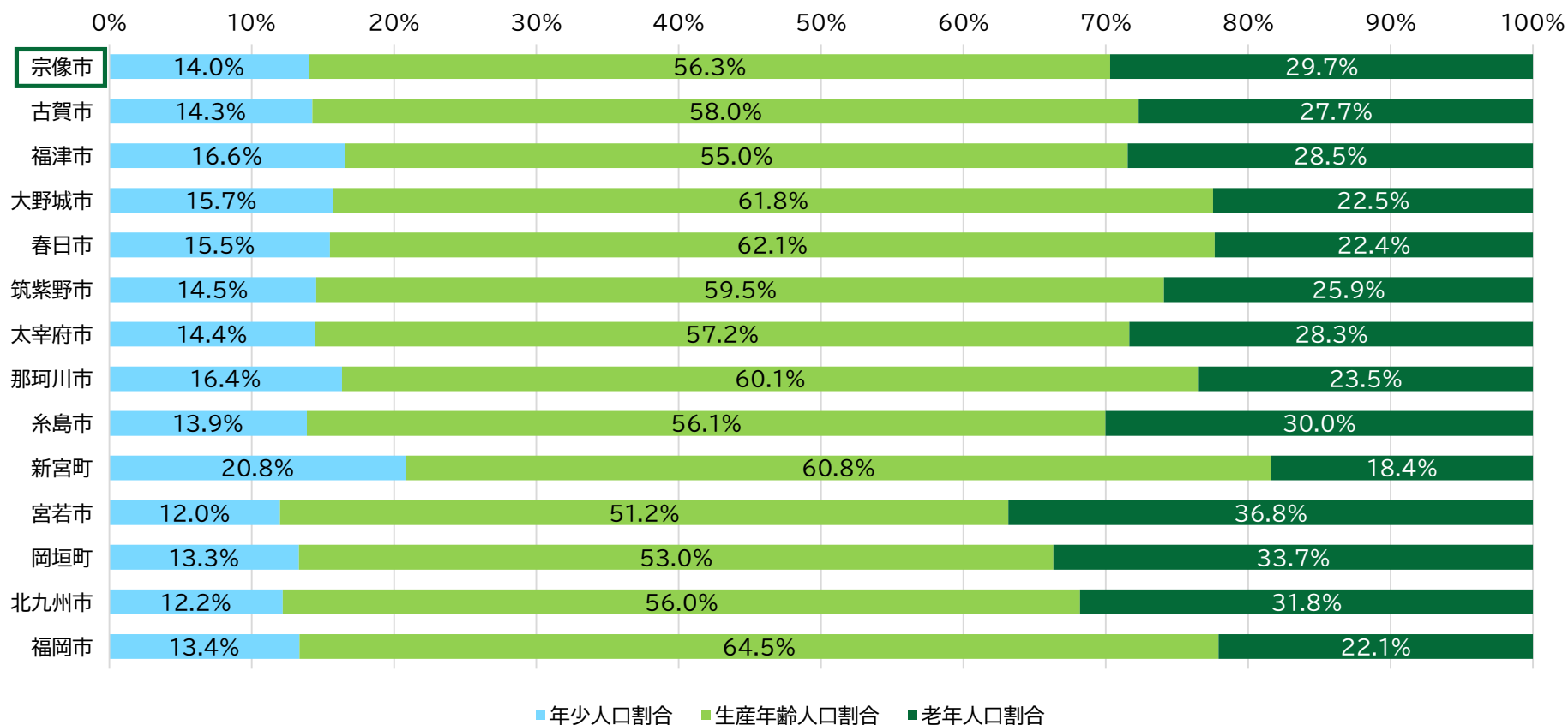
第三段階：老年人口減少 + 生産年齢・年少人口減少 ⇒ 本格的な人口減少時代

I.人口 | 1.将来人口推計

人口構成の比較

- ✓ 人口の年齢構成をベンチマーク都市で比較すると、宗像市は平均よりやや生産年齢人口の割合が低く、老年人口の割合が高いことから、比較的高齢化は進んでいるといえるものの、おおよそ平均的な水準である。
- ✓ 大野城市、春日市、那珂川市、新宮町は老年人口の割合が低く、生産年齢人口及び年少人口の割合が比較的高いことがわかる。一方、糸島市、宮若市、岡垣町、北九州市は老年人口の割合が高く、生産年齢人口及び年少人口の割合が低い。宗像市は両者の中間に位置する。

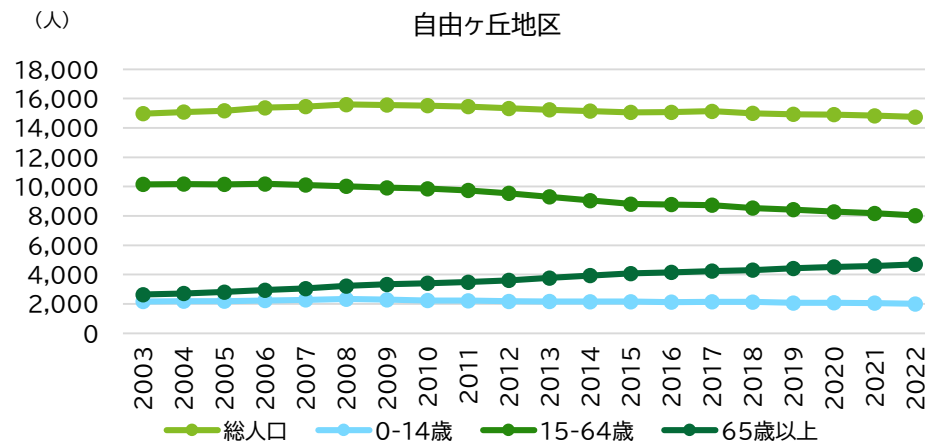
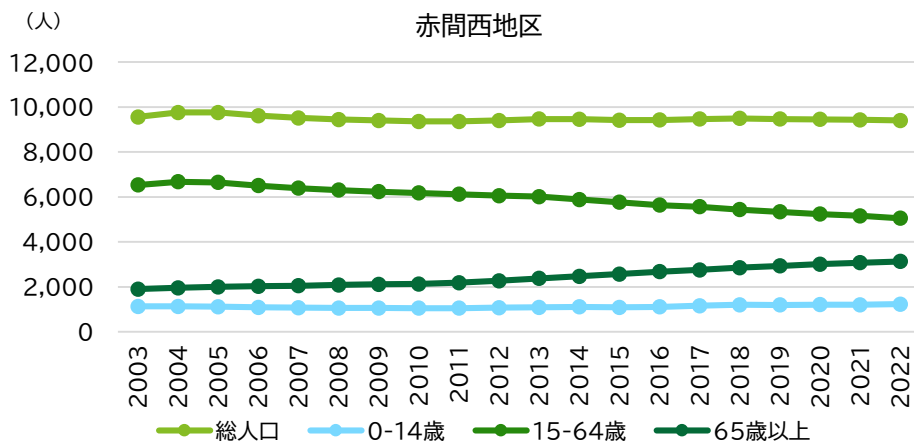
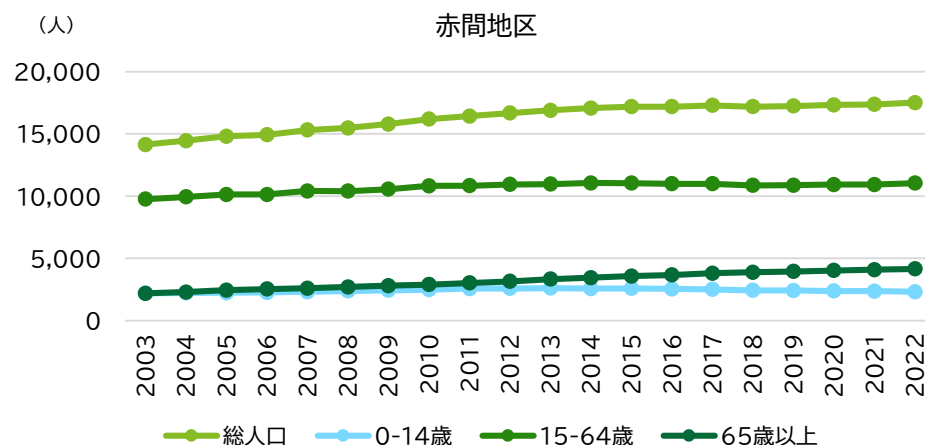
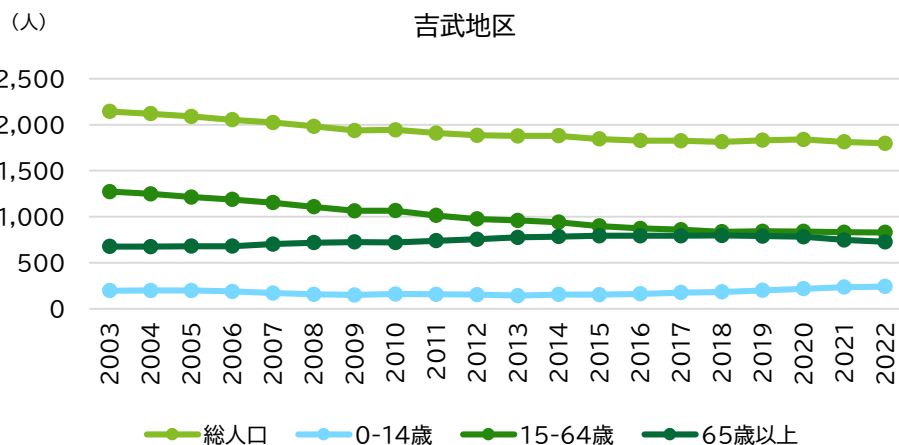
人口構成のベンチマーク都市比較(2020)



I.人口 | 2.地区別人口

地区別人口の推移

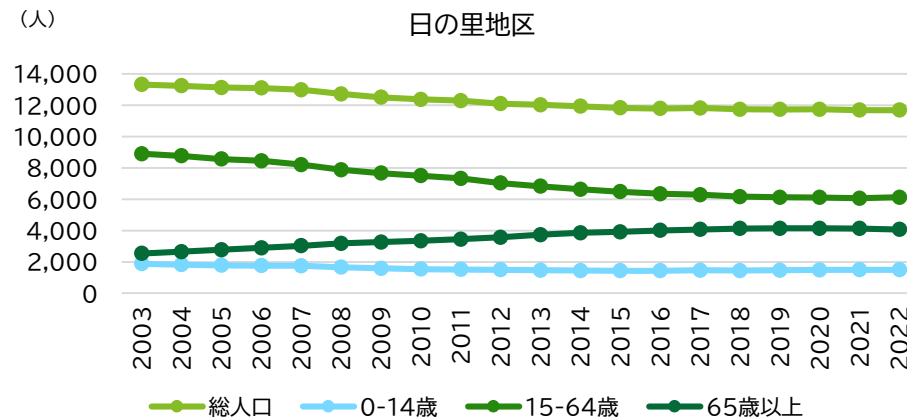
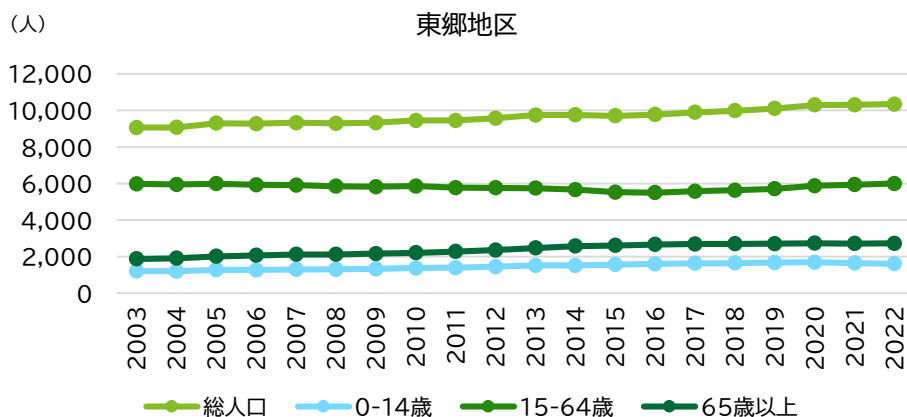
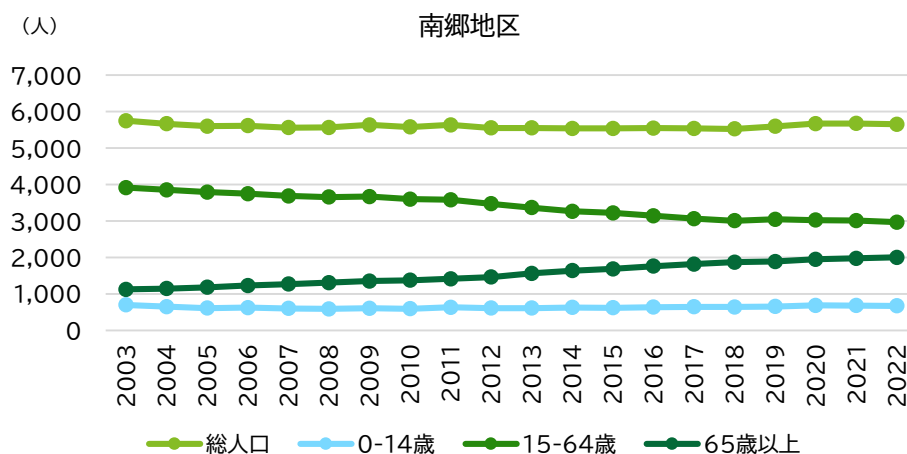
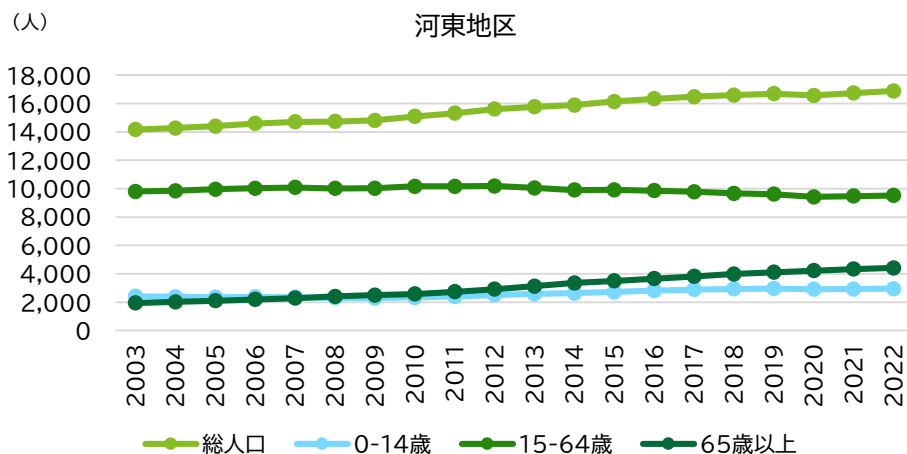
- ✓ 宗像市の人口推移を地区別にみると、2003年からの20年間で吉武地区は総人口が減少し、一方赤間地区は増加している。
- ✓ 吉武地区は2018年に生産年齢人口(15～64歳)と老年人口(65歳以上)がほとんど同数となり、今後の高齢化の加速が予測される。
- ✓ 赤間地区は宗像市の中で唯一生産年齢人口が一貫して微増しており、今後の高齢化の進みも比較的遅い地区であることが推察される。
- ✓ 赤間西地区と自由ヶ丘地区の総人口はほとんど横ばい推移であるが、構成をみるとどちらも生産年齢人口が減少し老年人口が増加しており、今後さらに両年代の人口の差が縮まることが予想される。



I.人口 | 2.地区別人口

地区別人口の推移

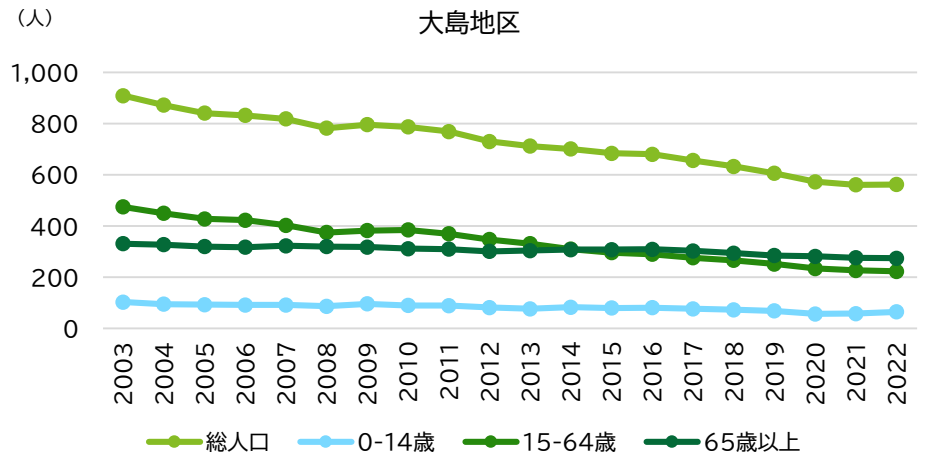
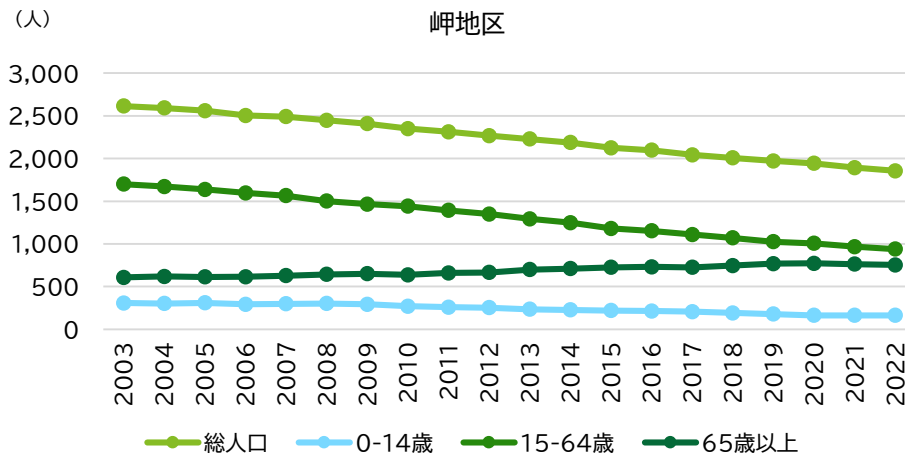
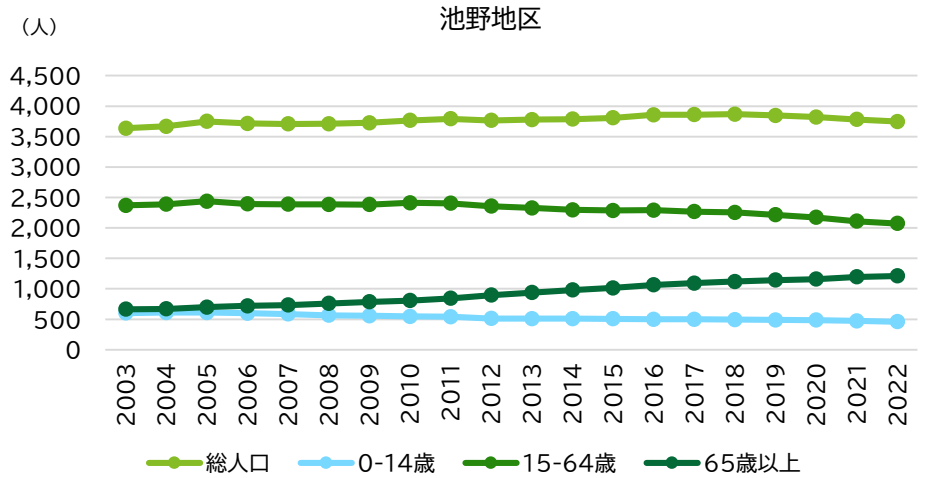
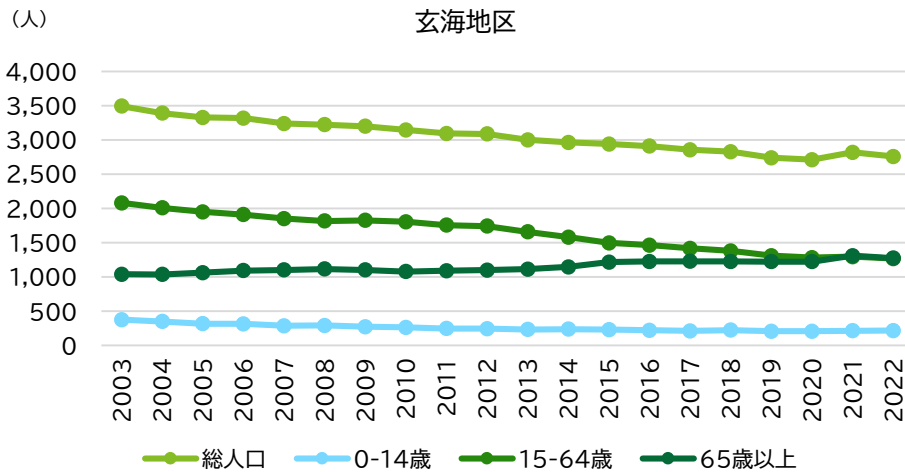
- ✓ 河東地区の総人口は増加傾向にあり、構成をみると生産年齢人口は微減し、老年人口が増加している。一方、他地区に比べて年少人口（0～14歳）の増加幅がやや大きいことがわかる。今後も老年人口と年少人口の増加による人口増加が予想される。
- ✓ 東郷地区も総人口は増加しており、老年人口と年少人口が一貫して微増している。生産年齢人口も2016年までは減少傾向にあったものの現在は増加傾向にあり、今後も人口増加が見込まれる。
- ✓ 南郷地区、日の里地区の総人口は横ばいまたは減少傾向であるが、生産年齢人口が大きく減り、その分老年人口が増加していることから、今後の高齢化加速の深刻さがうかがえる。



I.人口 | 2.地区別人口

地区別人口の推移

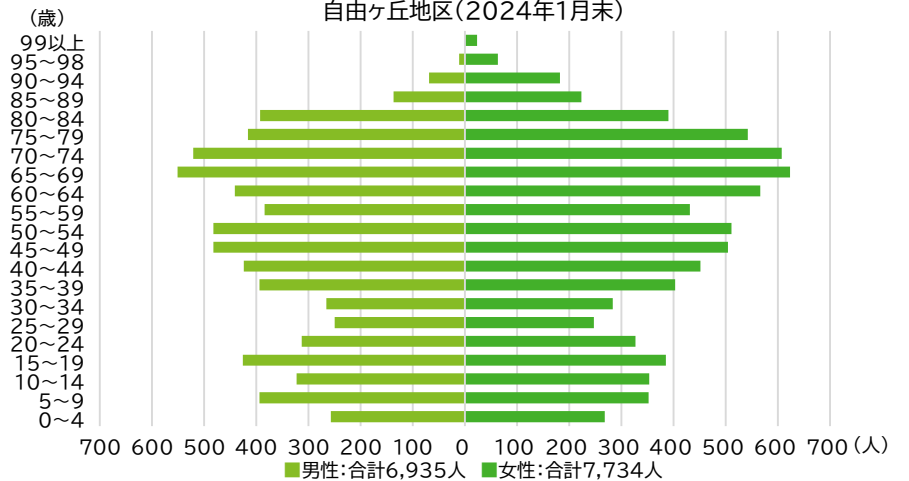
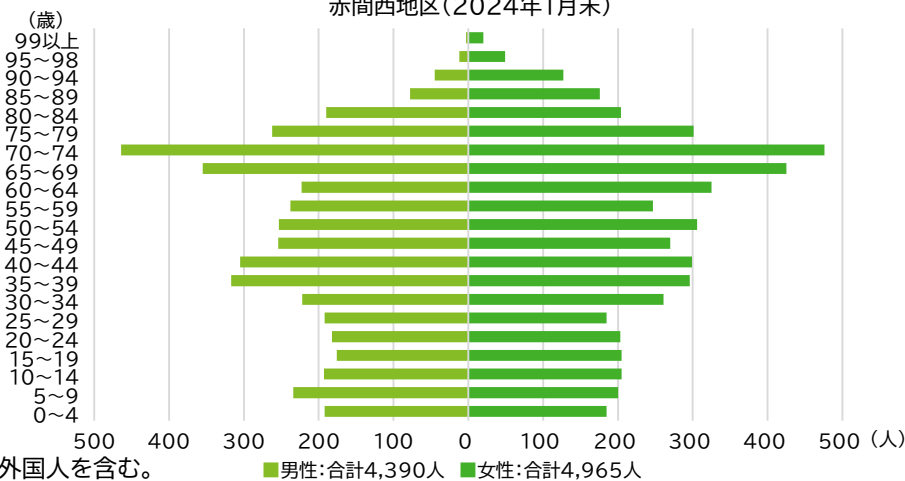
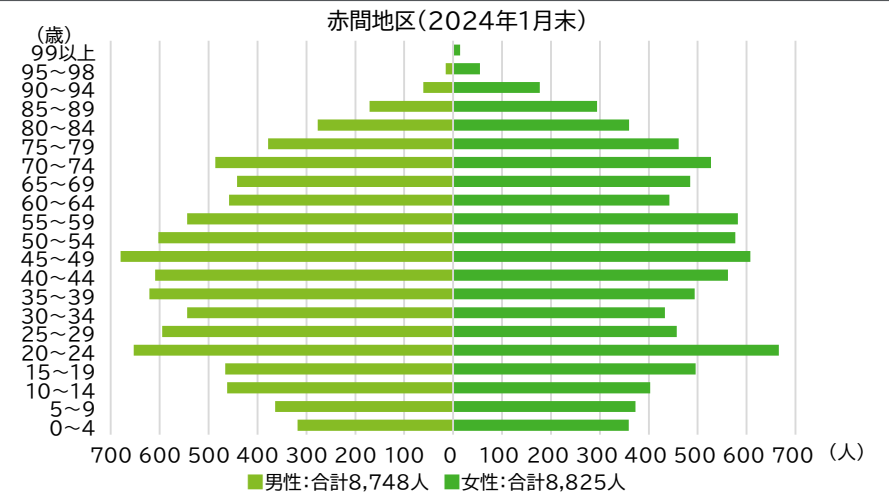
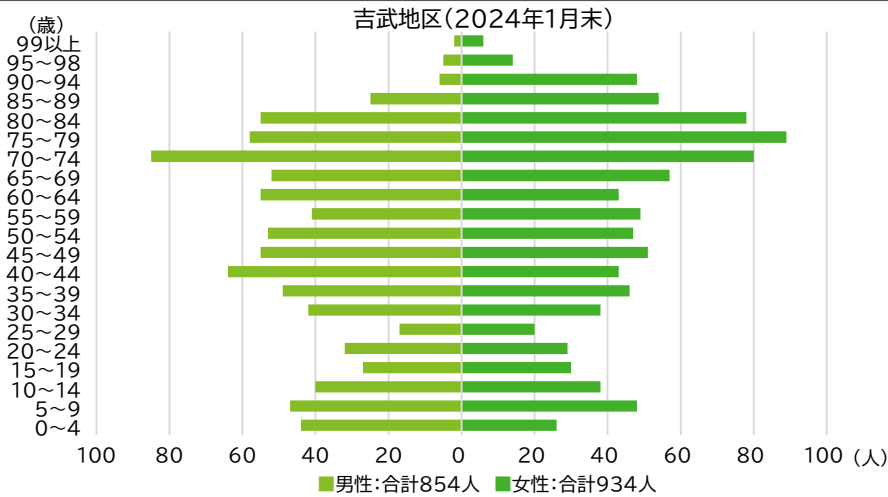
- ✓ 玄海地区、岬地区、大島地区は総人口が減少しており、生産年齢人口の減少も顕著であるため、今後の人口減少の深刻さがうかがえる。
- ✓ 大島地区は2014年に生産年齢人口と老年人口の数が逆転しており、今後さらに高齢化が加速することが推察される。
- ✓ 玄海地区も2021年に生産年齢人口と老年人口の数が同程度となり、今後の高齢化対策が重要となる。
- ✓ 池野地区は生産年齢人口の減少は比較的緩やかであるが、老年人口は一貫して増加しており、今後の高齢化加速が予想される。



I.人口 | 2.地区別人口

地区別人口構成

- ✓ 人口構成を地区別にみると、吉武地区、赤間西地区は65～79歳の人口が突出して多く、高齢化の深刻さがうかがえる。
- ✓ 一方、赤間地区は生産年齢人口(15～64歳)が多く、男性では45～49歳、女性では20～24歳が最も多い。
- ✓ 自由ヶ丘地区は65～74歳の人口は多いが、吉武地区や赤間西地区に比べると40歳、50歳代の割合が比較的高いといえる。

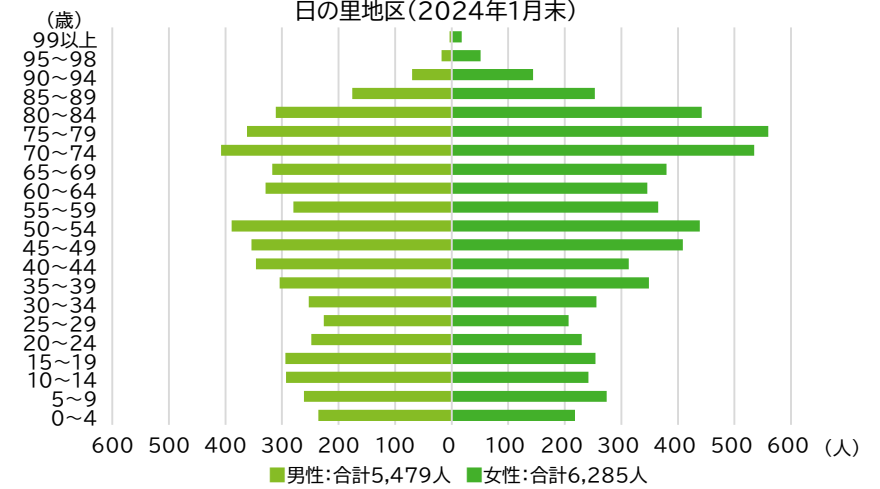
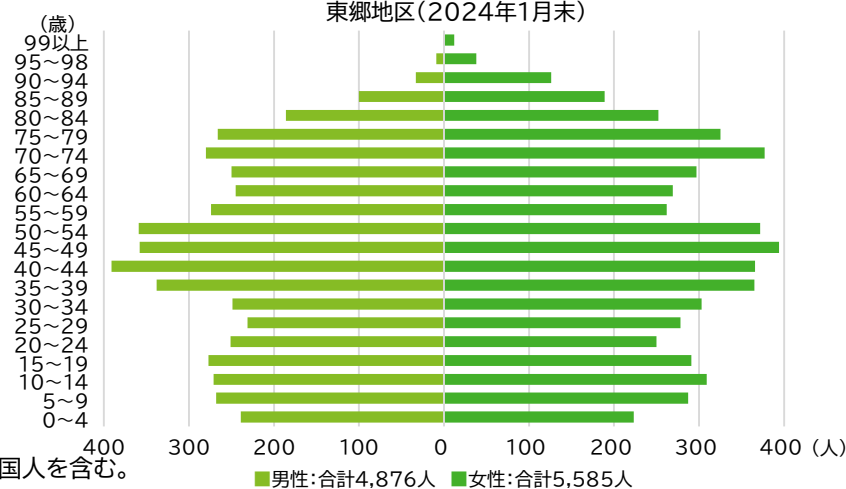
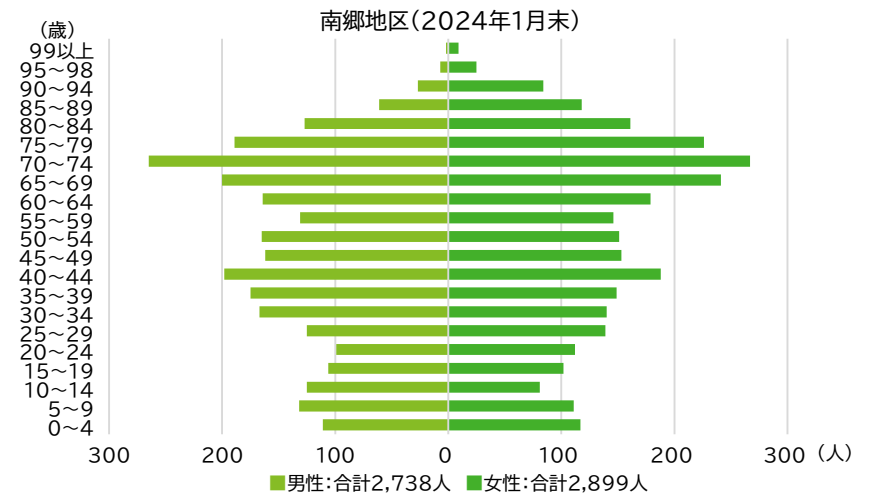
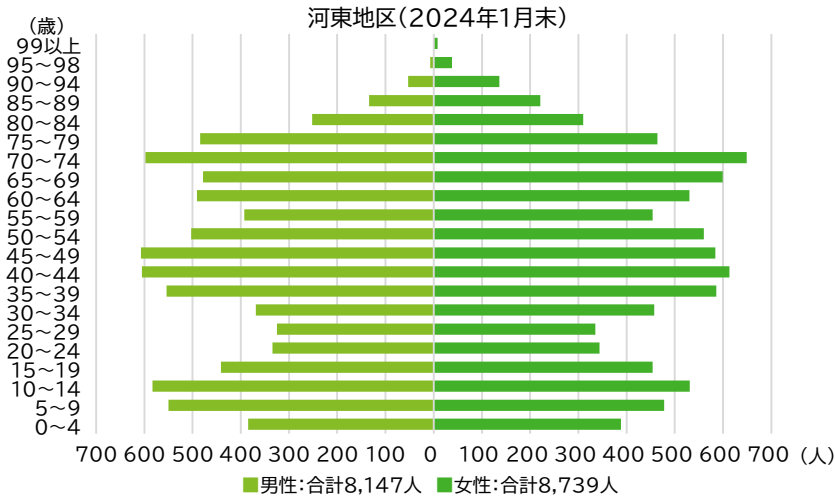


※外国人を含む。

I.人口 | 2.地区別人口

地区別人口構成

- ✓ 河東地区は70歳代と40歳代の人数が同程度であり、年少人口(0~14歳)の人数も比較的多い。一方、20歳代はかなり少ない。
- ✓ 南郷地区、日の里地区も70歳代が多く、20歳代が少ない傾向にある。40歳代、50歳代も比較的多い。
- ✓ 東郷地区は35~54歳人口が比較的多く、20歳代と60歳代が同程度の人口となっている。

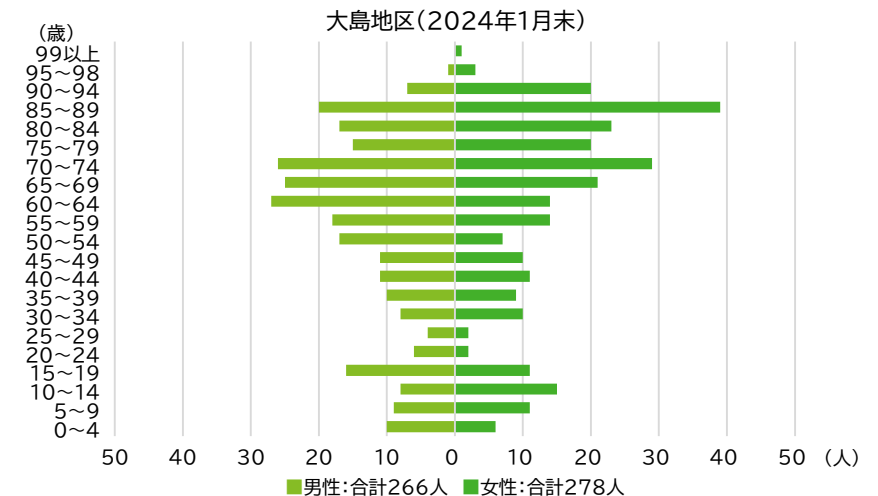
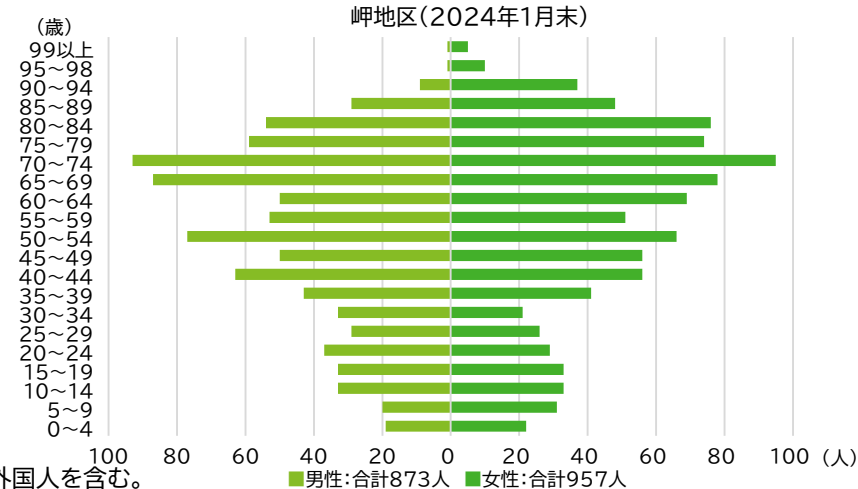
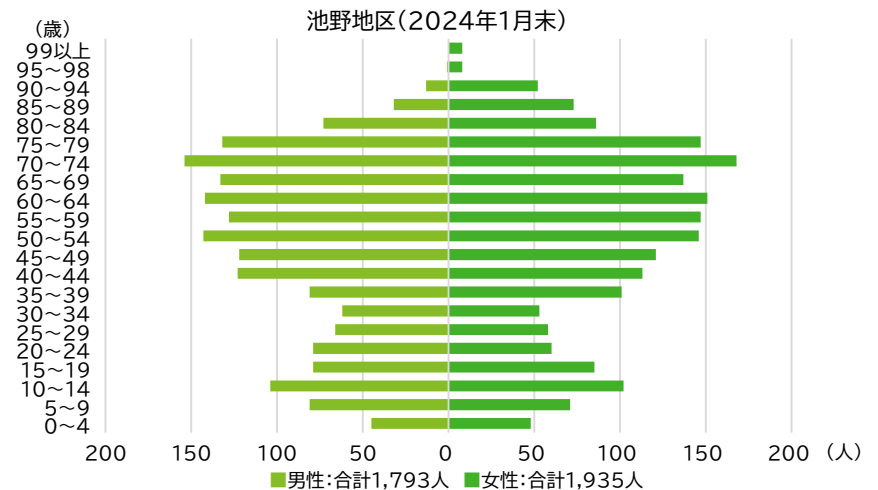
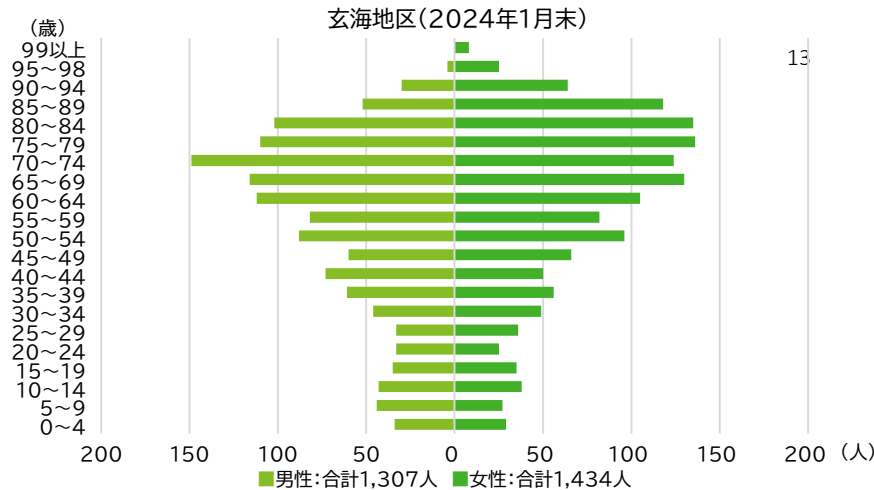


※外国人を含む。

I.人口 | 2.地区別人口

地区別人口構成

- ✓ 玄海地区と大島地区は老年人口に対する0~59歳人口がかなり少なく、特に20歳代の少なさが顕著である。
- ✓ 池野地区は40~79歳人口が多く、老年人口が突出して多いわけではないが、20~35歳人口が少ないことがわかる。
- ✓ 岬地区は70~74歳人口が多く、0~39歳人口が少なくなっている。

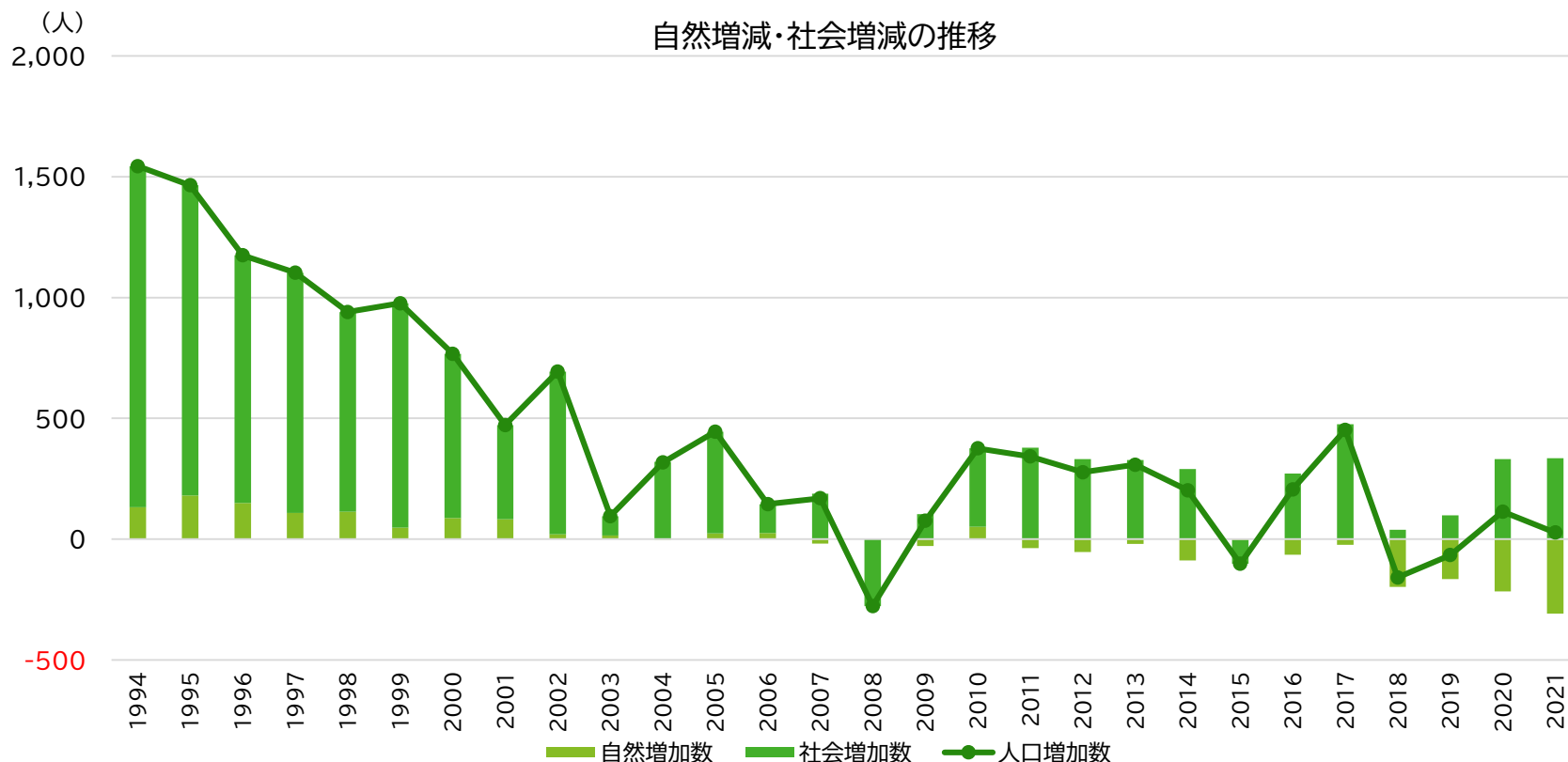


※外国人を含む。

I.人口 | 3.自然増減・社会増減の推移

宗像市の自然増減・社会増減の推移

- ✓ 自然増減は、2006年までは出生数が死亡数を上回る自然増となっていたが、2007年より死亡数が出生数を上回り自然減の傾向となっている。2018年以降は自然減の程度も大きくなっており、今後も継続して自然減となっていくことが推察される。
- ✓ 社会増減は、基本的に転入数が転出数を上回り社会増となっている年が多いが、1994年から社会増数は減少傾向にあり、2008年以降は転出数が転入数を上回る社会減の年がある。今後も社会減とまではいかずとも、社会増数は少なくなっていくと予想できる。
- ✓ 2000年代に入って以前に比べ、増加数は大きく減少しているものの、2008年、2015年、2018年、2019年を除き、人口増加がみられる。今後も、増加幅は少なくとも一定の人口増加が継続する可能性が高いといえる。

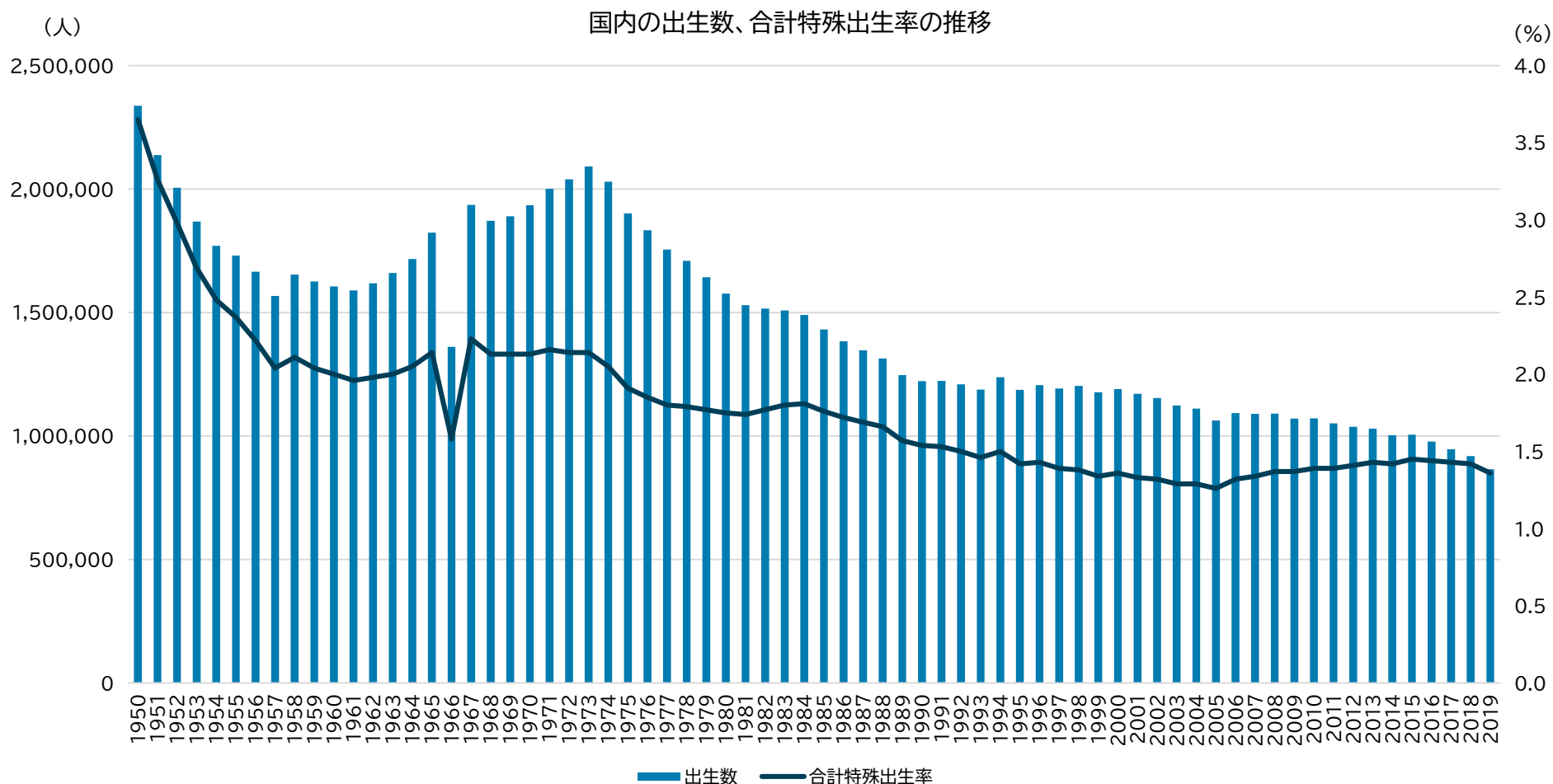


※2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む。

I.人口 | 4.自然増減

国内の出生数・出生率の推移

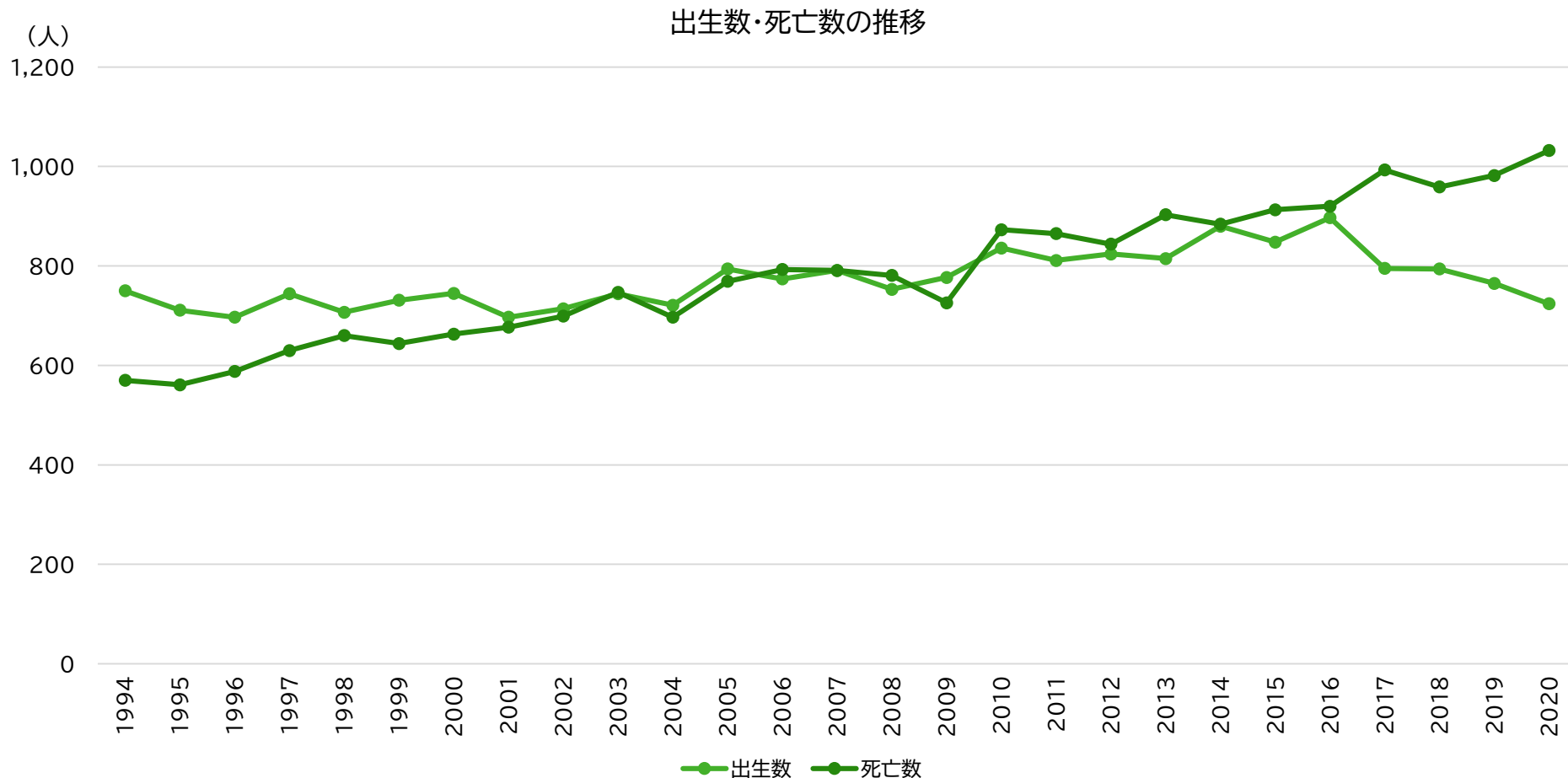
- ✓ 日本国内の出生数と合計特殊出生率の推移をみると、出生数は1973年をピークに一貫して減少し続け、2016年には1950年以降初めて100万人をきっている。
- ✓ 合計特殊出生率もそれとともに低下しているが、2005年以降は微増傾向に転じ、1.4前後を推移している。
- ✓ 今後、合計特殊出生率は現在の水準を推移すると考えられるが、若年層の全体的な減少により出生数の低下は継続すると推察される。



I.人口 | 4.自然増減

宗像市の出生数・死亡数の推移

- ✓ 宗像市は、2006年に死亡数が出生数を上回る自然減の状況に転じ、2009年を除き継続している。
- ✓ 死亡数の大幅な増加と出生数の減少傾向から、特に2017年以降は自然減が拡大している。
- ✓ 2020年の出生数は1994年以降の最小値であり、引き続き自然減は加速すると予想できる。



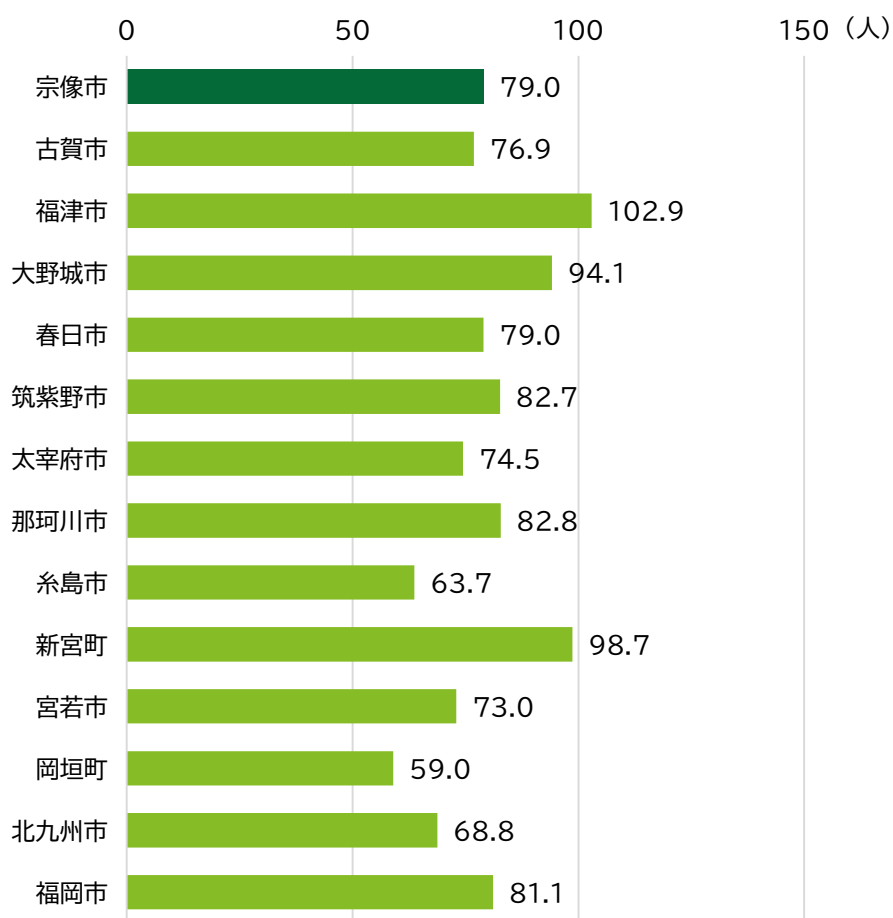
※2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

I.人口 | 4.自然増減

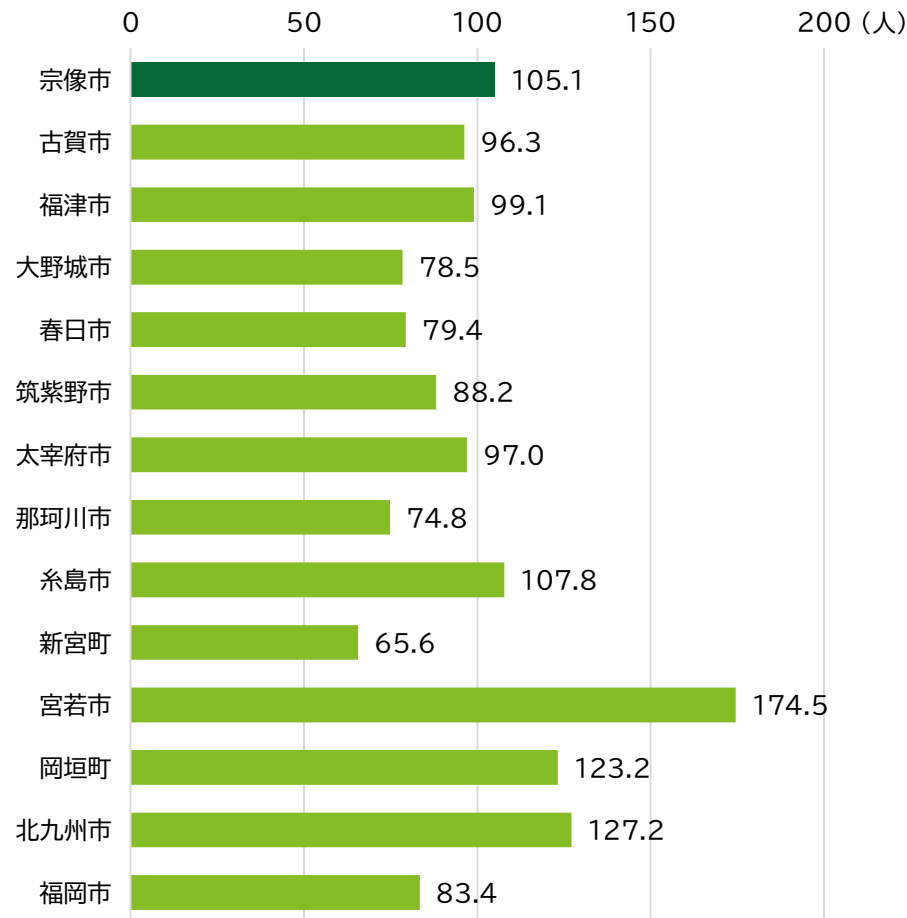
出生数・死亡数の比較

- ✓ 出生数と死亡数のベンチマーク都市比較では、宗像市は出生数が平均よりやや少なく、死亡数は平均よりやや高い。
- ✓ 少子高齢化が加速する市町では出生数の少なさと死亡数の多さが顕著であるが、宗像市はそこまで深刻な数値ではないと考えられる。
- ✓ 一方、福津市や大野城市、新宮町などは出生数が多い上に死亡数は少なく、少子高齢化がそこまで進行していない市町だといえる。

出生数のベンチマーク都市比較(2021)



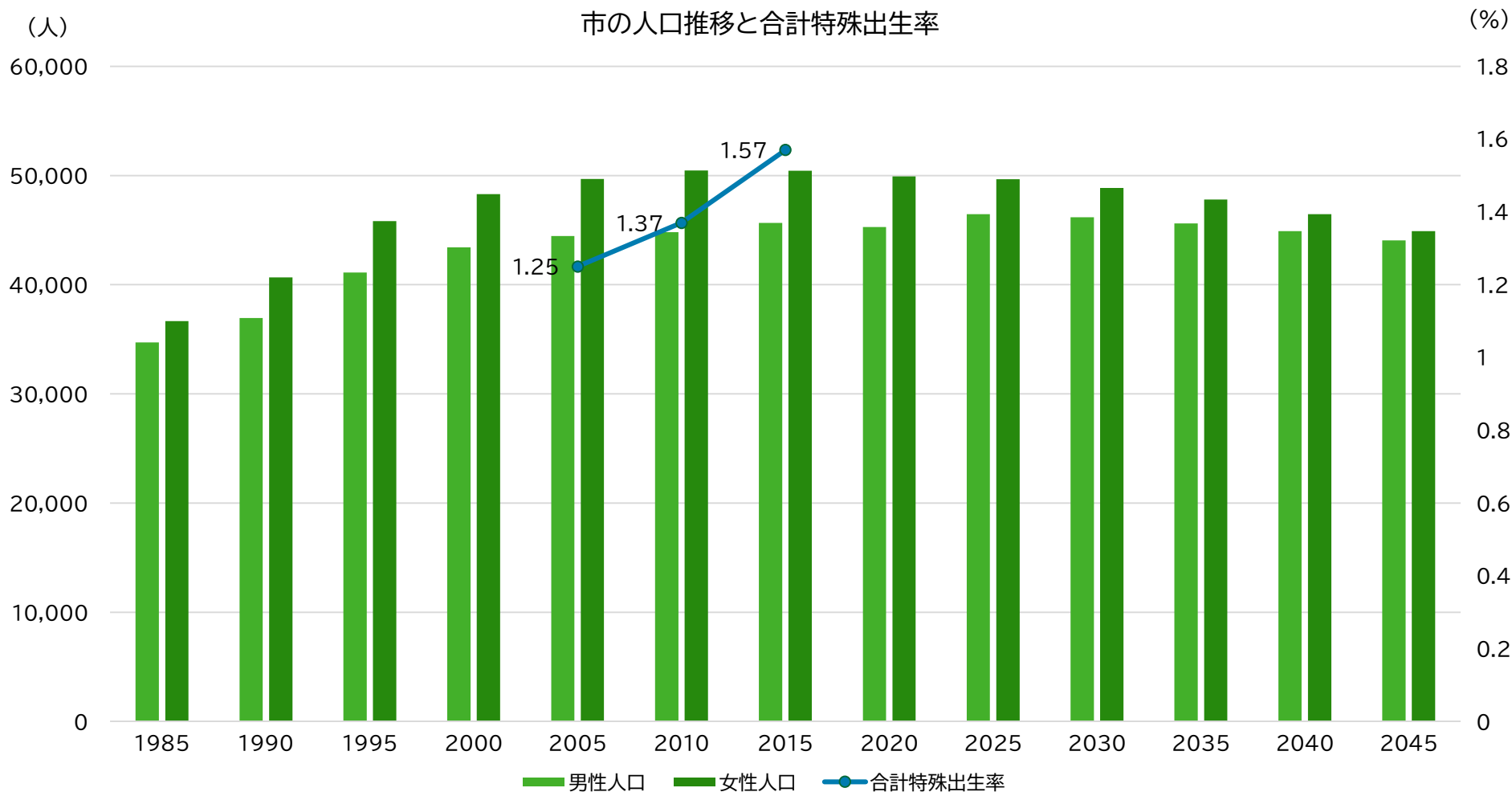
死亡数のベンチマーク都市比較(2021)



I.人口 | 4.自然増減

宗像市の人口推移と合計特殊出生率

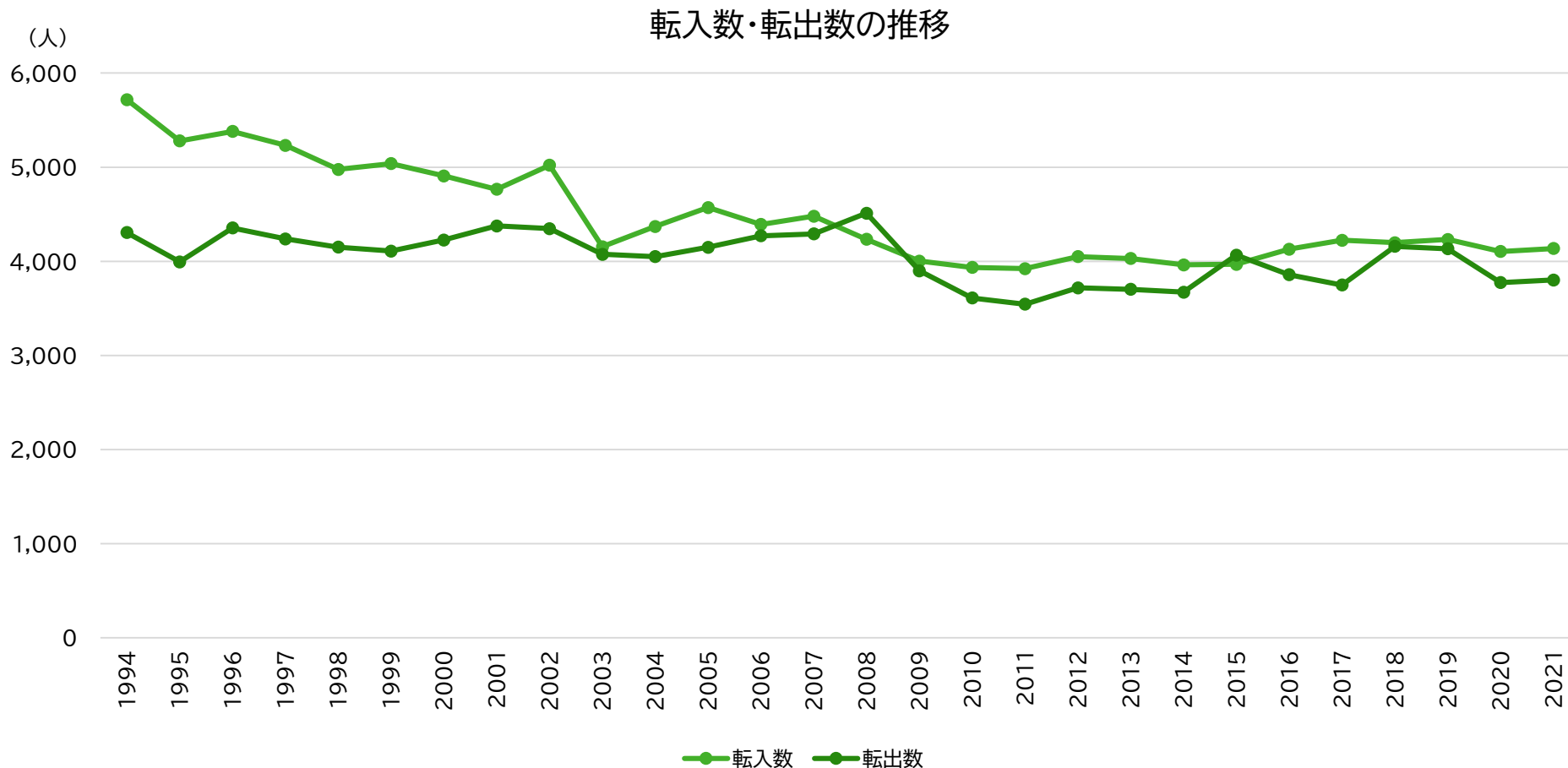
- ✓ 男性人口、女性人口ともに2010年までは増加傾向にあり、2020年以降は減少傾向に転じている。
- ✓ 今後の推移として、2025年に男性人口が微増し、それ以降は男性人口・女性人口ともに減少傾向となることが予測されている。
- ✓ 合計特殊出生率は2005年から2015年までの間は増加傾向にある。



I.人口 | 5.社会増減

宗像市の転入数・転出数の推移

- ✓ 1995年をピークに、一度2001年に持ち直したものの、転入数、転出数ともに減少傾向が続いている。
- ✓ 転入数が転出数を上回る社会増の状況にあるが、増加幅は2003年以降大きく縮小し、2008年、2015年は社会減となった。
- ✓ 今後も社会増の傾向は続くと思われるが、増加幅は小さく、転入数も大きくは増加しないことが予想できる。



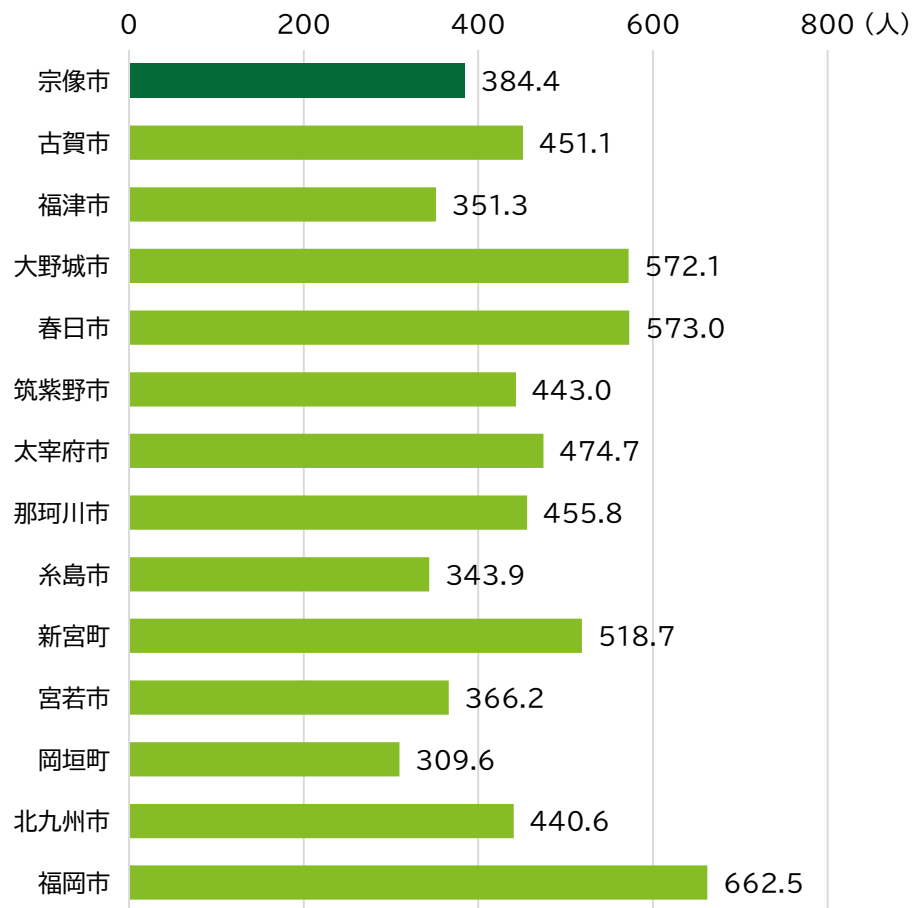
※2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

I.人口 | 5.社会増減

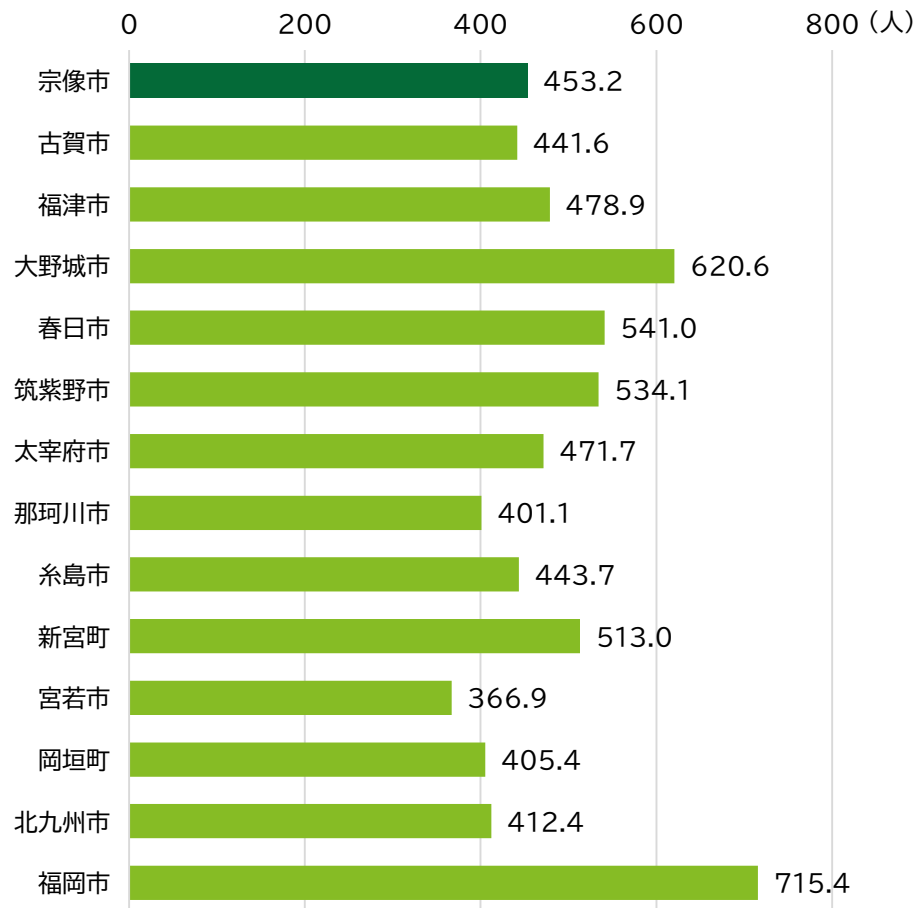
転入数・転出数の比較

- ✓ 転入数、転出数をベンチマーク都市で比較すると、宗像市の転出数は他市と比べても比較的少ないといえる。
- ✓ 一方で転入数は多いというわけではなくおおよそ平均的な水準で、宗像市を大きく上回る市町も多い。

転出数のベンチマーク都市比較(2022)



転入数のベンチマーク都市比較(2022)



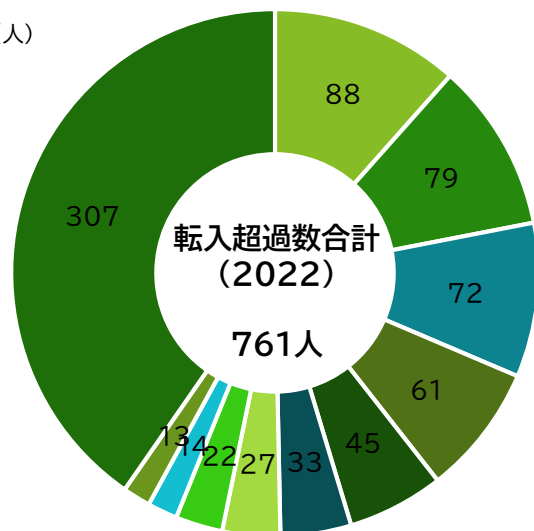
I.人口 | 5.社会増減

宗像市の転出・転入の地域別構成

- ✓ 宗像市の転出・転入超過数の地域別構成をみると、転入先は古賀市が最も多く、次いで福津市、新宮町が多い結果となった。
- ✓ 転出先は岡垣町が圧倒的に多く、宗像市から転出する4割の人が岡垣町を選んでいることがわかる。

転入超過数

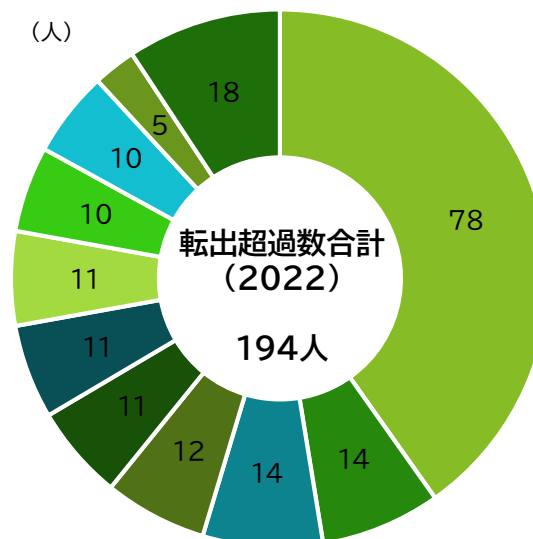
(人)



- 1位 福岡県古賀市
- 2位 福岡県福津市
- 3位 福岡県新宮町
- 4位 福岡県北九州市
- 5位 福岡県宮若市
- 6位 長崎県佐世保市
- 7位 福岡県福岡市
- 8位 大分県大分市
- 9位 神奈川県横浜市
- 10位 福岡県直方市
- その他

転出超過数

(人)



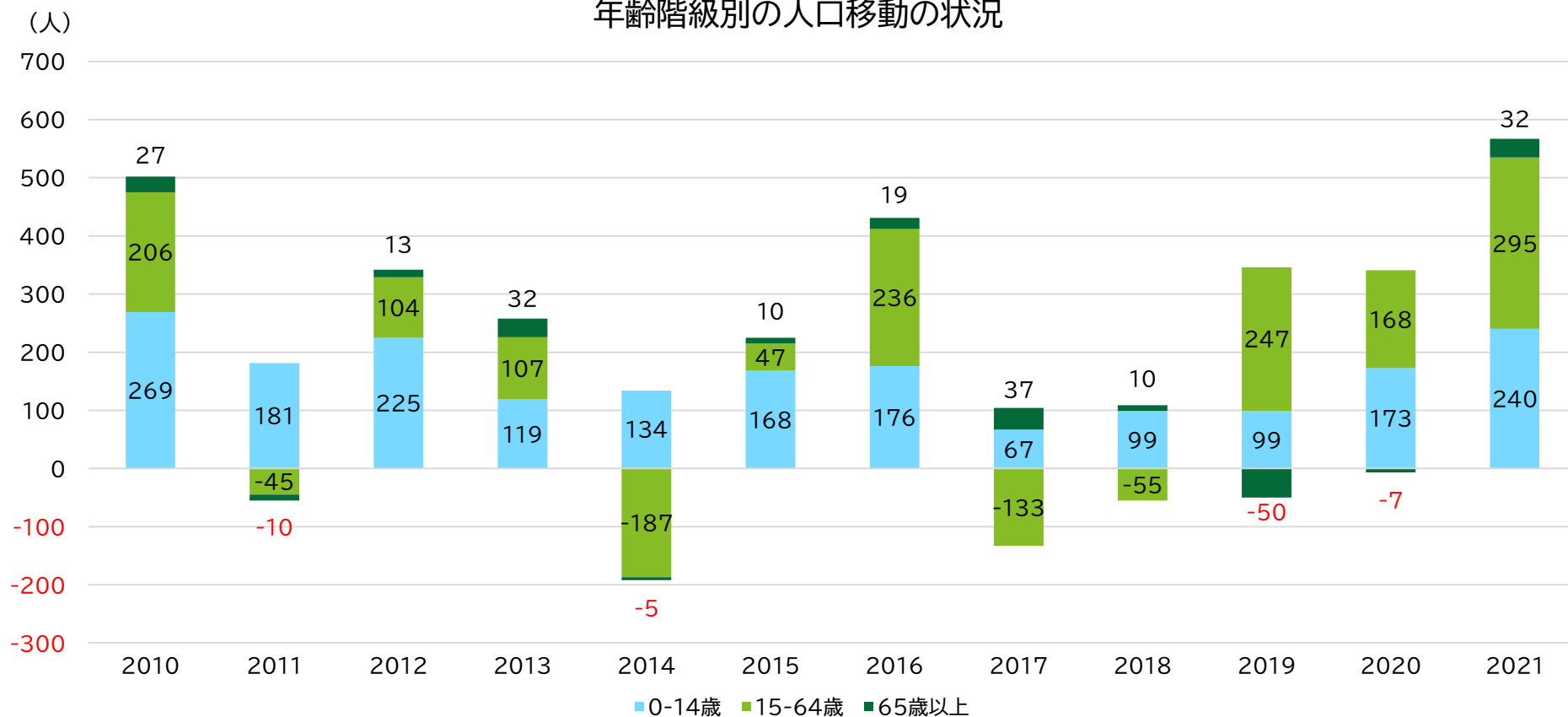
- 1位 福岡県岡垣町
- 2位 佐賀県佐賀市
- 3位 福岡県飯塚市
- 4位 福岡県春日市
- 5位 福岡県鞍手町
- 6位 福岡県遠賀町
- 7位 愛知県豊田市
- 8位 神奈川県川崎市
- 9位 東京都大田区
- 10位 熊本県熊本市
- その他

I.人口 | 5.社会増減

宗像市の年齢階級別の人口移動の状況

- ✓ 年少人口(0～14歳)は、2017年には規模が縮小しているものの、2010年から2021年まで例年100～250人程度の転入超過が継続している。2021年には240人の転入超過となっており、今後も一定の増加が見込まれる。
- ✓ 生産年齢人口(15～64歳)は、2011年、2014年、2017年、2018年を除き、年少人口と同様、例年100～250人程度の転入超過になっている。2019年以降は転入超過が続いており、今後も200人前後の転入超過が継続すると推察される。
- ✓ 老年人口(65歳以上)では、年少人口および生産年齢人口と比較すると移動規模は小さいものの、2011年、2014年、2019年、2020年を除き、転入超過になっている。今後も一桁～50人の単位で人口移動が推移すると考えられる。

年齢階級別の人口移動の状況

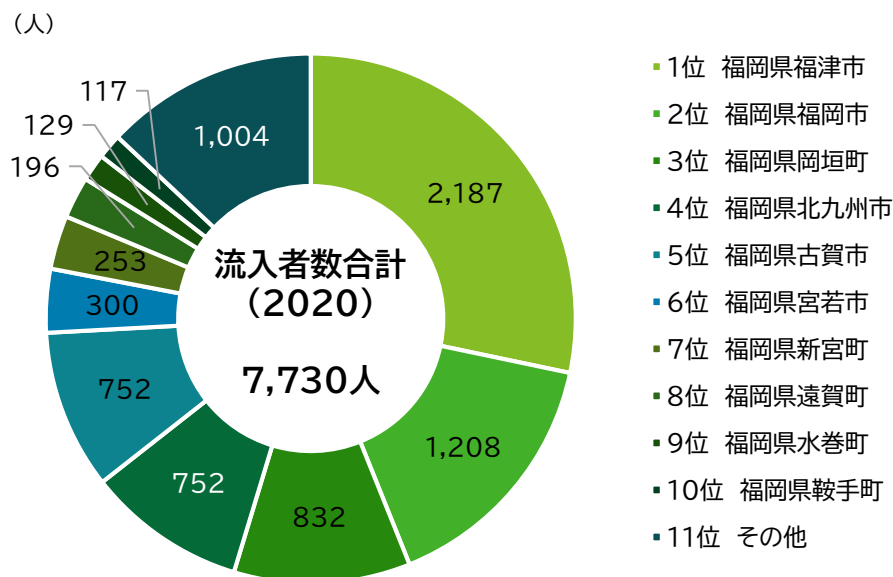


I.人口 | 5.社会増減

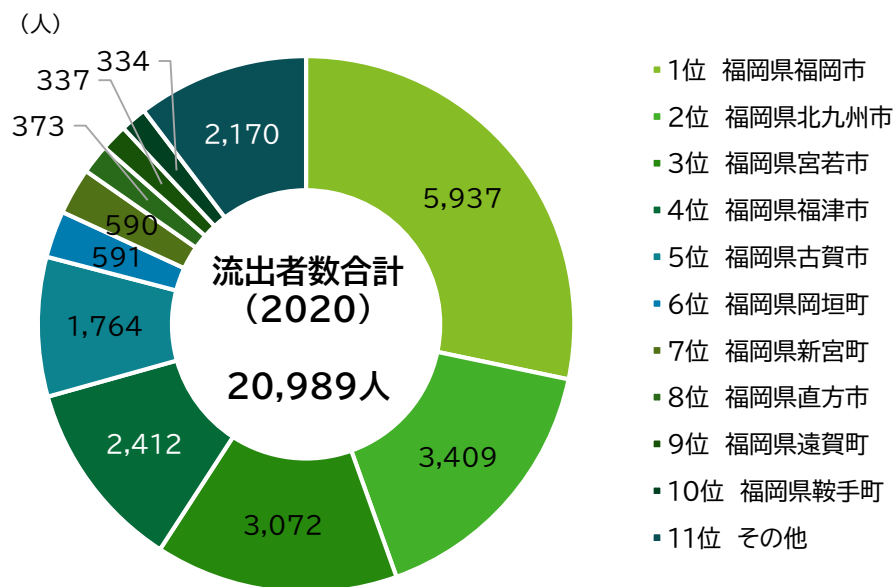
宗像市の通勤者の流入・流出の地域別構成

- ✓ 通勤者の流入人口は福津市からが最も多く、流出人口は福岡市が最も多くなっている。
- ✓ 都道府県別でみると、流入・流出者数ともに上位10位はすべて福岡県となっている。

域内への流入者数(通勤者)



域内への流出者数(通勤者)



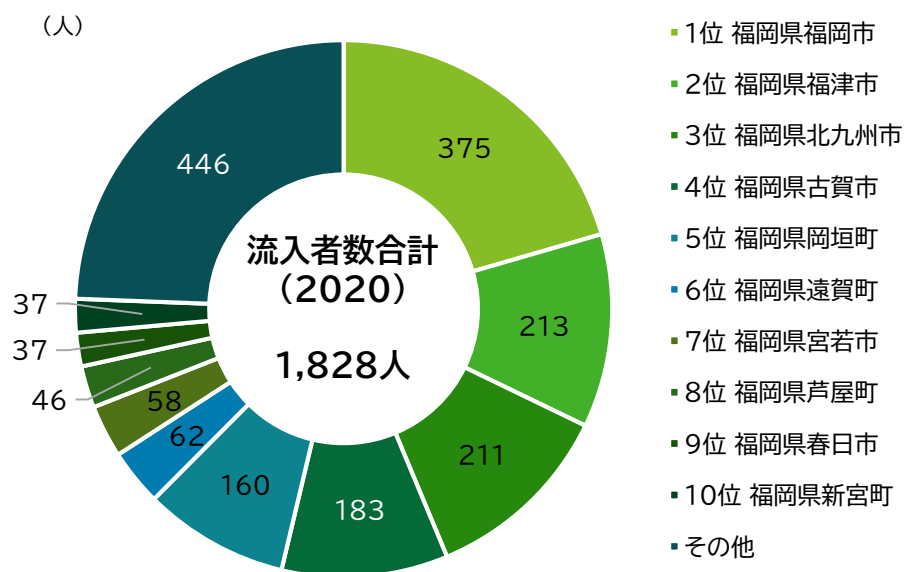
※「流出人口」とは市に常住し市外へ通勤・通学する人口をいい、「流入人口」とは市外に常住し市に通勤・通学する人口をいう。

I.人口 | 5.社会増減

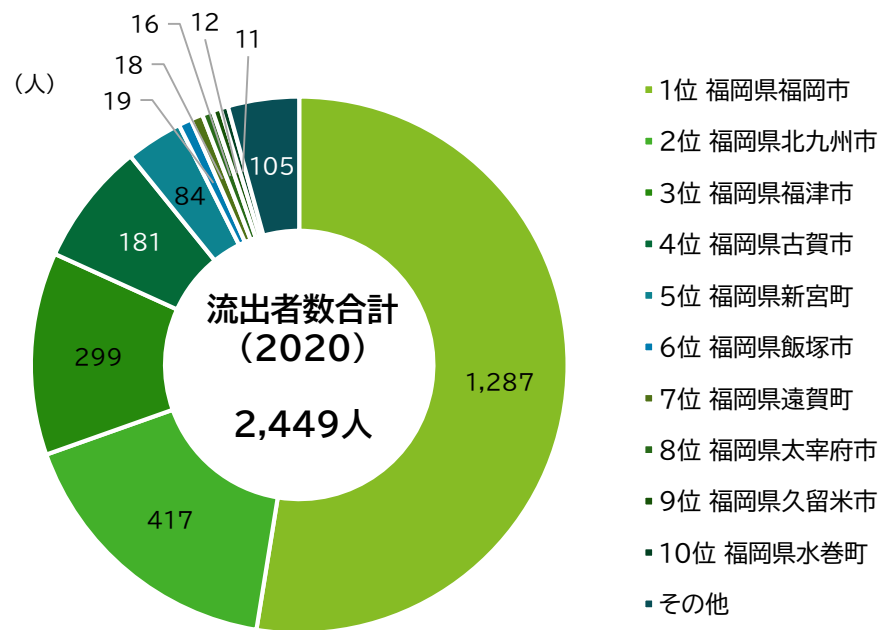
宗像市の通学者の流入・流出の地域別構成

- ✓ 通学者の流入人口は福岡市からが最も多い。
- ✓ 流出人口も福岡市が最も多く、全体の半数以上を占めている。その次に多いのは北九州市であり、全体の約2割を占めている。
- ✓ 都道府県別でみると、流入・流出者数ともに上位10位はすべて福岡県となっている。

域内への流入者数(通学者)



域内への流出者数(通学者)

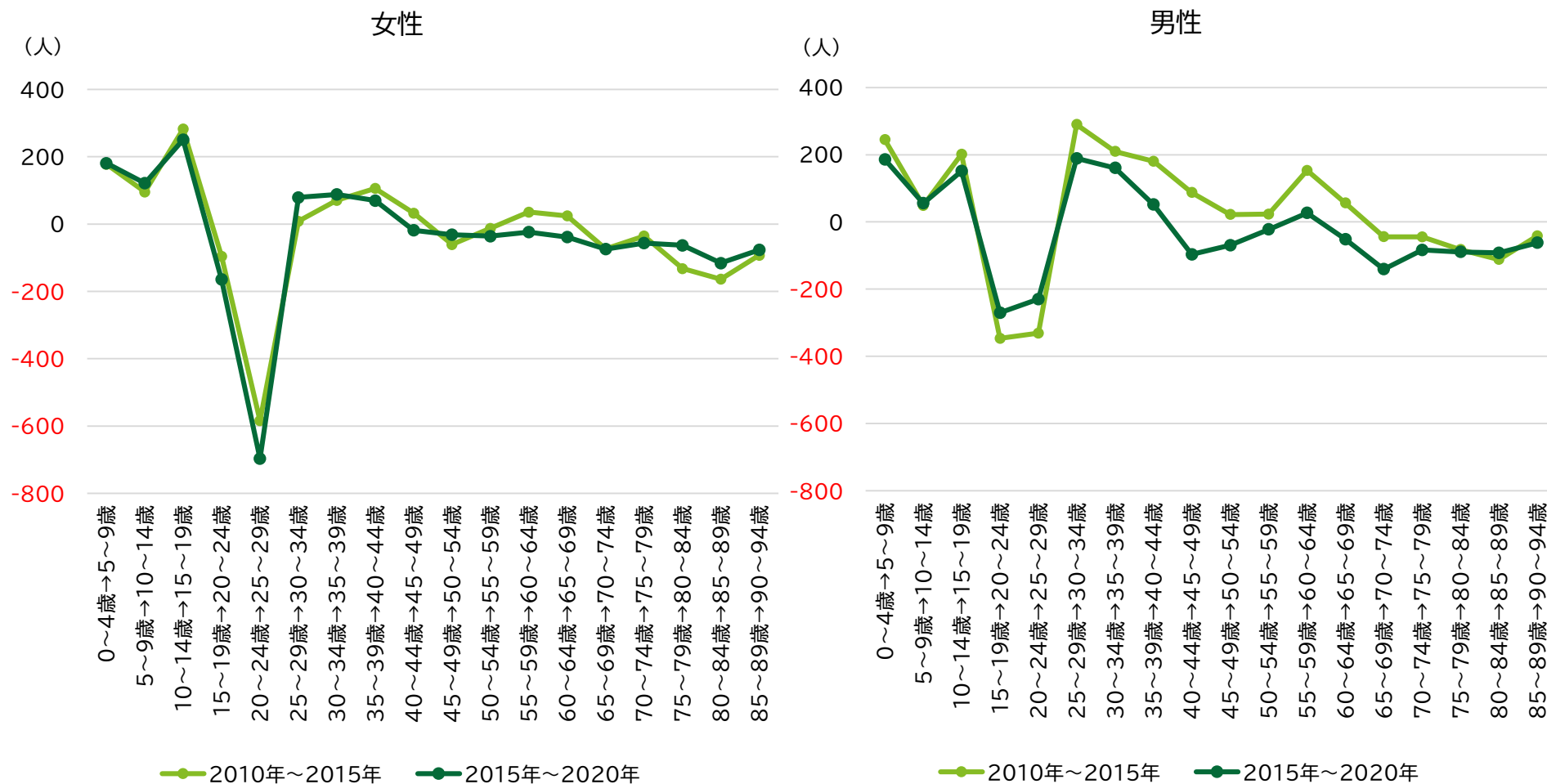


※「流出人口」とは市に常住し市外へ通勤・通学する人口をいい、「流入人口」とは市外に常住し市に通勤・通学する人口をいう。

I.人口 | 5.社会増減

宗像市の性別・年齢階級別人口移動の長期的動向

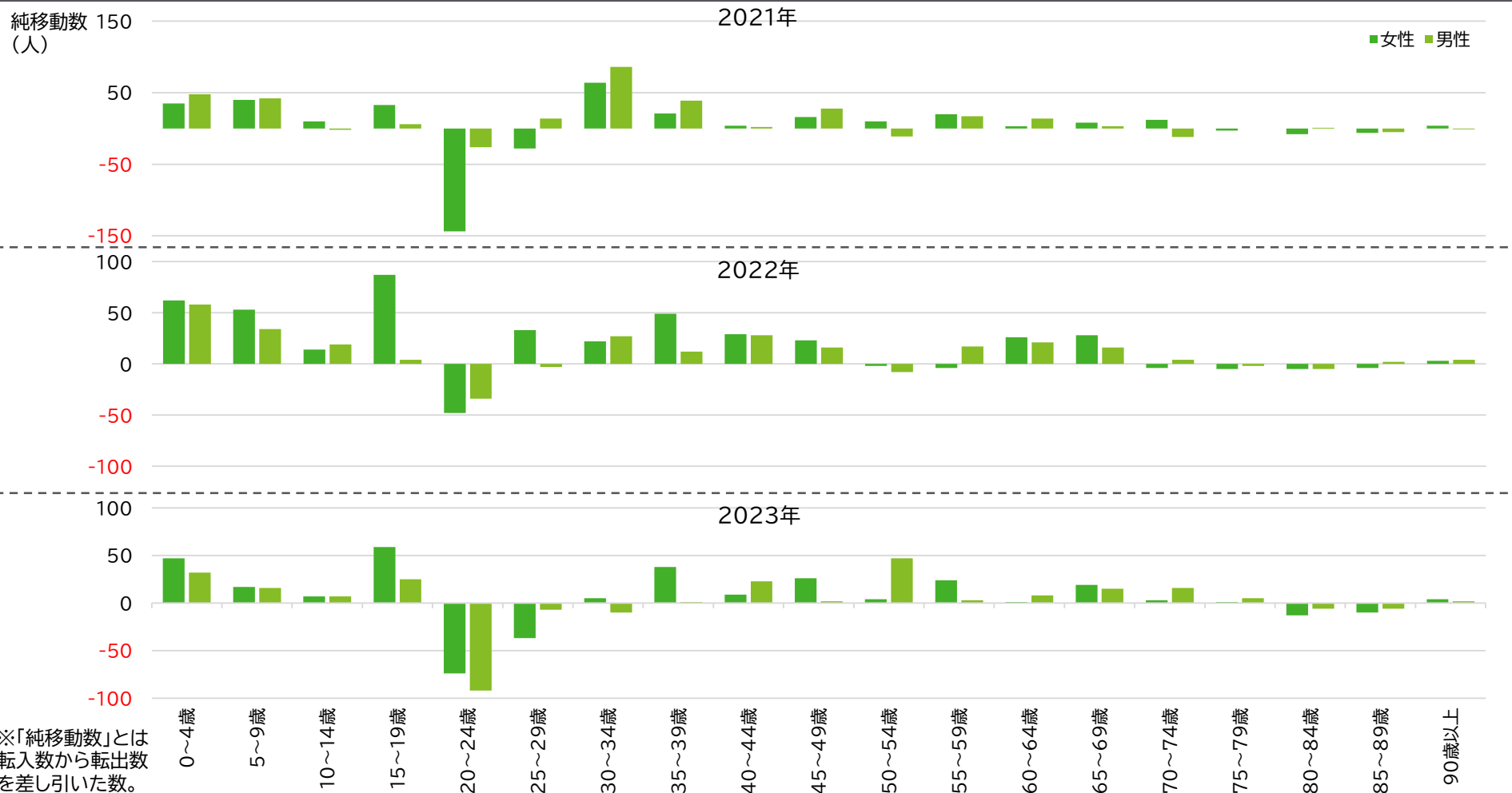
- ✓ 性別・年齢別の人口移動を長期的にみると、男女ともに10代後半から20代後半の転出超過が顕著であり、特に女性が多い。
- ✓ 女性では20代後半以上の年代で若者の転出分を補完するほどの転入数は見受けられず、若者の人口減少が深刻であることがわかる。
- ✓ 一方、男性では20代後半～30代の転入数が比較的多く、宗像市を出た若者が後年戻ってくる割合が高いと捉えることができる。
- ✓ 2010～2015年と2015～2020年では人数に差はあるものの傾向は大きく変わらず、今後も同様の傾向が続くと考えられる。



I.人口 | 5.社会増減

宗像市の性別・年齢階級別人口移動の短期的動向

- ✓ 性別・年齢別の人口移動を短期的にみると、2021年には20～24歳の女性の純移動数が-144人であるが、2023年には-74人となり、男性の方が女性を上回る転出超過になっていることがわかる。
- ✓ 一方、10～20代の転出を補完する30代の純移動数は、2021年に30～34歳が男女ともに+50人以上になっているものの、2023年には女性で+5人、男性では-10人となっており、今後は若者世代の転出超過による人口減少が課題となると考えられる。



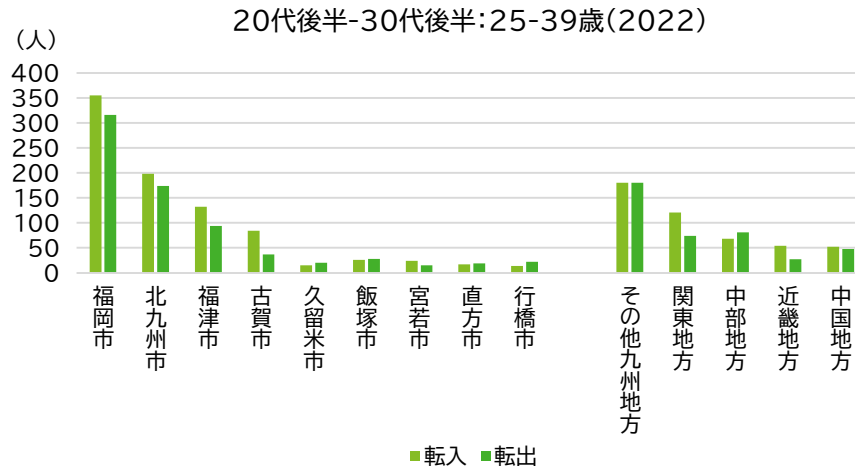
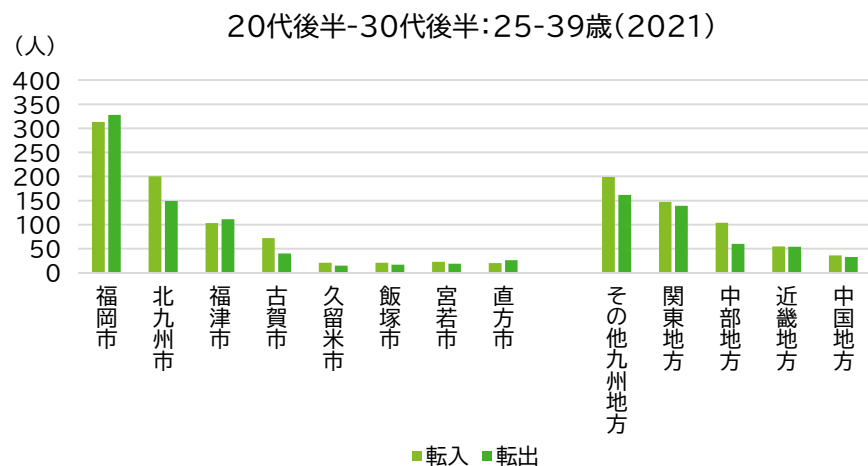
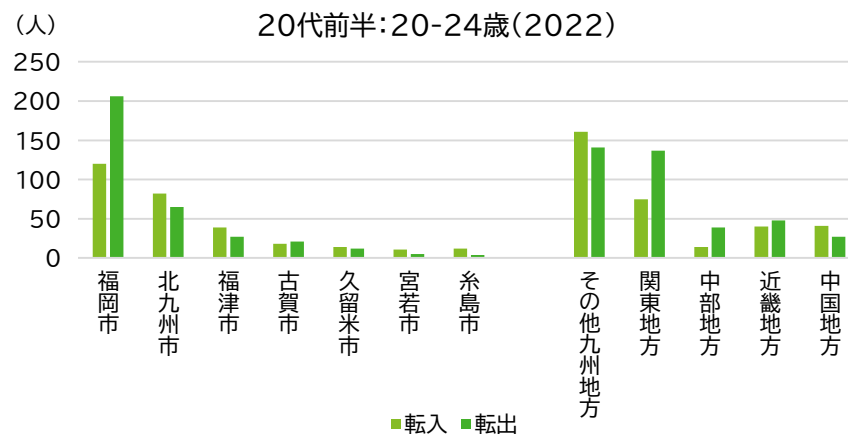
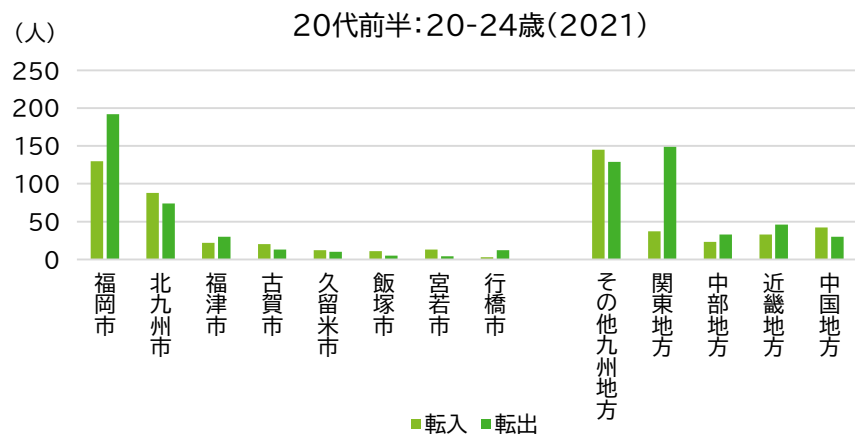
※「純移動数」とは転入数から転出数を差し引いた数。

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

I.人口 | 5.社会増減

宗像市の若年層及び子育て世代の人口移動の状況

- ✓ 福岡県内市町村においては、転入・転出先のいずれにおいても、福岡市・北九州市が特出している。また、僅かではあるが隣の福津市・又隣の古賀市も転入・転出先として目立っている。
- ✓ 地域ブロックにおいては、転入・転出先のいずれにおいても、その他九州地方(福岡県除く)・関東地方が特出している。
- ✓ 20代前半は同県内福岡市・関東地方への転出超過がうかがえる。

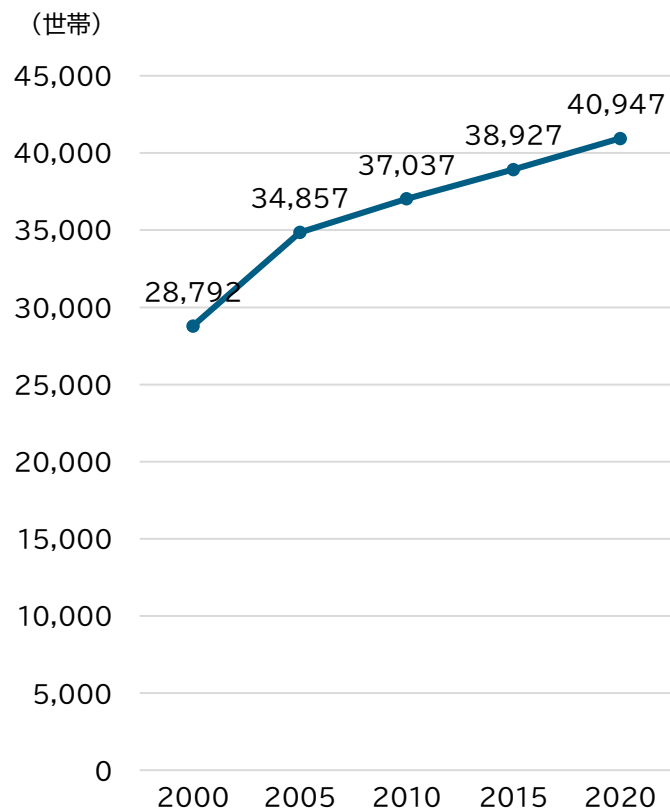


I.人口 | 6.世帯数

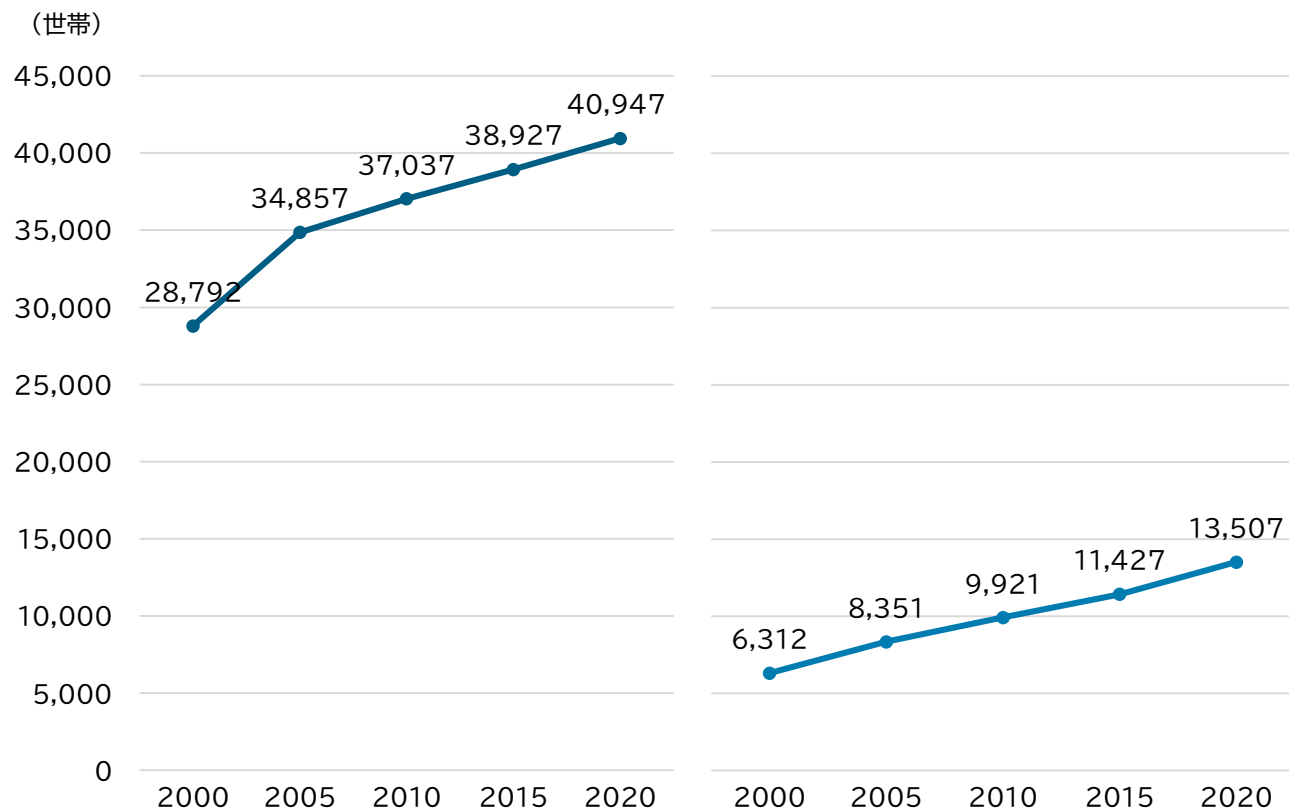
宗像市の一般世帯、単独世帯、高齢単身者世帯の推移

- ✓ 宗像市の一般世帯数は2000年以降一貫して増加しており、2020年には4万世帯を超えている。
- ✓ 同様に、単独世帯数と高齢単身者世帯数も増加傾向にあり、2000年と比較して単独世帯数は約2倍、高齢単身者世帯数は約3倍となっている。
- ✓ 今後も世帯数増加の傾向は続くとみられ、特に高齢単身者の世帯数増加に関しては高齢単身者のサポート体制など、対策の強化が必要になると考えられる。

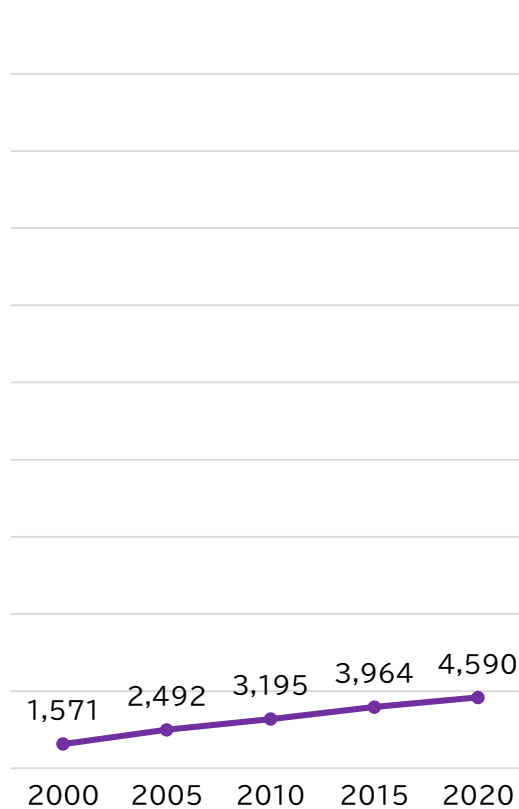
一般世帯数推移



単独世帯数推移



65歳以上の高齢単身者世帯数推移

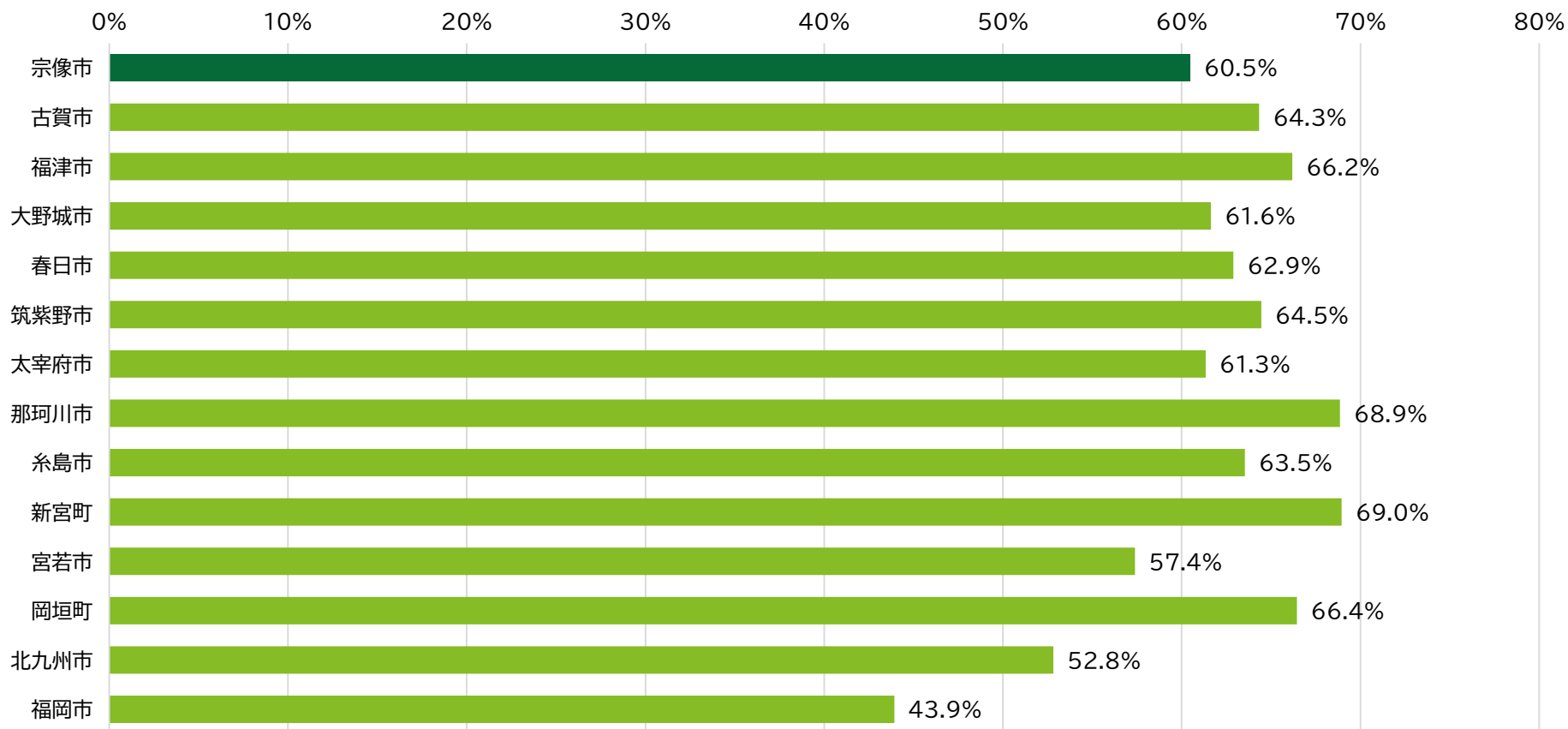


I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める核家族世帯の割合

- ✓ 一般世帯に占める核家族世帯の割合をベンチマーク都市と比較すると、宗像市は北九州市と福岡市を除くと平均より低い水準であり、比較的核家族世帯は少ないといえる。
- ✓ 宗像市より割合が低いのは宮若市、北九州市、福岡市であり、特に福岡市は他市を大きく下回っている。

一般世帯に占める核家族世帯の割合のベンチマーク都市比較(2020)

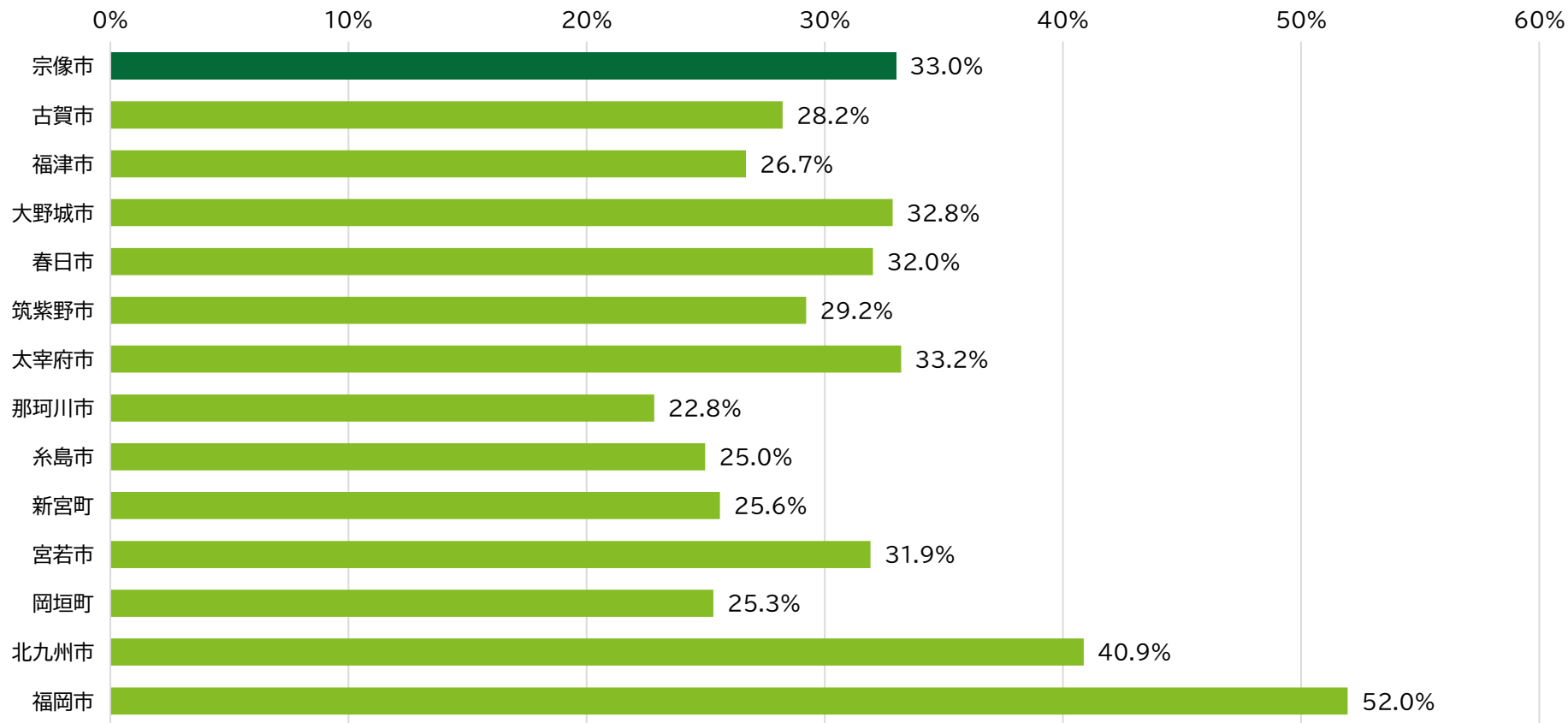


I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める単独世帯の割合

- ✓ 一般世帯に占める単独世帯の割合比較をみると、宗像市は平均より高い水準であり、比較的単独世帯が多い市であるといえる。
- ✓ 宗像市より割合が多いのは太宰府市、北九州市、福岡市であるが、福岡市は他市を大きく上回り50%を超えている。
- ✓ 大野城市、春日市、宮若市は宗像市より割合は少ないもののほとんど同程度である。

一般世帯に占める単独世帯の割合のベンチマーク都市比較(2020)

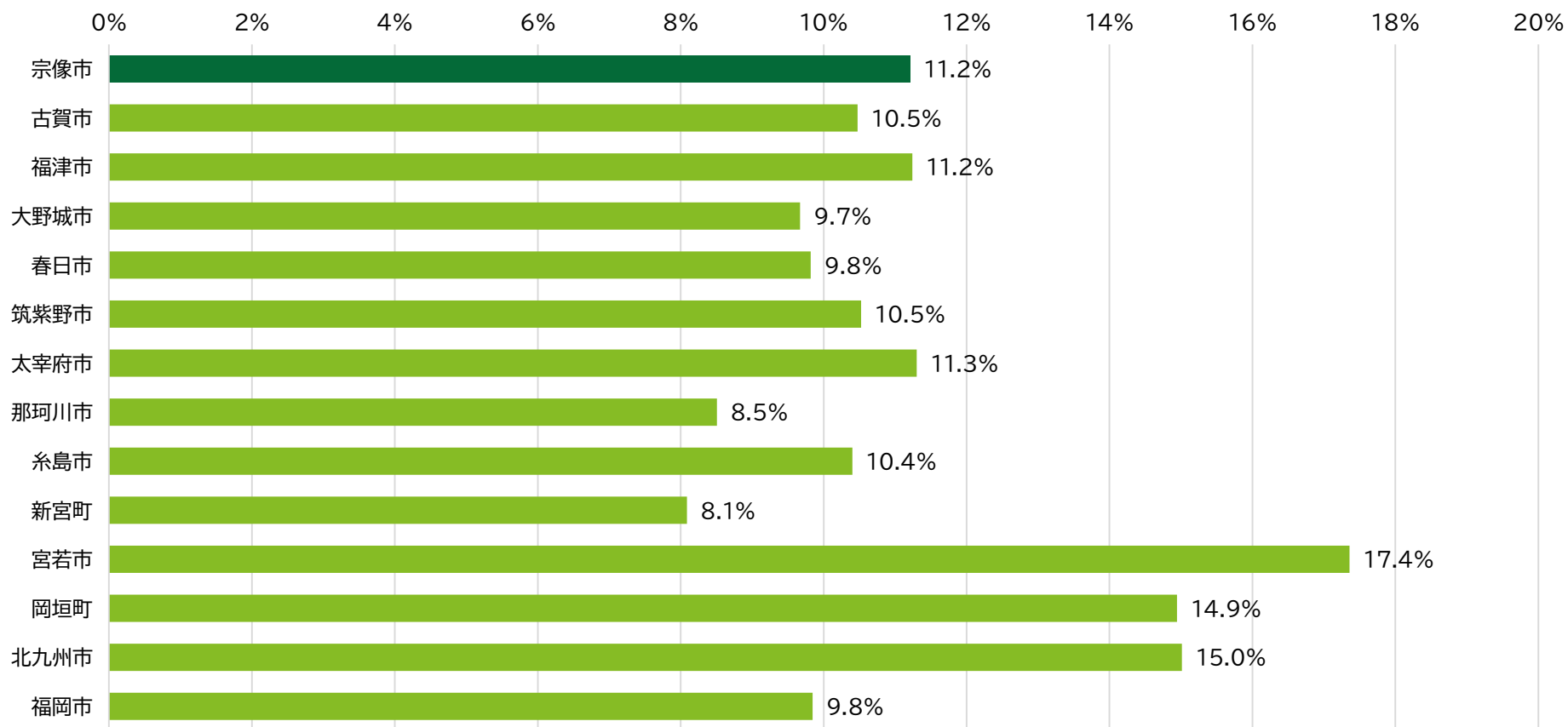


I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める高齢単身者世帯の割合

- ✓ 一般世帯に占める高齢単身者世帯の割合をみると、宗像市は11.2%で、ベンチマーク都市の中でおおよそ平均的な水準である。
- ✓ 福津市、太宰府市は宗像市とほとんど同程度であり、それ以外に宗像市より割合が高いのは宮若市、岡垣町、北九州市で他市を大きく上回っている。一方、特に割合が低いのは那珂川市、新宮町で9%を下回っている。

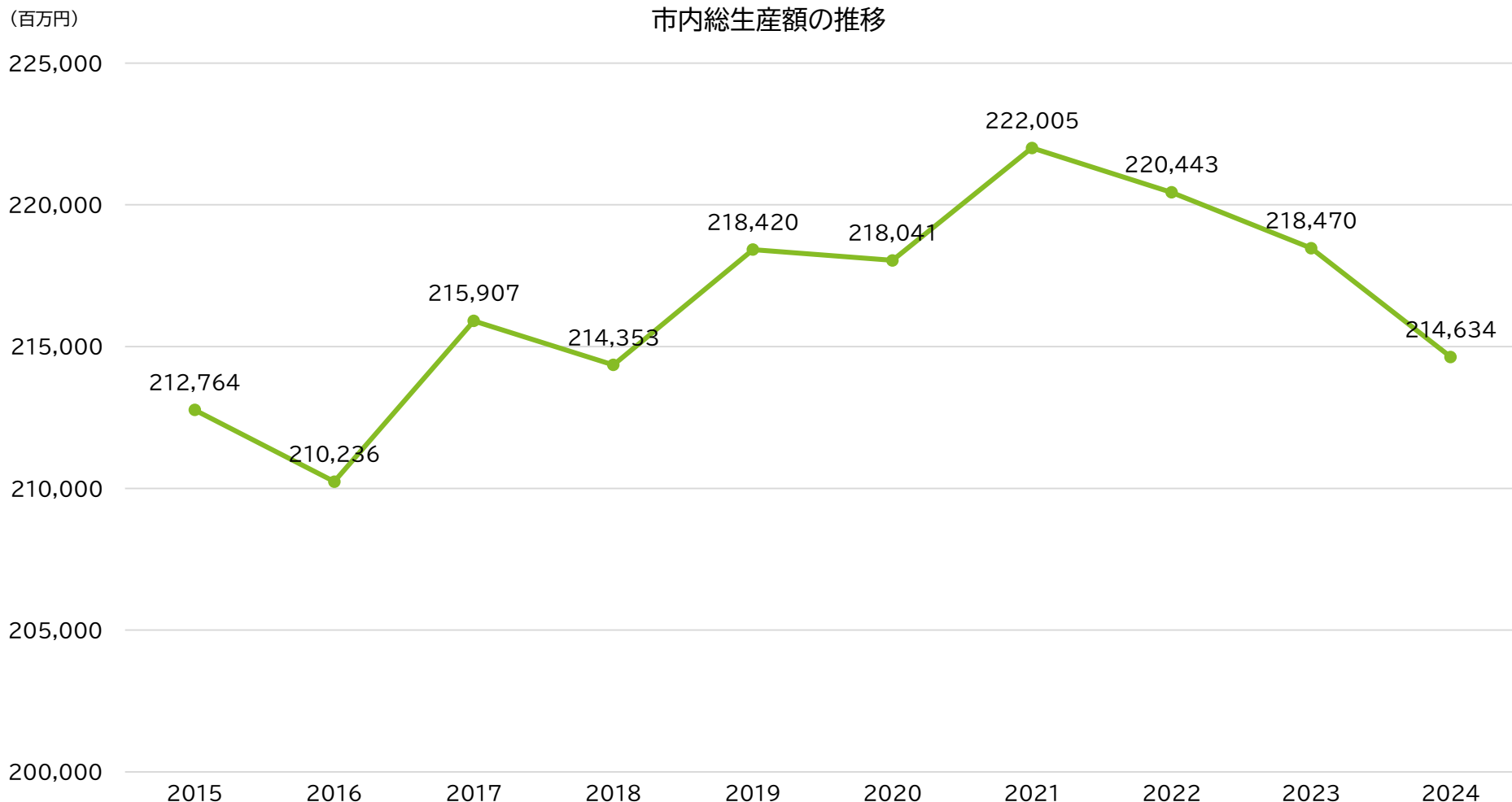
一般世帯に占める65歳以上の高齢単身者世帯の割合のベンチマーク都市比較(2020)



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

宗像市の市内総生産額の推移

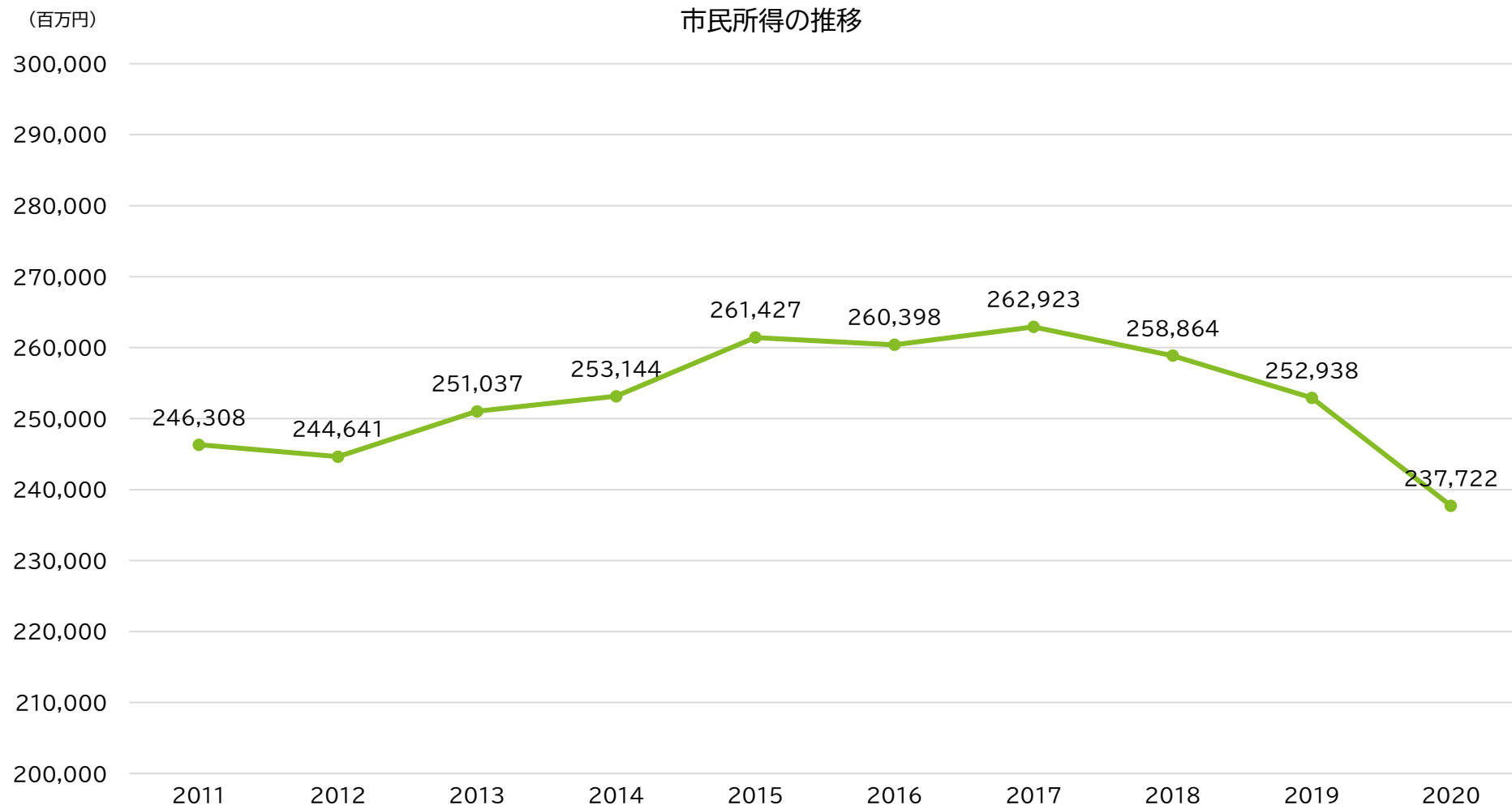
- ✓ 市内総生産額は2015年から2021年にかけては減少する年もありながら全体として増加傾向にあり、2021年時点を2015年比で見ると、5%程度増で推移している。
- ✓ 2021年をピークに、2022年からは減少傾向に転じている。



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

宗像市の市民所得の推移

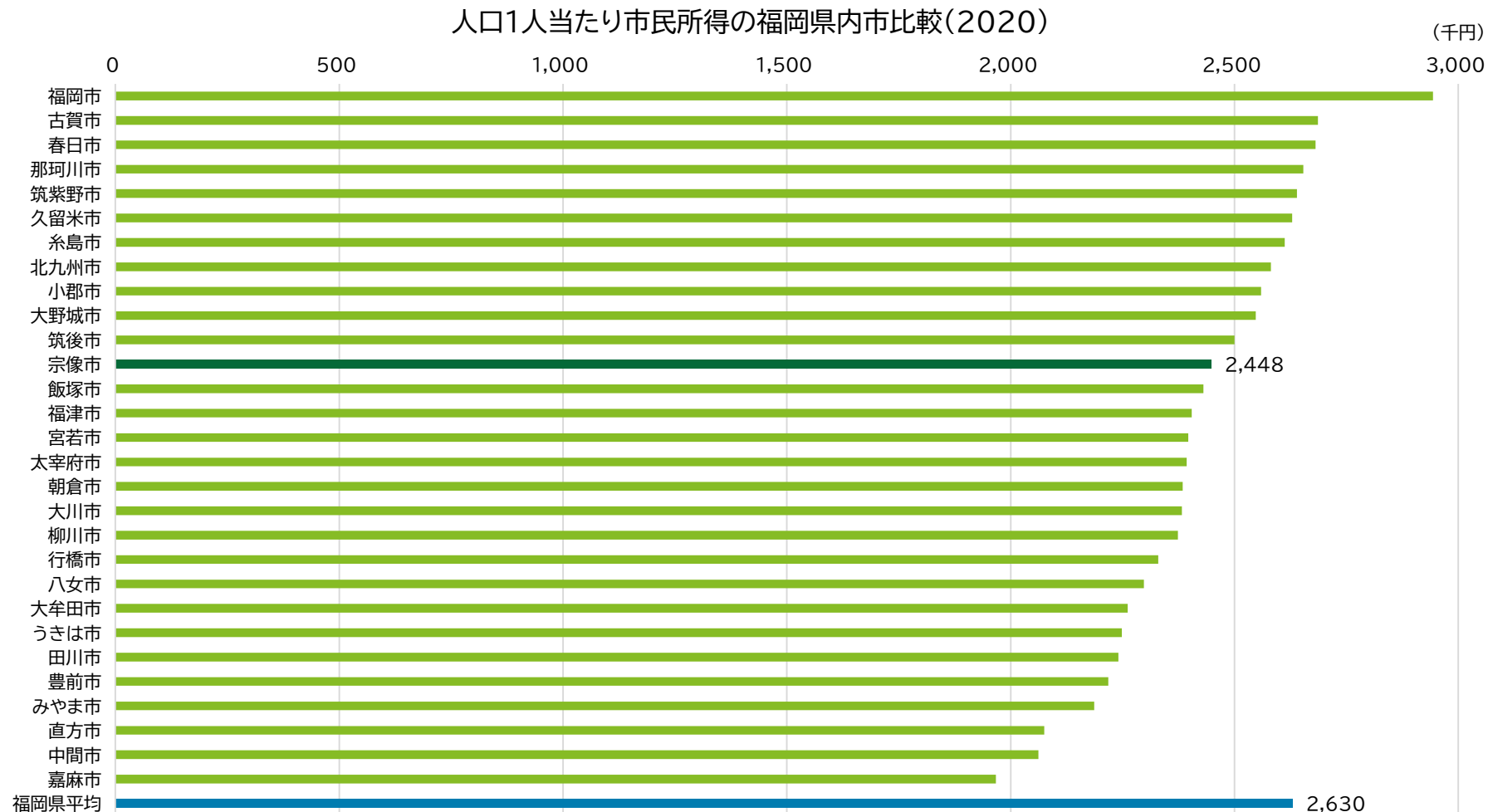
- ✓ 2012年から2015年まで市民所得は増加傾向にあった。
- ✓ 2018年以降は減少傾向が継続している。2020年は新型コロナウイルス感染症等の影響によって国全体の経済状況が厳しい状況に置かれており、宗像市も同様の状況であったものと考えられる。



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

市民1人あたりの所得の県内市比較

- ✓ 市民1人あたりの所得は福岡市が最も多く、宗像市は12番目に位置する。
- ✓ 福岡県全体の1人当たりの市民所得平均は263万円となっており、宗像市は平均を約20万円下回る。



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

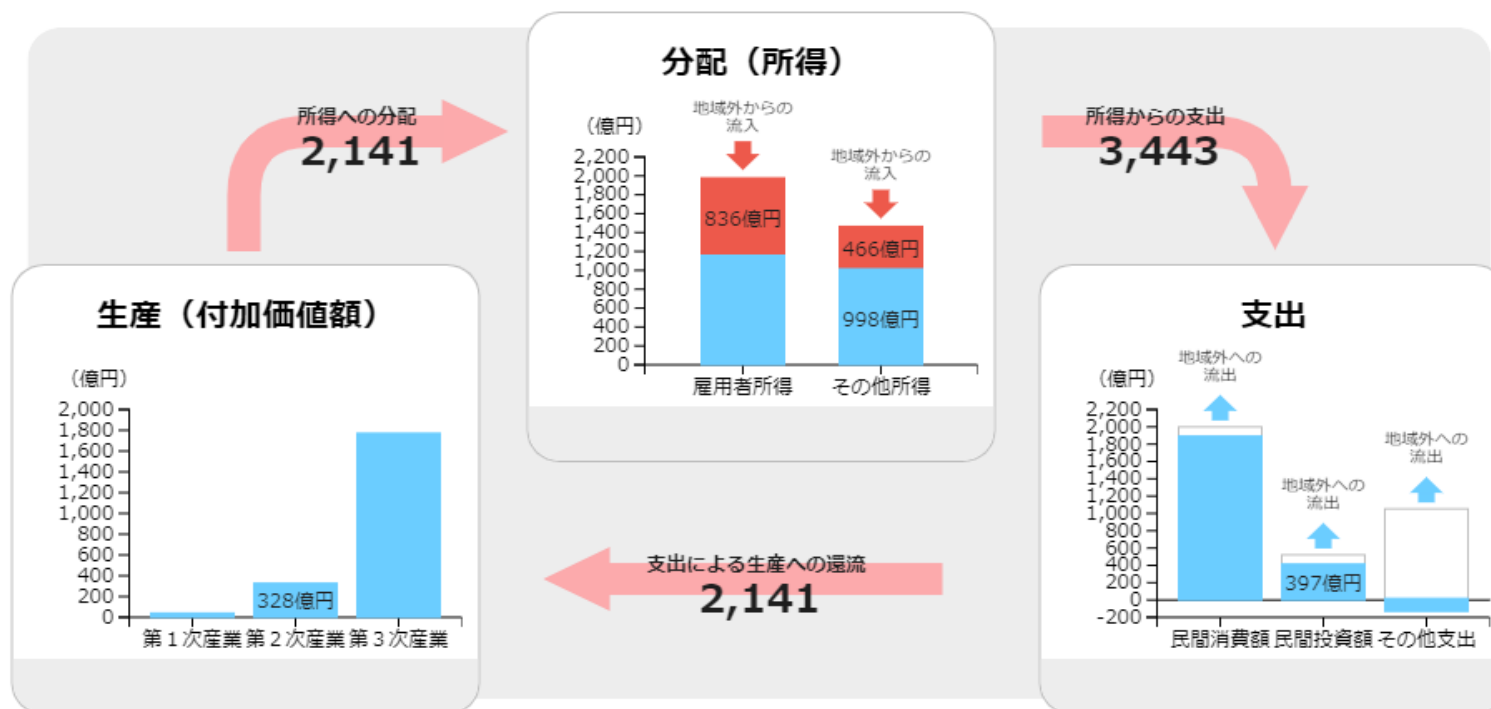
宗像市の地域経済循環率

✓ 宗像市の2018年の地域経済循環率は62.2%であり、雇用者所得や民間投資等が域外に流出している。

地域経済循環率(2018)
62.2%

地域経済循環図 2018年

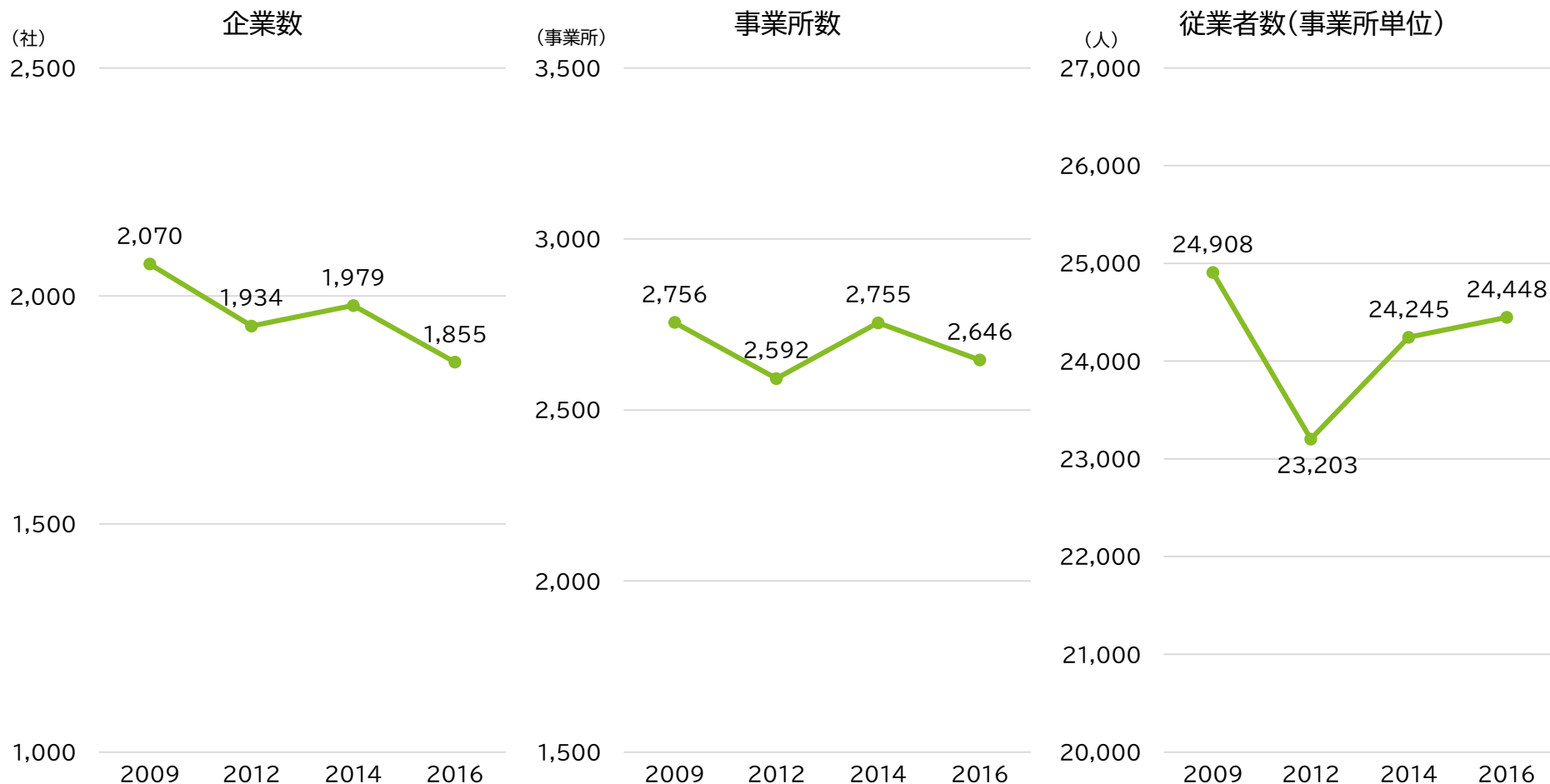
指定地域：福岡県宗像市



Ⅱ.産業・経済 | 2.企業数・事業所数・従業者数

宗像市の企業数・事業所数・従業員数の推移

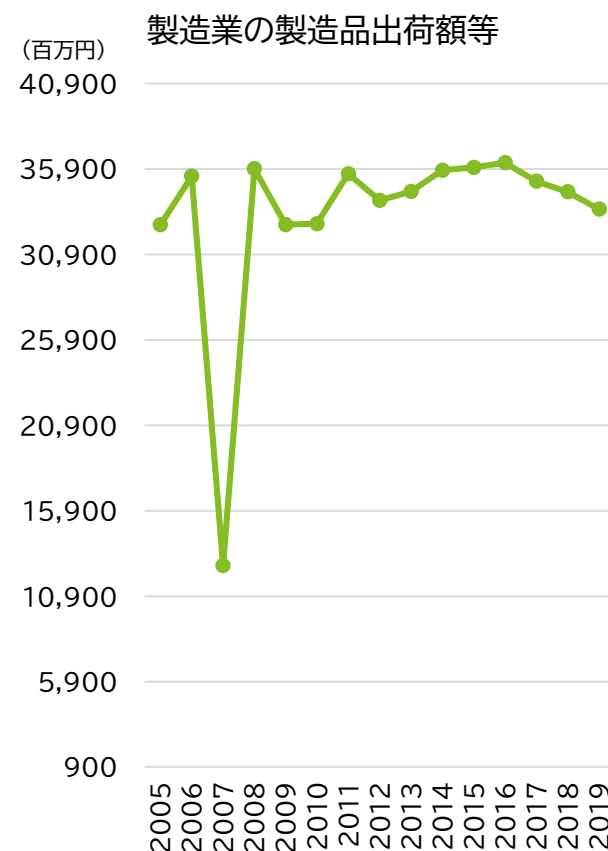
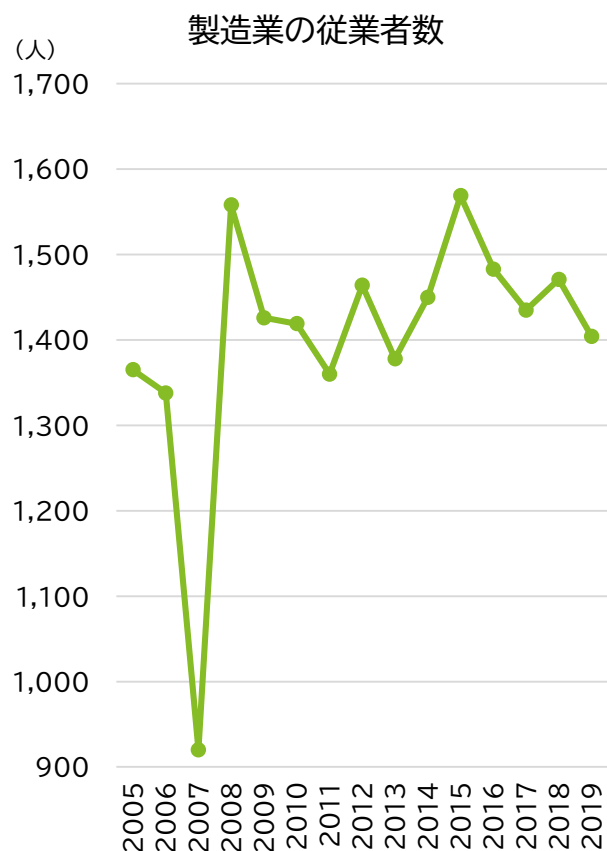
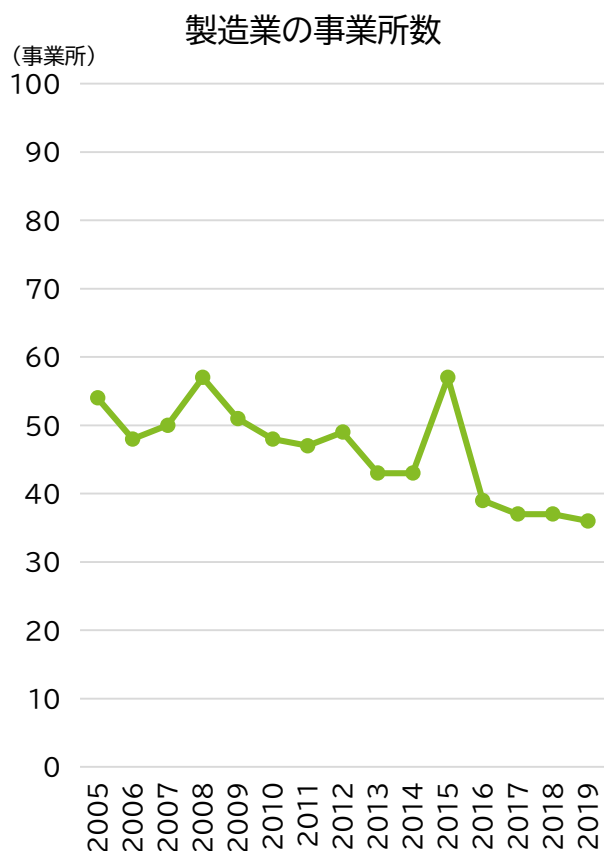
- ✓ 企業数は2014年に一度持ち直したものの、2009年より減少傾向が続いている
- ✓ 事業所数についても、企業数と同様、2014年に一度持ち直したが、その後は減少している。
- ✓ 従業者数は2009年から2012年にかけて大きく減少したが、以降は回復し増加傾向になっている。



Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

宗像市の製造業の事業所数・従業者数・製造出荷額等の推移

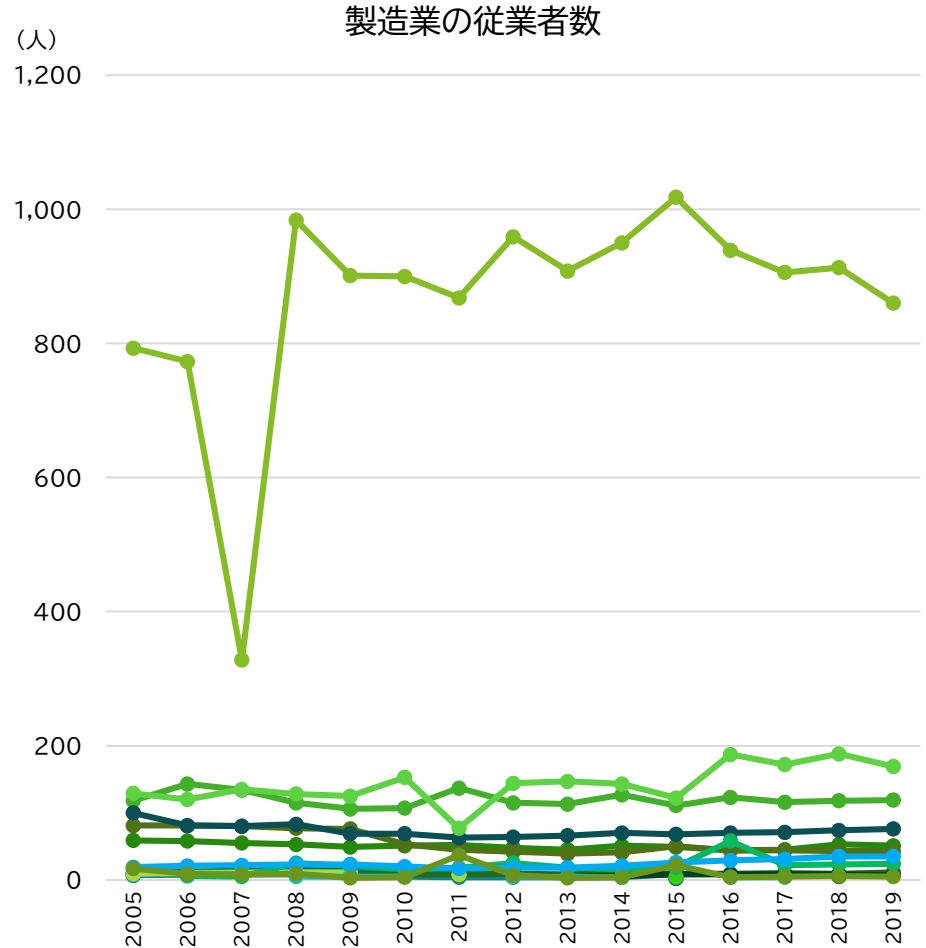
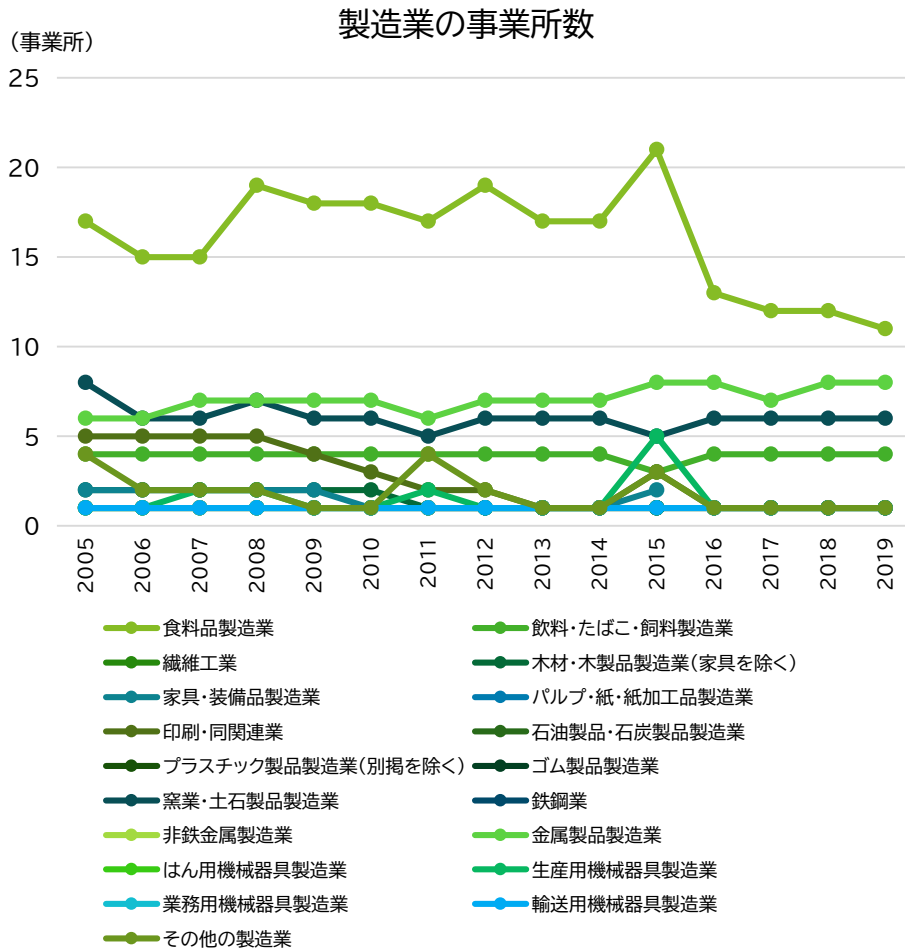
- ✓ 事業所数は2008年より減少傾向であり、2012年と2015年に持ち直したものの、2016年には大幅に減少し、再び減少傾向に転じている。
- ✓ 従業者数はリーマンショックの影響を受けて2007年に大きく減少したものの、2008年以降は1,300人から1,600人の間で増加と減少を繰り返しており、2018年以降は再び減少に転じている。
- ✓ 製造品出荷額等は2007年に大きく減少し、2009年、2010年にも減少するが、その後2012年以降は増加傾向へと転じ、2016年以降は再び減少傾向となっている。



Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

宗像市の製造業の産業中分類別事業所・従業者数

- ✓ 事業所数では、食料品製造業が最も多く、次いで、飲料・たばこ・飼料製造業、窯業・土石製品製造業となっている。
- ✓ 従業者数では、食料品製造業が最も多く、次いで、金属製品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業となっている。

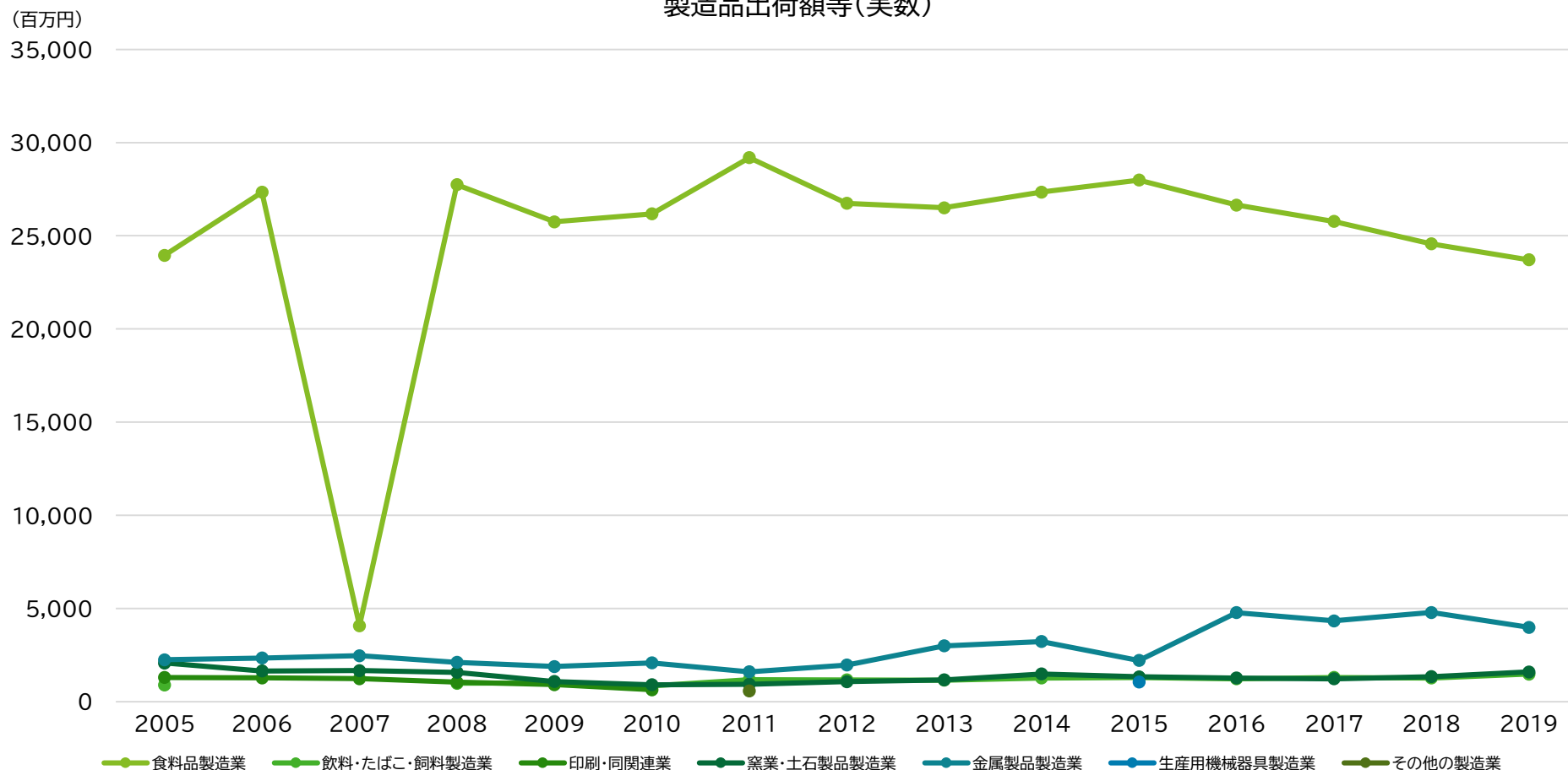


Ⅱ.産業・経済 | 3.製造業

宗像市の製造業の産業中分類別製造品出荷額等

✓ 産業中分類別の製造品出荷額等では、食料品製造業が最も多く、次いで、金属製品製造業、窯業・土石製品製造業となっている。

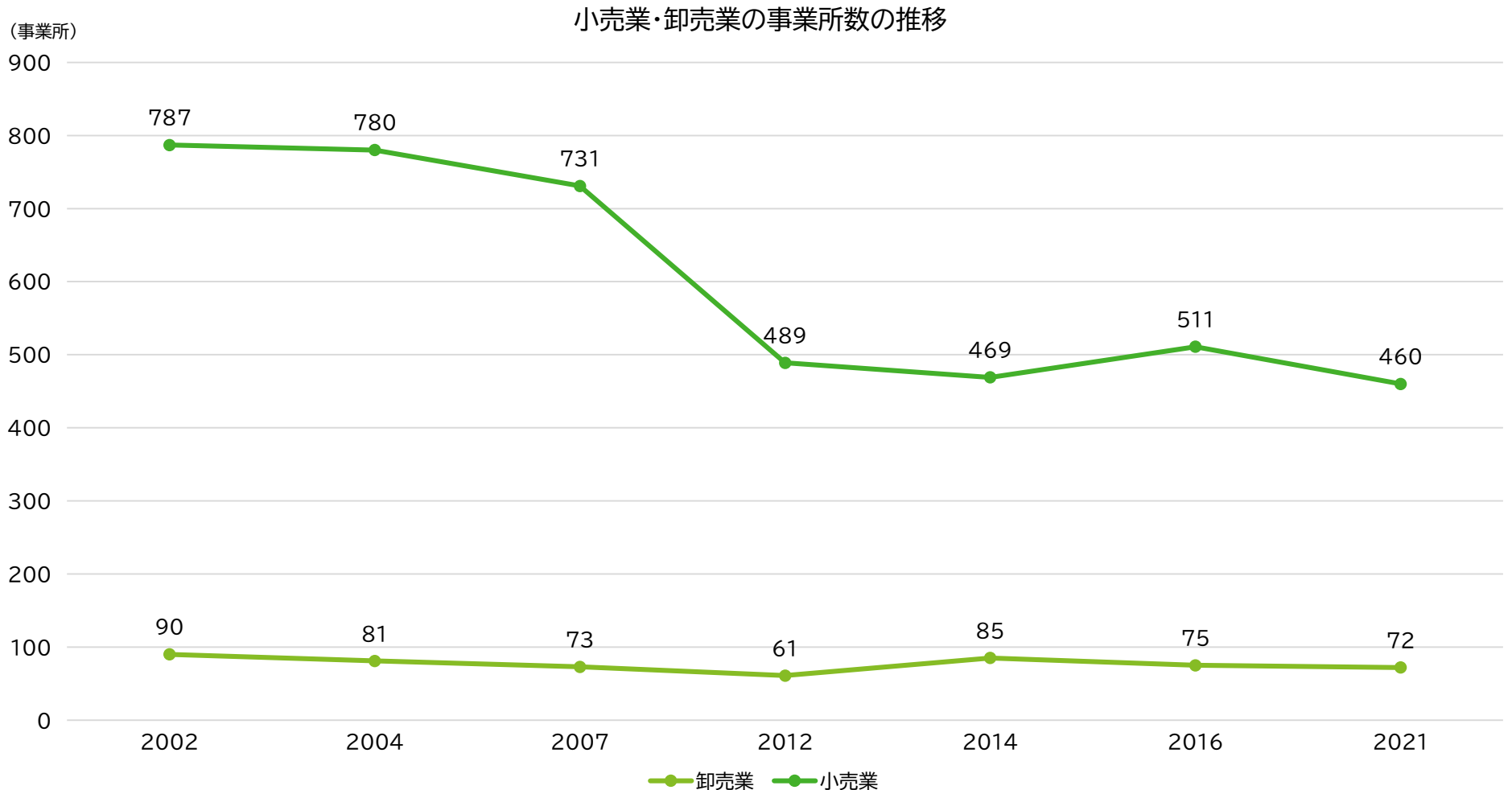
製造品出荷額等(実数)



Ⅱ.産業・経済 | 4.小売業

宗像市の小売業・卸売業の事業所数の推移

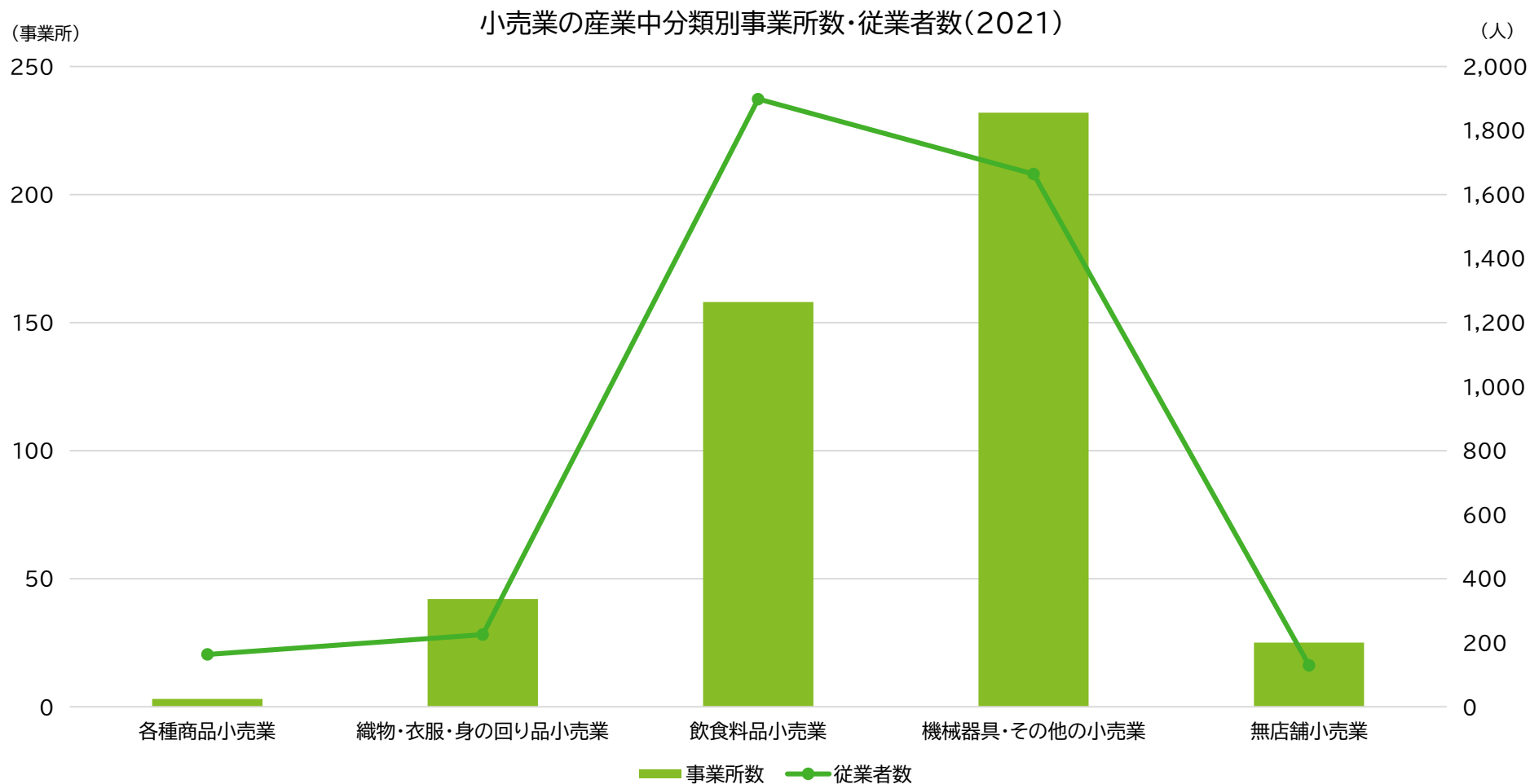
- ✓ 小売業事業所数は2007年から2012年にかけて240事業所程度が減少し、その後は500事業所程度で推移している。
- ✓ 卸売業事業所数は2002年から2012年にかけて減少傾向が続いていたが、2014年に持ち直し、その後は再び減少傾向で推移している。



Ⅱ.産業・経済 | 4.小売業

宗像市の小売業の産業中分類別事業所数・従業者数

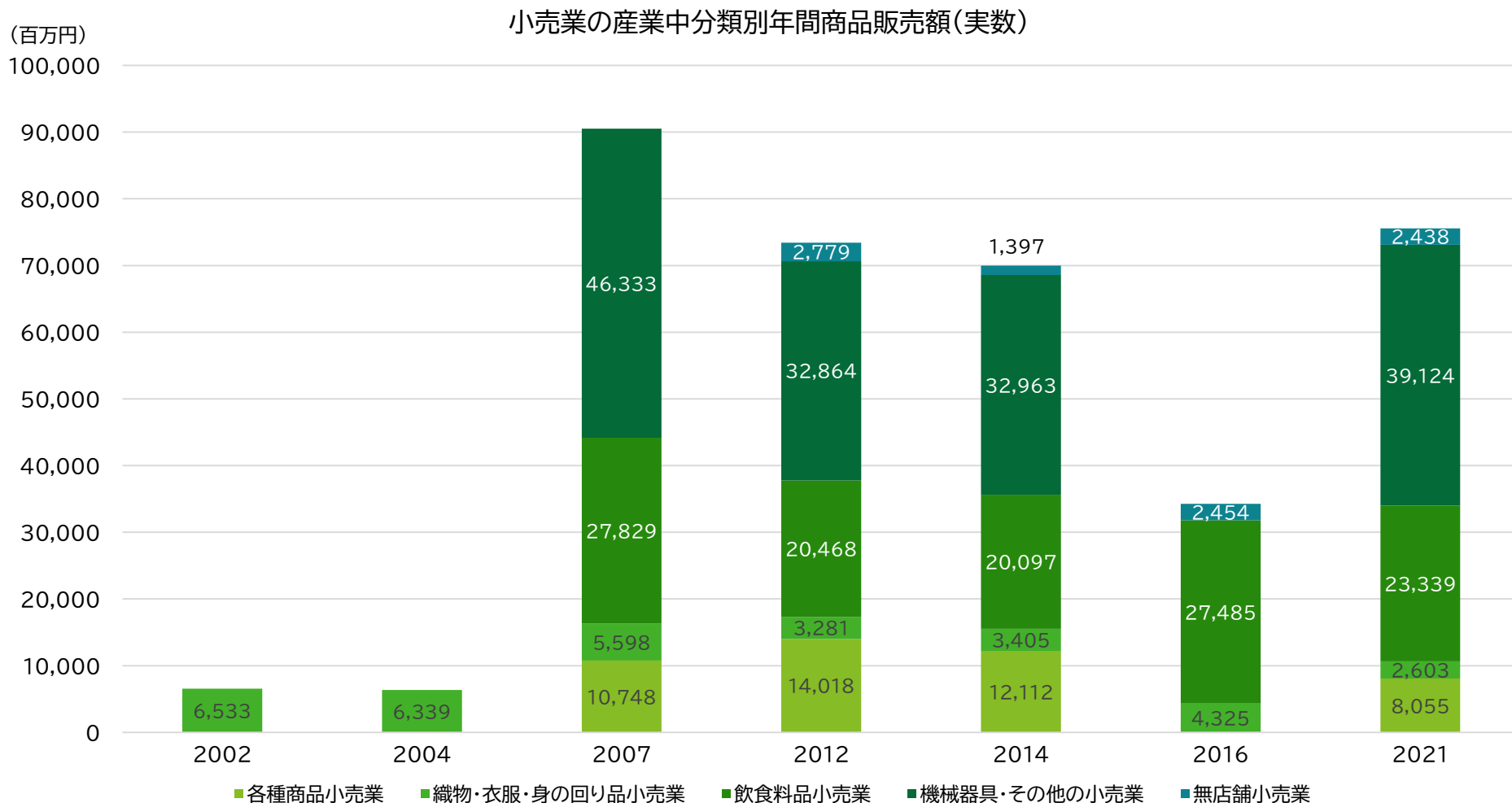
- ✓ 事業所数は機械器具・その他の小売業が最も多く、次いで、飲食料品小売業が多い。
- ✓ 従業者数は飲食料品小売業が最も多く、次いで、機械器具・その他の小売業が多い。



Ⅱ.産業・経済 | 4.小売業

宗像市の小売業の産業中分類別年間商品販売額

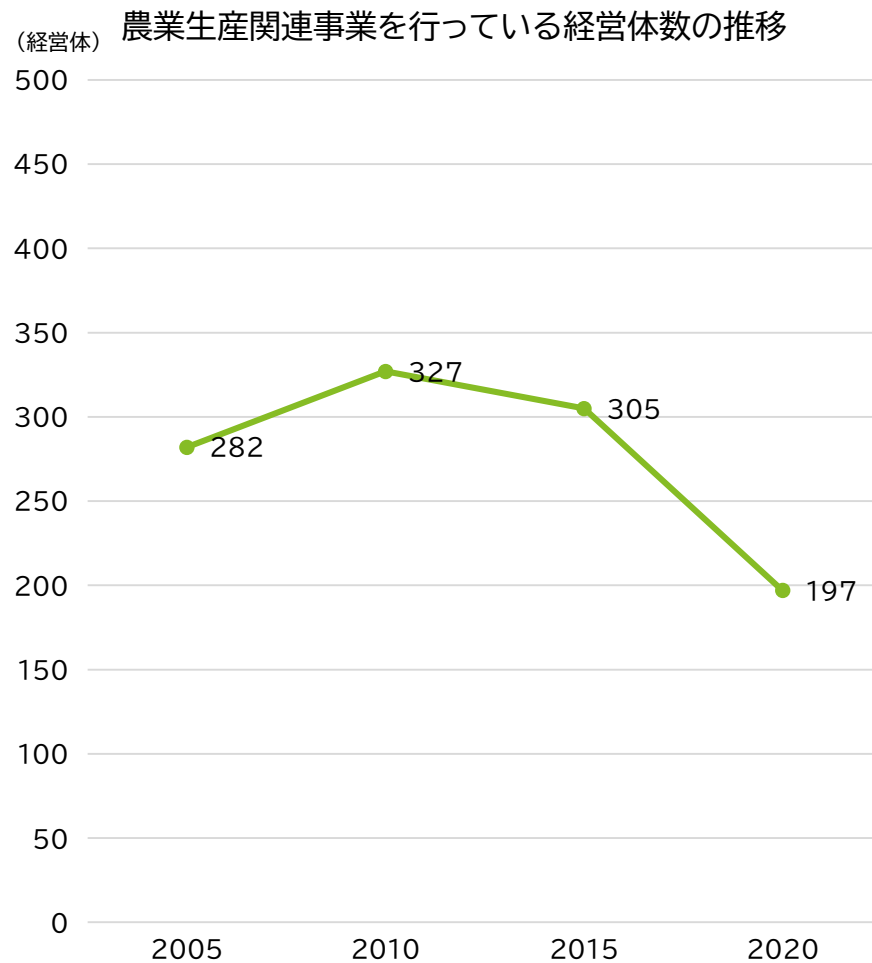
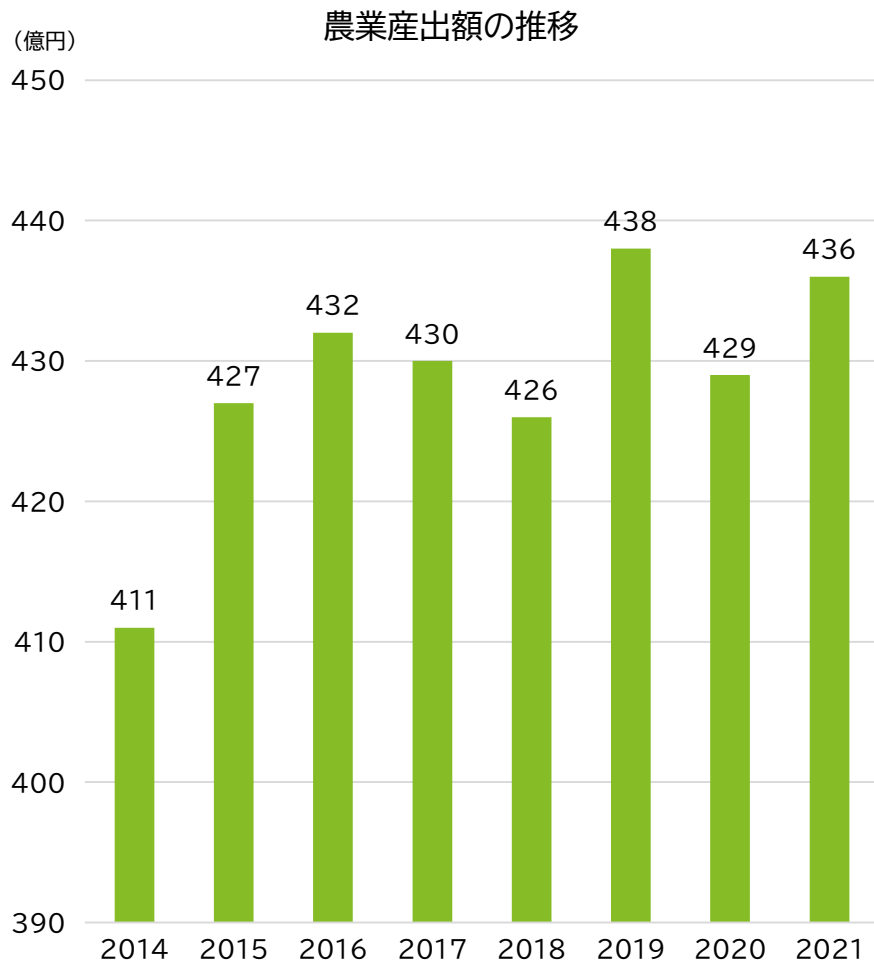
✓ 小売業の産業中分類別年間商品販売額では、機械器具・その他の小売業が最も多く、次いで飲食料品小売業となっている。



Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

宗像市の農業産出額・農業経営体数の推移

- ✓ 農業産出額全体としては、2016年までは増加傾向で推移したものの、2017年以降減少に転じた。2019年には一度回復し、翌年には減少したものの、2021年には再び増加している。2021年は2014年比で5%程度増加し、436億円となった。
- ✓ 経営体数については2010年をピークに減少傾向で推移しており、2020年時点では、2010年比で130経営体が減少している。

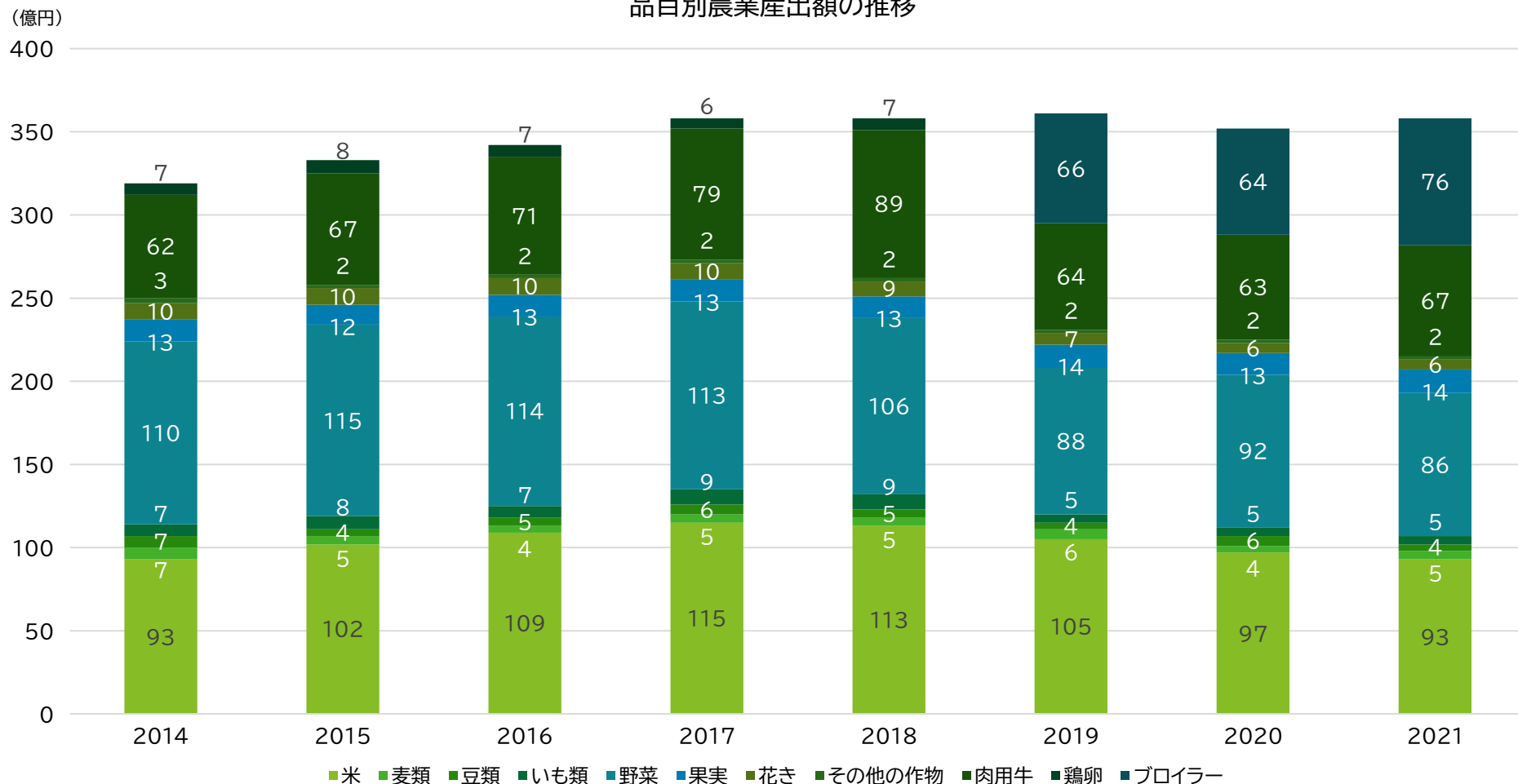


Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

宗像市の品目別農業産出額

✓ 2021年の品目別農業産出額は、米、野菜、ブロイラーの順に大きく、この3品目で全体の約60%を占める。

品目別農業産出額の推移

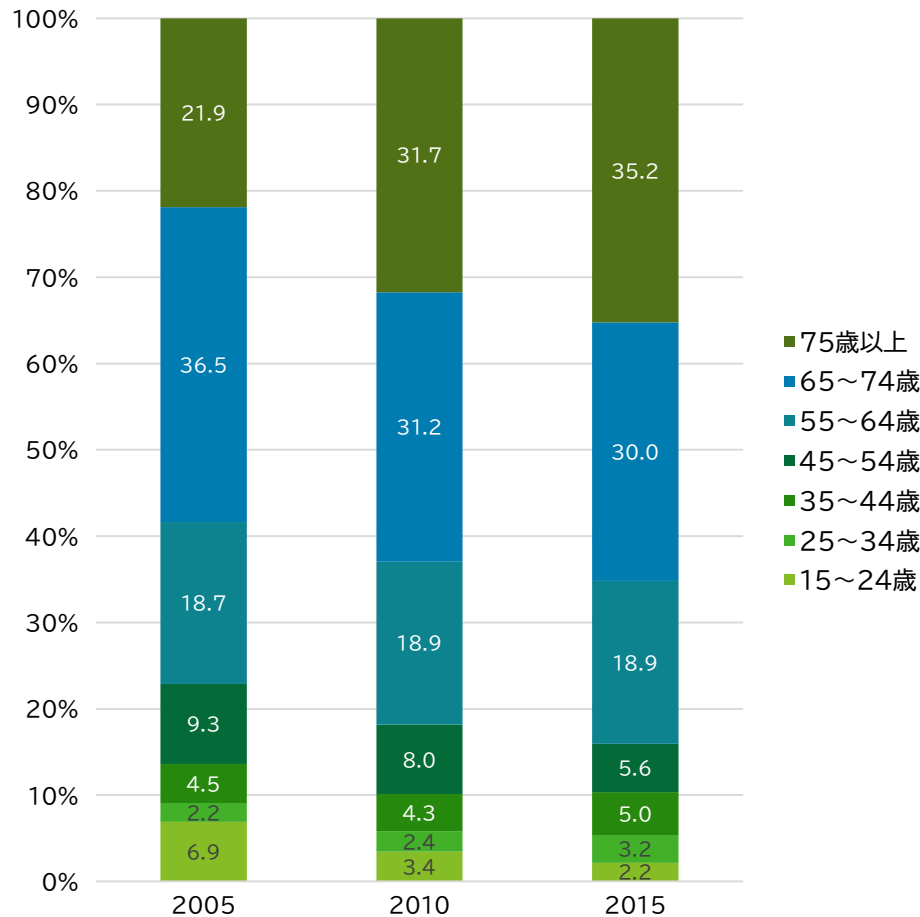


Ⅱ.産業・経済 | 5.農業

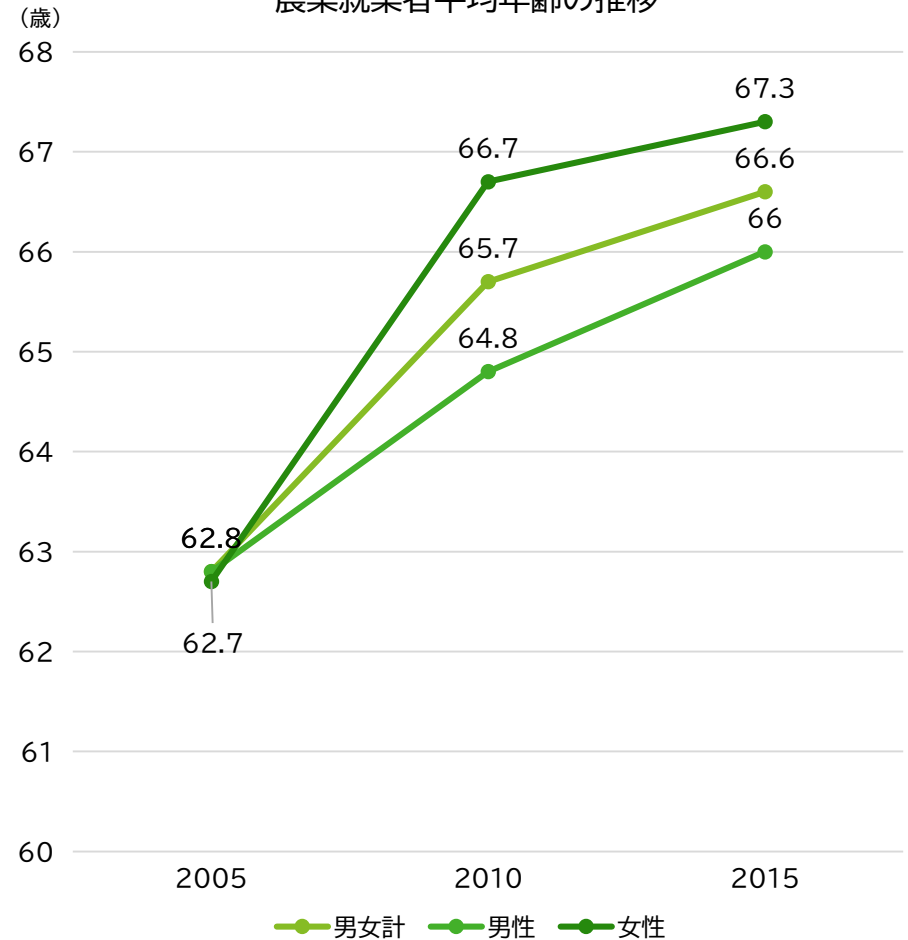
宗像市の年齢階級別農業就業者比率と平均年齢

- ✓ 年齢別農業就業者の比率では75歳以上の就業者の割合が増加しており、65～74歳割合と合わせると2015年に65%を超えている。
- ✓ 農業就業者平均年齢についても年々上昇している。特に女性では2015年の平均年齢が2005年比で5歳程度上昇しており、農業就業者は年々高齢化が進んでいる。

年齢別農業就業者比率(男女計)の推移



農業就業者平均年齢の推移

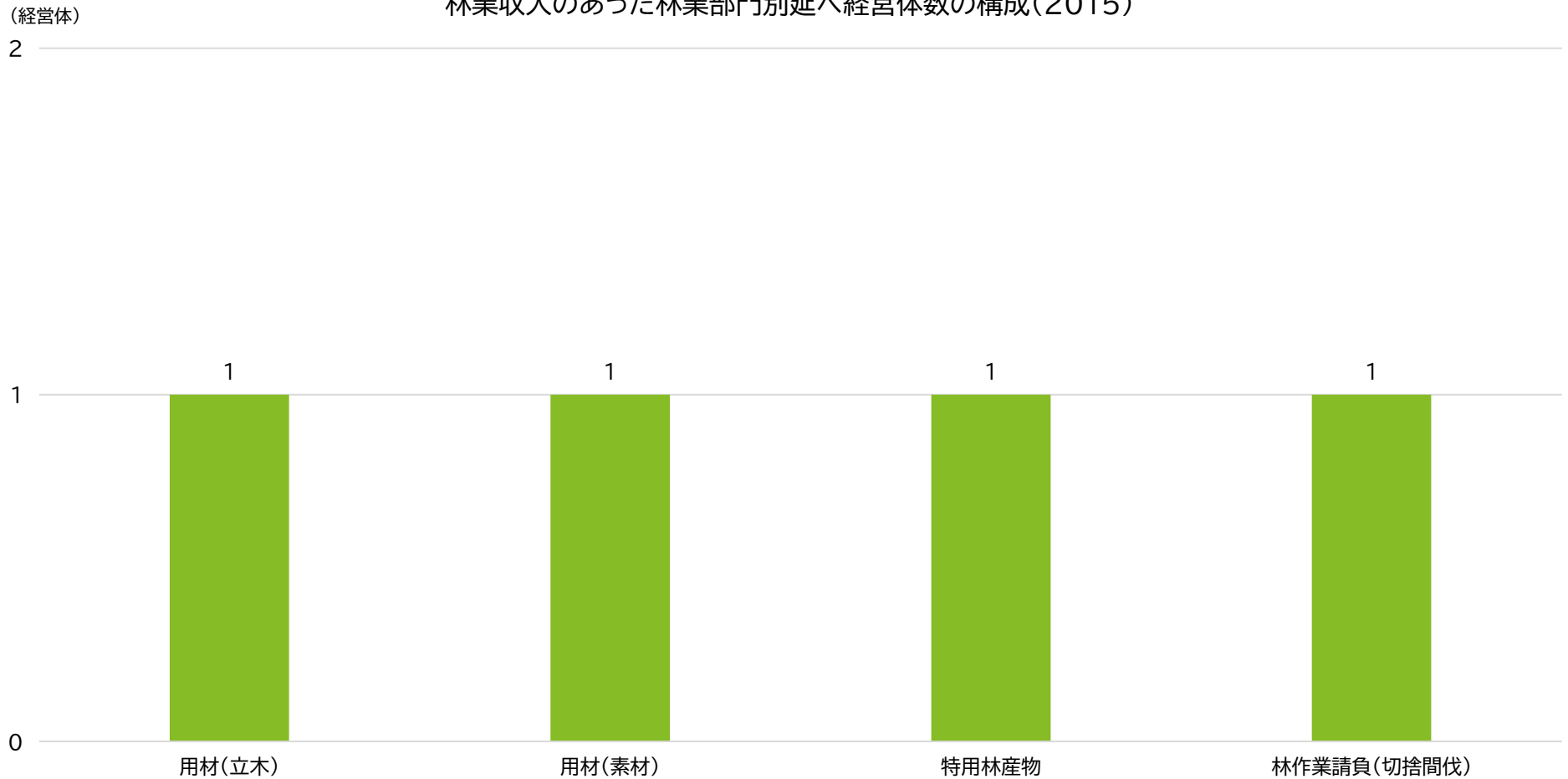


Ⅱ.産業・経済 | 6.林業

宗像市の林業収入のあった林業部門別延べ経営体数

- ✓ 2015年に林業収入のあった林業部門の経営体は、全部で4経営体であった。
- ✓ その内、用材に該当するものが2経営体であり、半数を占めている。

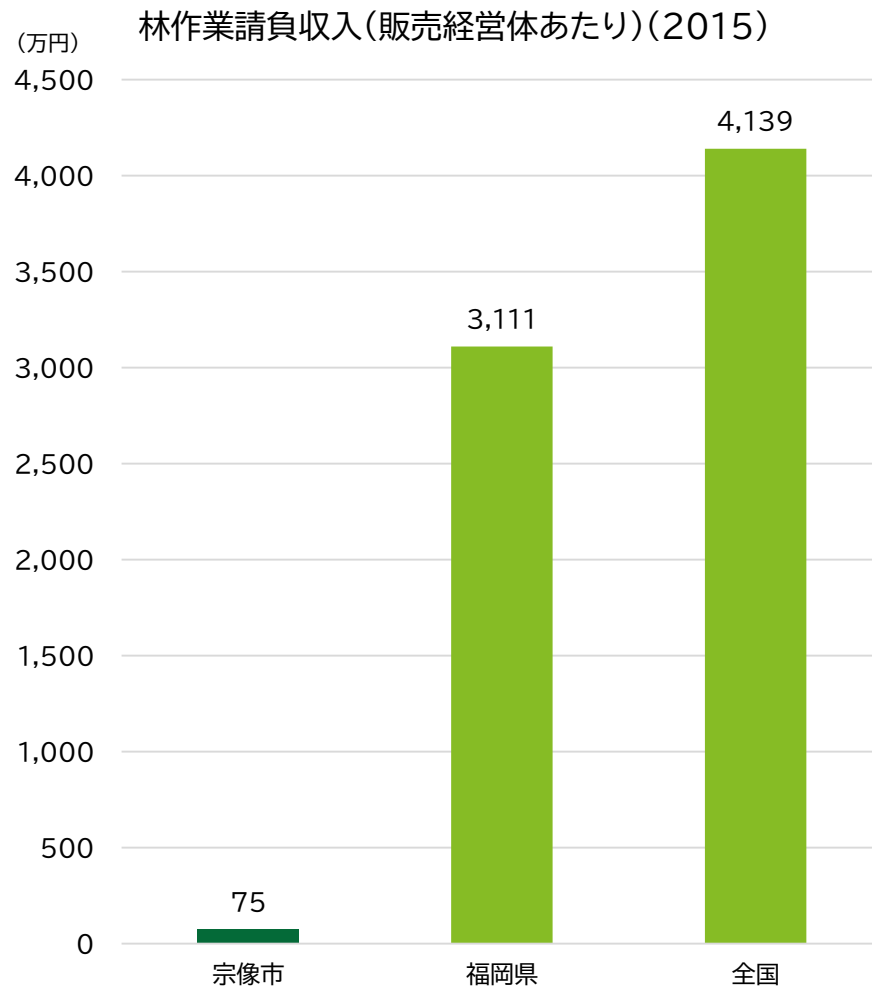
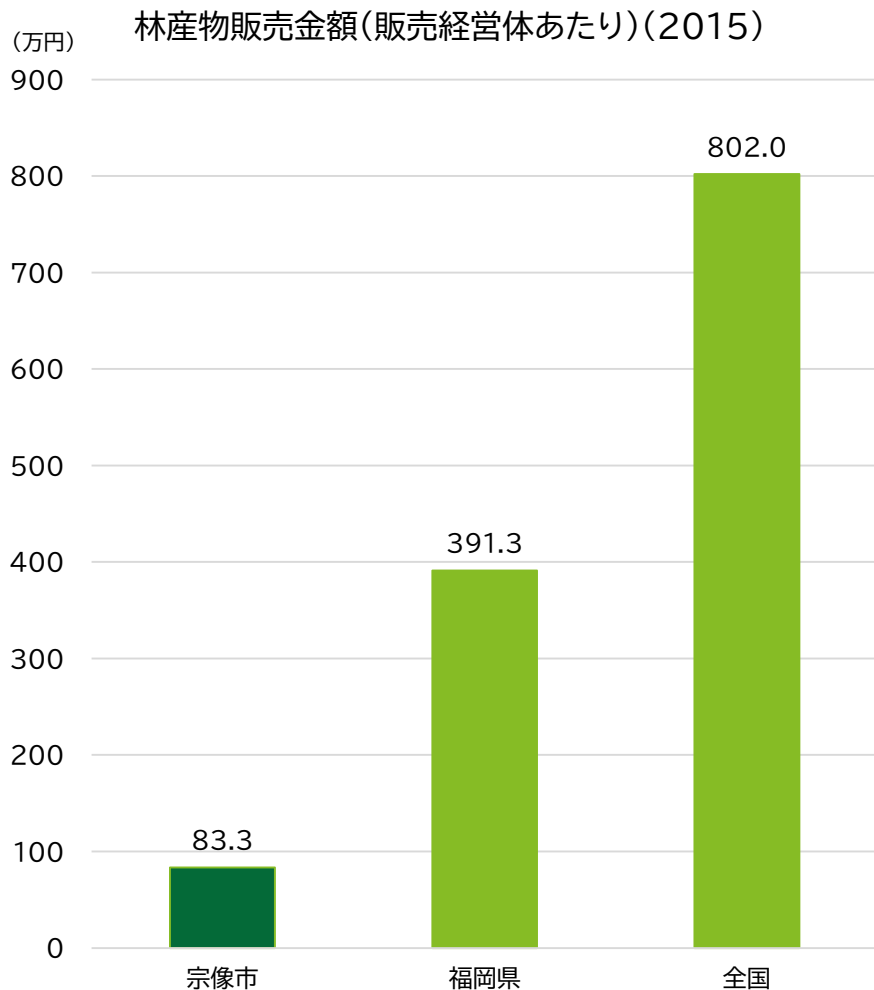
林業収入のあった林業部門別延べ経営体数の構成(2015)



Ⅱ.産業・経済 | 6.林業

宗像市の経営体あたり林業収入(地域間比較)

✓ 宗像市の林業総収入は、林産物販売金額、林作業請負収入ともに、福岡県、全国の平均額を大きく下回っている。

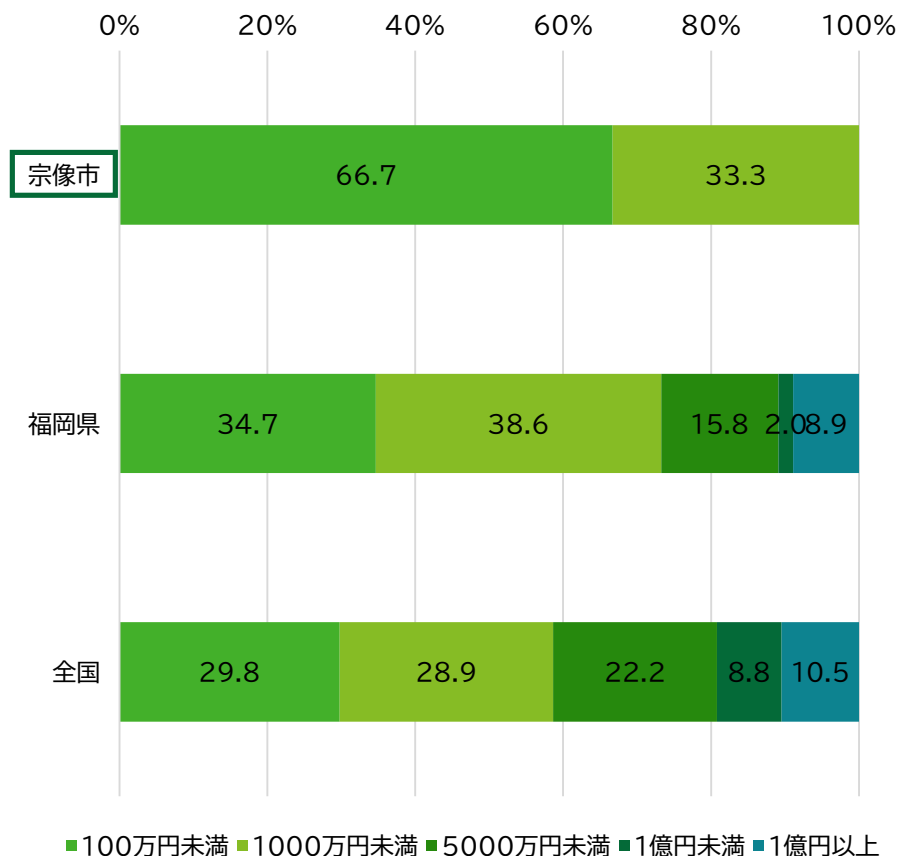


Ⅱ.産業・経済 | 6.林業

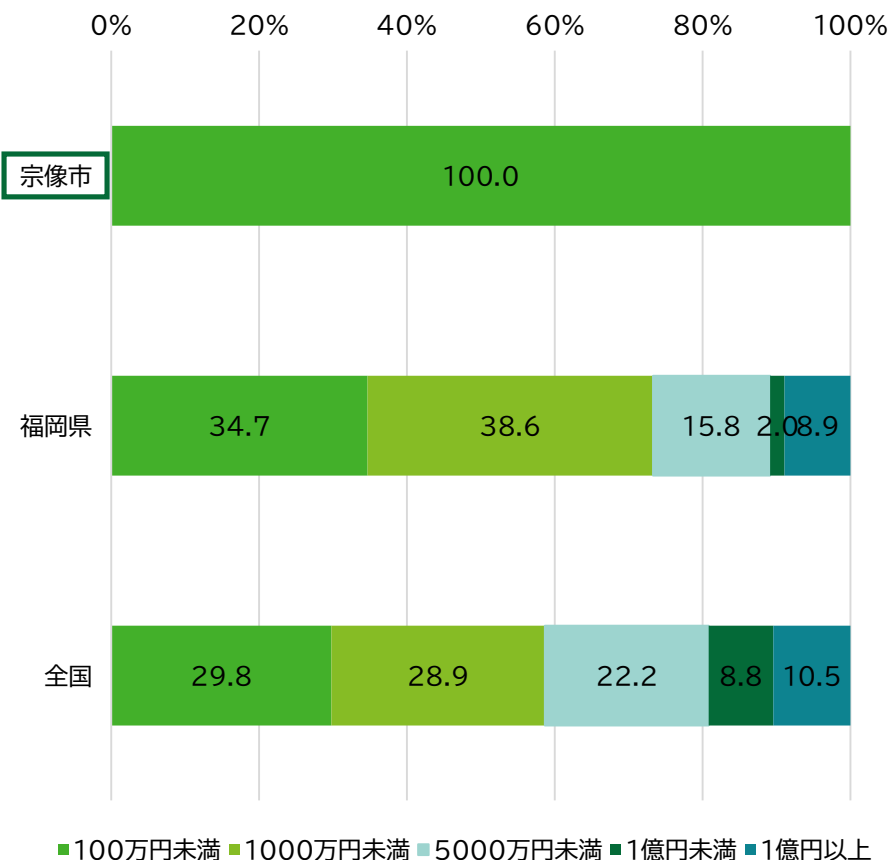
宗像市の林産物販売金額帯別経営体割合及び林業請負収入金額帯別経営割合 (地域間比較)

✓ 宗像市は、林産物販売金額、林業請負収入金額のいずれにおいても100万円未満の少額の経営体の割合が最も高く、いずれも全国平均および福岡県の割合を大幅に上回っている。

林産物販売金額帯別経営体割合(2015)



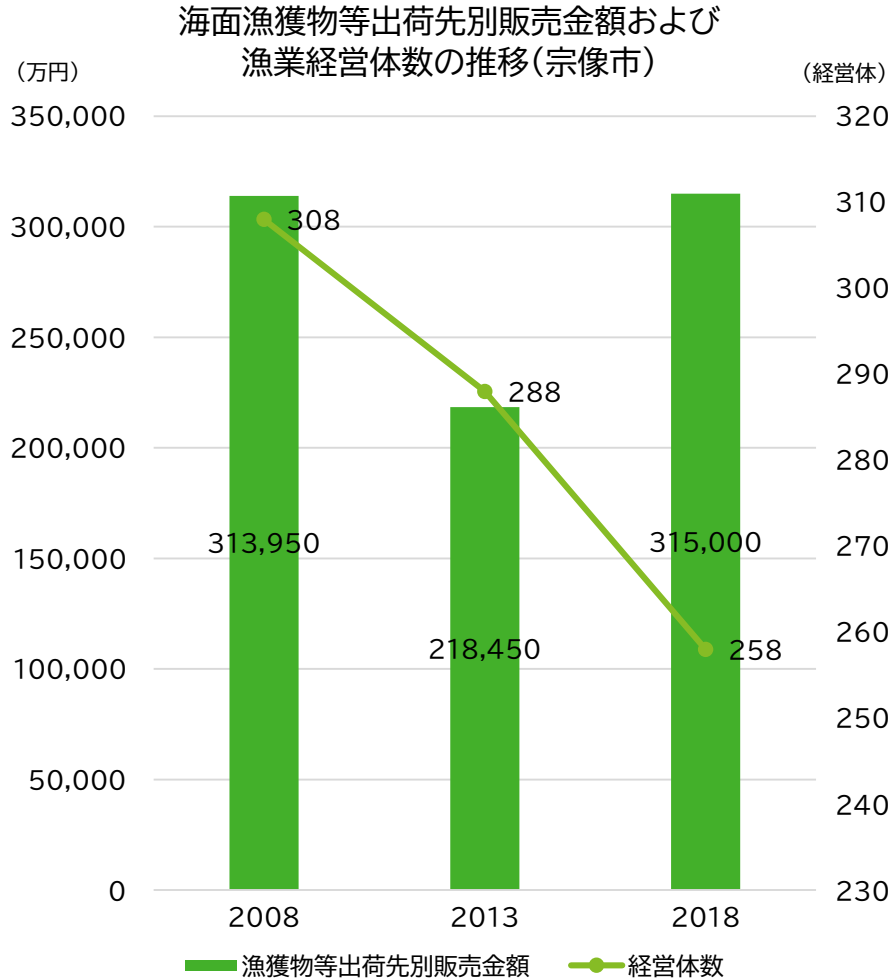
林業請負収入金額帯別経営割合(2015)



Ⅱ.産業・経済 | 7.漁業

宗像市・福岡県の漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移

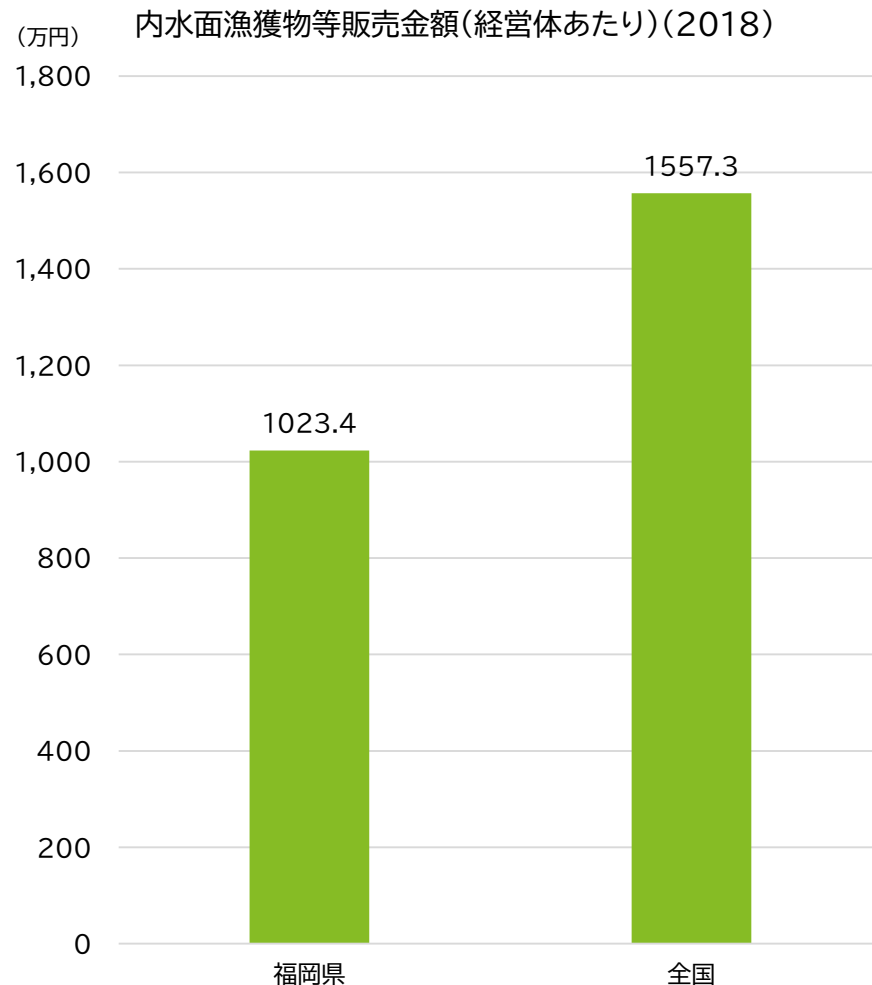
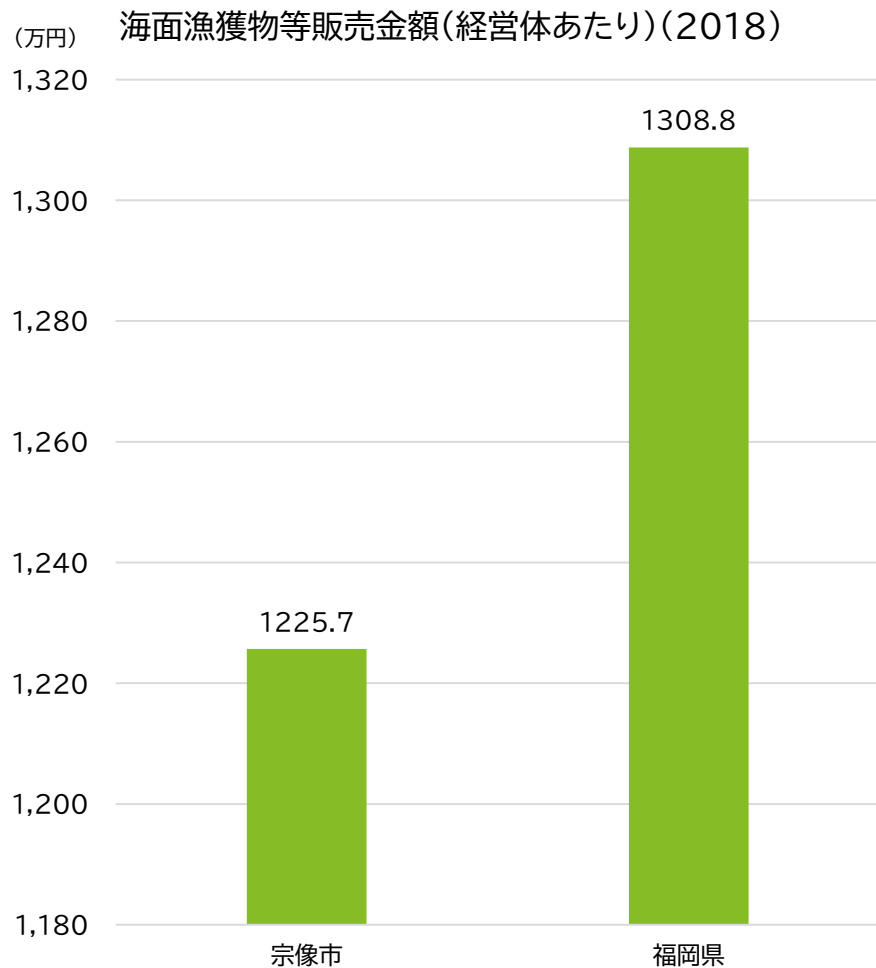
- ✓ 漁獲物等販売金額について、海面漁業においては2013年から2018年にかけて大きく増加しているものの、内水面漁業においては2008年以降減少が続いており、2018年には2008年比で60%程度になっている。
- ✓ 経営体数は、海面漁業・内水面漁業のいずれにおいても減少している。



Ⅱ.産業・経済 | 7.漁業

宗像市・福岡県の経営体あたり漁獲物等販売金額(地域間比較)

- ✓ 宗像市は、福岡県平均と比べて、海面漁業の経営体あたり漁獲物等販売金額が約100万円低い。
- ✓ 内水面漁業の漁獲物等販売金額では、福岡県は全国平均の約3分の2となっている。

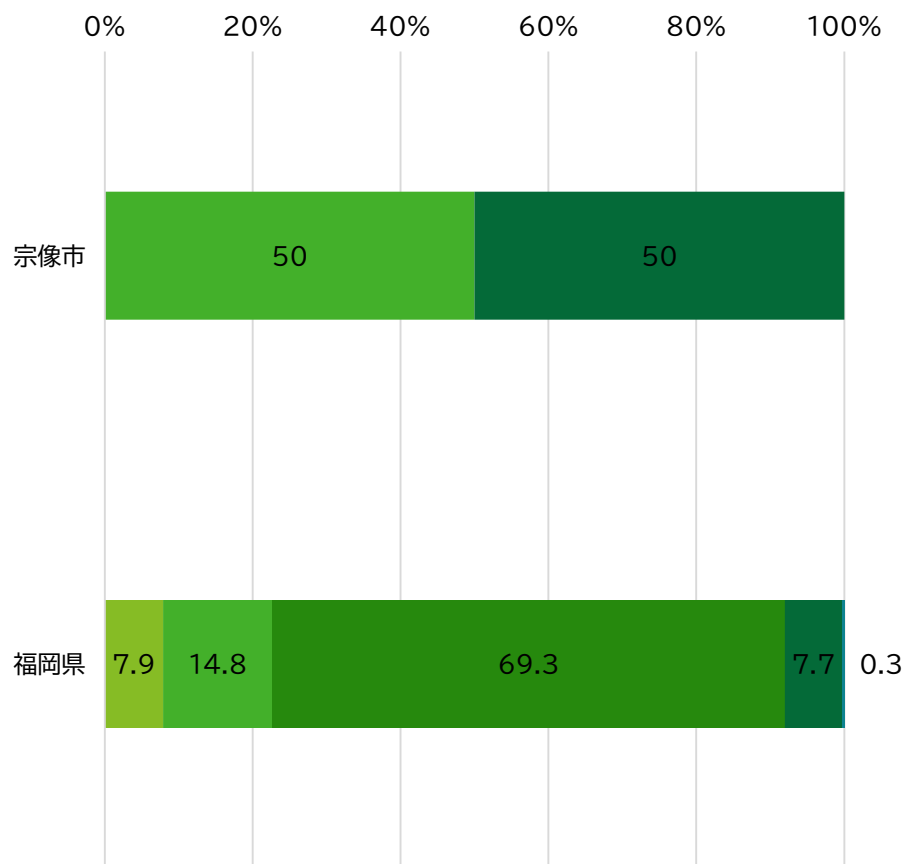


Ⅱ.産業・経済 | 7.漁業

宗像市・福岡県の漁獲物等販売金額帯別経営体割合(地域間比較)

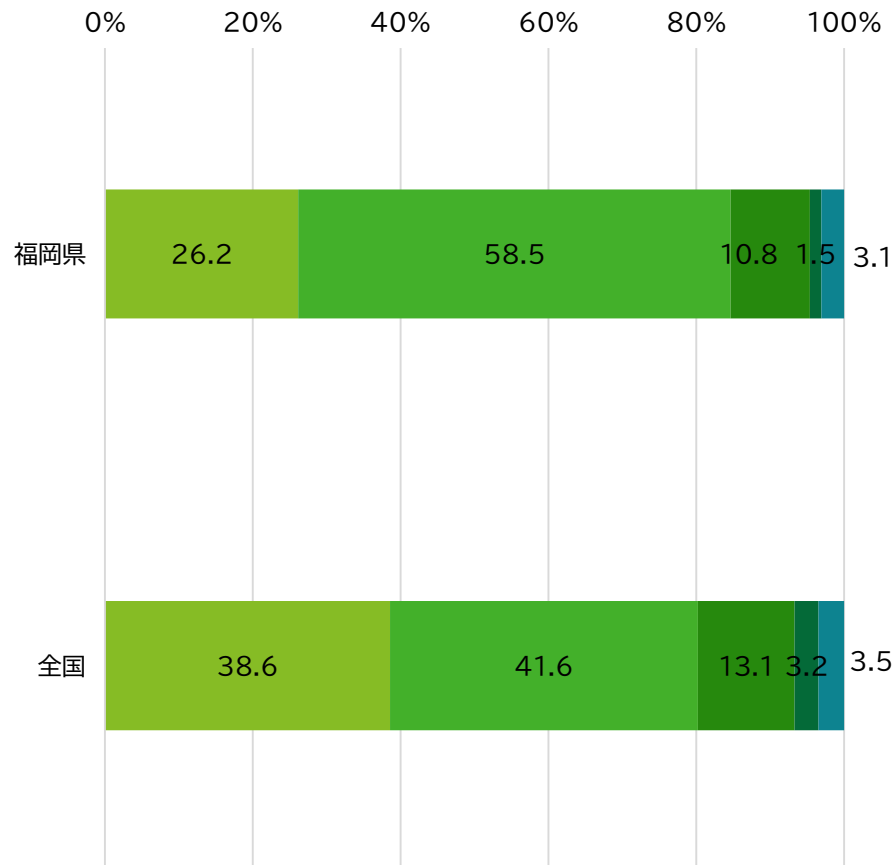
- ✓ 漁獲物等販売金額帯別に経営体の割合をみると、宗像市において該当する経営体の数は2経営体であり、海面漁業では1,000万円未満と1億円未満でそれぞれ1件ずつである。
- ✓ 内水面漁業においては、福岡県と全国平均は100万円未満、1000万円未満の経営体が約80%を占め、同様の傾向にある。

海面漁獲物等販売金額別の経営体の割合(2018)



■100万円未満 ■1000万円未満 ■5000万円未満 ■1億円未満 ■1億円以上

内水面漁獲物等販売金額別の経営体の割合(2013)



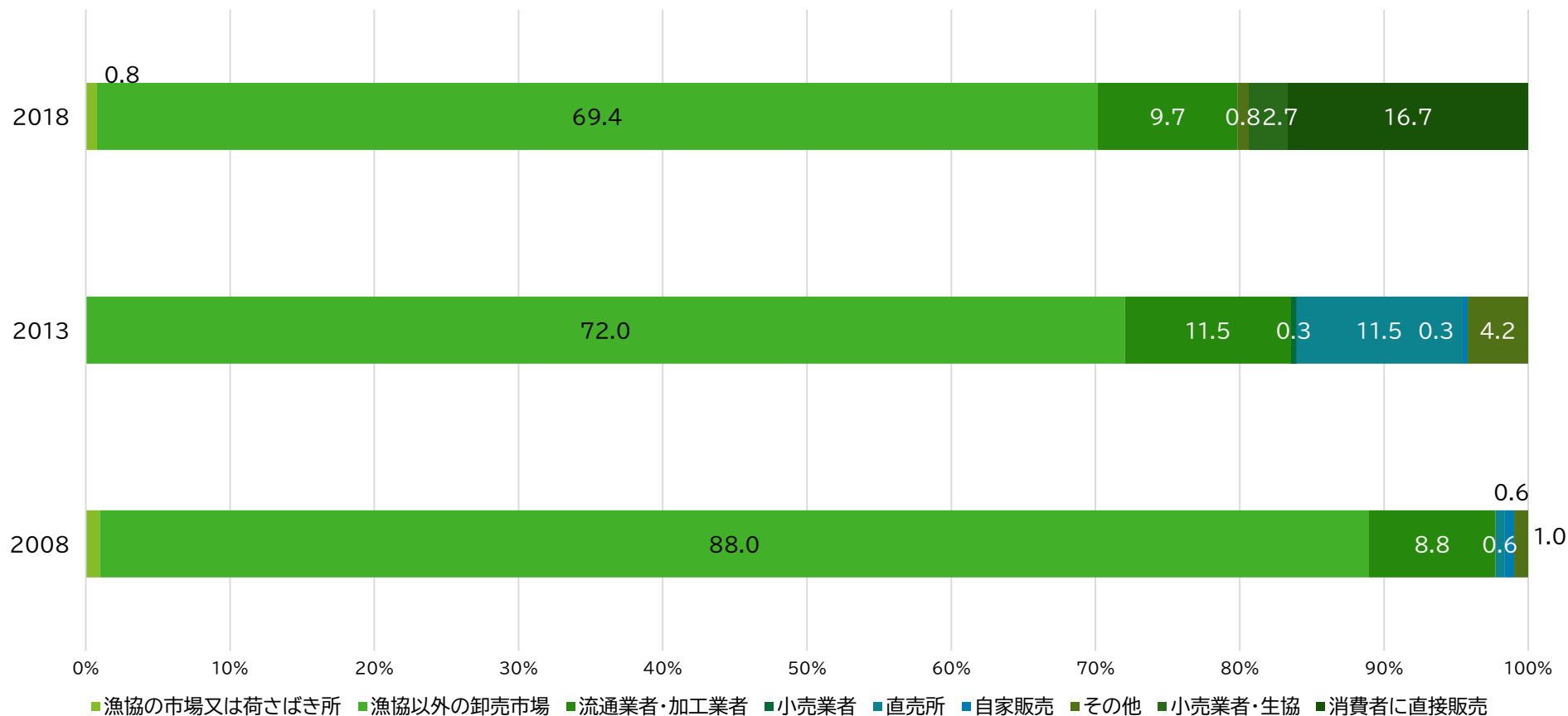
■100万円未満 ■1000万円未満 ■5000万円未満 ■1億円未満 ■1億円以上

Ⅱ.産業・経済 | 7.漁業

宗像市の海面漁獲物等出荷先別経営体数の割合

- ✓ 海面漁獲物等出荷先は「漁協以外の卸売市場」が2018年に約7割を占めており、2008年と比較すると割合が減少している。
- ✓ 一方で、2018年には2013年以前に該当がなかった「消費者に直接販売」の割合が大きくなっている。

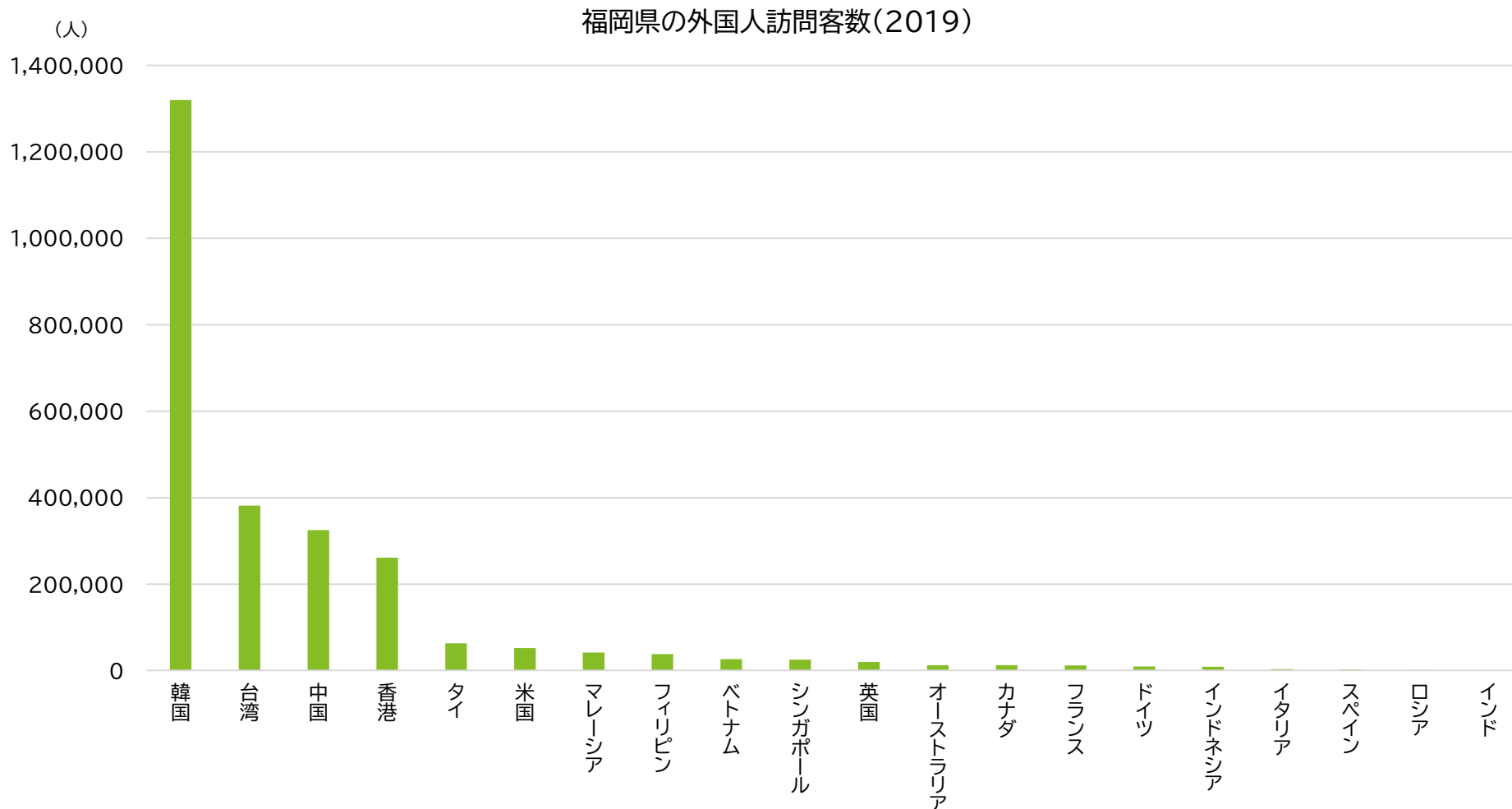
海面漁獲物等出荷先別経営体数の割合



Ⅱ.産業・経済 | 8.観光

福岡県へ訪問した外国人訪問客数(国・地域別)

- ✓ 図表の数値はコロナ禍以前である2019年の実績値である。
- ✓ 外国人訪問客の国籍としては、韓国、台湾、中国、香港の順に多く、東アジア圏が大部分を占める。

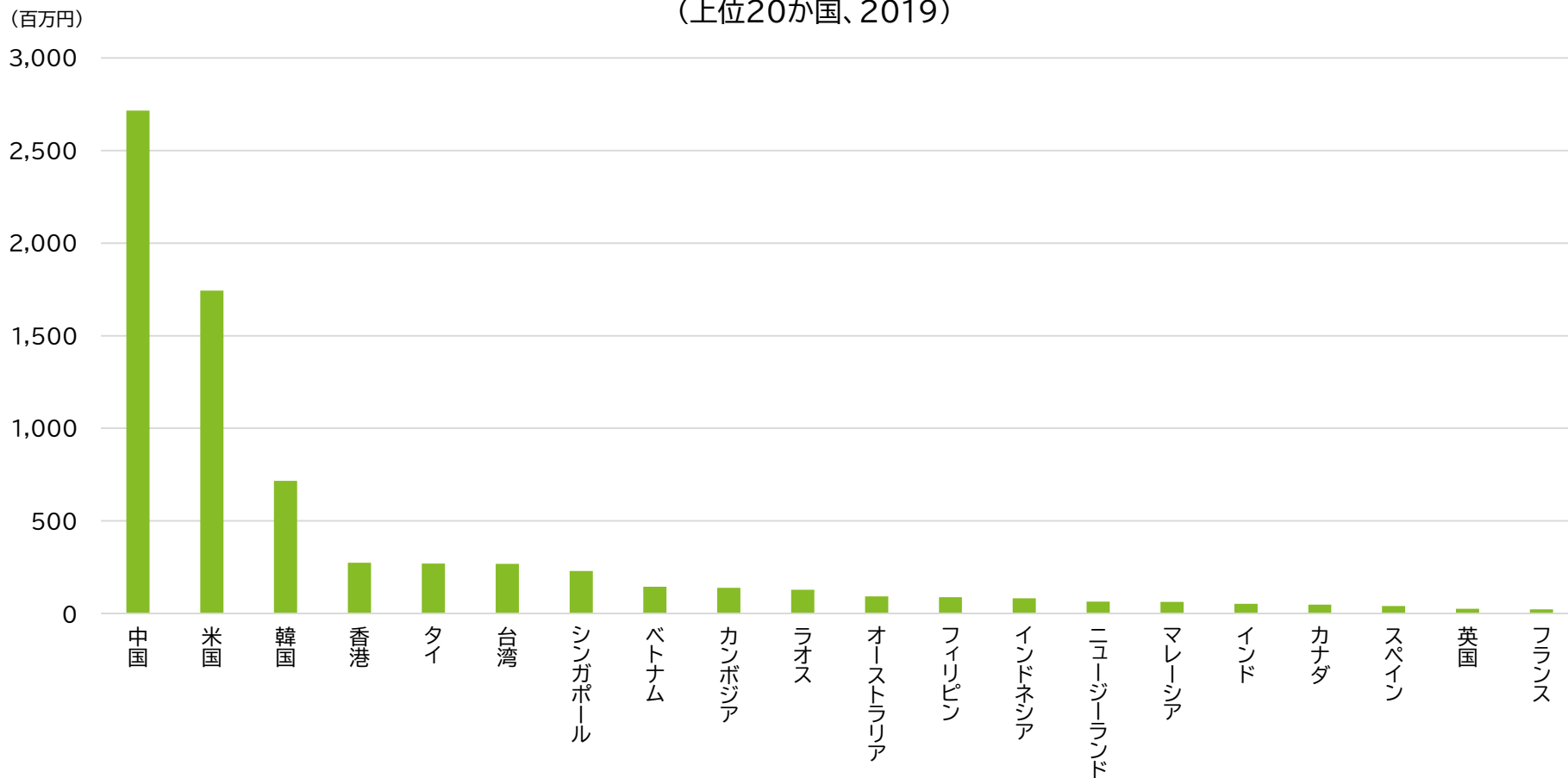


Ⅱ.産業・経済 | 8.観光

外国人における福岡県内での国・地域別消費額

- ✓ 福岡県内での消費額は、中国、米国、韓国、香港の順に多い。1位の中国は2位以下を大きく引き離し、25億円を超えている。
- ✓ 中国は、訪問者数が韓国の約4分の1、消費額が韓国の約4倍である。そこから、中国人観光客一人当たりの消費額が高いことがわかる。

福岡県内での国・地域別消費額
(上位20か国、2019)



Ⅱ.産業・経済 | 9.雇用

一人当たり賃金(産業間比較)

- ✓ 福岡県の一人当たり賃金は、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、複合サービス事業を除いてわずかに全国平均を下回っている。
- ✓ 鉱業、採石業、砂利採取業は全国平均より約100万円低く、全国平均を下回っている他産業と比べて乖離が大きい。

一人当たり賃金の産業間比較(2022)

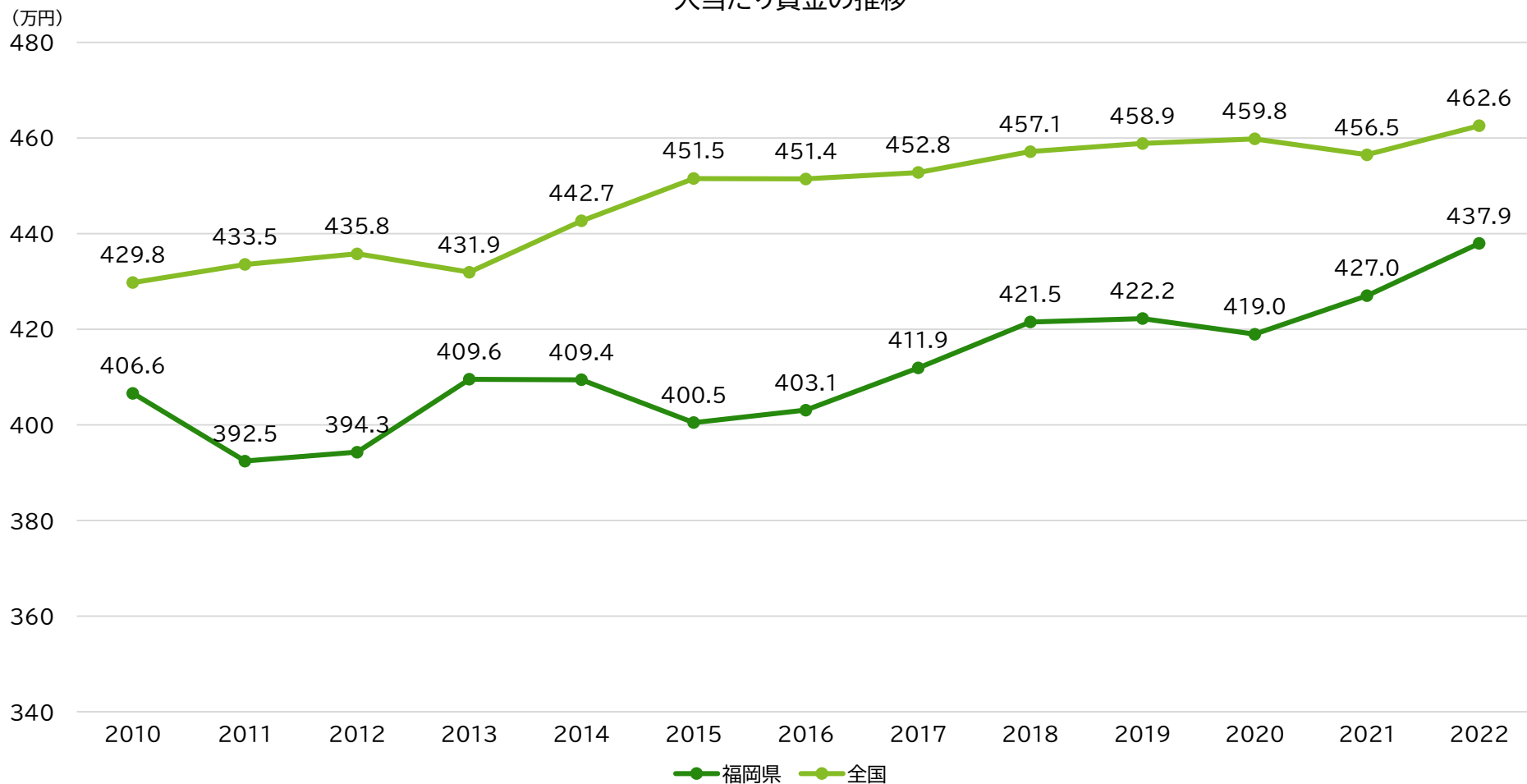


Ⅱ.産業・経済 | 9.雇用

一人当たり賃金(地域間比較)

✓ 福岡県の一人当たり賃金は全国平均より低い水準にあり、全国平均との差は約30万円である。

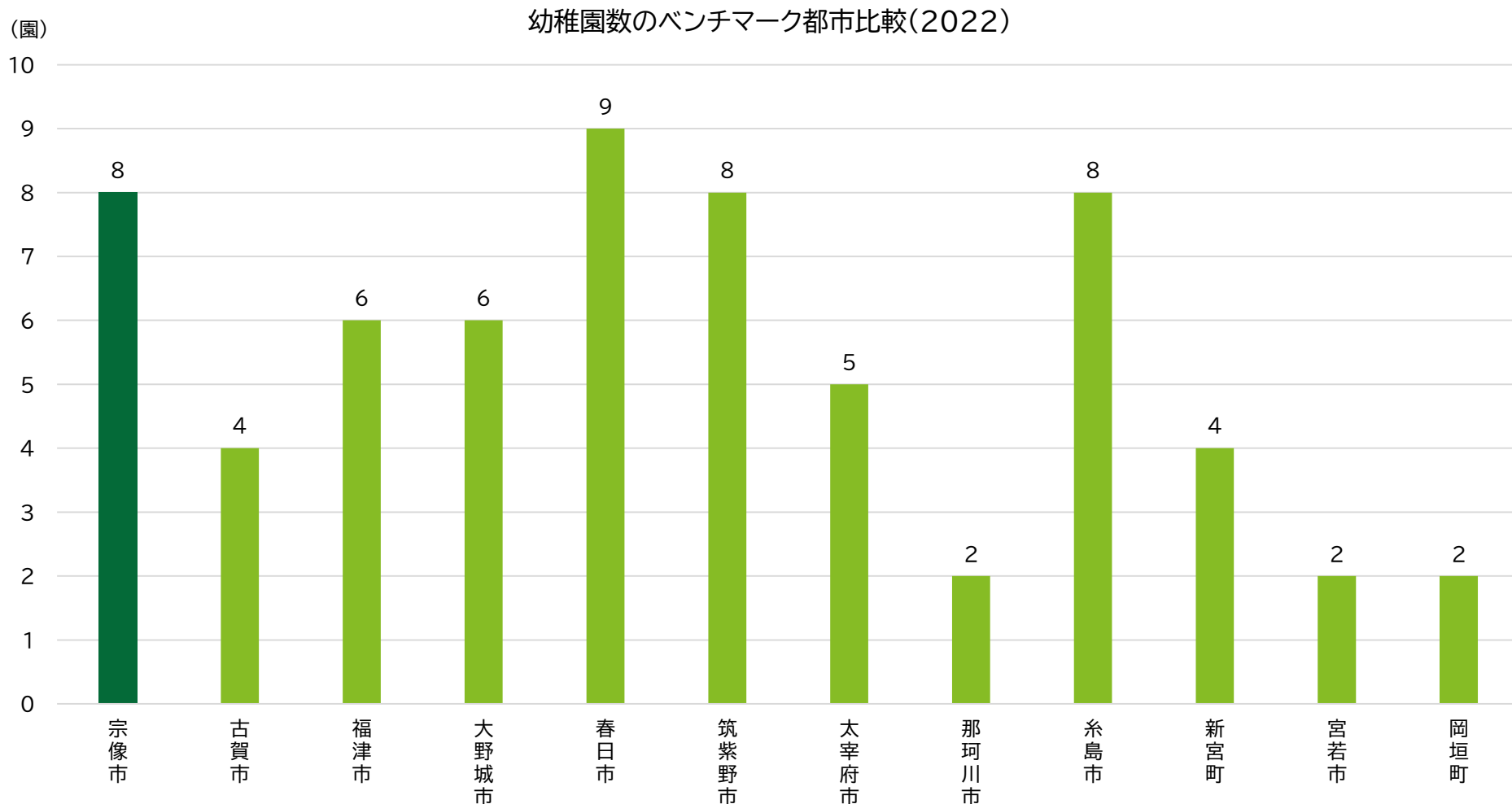
一人当たり賃金の推移



III.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園数

✓ 宗像市の幼稚園数は8園で、ベンチマーク都市と比較すると2番目に多く、筑紫野市、糸島市と同数である。

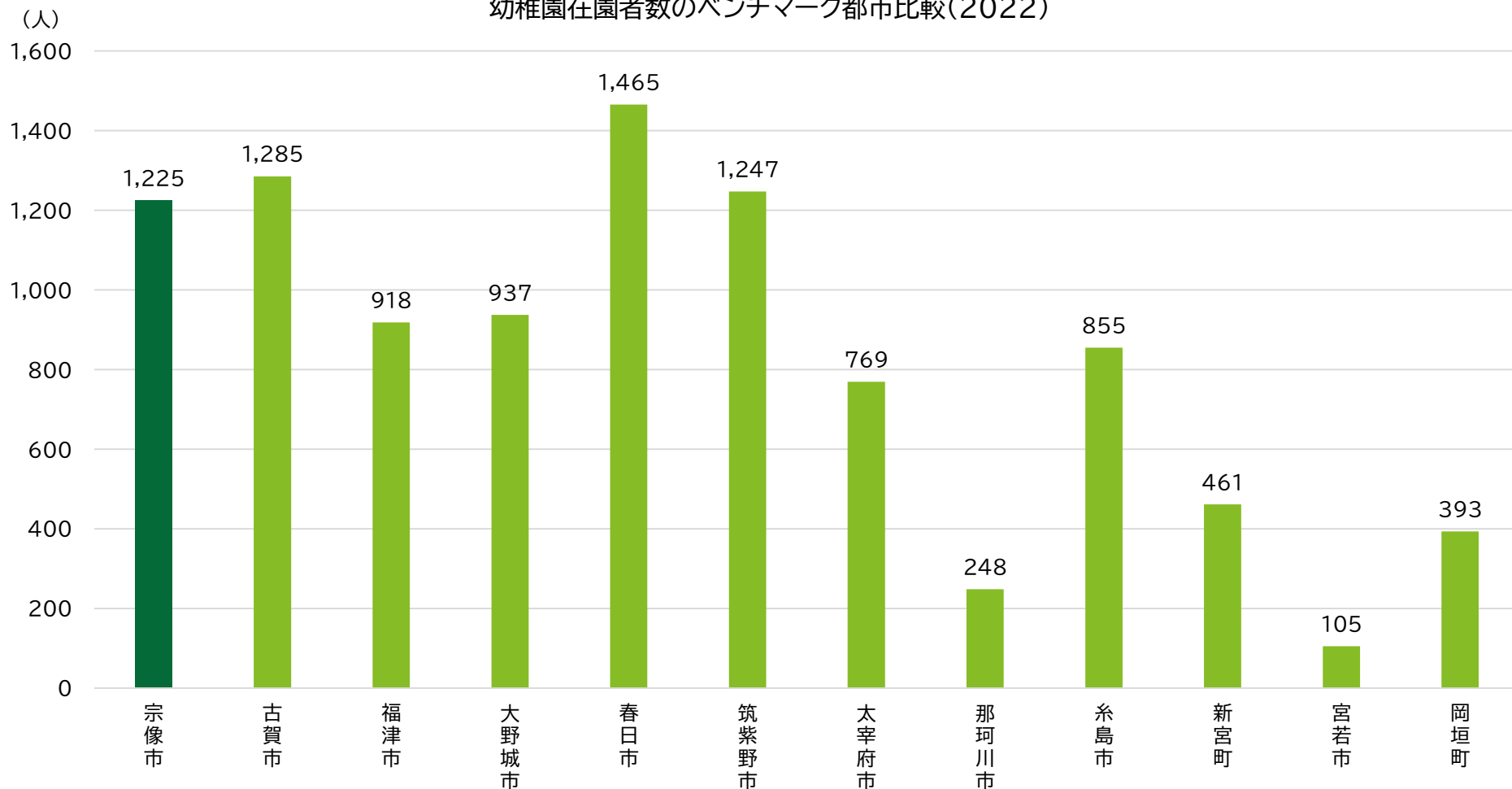


III.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園在園者数

✓ 宗像市の幼稚園在園者数は1,225人で、ベンチマーク都市と比較すると人数が多い方であり、古賀市、筑紫野市と同程度である。

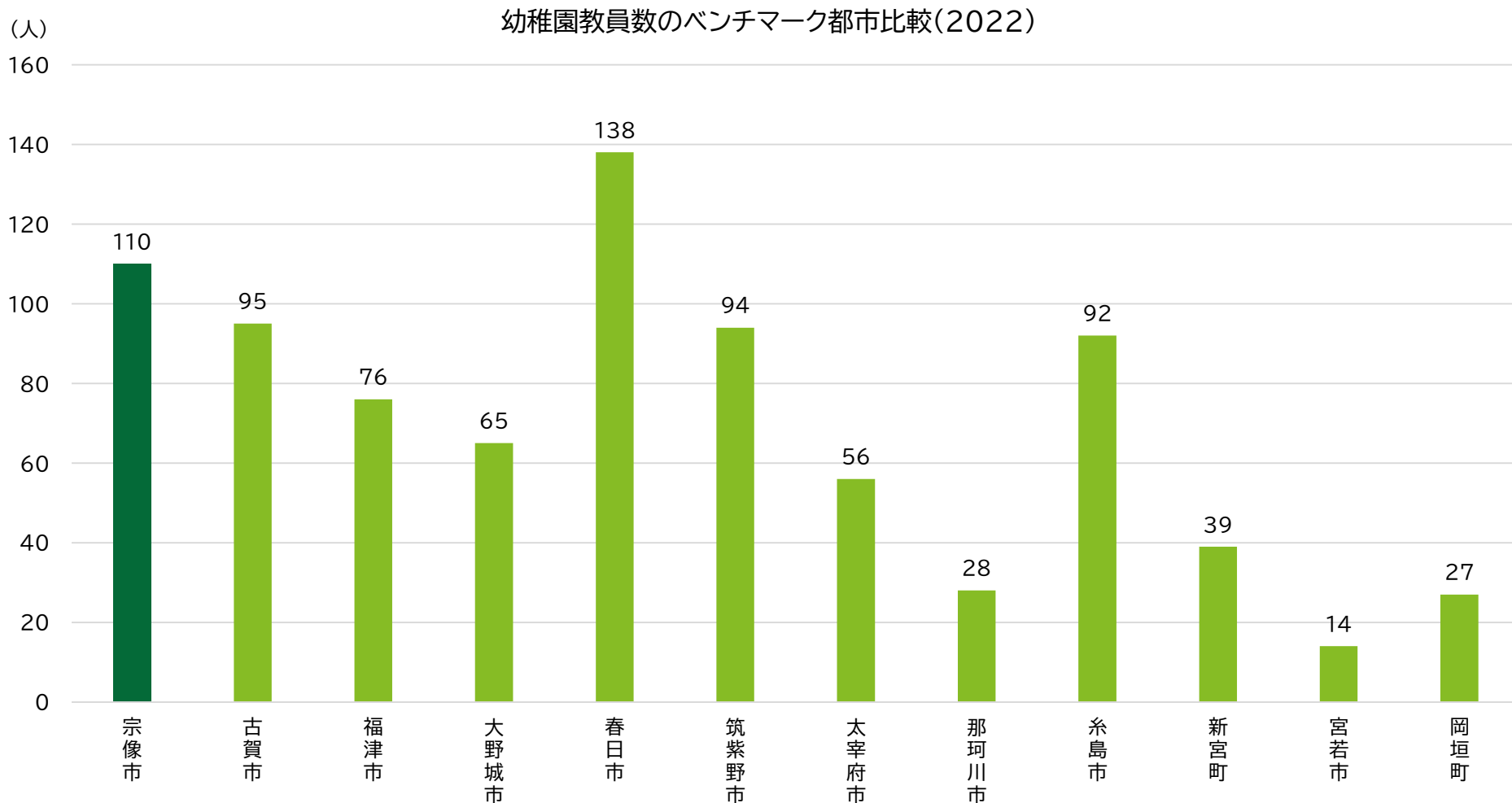
幼稚園在園者数のベンチマーク都市比較(2022)



III.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園教員数

✓ 宗像市の幼稚園教員数をベンチマーク都市と比較すると、春日市に次いで2番目に多く、古賀市、筑紫野市、糸島市を上回る。

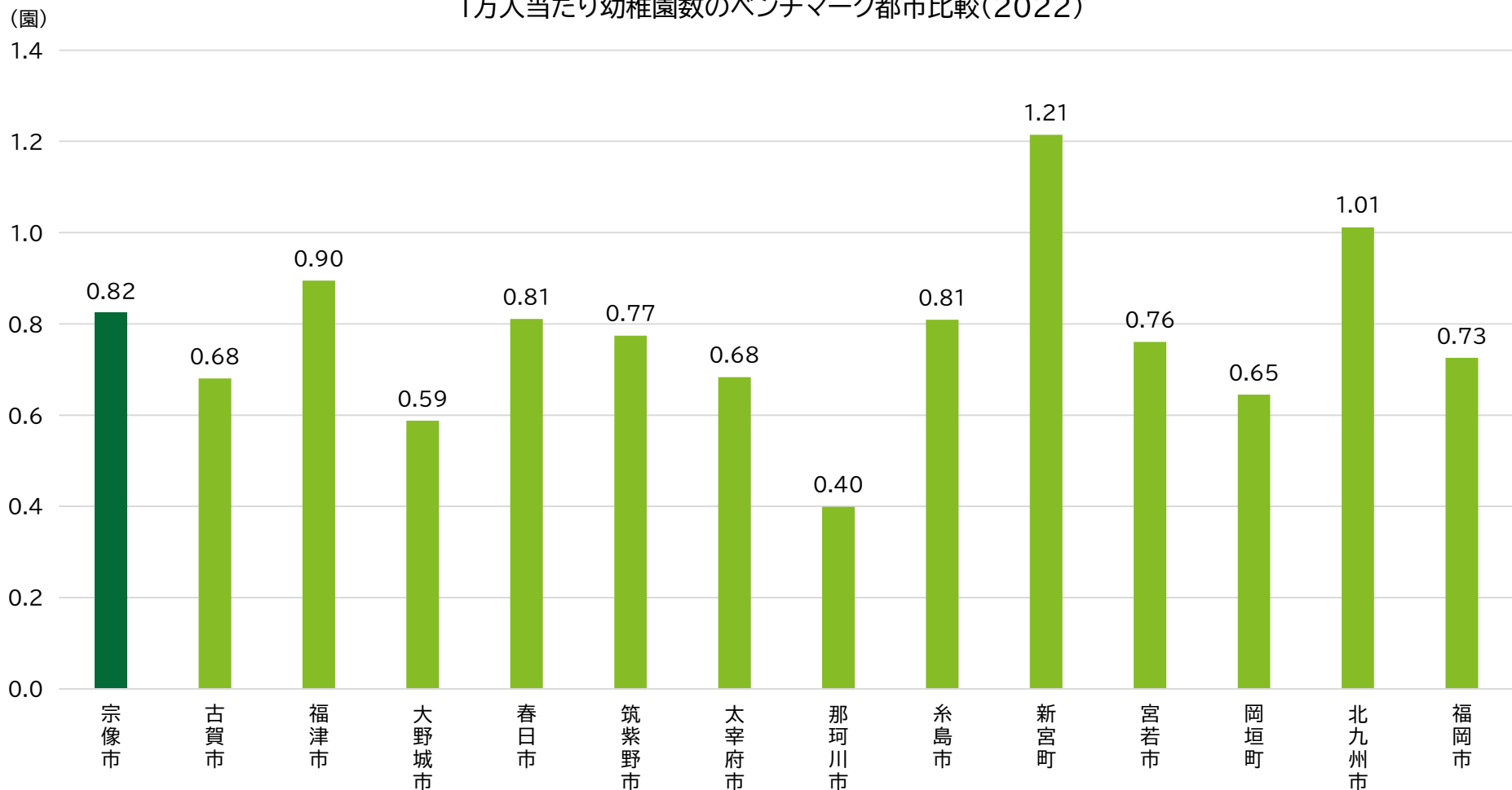


III.子育て・教育 | 1.幼稚園

1万人当たりの幼稚園数

✓ 人口1万人当たりの幼稚園数を比較すると、宗像市は0.82と比較的多く、春日市、糸島市と同水準である。

1万人当たり幼稚園数のベンチマーク都市比較(2022)

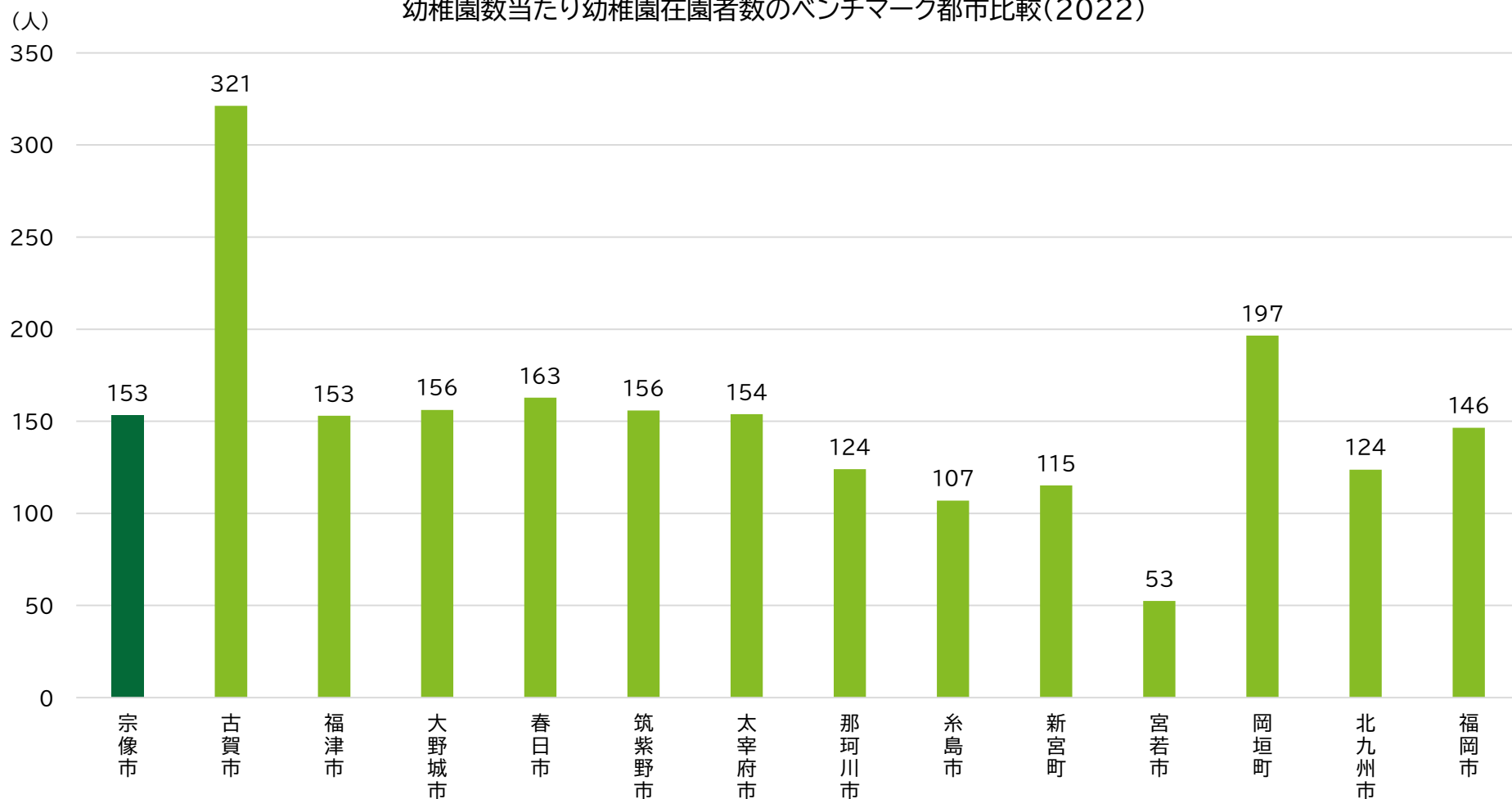


III.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園数当たりの幼稚園在園者数

✓ 宗像市の幼稚園数当たりの幼稚園在園者数は、ベンチマーク都市と比較すると平均的な水準であるといえるが、北九州市や福岡市よりもやや多く、1つの園に通うことどもの数が比較的多いことがわかる。

幼稚園数当たり幼稚園在園者数のベンチマーク都市比較(2022)

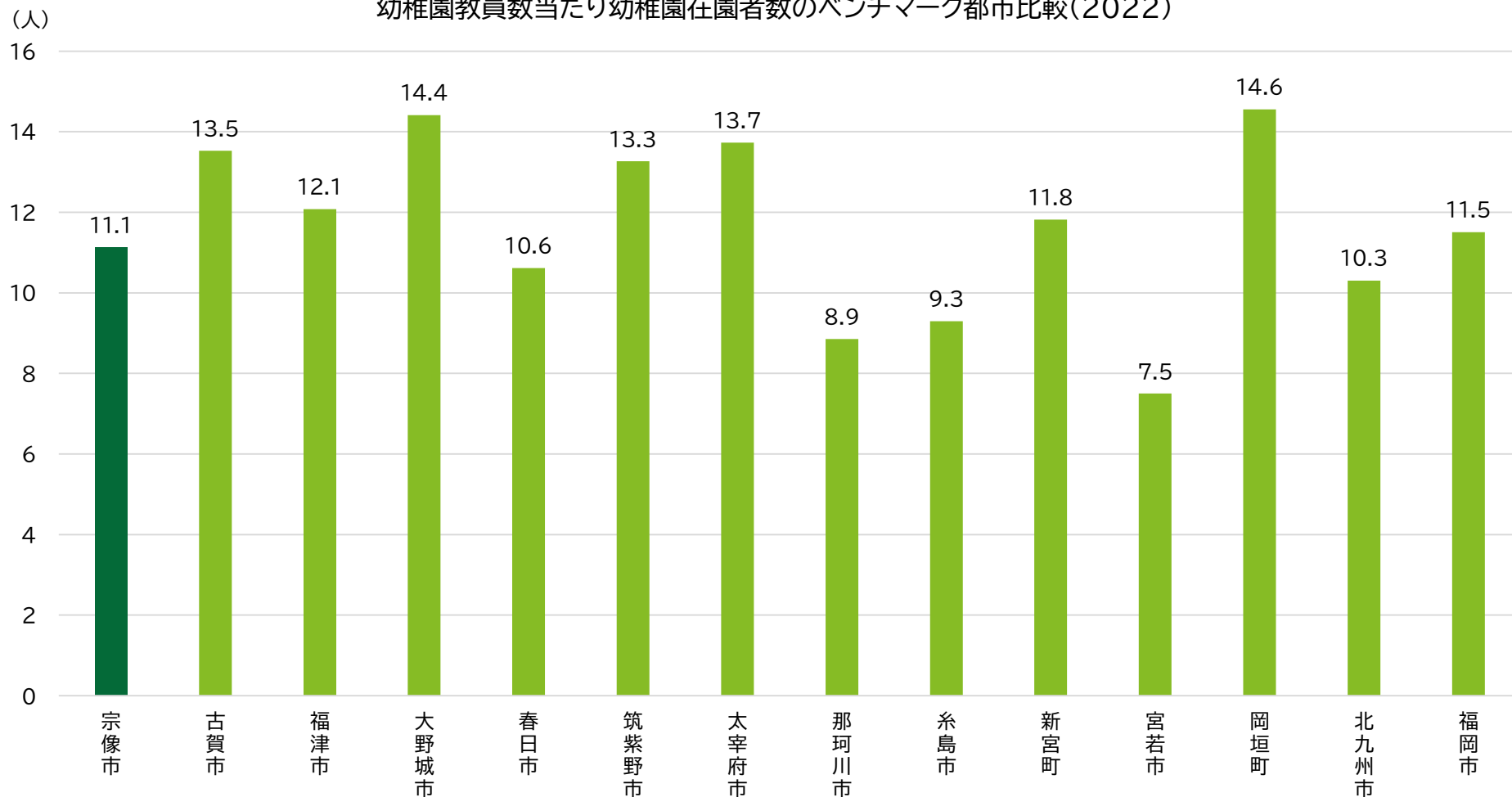


III.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園教員数当たりの幼稚園在園者数

- ✓ 幼稚園教員数当たりの幼稚園在園者数をみると、宗像市はおおよそ平均的な水準である。
- ✓ 古賀市や大野城市より教員の負担は少ないと推察されるが、春日市や糸島市と比較するとやや多いことがわかる。

幼稚園教員数当たり幼稚園在園者数のベンチマーク都市比較(2022)

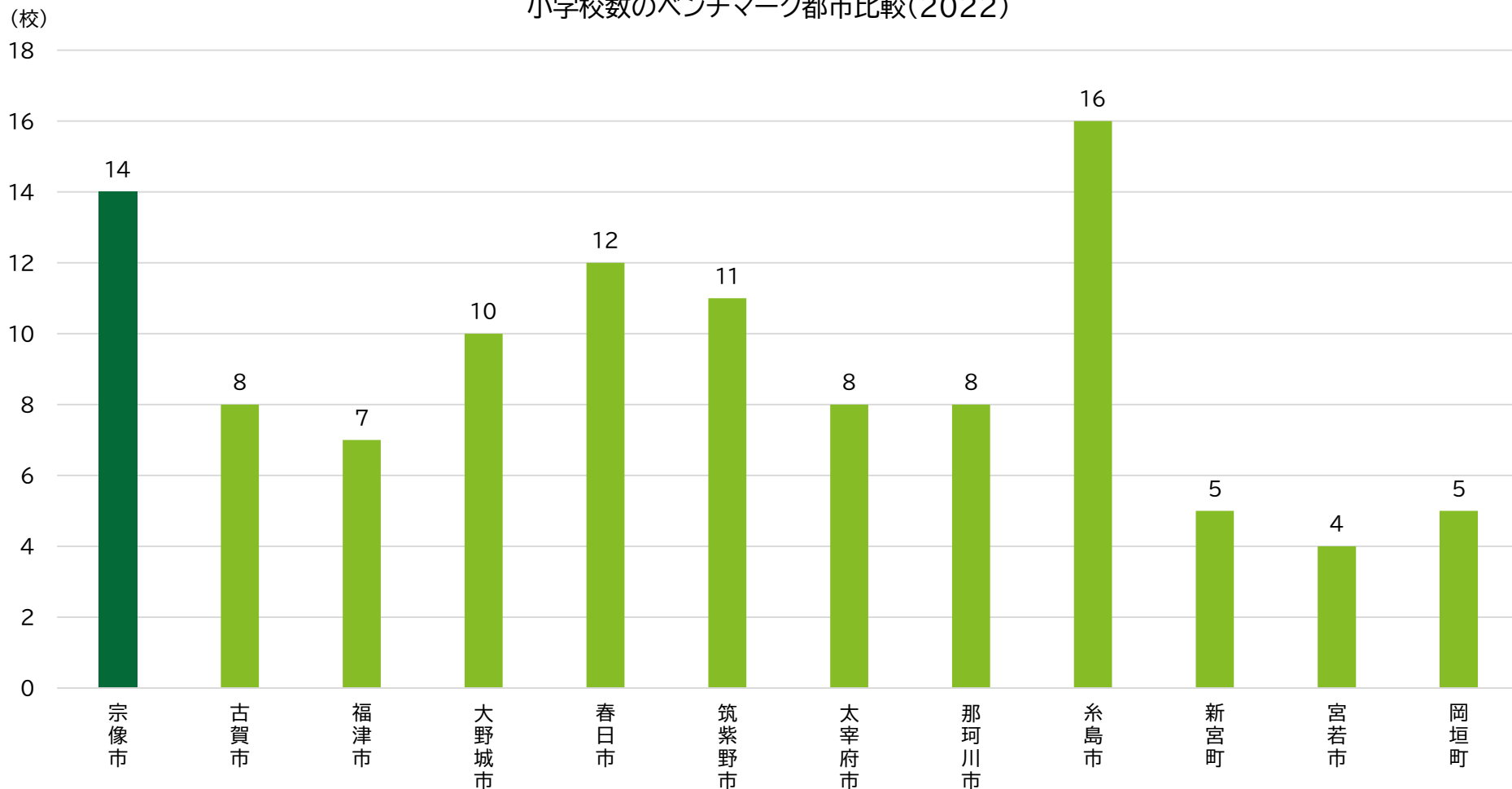


III.子育て・教育 | 2.小学校

小学校数

✓ 宗像市の小学校数は14校で、ベンチマーク都市と比較すると糸島市に次いで2番目に多い。

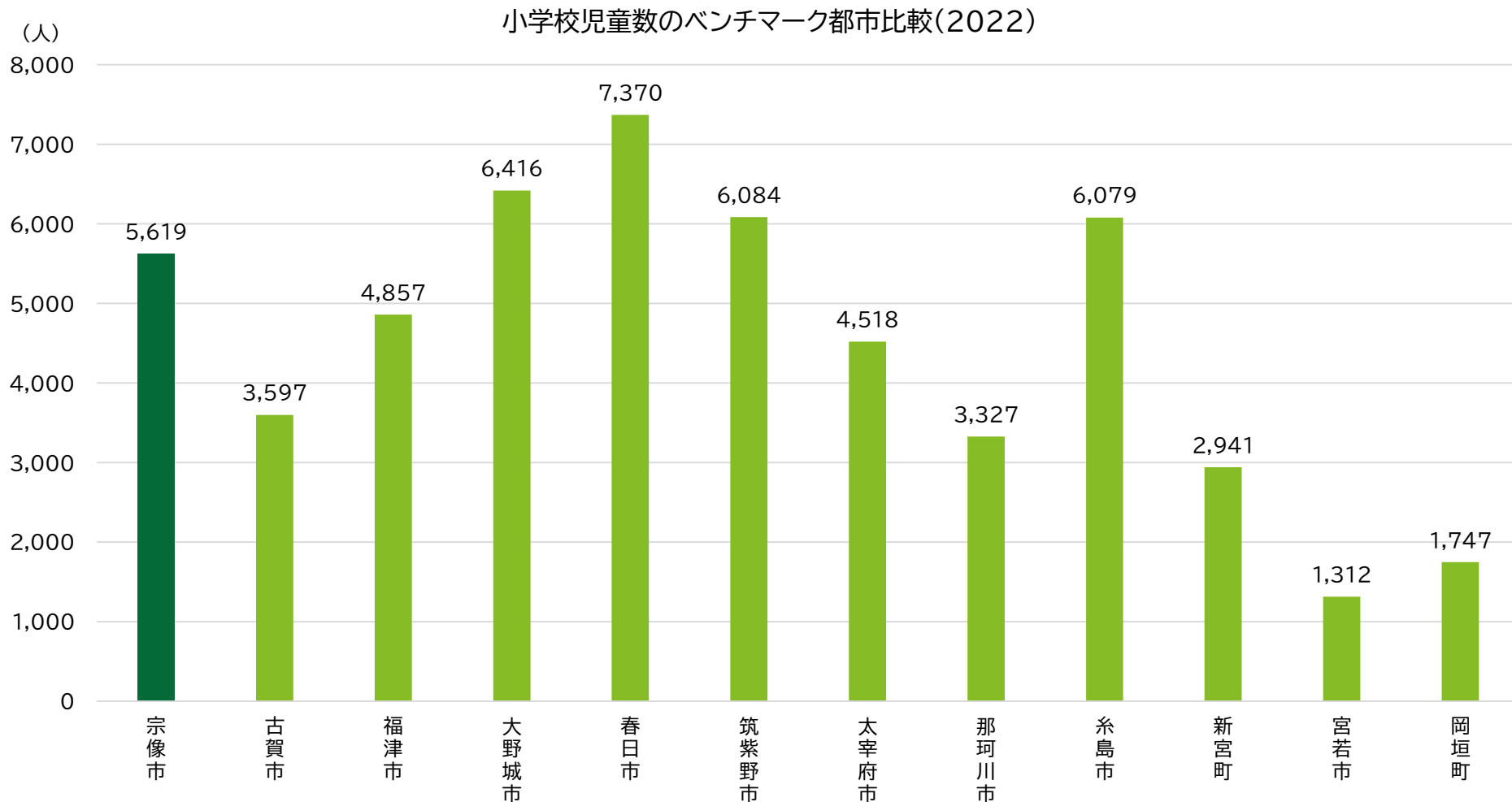
小学校数のベンチマーク都市比較(2022)



III.子育て・教育 | 2.小学校

小学校児童数

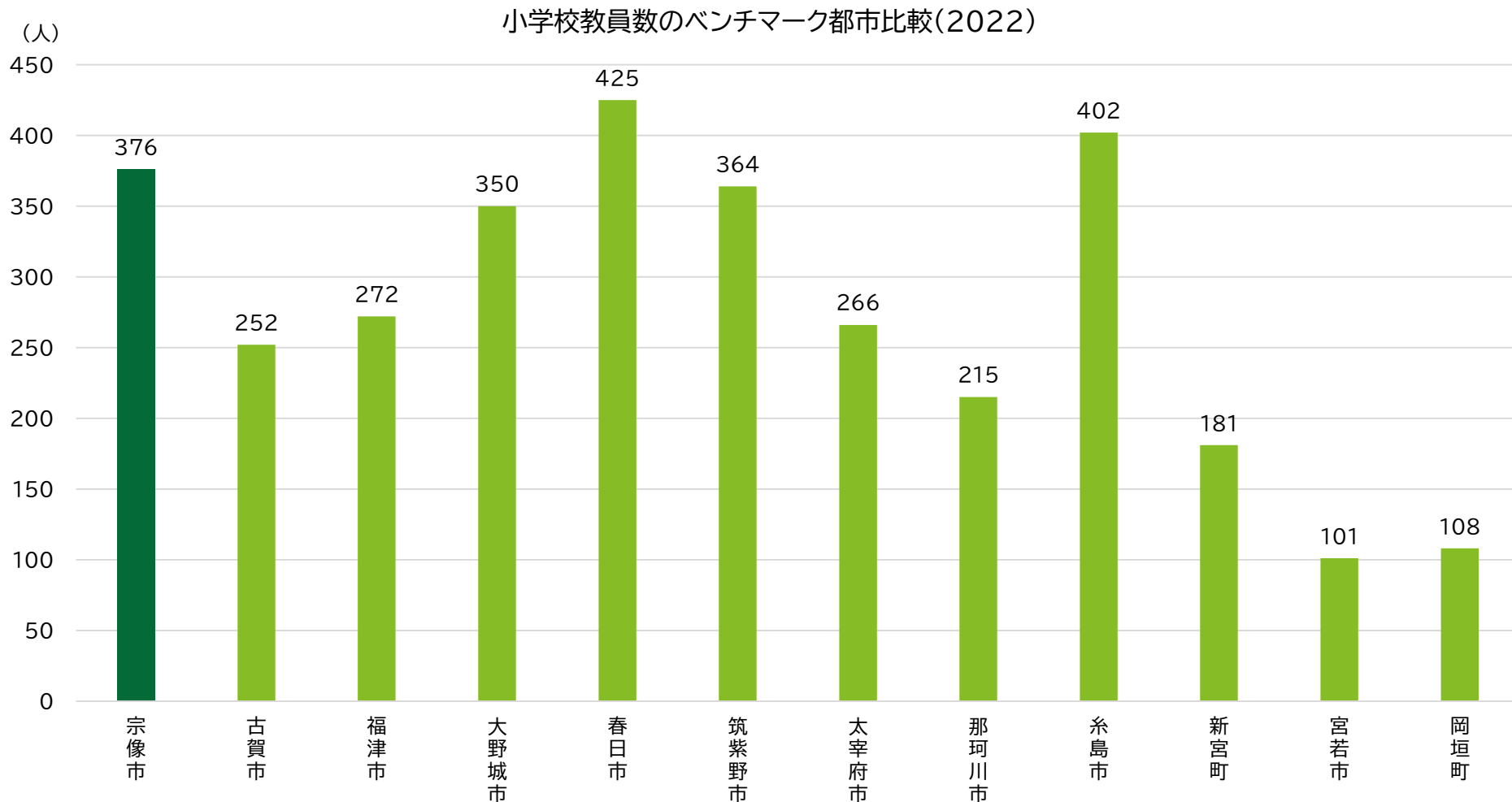
✓ 宗像市の小学校児童数は5,619人で、古賀市や那珂川市などを大きく上回るが、春日市、大野城市、筑紫野市、糸島市よりは少ない。



III.子育て・教育 | 2.小学校

小学校教員数

✓ 宗像市の小学校教員数は、ベンチマーク都市と比較すると春日市、糸島市に次いで3番目に多い。

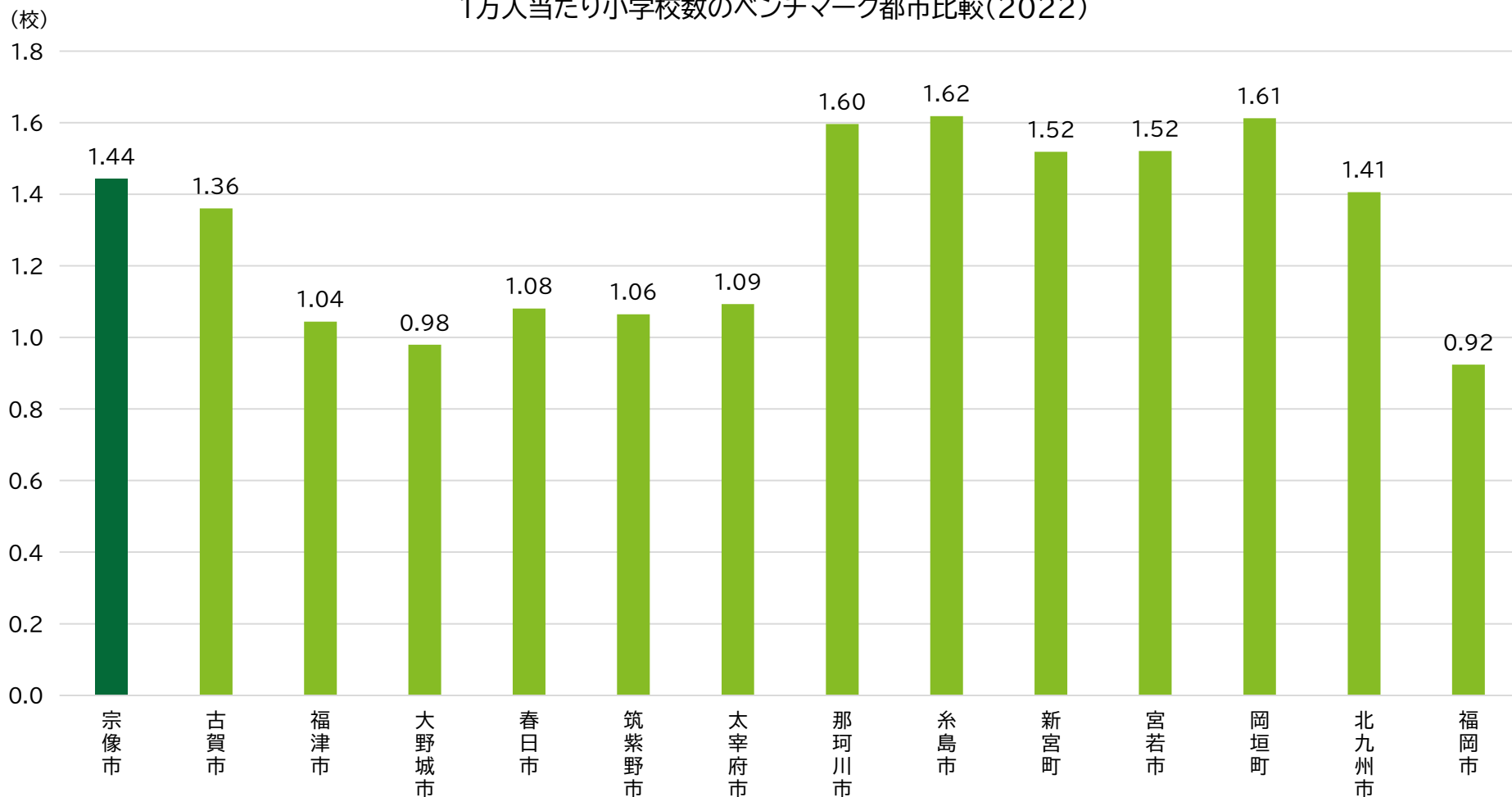


III.子育て・教育 | 2.小学校

1万人当たりの小学校数

✓ 人口1万人当たりの小学校数を比較すると、宗像市は比較的多い方で、北九州市と同水準であることがわかる。

1万人当たり小学校数のベンチマーク都市比較(2022)

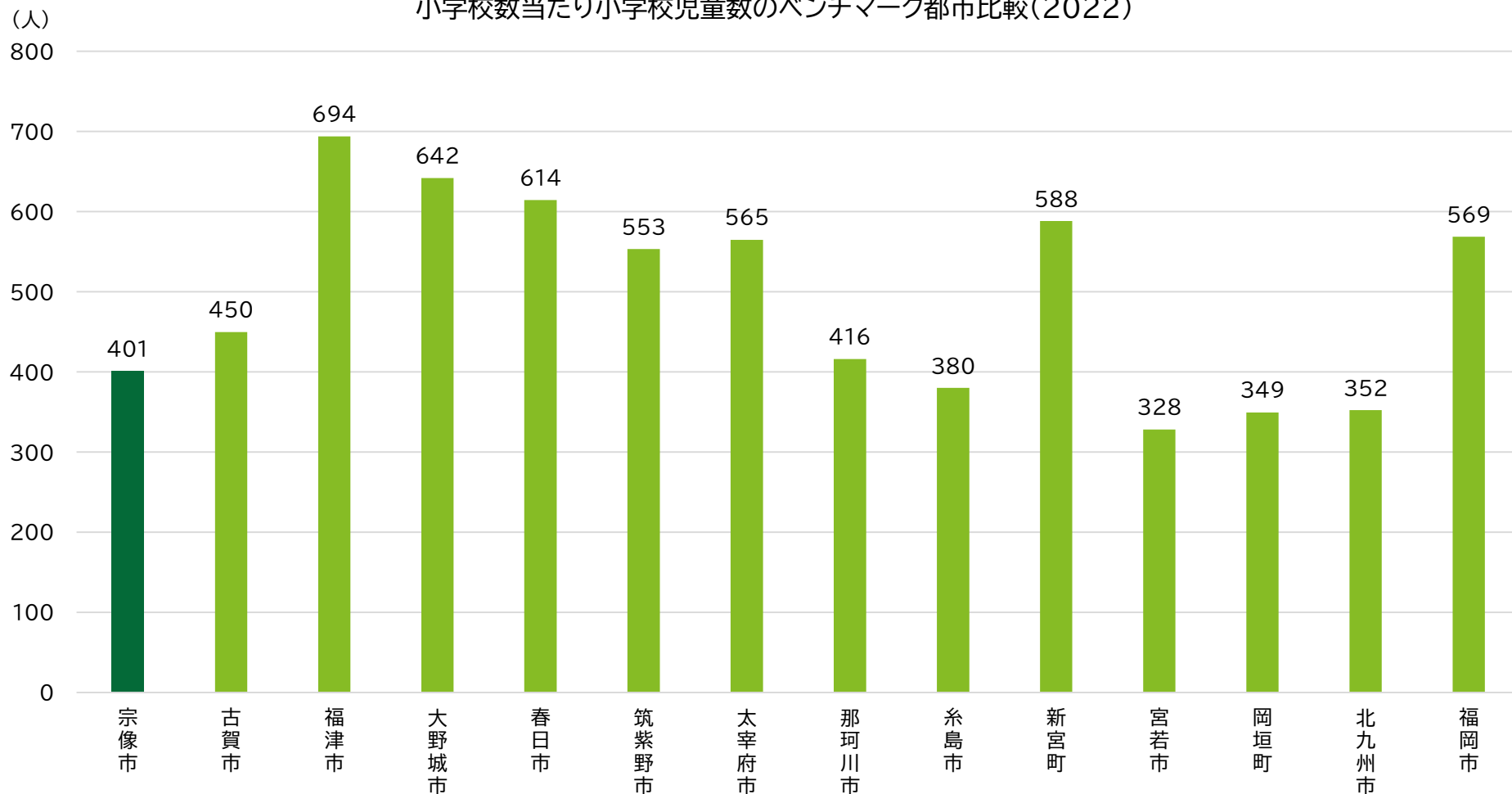


III.子育て・教育 | 2.小学校

小学校数当たりの小学校児童数

- ✓ 小学校1校当たりの児童数は、宗像市が401人で古賀市、糸島市、北九州市などと同水準である。
- ✓ 福津市や春日市、福岡市などと比べると、1つの学校に集まる児童数は比較的少ないことがわかる。

小学校数当たり小学校児童数のベンチマーク都市比較(2022)

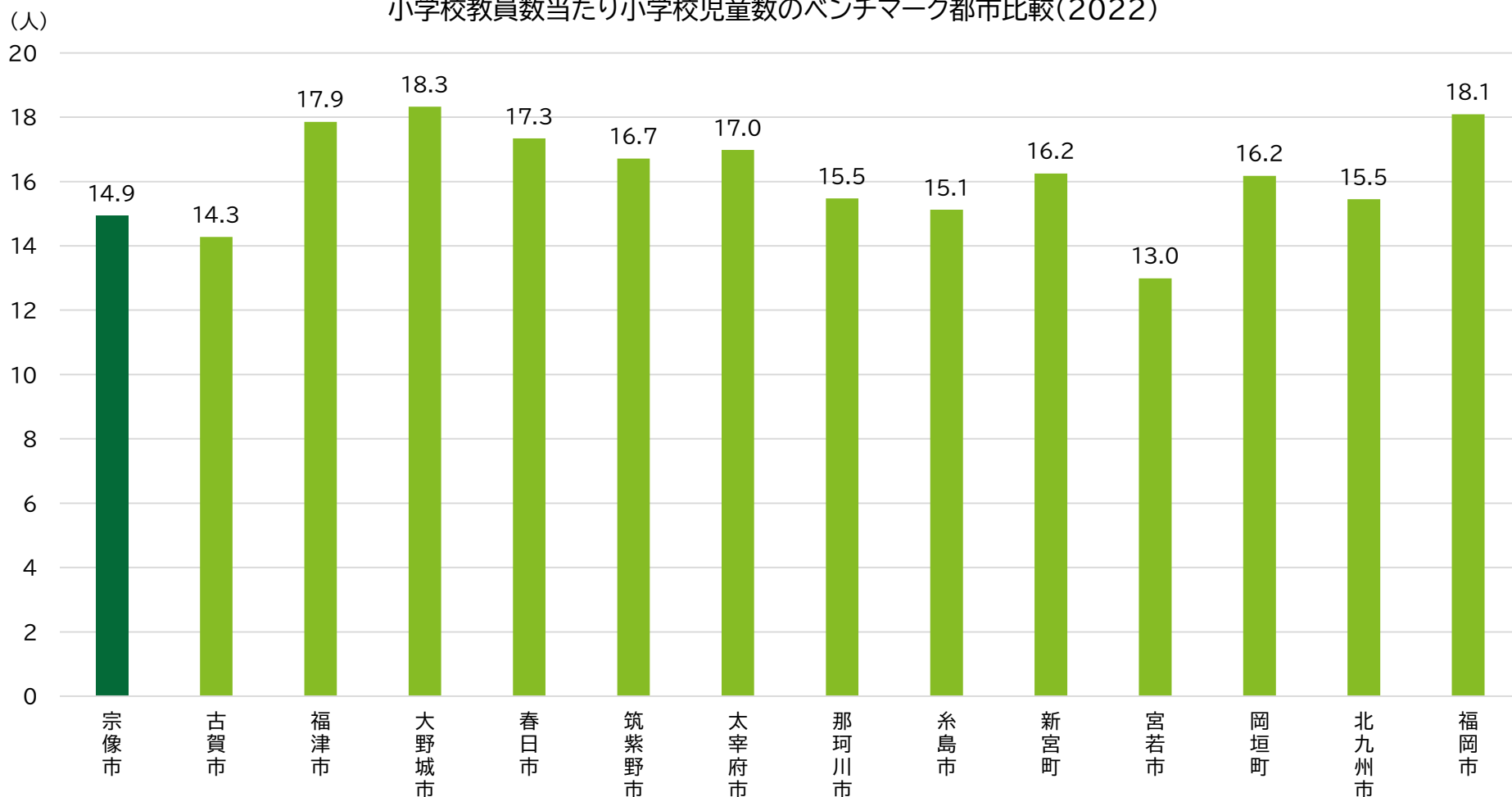


III.子育て・教育 | 2.小学校

小学校教員数当たりの小学校児童数

✓ 宗像市の小学校の教員1人当たりの児童数は、ベンチマーク都市と比較すると宮若市、古賀市に次いで3番目に少なく、教員の負担は少ない方がわかる。

小学校教員数当たり小学校児童数のベンチマーク都市比較(2022)

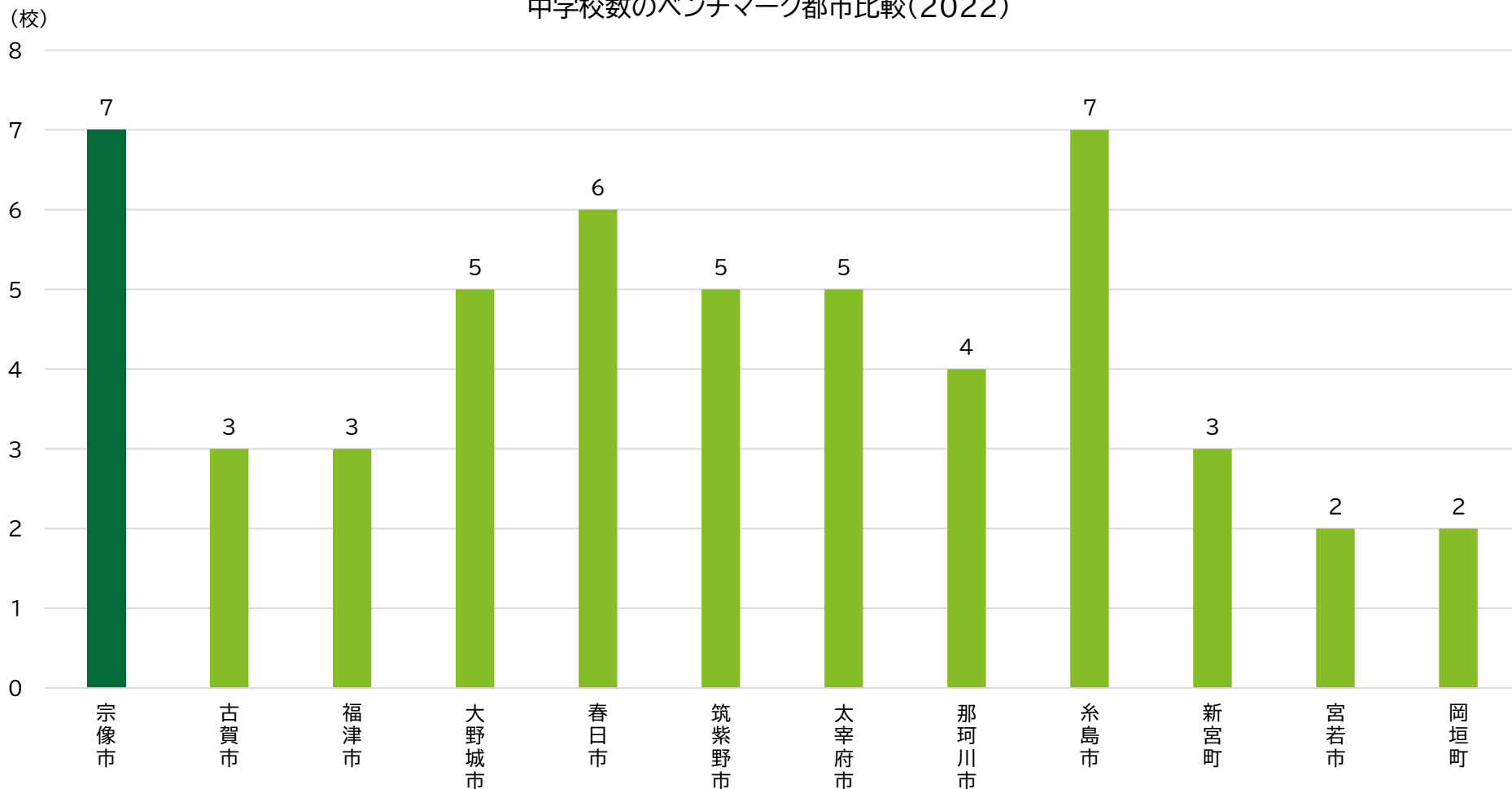


III.子育て・教育 | 3.中学校

中学校数

✓ 宗像市の中学校数は7校で、ベンチマーク都市と比較すると最も多く、糸島市と同数である。

中学校数のベンチマーク都市比較(2022)

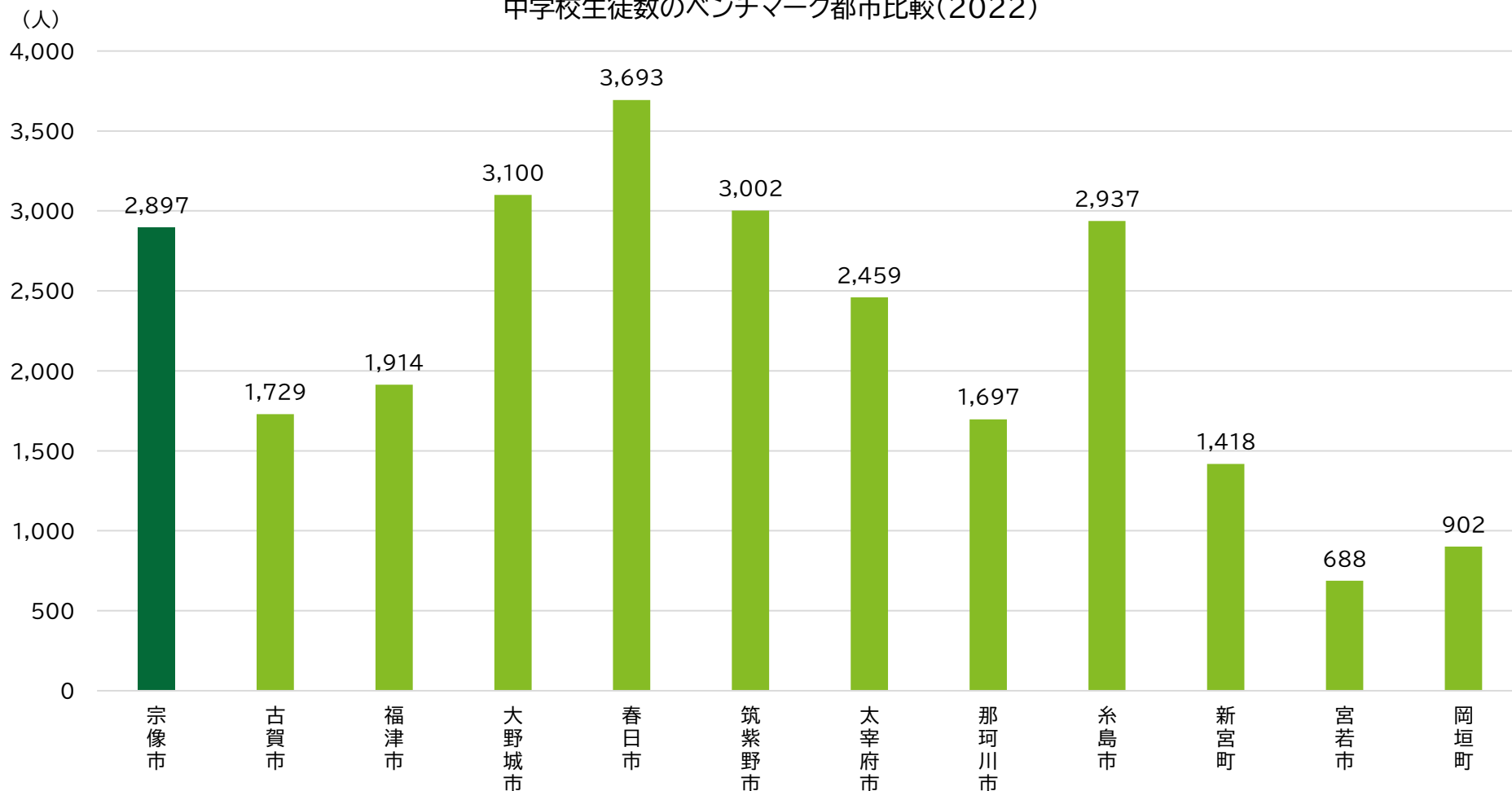


III.子育て・教育 | 3.中学校

中学校生徒数

✓ 宗像市の中学校生徒数は2,897人で大野城市、筑紫野市、糸島市と同程度であるが、春日市を大きく下回る。

中学校生徒数のベンチマーク都市比較(2022)

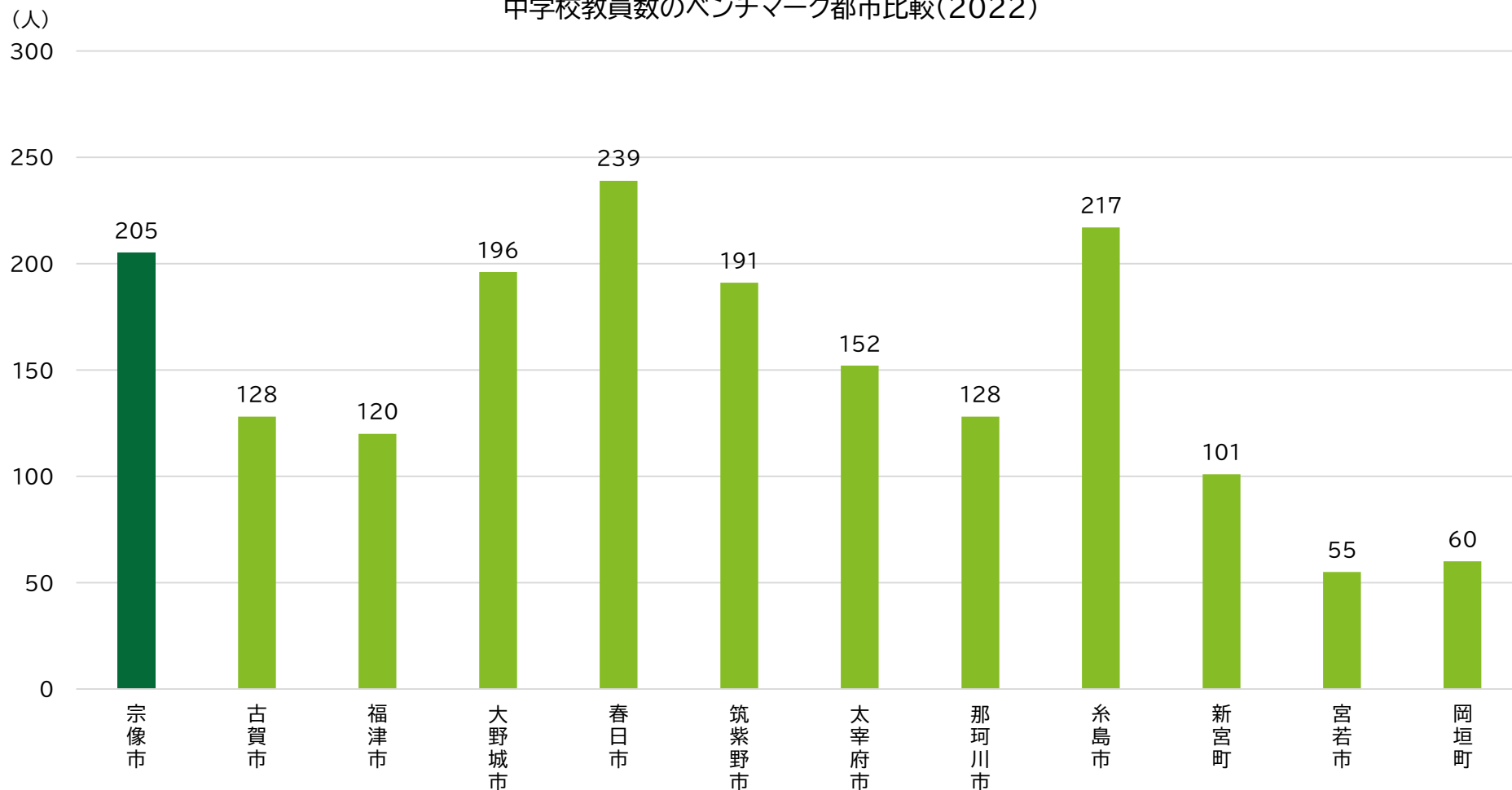


III.子育て・教育 | 3.中学校

中学校教員数

✓ 宗像市の中学校教員数は、ベンチマーク都市と比較すると春日市、糸島市に次いで3番目に多い。

中学校教員数のベンチマーク都市比較(2022)

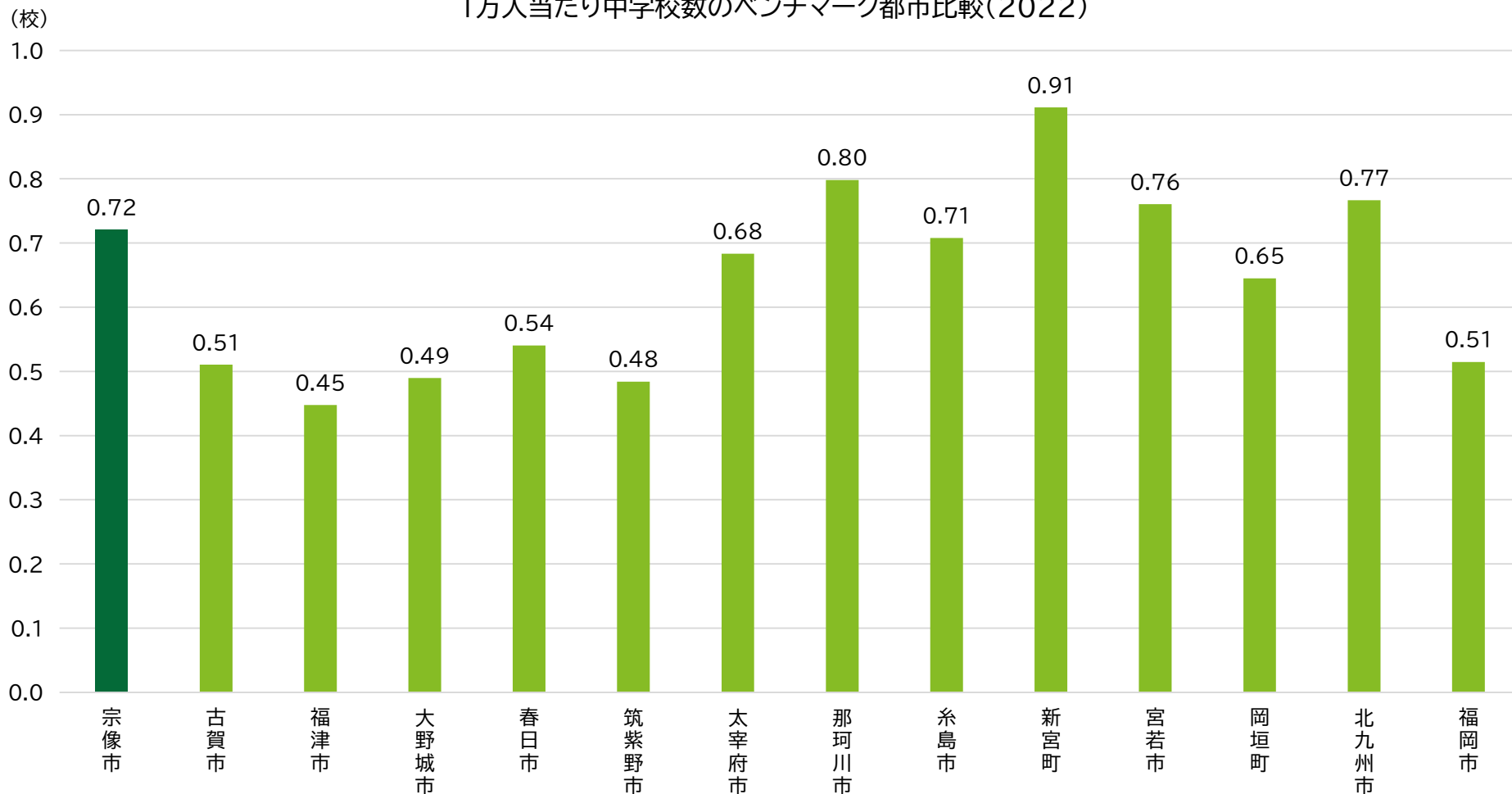


III.子育て・教育 | 3.中学校

1万人当たりの中学校数

✓ 人口1万人当たりの中学校数をみると、春日市や福岡市などより多く、太宰府市、糸島市と同水準である。

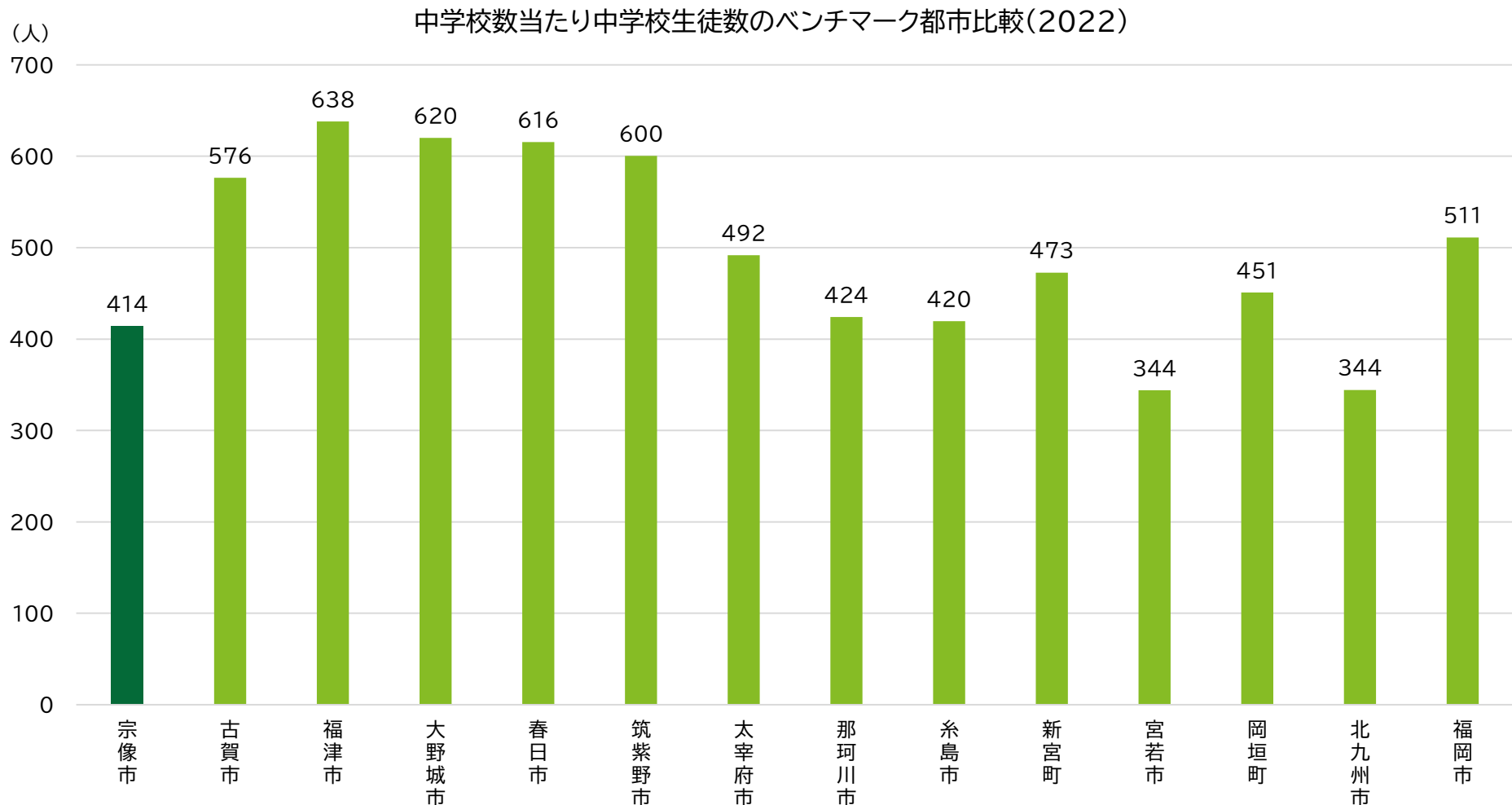
1万人当たり中学校数のベンチマーク都市比較(2022)



III.子育て・教育 | 3.中学校

中学校数当たりの中学校生徒数

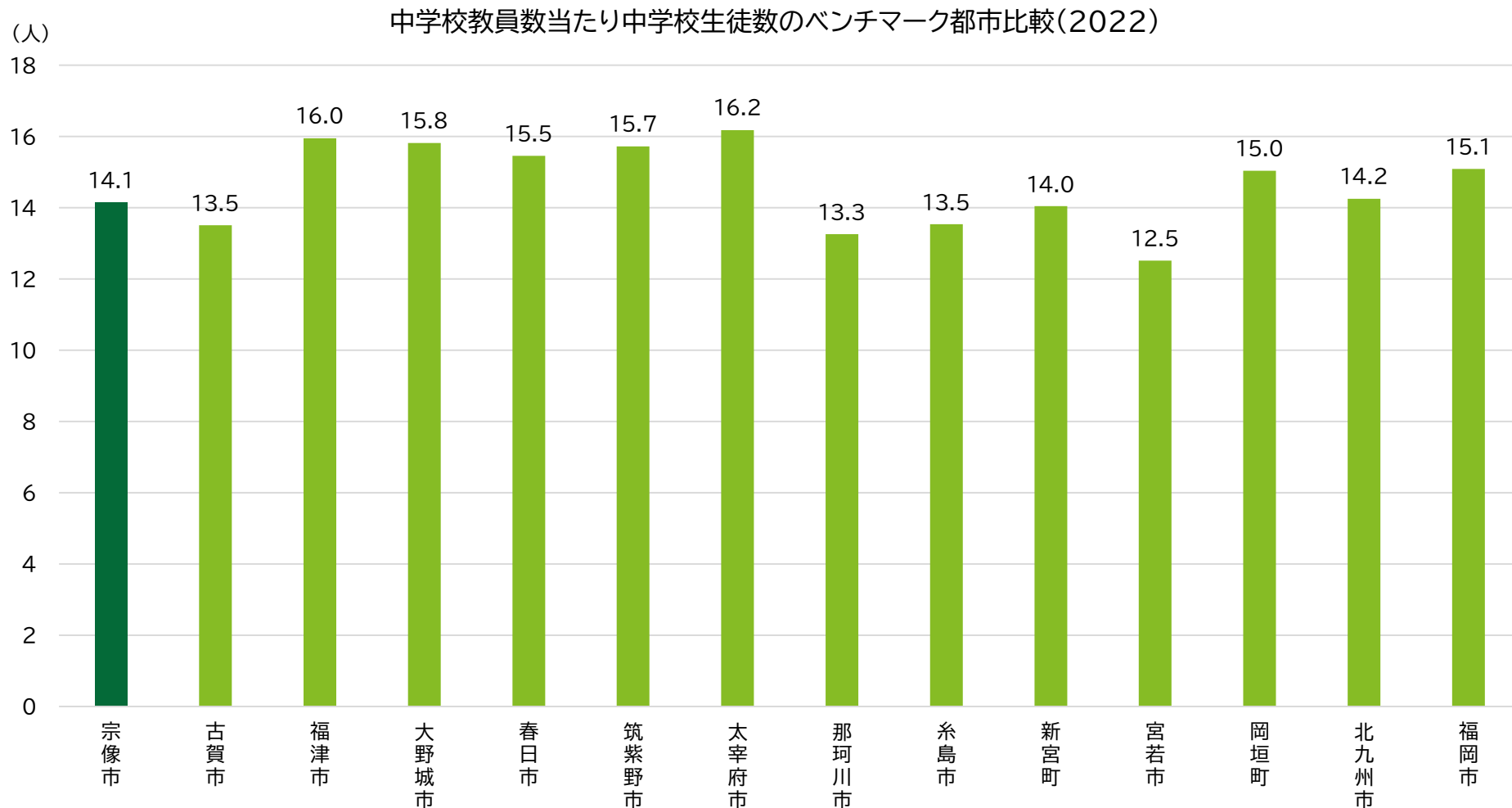
✓ 中学校1校当たりの生徒数を比較すると、宗像市は414人で北九州市と宮若市に次いで少ないことがわかる。



III.子育て・教育 | 3.中学校

中学校教員数当たりの中学校生徒数

✓ 中学校教員1人当たりの生徒数をみると、宗像市は福岡市などより少なく、教員の負担は比較的少ない方であるといえる。

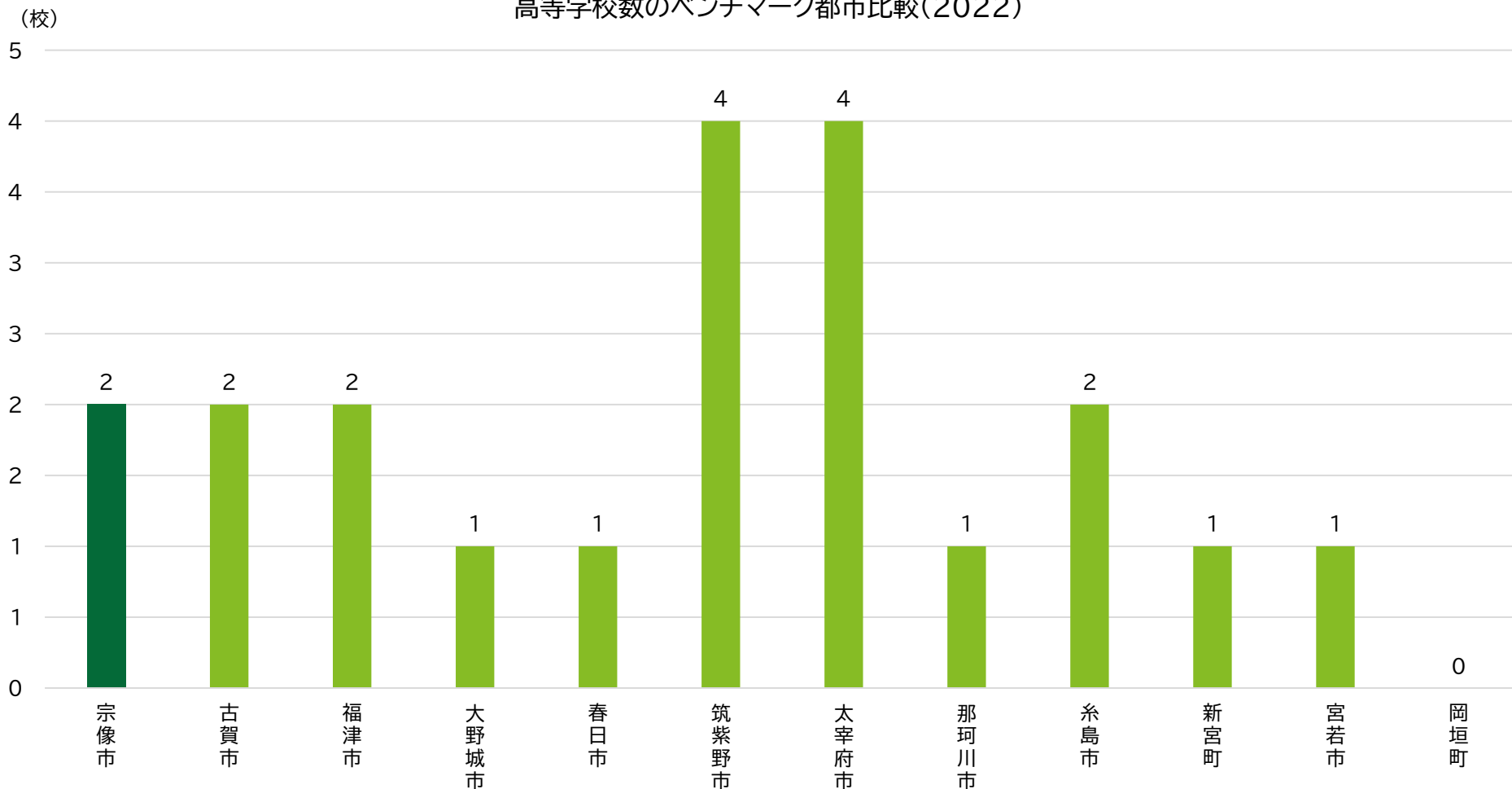


III.子育て・教育 | 4.高等学校

高等学校数

✓ 宗像市の高等学校数は2校で古賀市、福津市、糸島市と同数である。筑紫野市、太宰府市は4校で最も多い。

高等学校数のベンチマーク都市比較(2022)

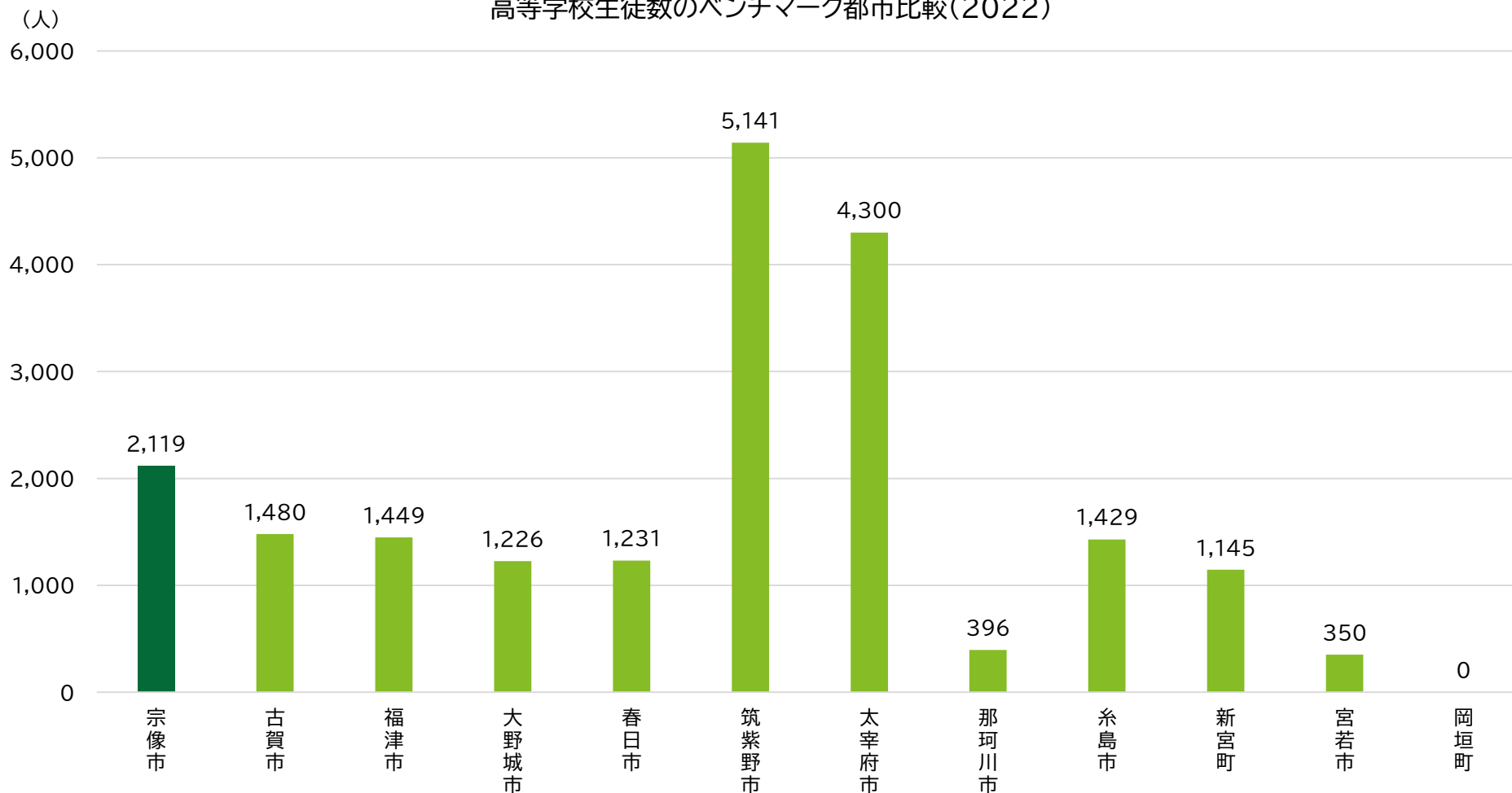


III.子育て・教育 | 4.高等学校

高等学校生徒数

✓ 宗像市の高等学校生徒数は2,119人で筑紫野市、太宰府市に次いで3番目に多いが、上位2市は宗像市の2倍以上の人数である。

高等学校生徒数のベンチマーク都市比較(2022)

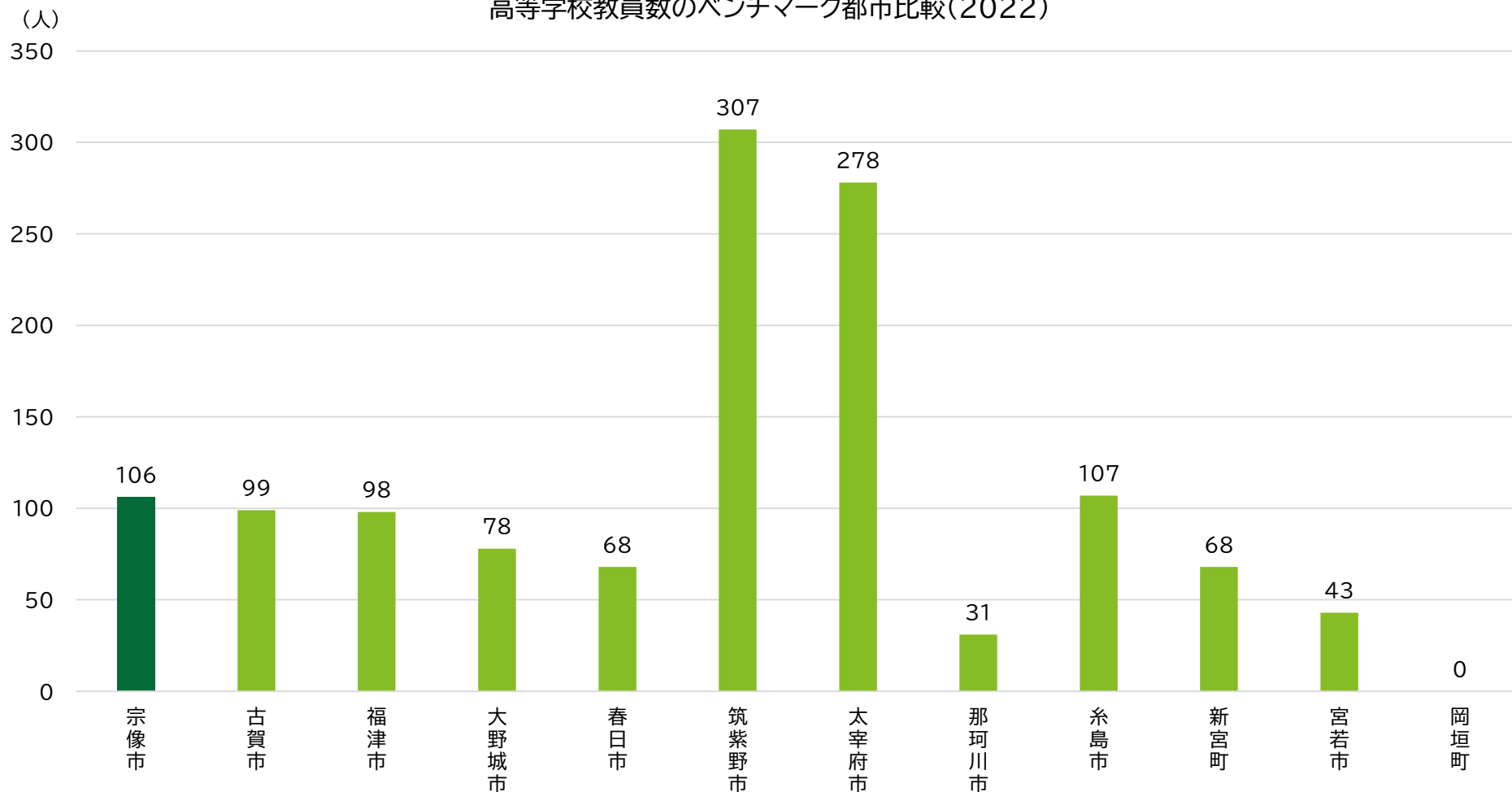


III.子育て・教育 | 4.高等学校

高等学校教員数

✓ 高等学校教員数をみると、生徒数と同様、筑紫野市、太宰府市が圧倒的に多く、宗像市は2市の半分以下であることがわかる。

高等学校教員数のベンチマーク都市比較(2022)

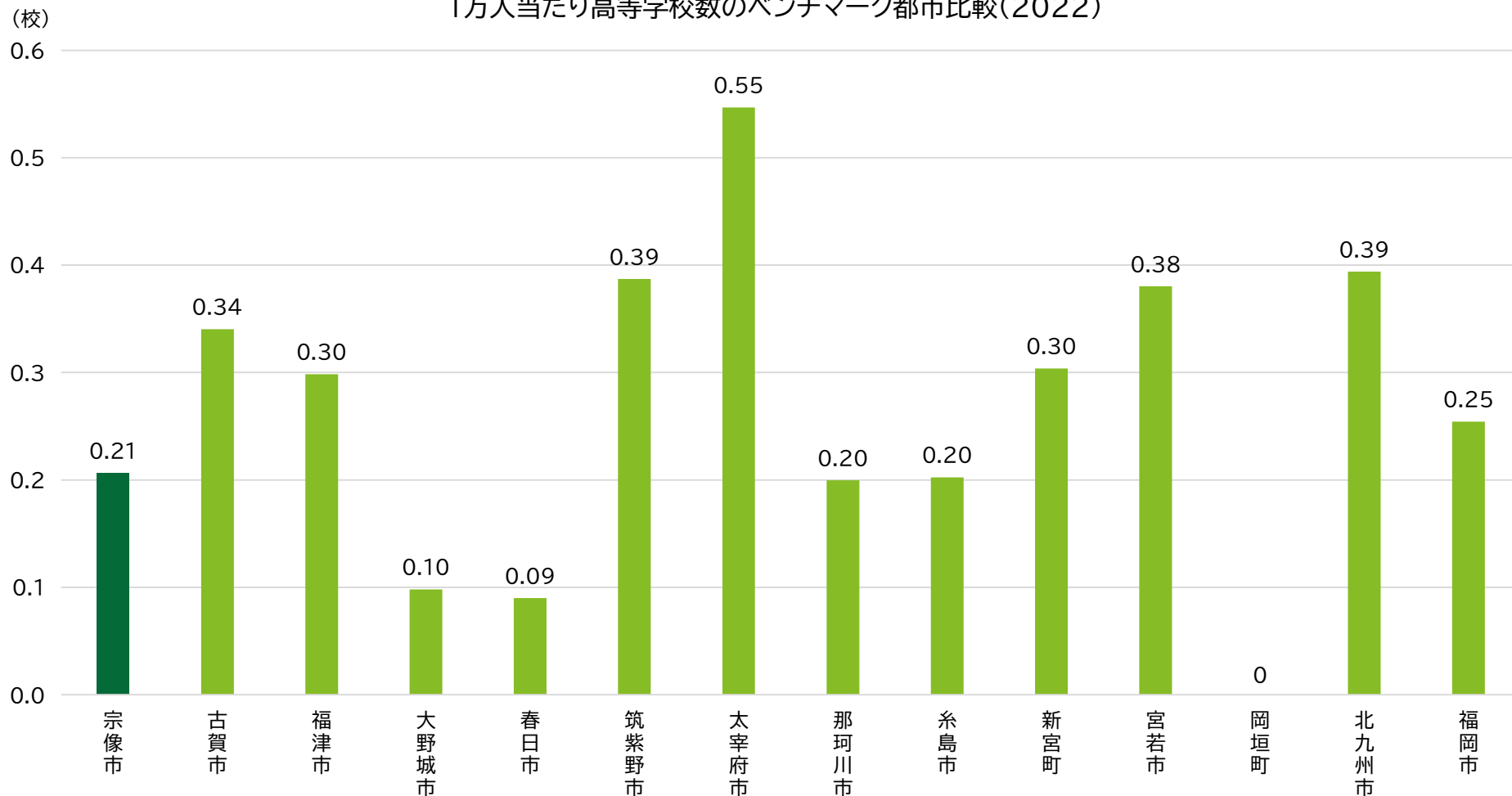


III.子育て・教育 | 4.高等学校

1万人当たりの高等学校数

✓ 人口1万人当たりの高等学校数を比較すると、宗像市は比較的少ない方となり、北九州市、福岡市、古賀市、福津市などを下回る。

1万人当たり高等学校数のベンチマーク都市比較(2022)

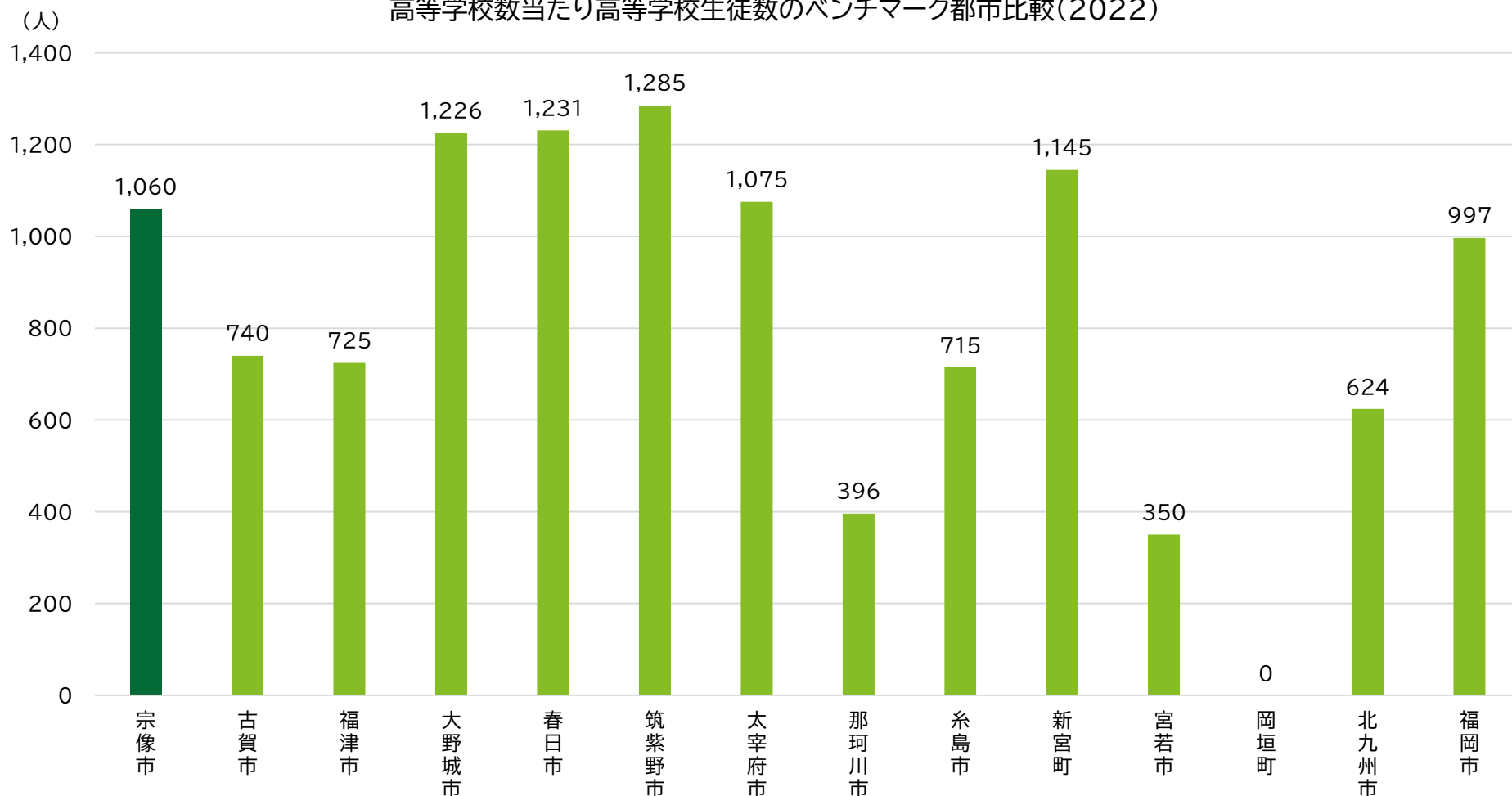


III.子育て・教育 | 4.高等学校

高等学校数当たりの高等学校生徒数

✓ 高等学校1校あたりの生徒数は1,060人で福岡市などを上回っており、生徒数が宗像市の2倍以上であった太宰府市と同水準となっている。

高等学校数当たり高等学校生徒数のベンチマーク都市比較(2022)

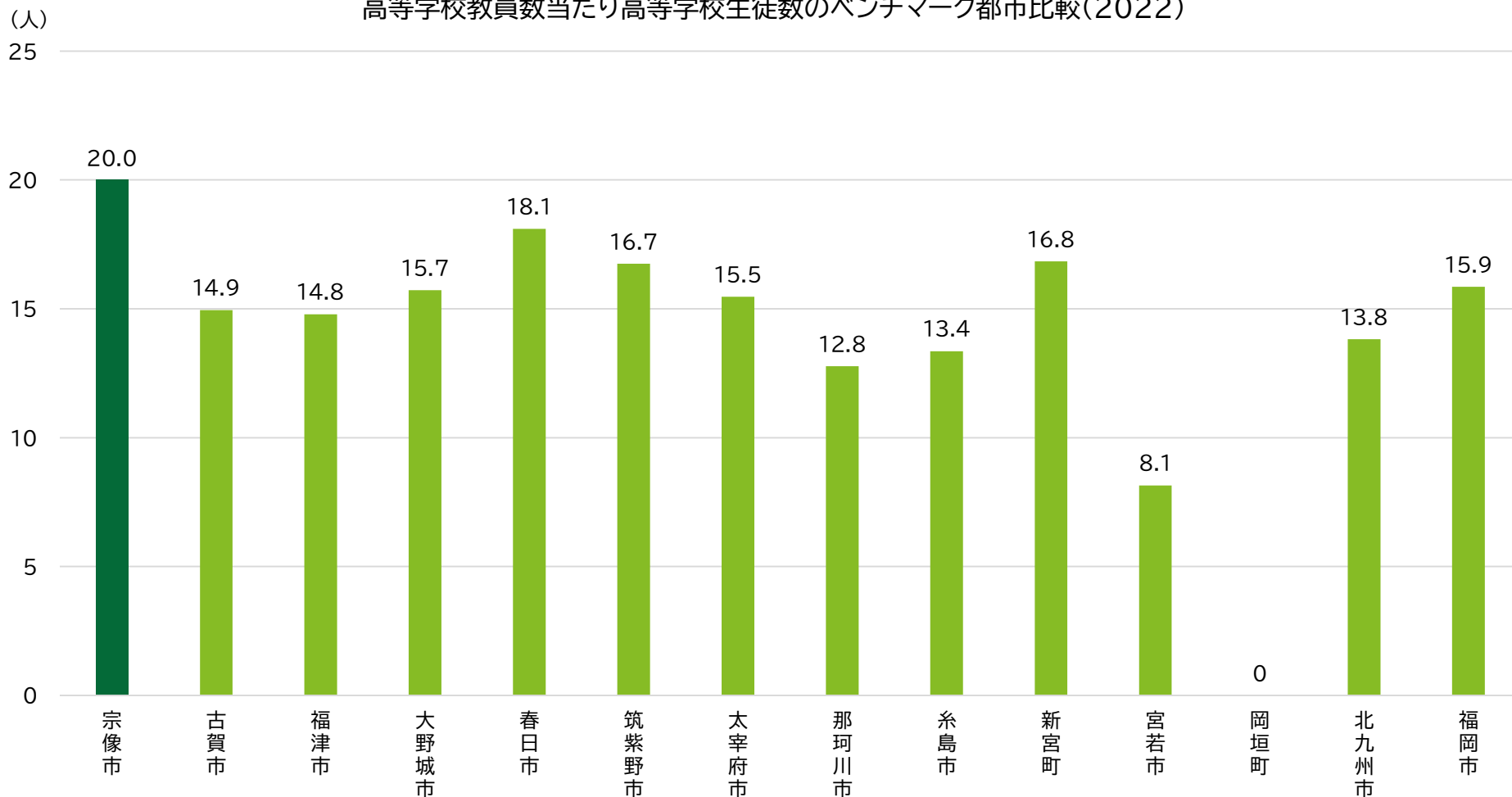


III.子育て・教育 | 4.高等学校

高等学校教員数当たりの高等学校生徒数

✓ 教員1人当たりの高等学校生徒数は、ベンチマーク都市と比較すると最も多い結果となり、唯一20人以上であることから、宗像市は高等学校の教員における負担が比較的高いといえる。

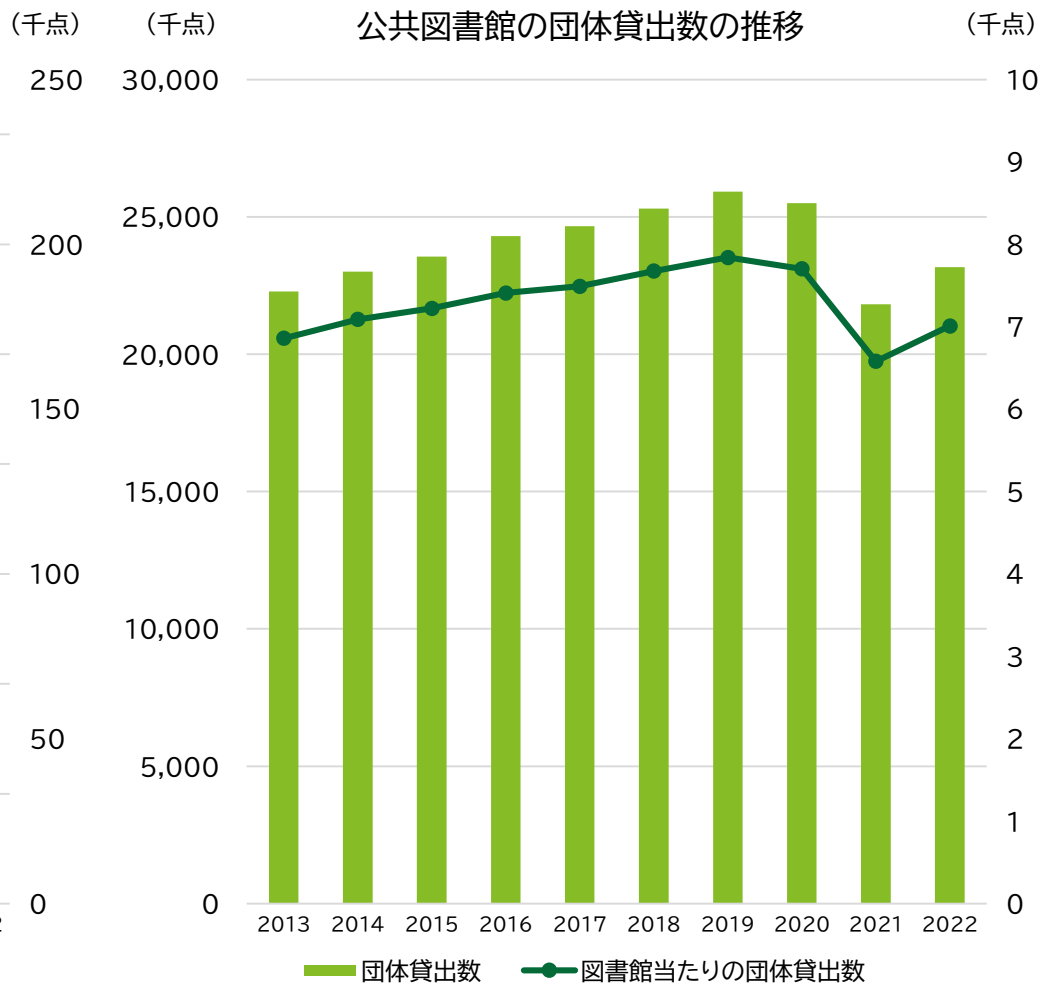
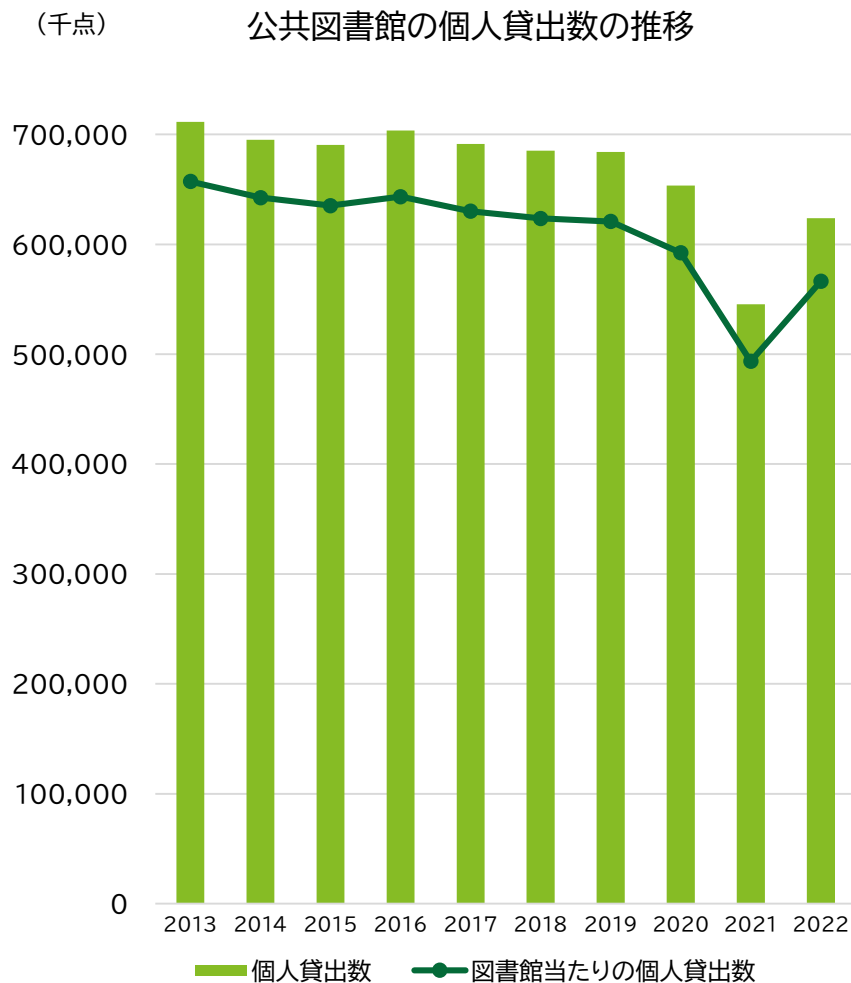
高等学校教員数当たり高等学校生徒数のベンチマーク都市比較(2022)



III.子育て・教育 | 5.図書館

公共図書館の貸出数の推移

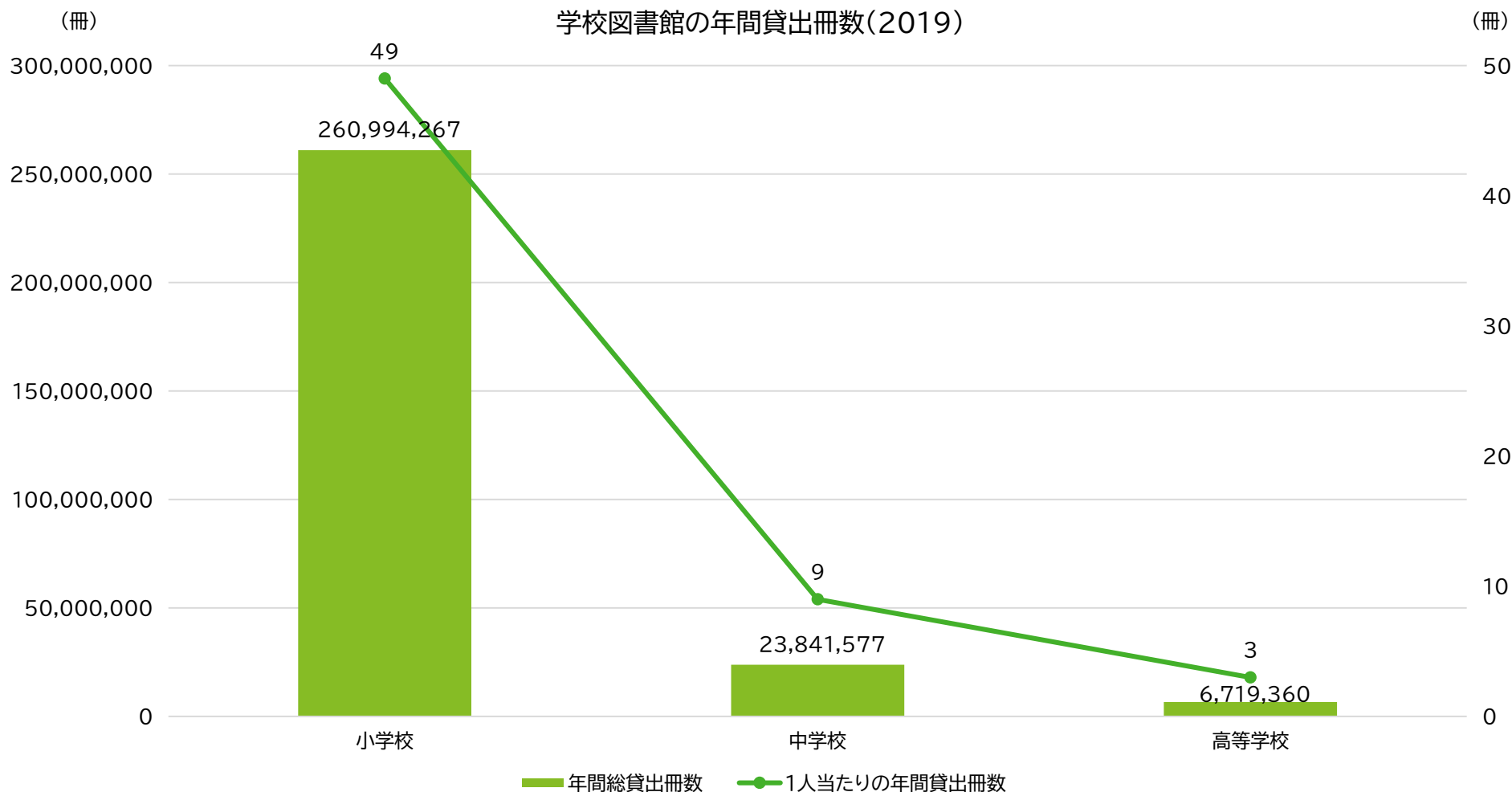
- ✓ 全国の公共図書館の貸出数をみると、個人貸出数は年々減少しているが、団体貸出数は2019年まで増加傾向にあったことがわかる。
- ✓ 個人・団体ともに、コロナウイルスの拡大により2020年、2021年は大きく減少しているが、2022年には回復傾向がみられる。
- ✓ 今後、2019年以前の水準近くまでは回復すると予想されるが、大きく増加する可能性は低いと考えられる。



III.子育て・教育 | 5.図書館

学校図書館の貸出数

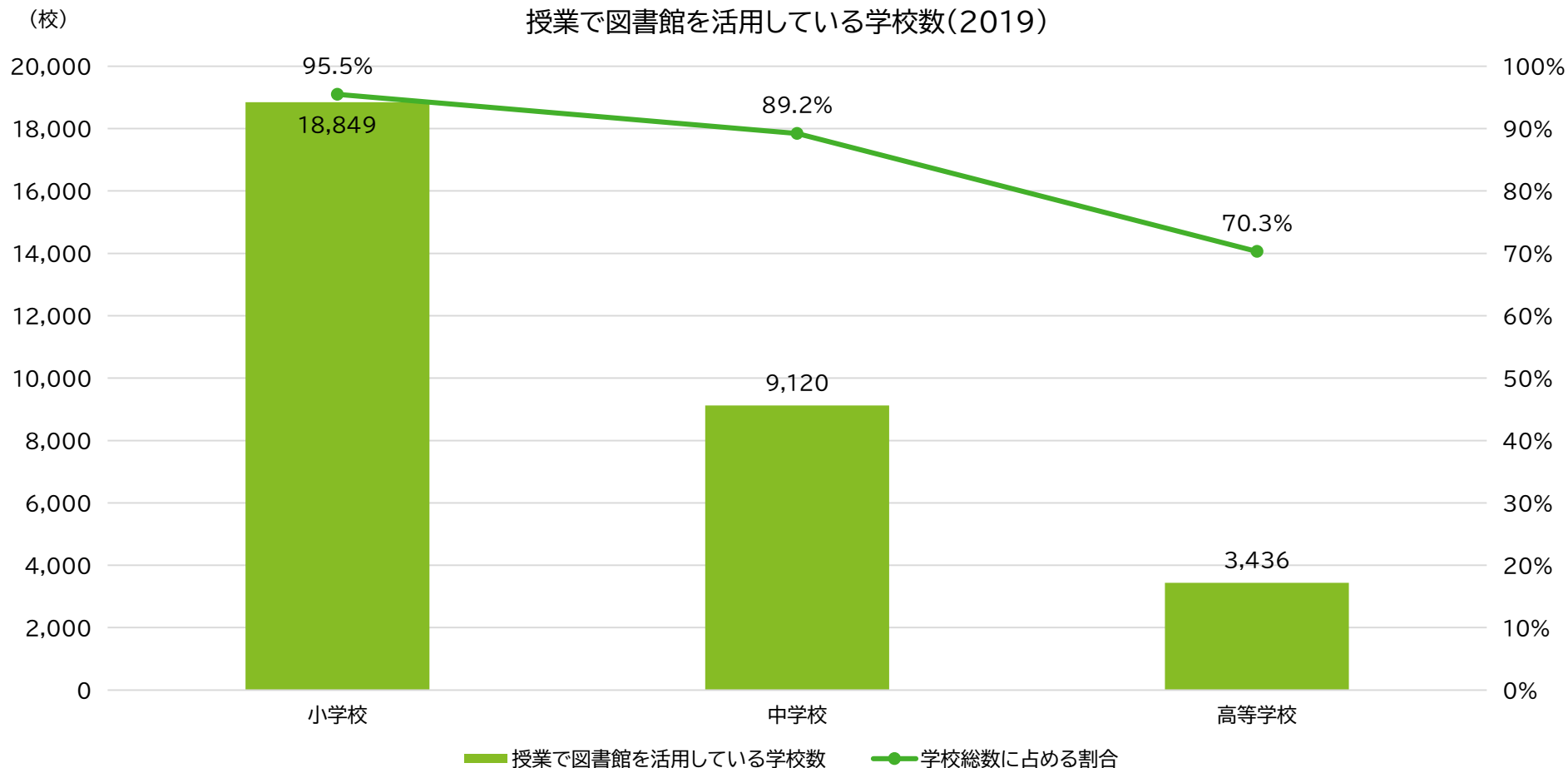
- ✓ 全国の学校図書館の年間貸出冊数をみると、小学校が圧倒的に多く、中学校、高等学校と年代があがるにつれて少なくなっている。
- ✓ 小学生、中学生、高等学校生の1人当たり貸出冊数をみても、小学生が49冊であるのに対して中学生、高等学校生は1桁であり、中学生以上の貸出冊数が一気に少なくなることがわかる。



III.子育て・教育 | 5.図書館

学校図書館の活用状況

- ✓ 学校図書館を授業で活用している全国の学校数は、小学校が最も多く、中学校、高等学校の順に少なくなっていくことがわかる。
- ✓ 学校総数に占める割合でも、中学校や高等学校は7割を超えており比較的多いものの、小学校に比べるとかなり少ない。

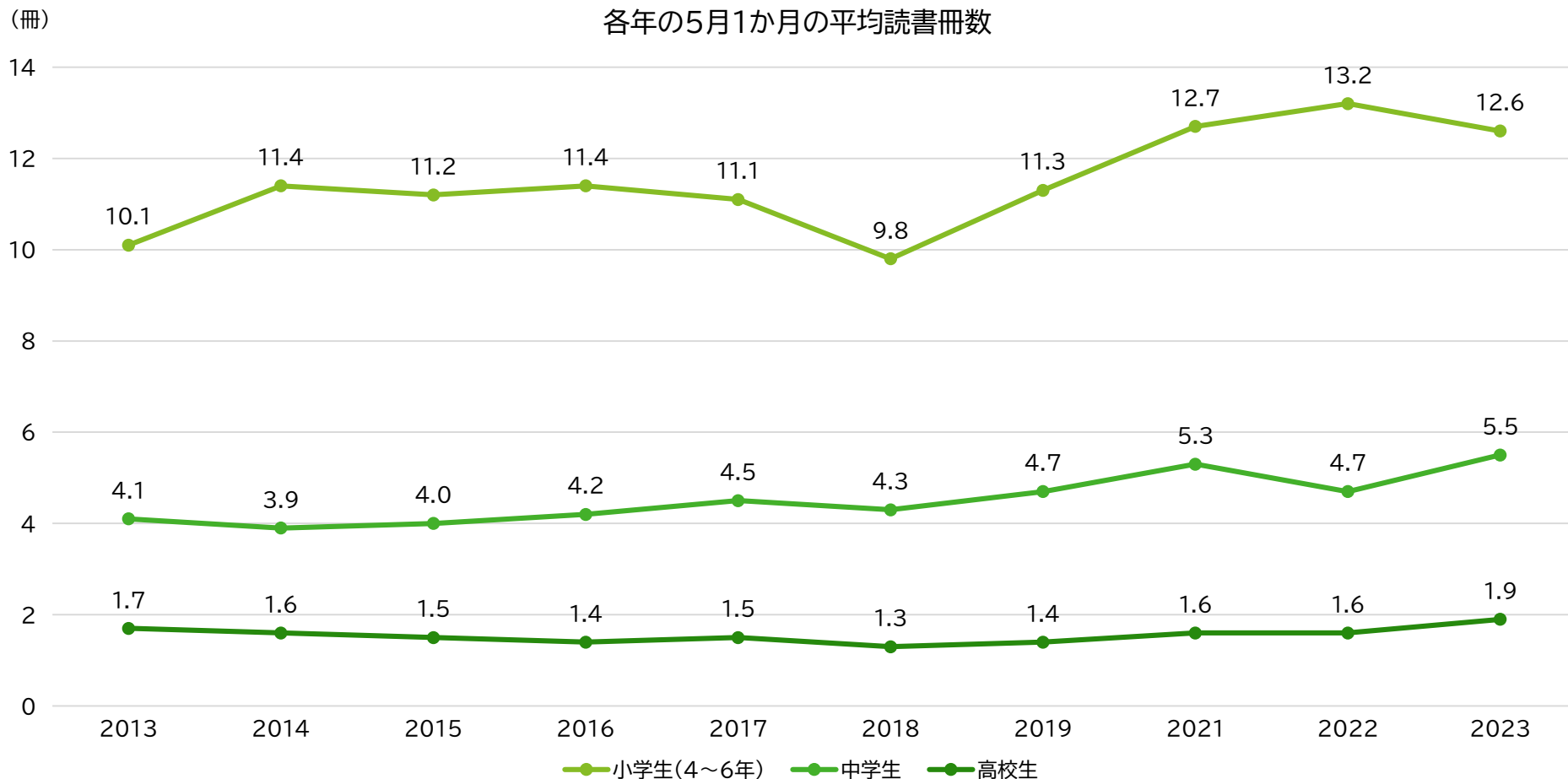


※総数に占める割合は2019年度の全国学校数(文部科学省「学校基本調査」)で算出している。

III.子育て・教育 | 5.図書館

読書冊数の推移

- ✓ 小学生・中学生・高等学校生の平均読書冊数は、2013年以降ほとんど横ばい推移であるものの、2018年以降微増傾向にある。
- ✓ 中学生・高等学校生は小学生に比べてかなり読書数が少ないが、2023年にはどちらも過去10年間で最も多い平均読書冊数となった。
- ✓ コロナ禍での読書時間の増加が一因と考えられるが、今後特に中学生、高校生でさらなる読書数の増加が期待できる。

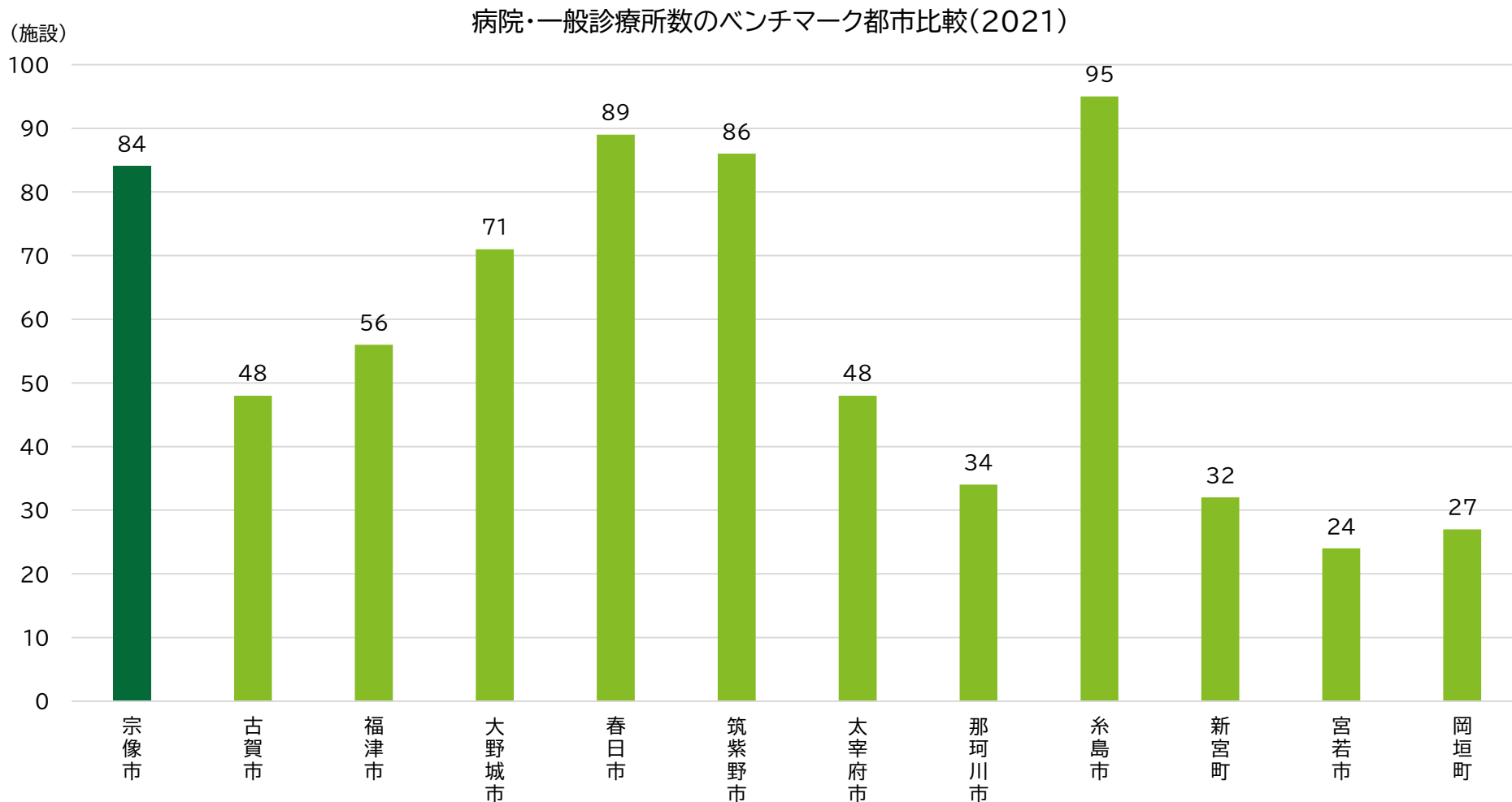


※全国の小学校4~6年生・中学生・高校生の抽出調査の結果である。2020年はコロナウイルス拡大により調査を中止している。

IV.医療・福祉 | 1.医療

医療機関(病院・一般診療所)数

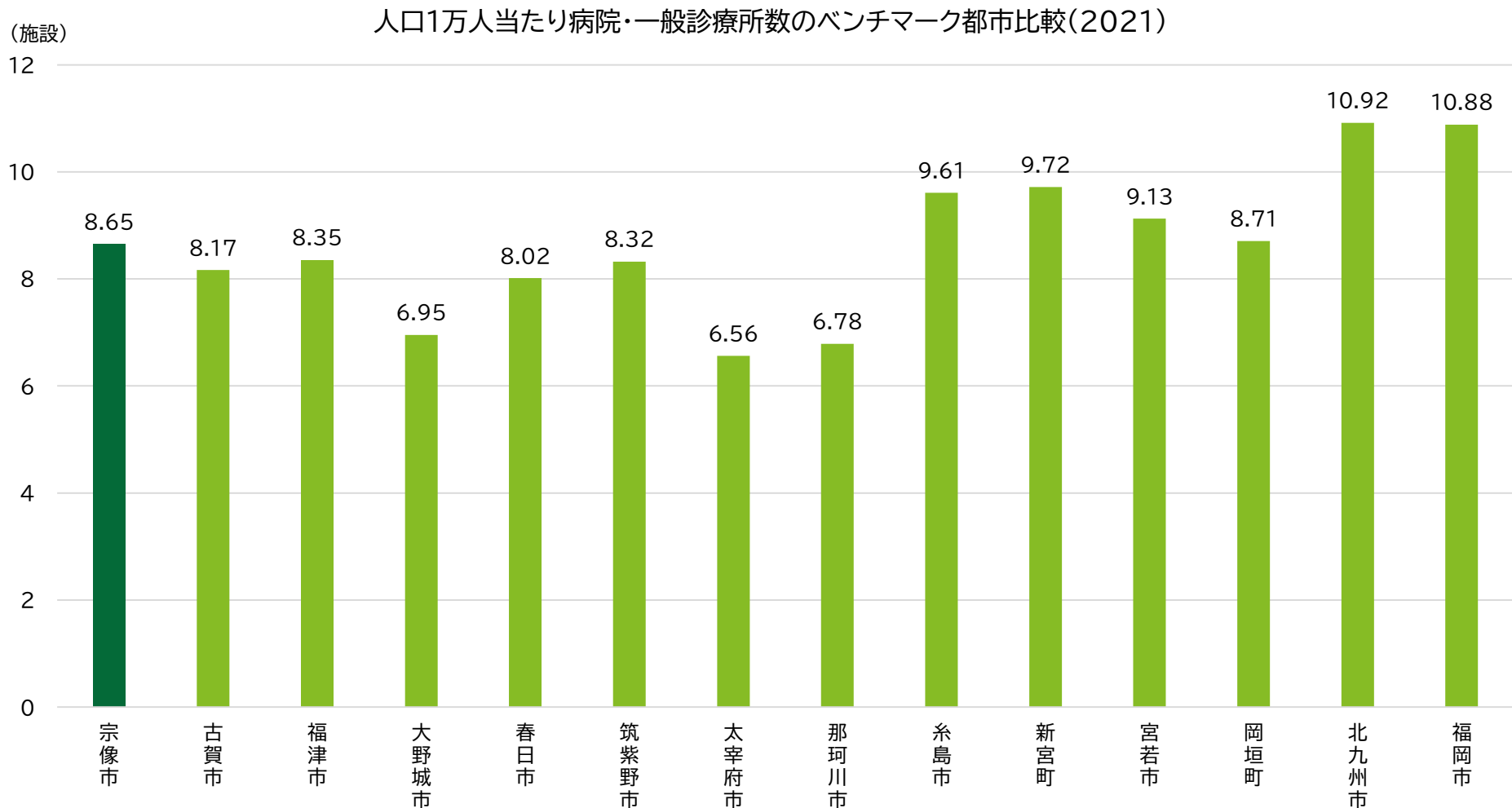
✓ 宗像市の医療機関数をベンチマーク都市と比較すると、糸島市、春日市、筑紫野市と同様に80施設を超え、比較的多いことがわかる。



IV.医療・福祉 | 1.医療

1万人当たりの医療機関(病院・一般診療所)数

✓ 人口1万人当たりで比較すると、医療機関の数が宗像市よりも多かった春日市や筑紫野市より高い水準とはなっているものの、北九州市、福岡市、新宮町、糸島市を大きく下回っていることがわかる。

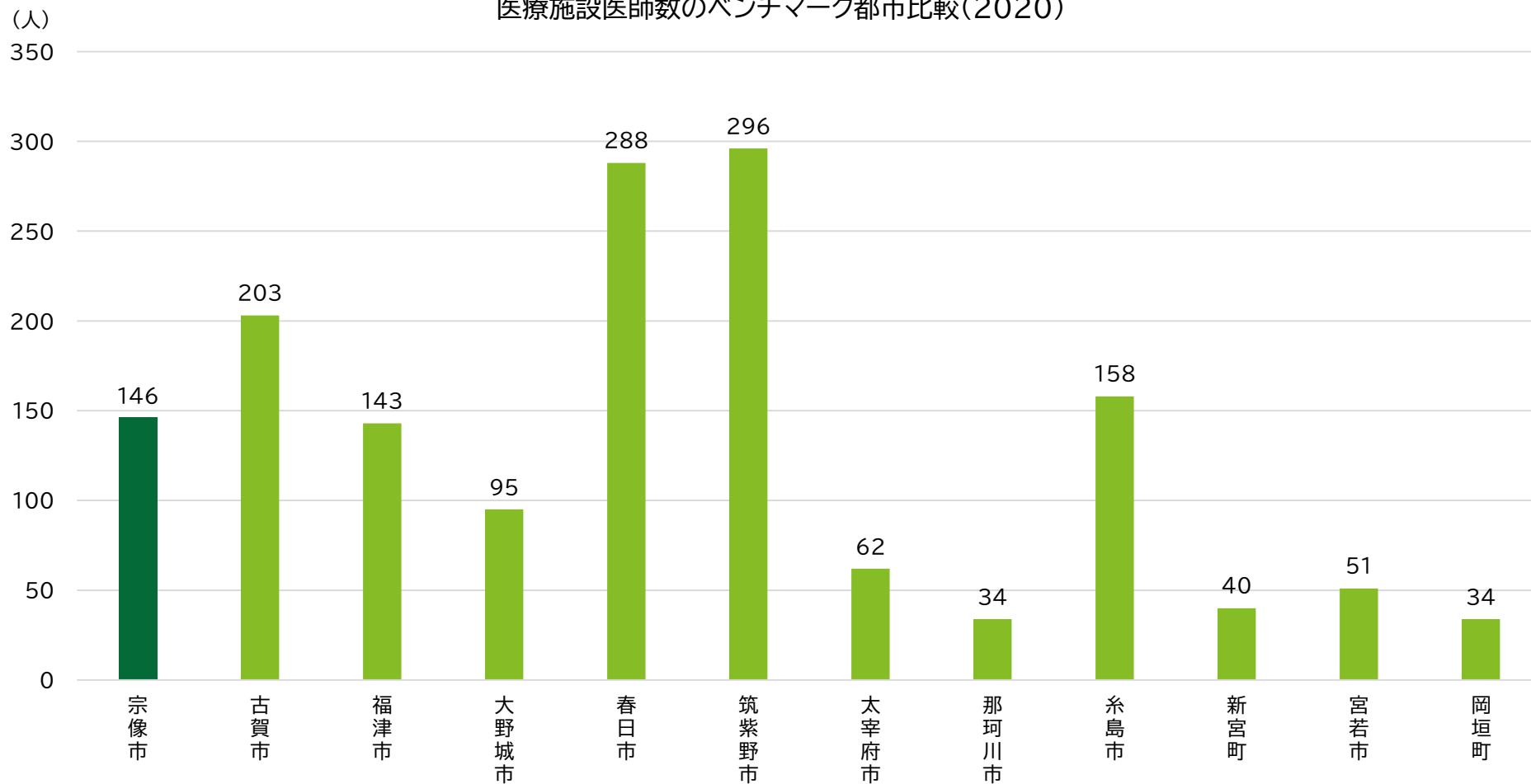


IV.医療・福祉 | 1.医療

医療施設医師数

✓ 医療施設の医師数をみると、宗像市は146人で福津市、糸島市と同程度であるが、筑紫野市、春日市を大きく下回っている。

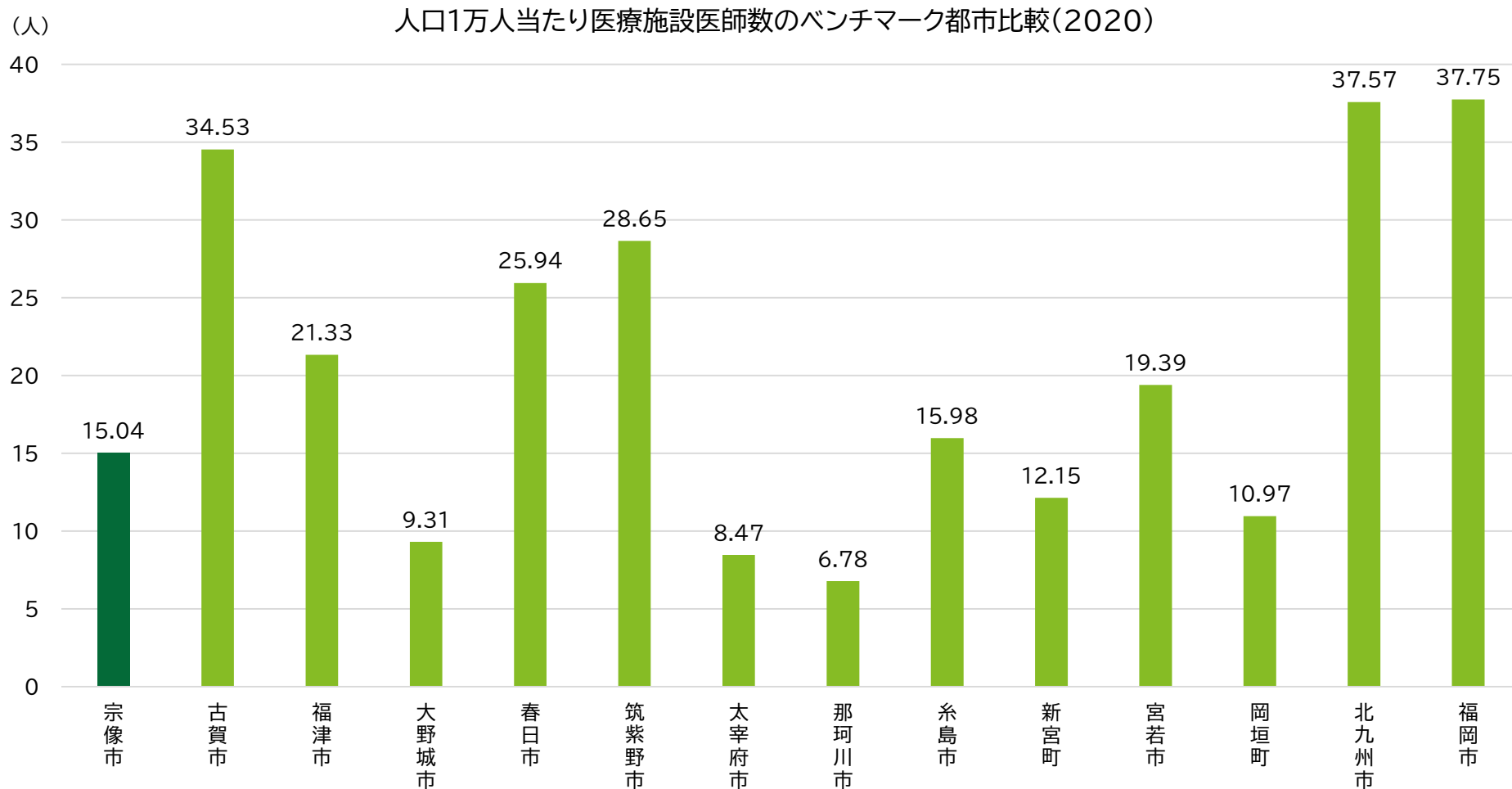
医療施設医師数のベンチマーク都市比較(2020)



IV.医療・福祉 | 1.医療

1万人当たりの医療施設医師数

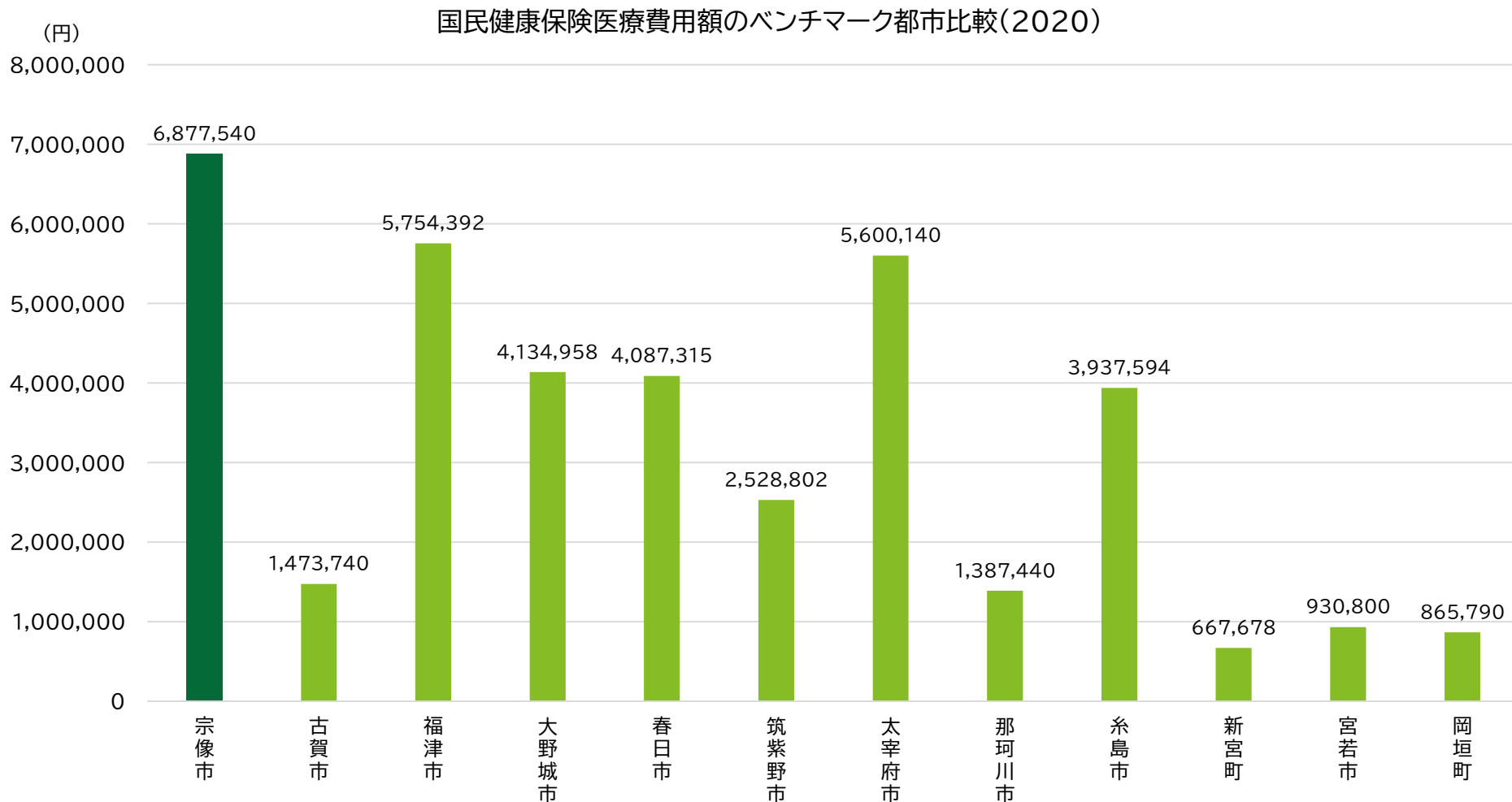
- ✓ 医療施設医師数を人口1万人当たりで見ると、宗像市は福岡市、北九州市に加え古賀市、筑紫野市、春日市を大きく下回っている。
- ✓ 特に福岡市、北九州市、古賀市は宗像市の2倍以上であり、宗像市の医師数の少なさがうかがえる。



IV.医療・福祉 | 1.医療

国民健康保険医療費用額

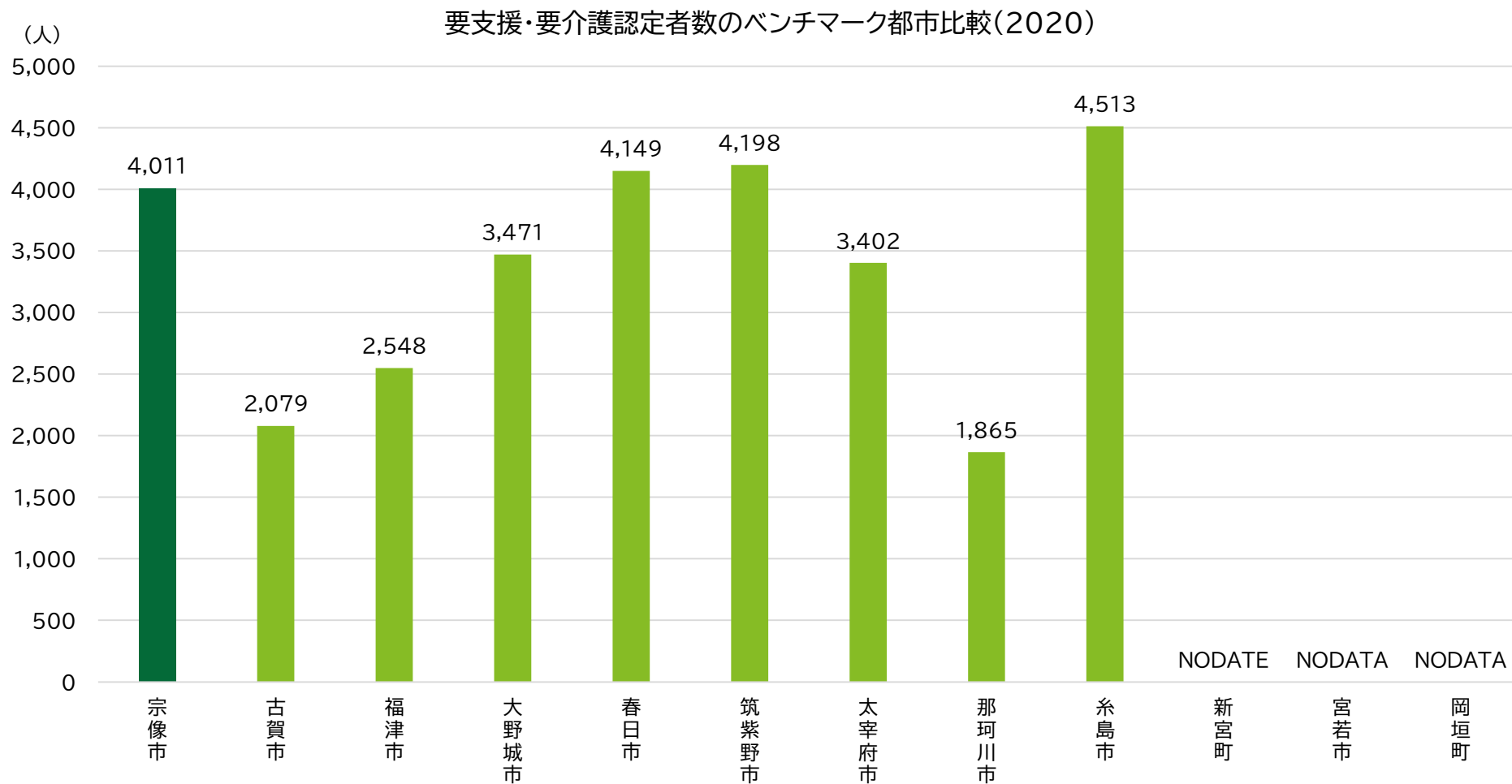
✓ 宗像市の国民健康保険医療費用額は約690万円で、ベンチマーク都市と比較すると最も高い金額となっている。



IV.医療・福祉 | 2.介護

要支援・要介護認定者数

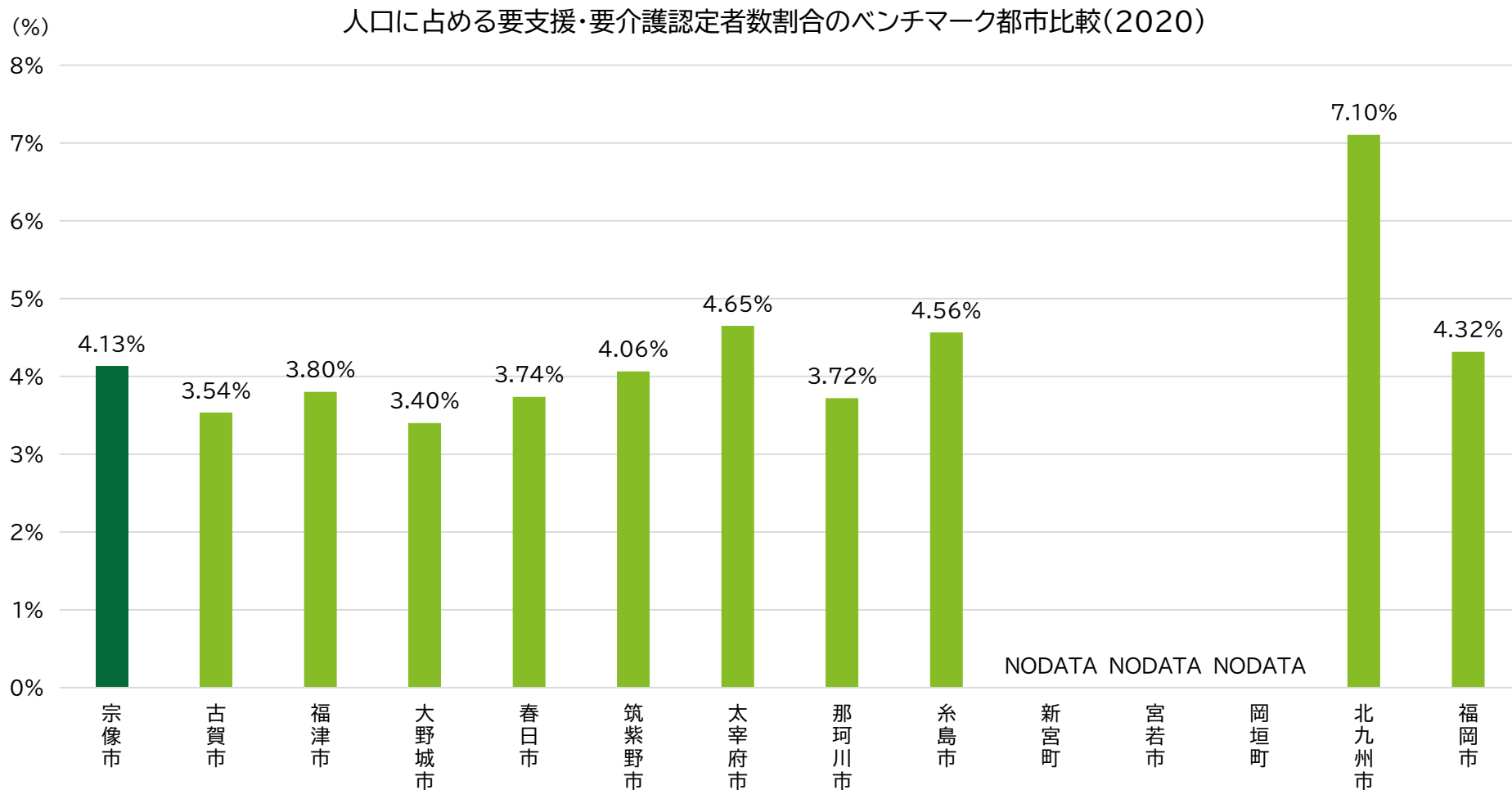
✓ 宗像市内の要支援・要介護認定者数をみると、糸島市よりは少ないものの筑紫野市、春日市と同程度で比較的多いことがわかる。



IV.医療・福祉 | 2.介護

総人口に占める要支援・要介護認定者数の割合

✓ 総人口に占める要支援・要介護認定者数の割合は4.13%と、ベンチマーク都市と比較すると北九州市、太宰府市、糸島市、福岡市を下回っているものの、北九州市を除けば、どの市もほとんど同水準であるといえる。

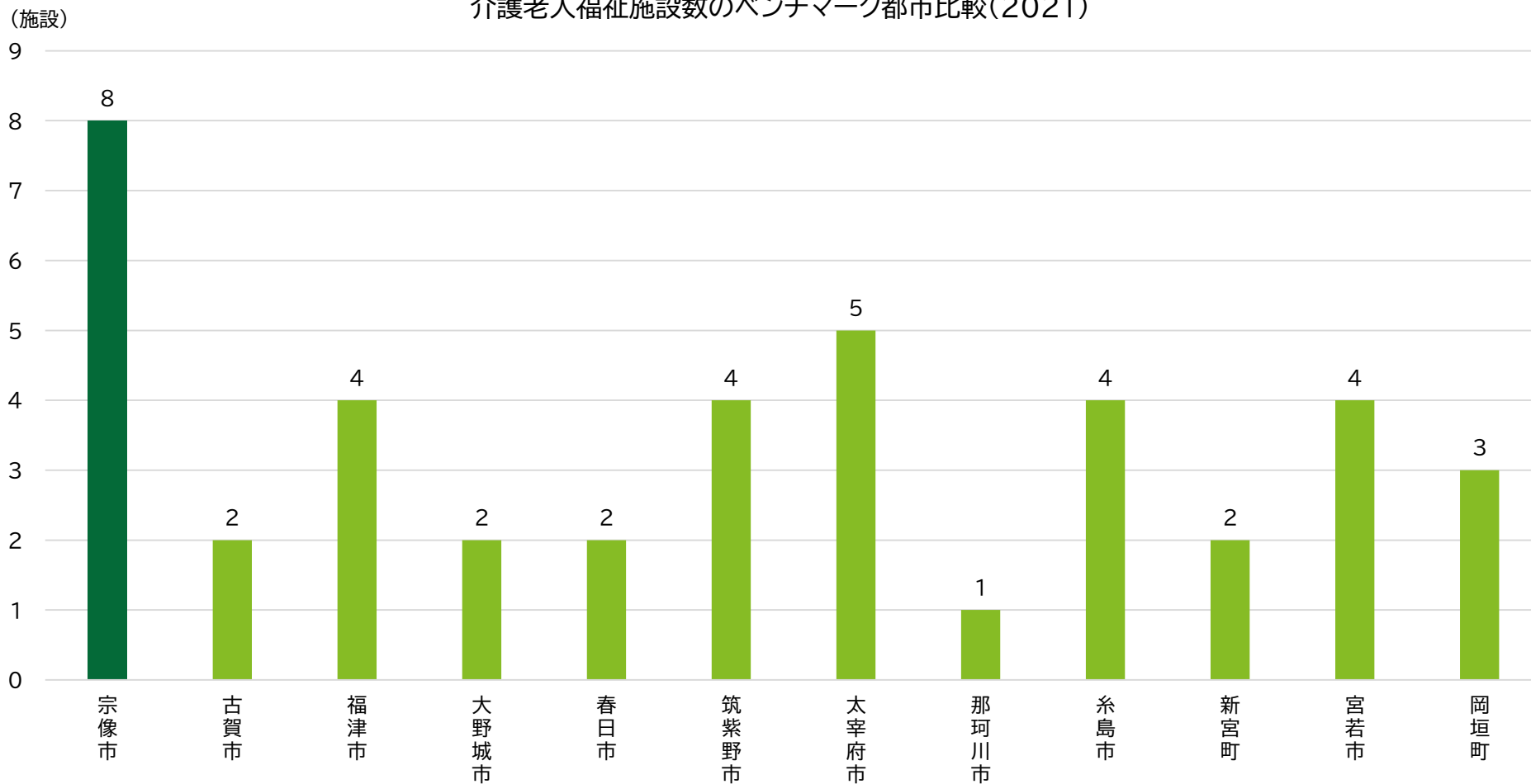


IV.医療・福祉 | 2.介護

介護老人福祉施設数

✓ 宗像市の介護老人福祉施設数は8施設で、ベンチマーク都市と比較すると最も多い上に他市を大きく上回っている。

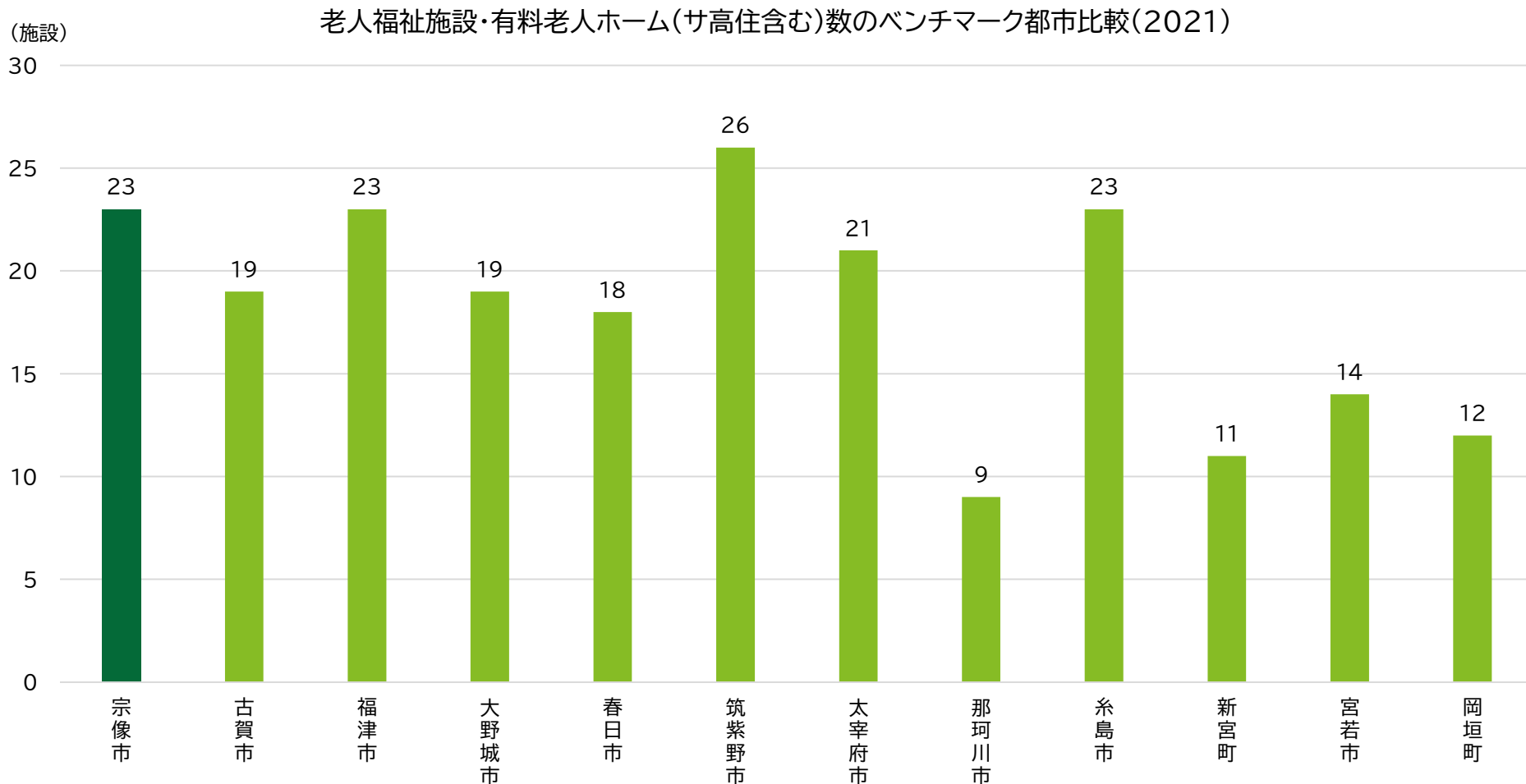
介護老人福祉施設数のベンチマーク都市比較(2021)



IV.医療・福祉 | 2.介護

老人福祉施設・有料老人ホーム(サ高住含む)数

- ✓ 老人福祉施設とサービス付き高齢者向け住宅を含む有料老人ホーム数をみると、宗像市は23施設で、ベンチマーク都市と比較すると筑紫野市に次いで2番目に多く、糸島市と同数である。
- ✓ 介護老人福祉施設数も他市より多いことを踏まえると、宗像市には高齢者用の福祉施設が多く配置されていることがわかる。

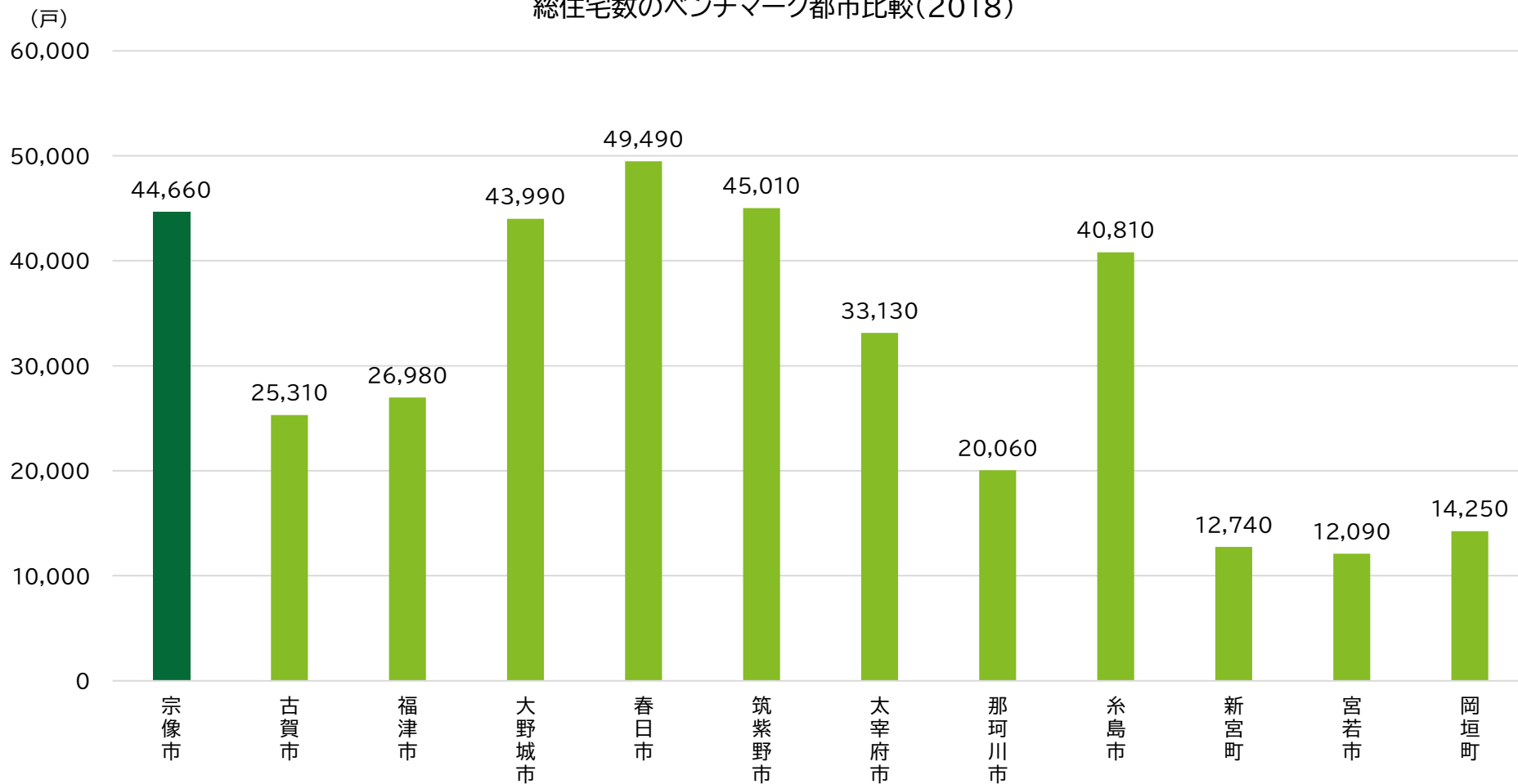


V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数

✓ 宗像市の総住宅数は44,660戸で、ベンチマーク都市と比較すると春日市、筑紫野市に次いで3番目に多い。筑紫野市、大野城市とはほとんど同程度の住宅数である。

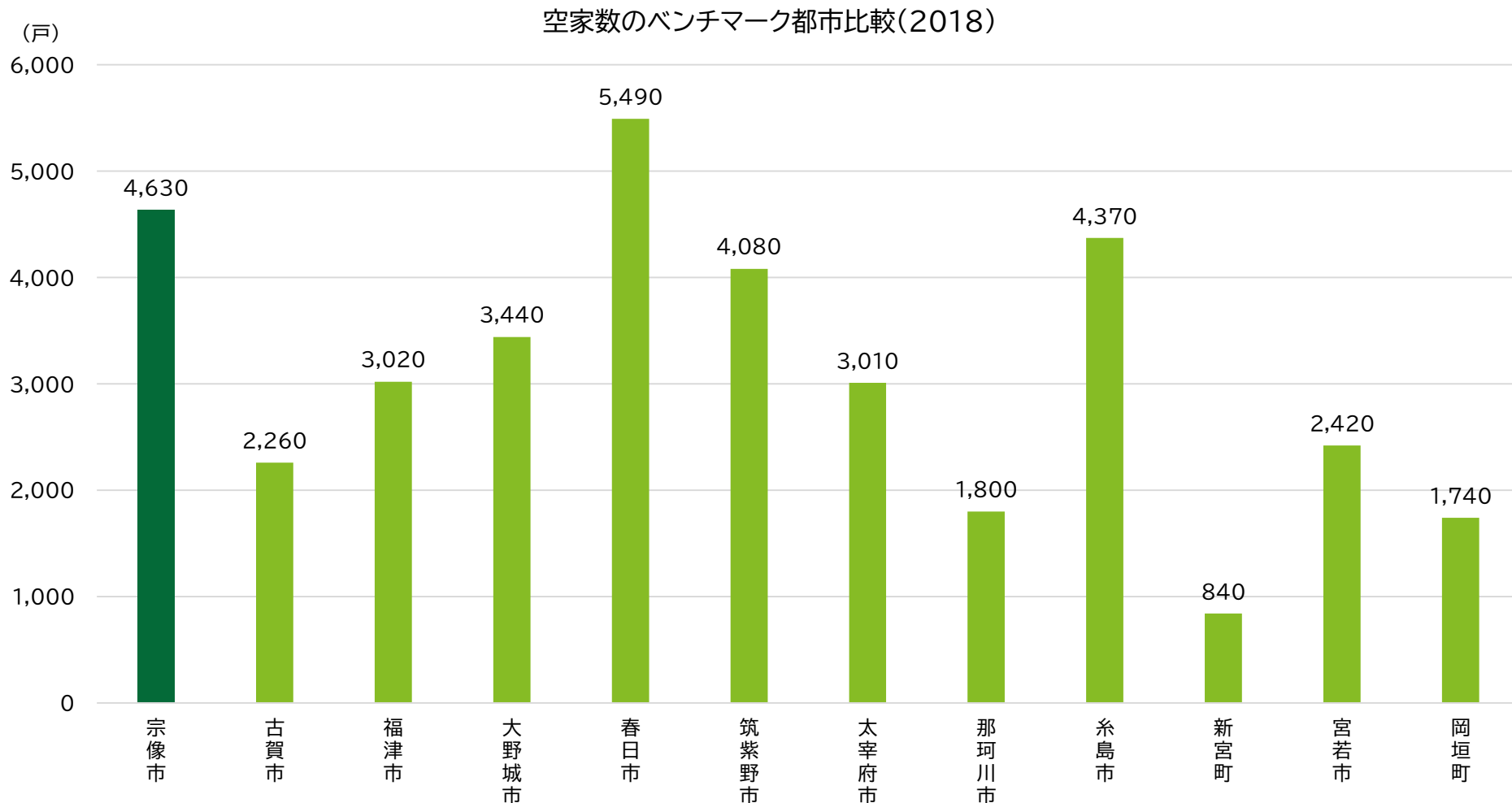
総住宅数のベンチマーク都市比較(2018)



V.生活環境 | 1.住宅

空家数

✓ 宗像市の空家数は4,630戸で、ベンチマーク都市と比較すると春日市に次いで2番目に多い。住宅数が同程度であった筑紫野市、大野城市よりも宗像市の方が空家数が多く、特に大野城市とは1,000戸以上の差がある。

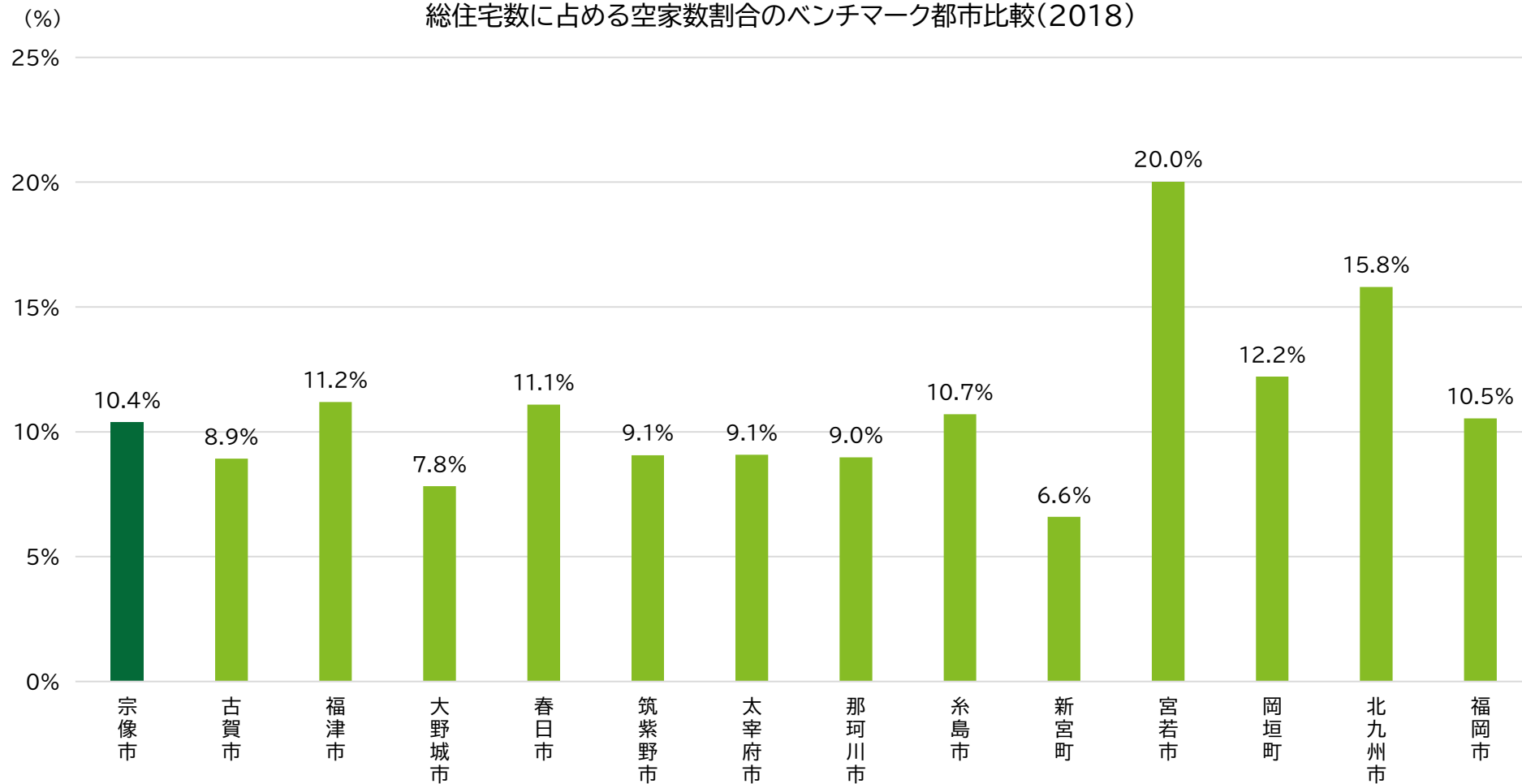


V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める空家数の割合

- ✓ 総住宅数に占める空家数の割合をみると、ベンチマーク都市の中ではそこまで高い割合ではないといえる。
- ✓ 福岡市、糸島市と同程度ではあるが、新宮町や大野城市など空家率が低い市も見受けられ、改善の余地は十分あるといえる。

総住宅数に占める空家数割合のベンチマーク都市比較(2018)

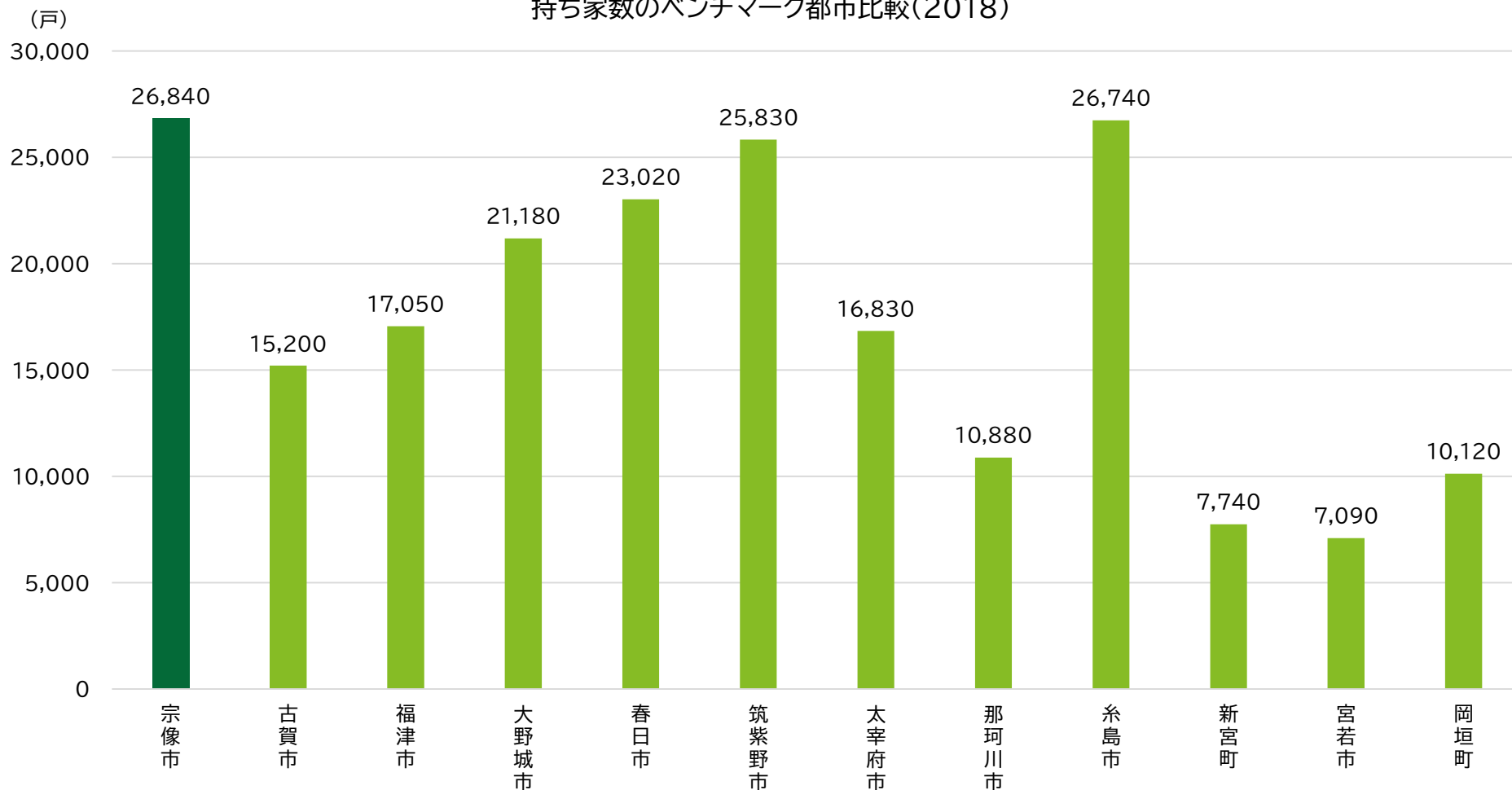


V.生活環境 | 1.住宅

持ち家数

- ✓ 宗像市の持ち家数は26,840戸でベンチマーク都市と比較すると最も多い。
- ✓ 糸島市や筑紫野市と同様、宗像市に自分の住居を構える人が多いことがうかがえる。

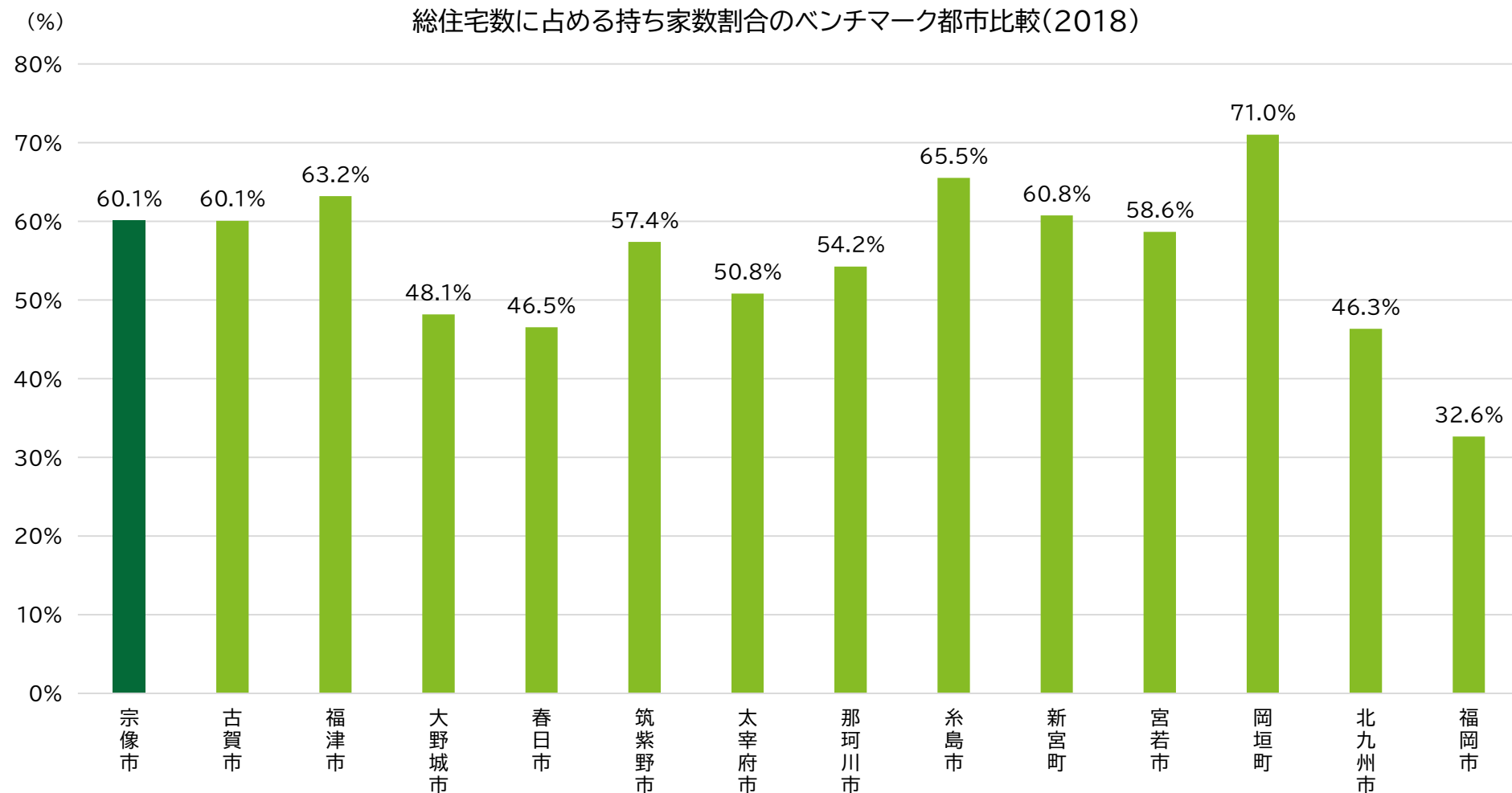
持ち家数のベンチマーク都市比較(2018)



V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める持ち家数の割合

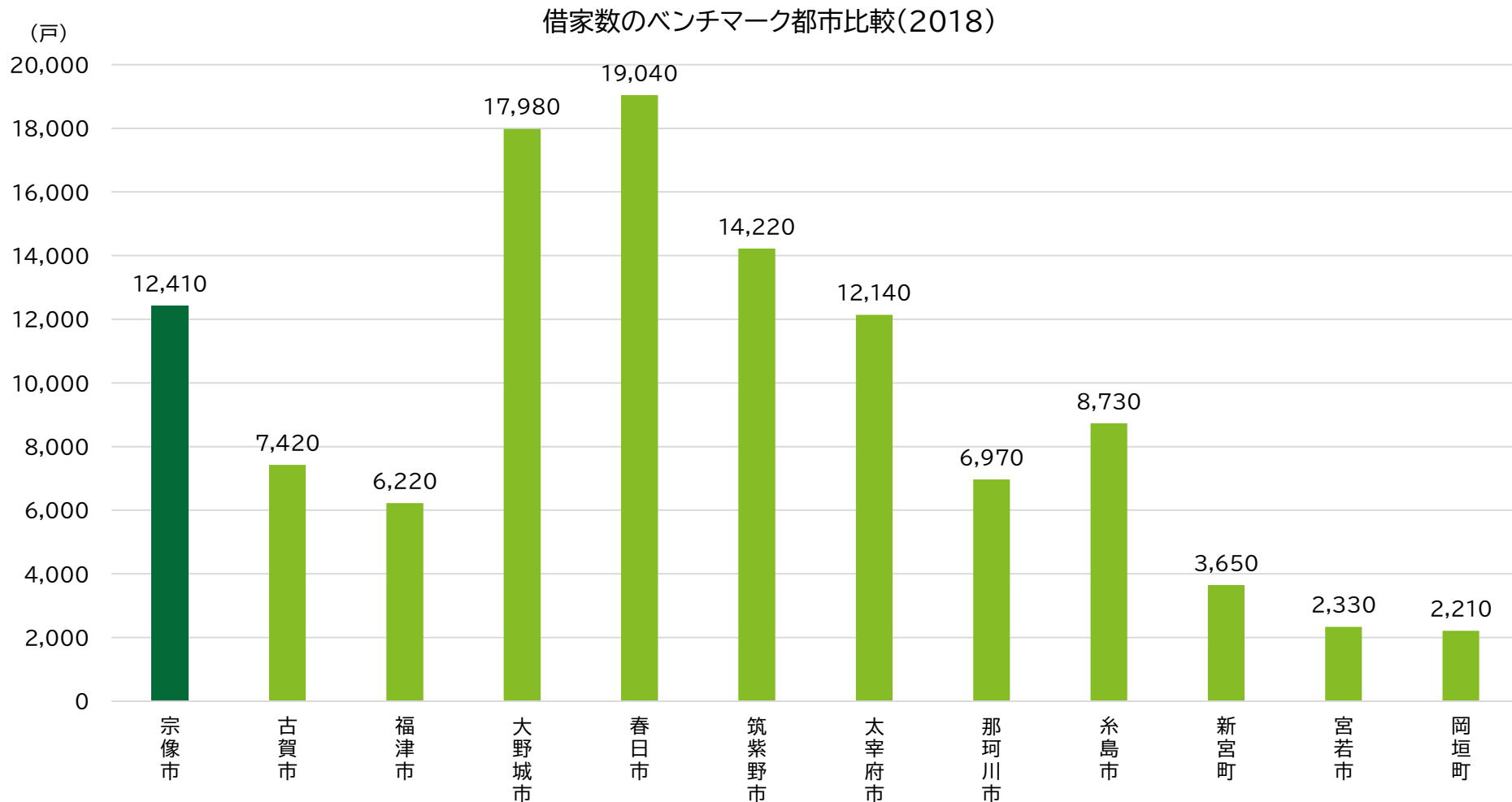
✓ 宗像市の総住宅数に占める持ち家数の割合は、岡垣町、糸島市、福津市などよりは低いものの、福岡市、北九州市、春日市、大野城市を大きく上回っている。



V.生活環境 | 1.住宅

借家数

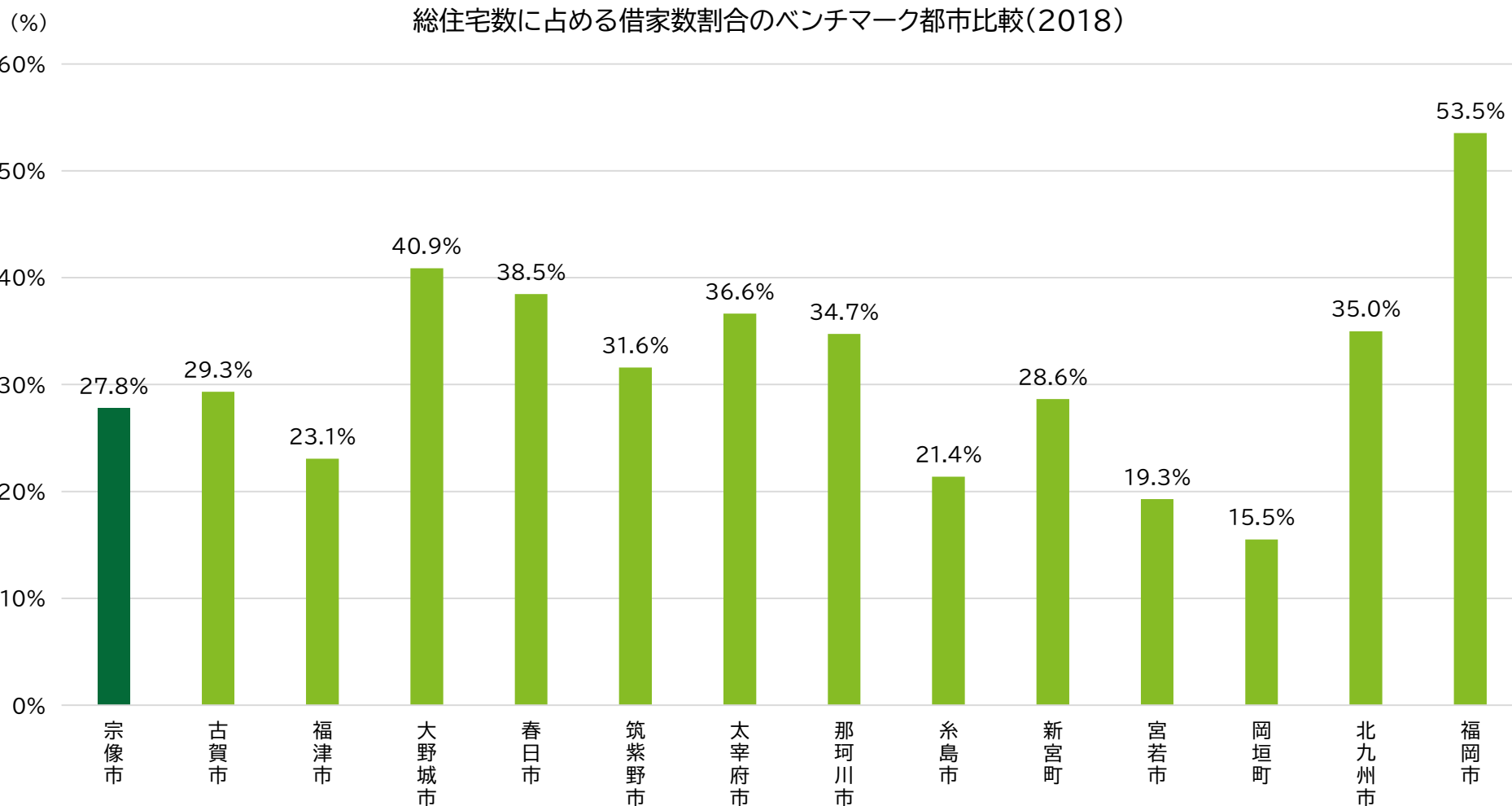
- ✓ 宗像市の借家数は12,410戸で、ベンチマーク都市と比較すると多い方であるといえる。
- ✓ 春日市、大野城市が他市を大きく上回っているが、両市は持ち家数が少ない分、借家の数が多くなっていると推察される。



V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める借家数の割合

✓ 総住宅数に占める借家数の割合をみると、宗像市は岡垣町、宮若市、糸島市などより多いものの、福岡市、大野城市、春日市などを大きく下回っており、住宅の借家率はそこまで高くないといえる。

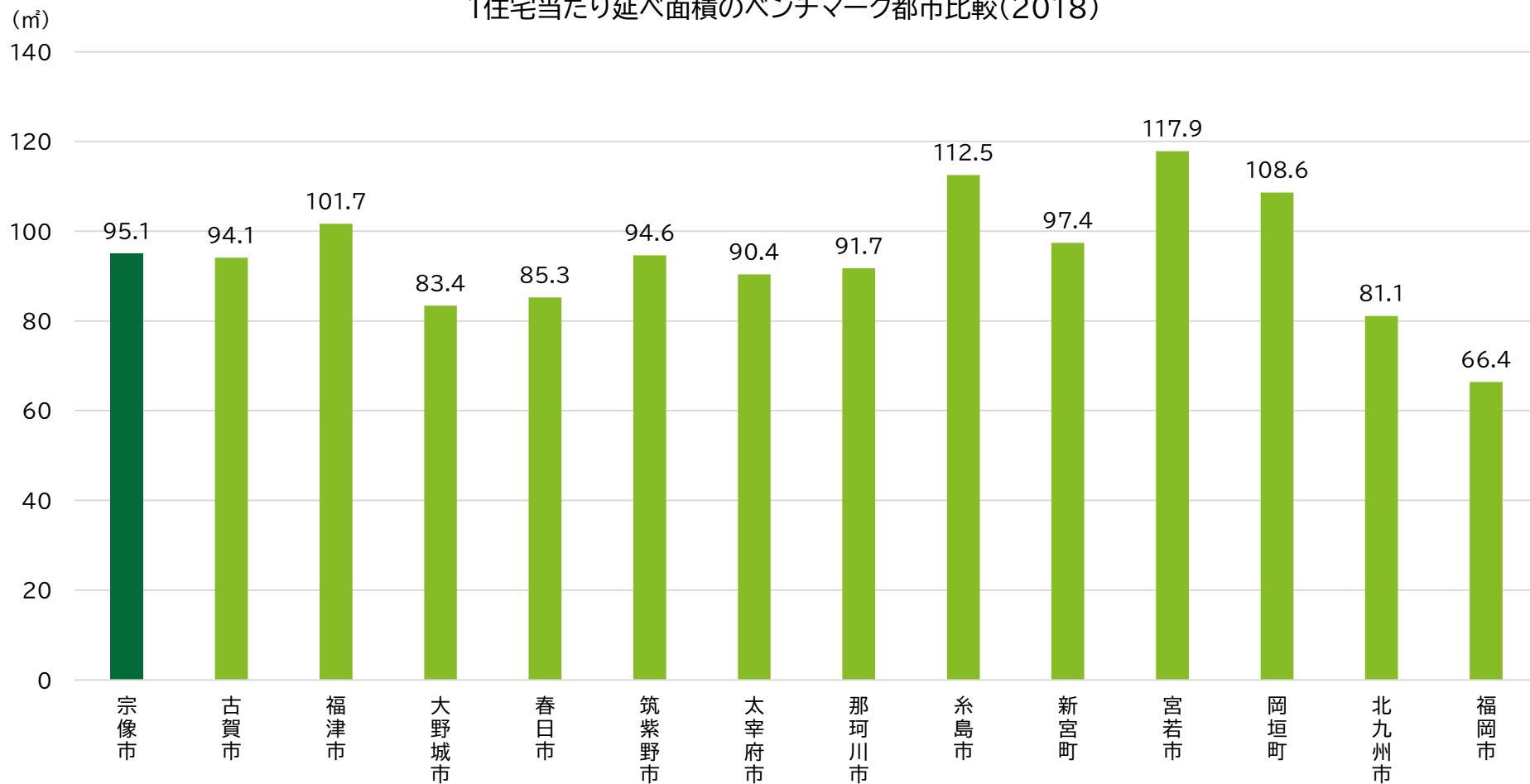


V.生活環境 | 1.住宅

1住宅当たり延べ面積

✓ 宗像市の1住宅当たりの延べ床面積は95.1平方メートルで、ベンチマーク都市と比較するとおおよそ平均的な水準である。

1住宅当たり延べ面積のベンチマーク都市比較(2018)



V.生活環境 | 1.住宅

1住宅当たり延べ面積(持ち家)

✓ 持ち家当たりの延べ床面積をみると、宗像市は大野城市や春日市、北九州市、福岡市などよりやや多いが、ベンチマーク都市はほとんど全市同水準であり、持ち家の広さは市によってそれほど差がないことがわかる。

1住宅当たり延べ面積(持ち家)のベンチマーク都市比較(2018)

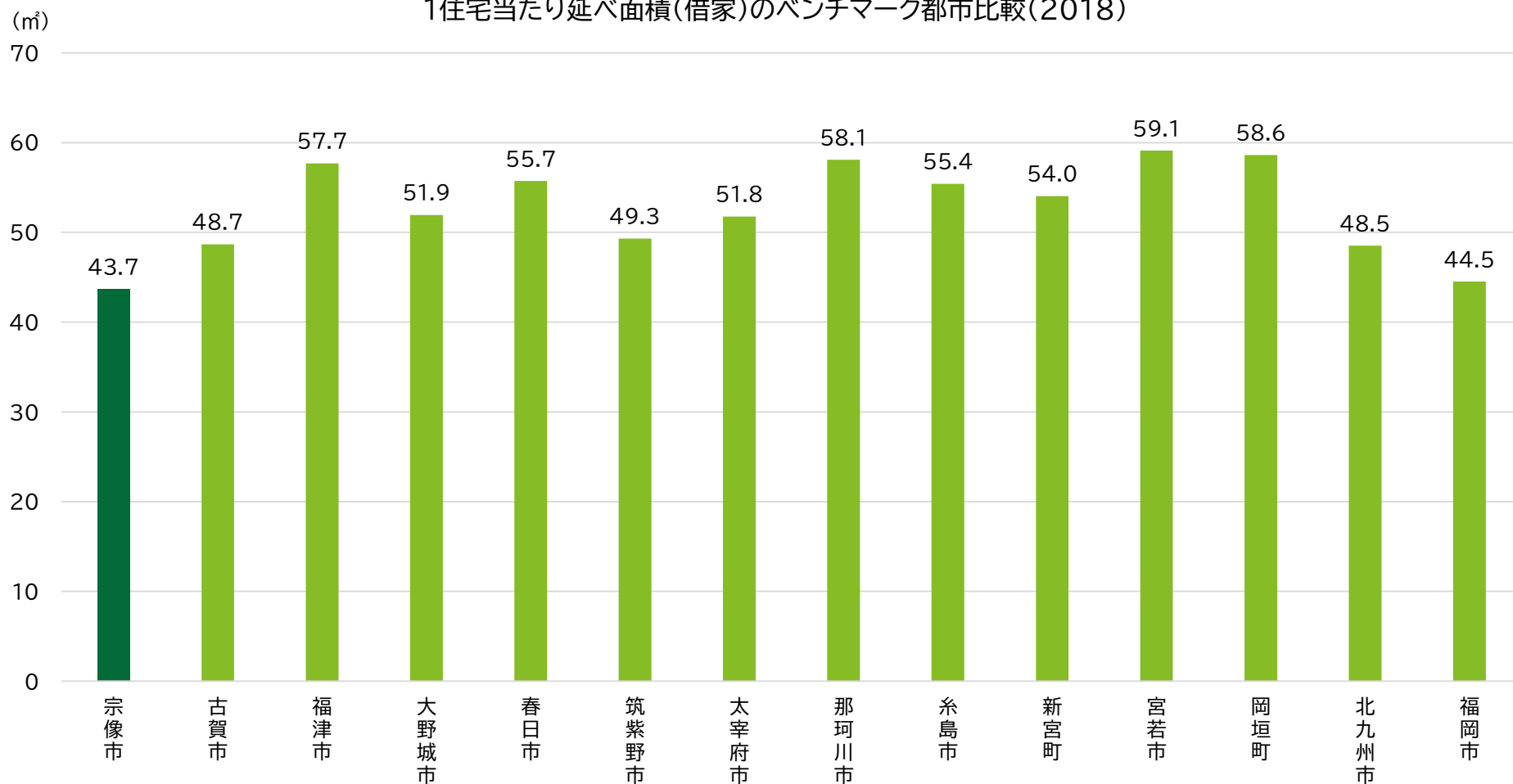


V.生活環境 | 1.住宅

1住宅当たり延べ面積(借家)

- ✓ 借家当たりの延べ床面積は、ベンチマーク都市と比較すると最も低く、北九州市や福岡市をも下回っている。
- ✓ 宮若市や岡垣町などとはかなりの差があり、宗像市の借家は比較的狭いといえる。

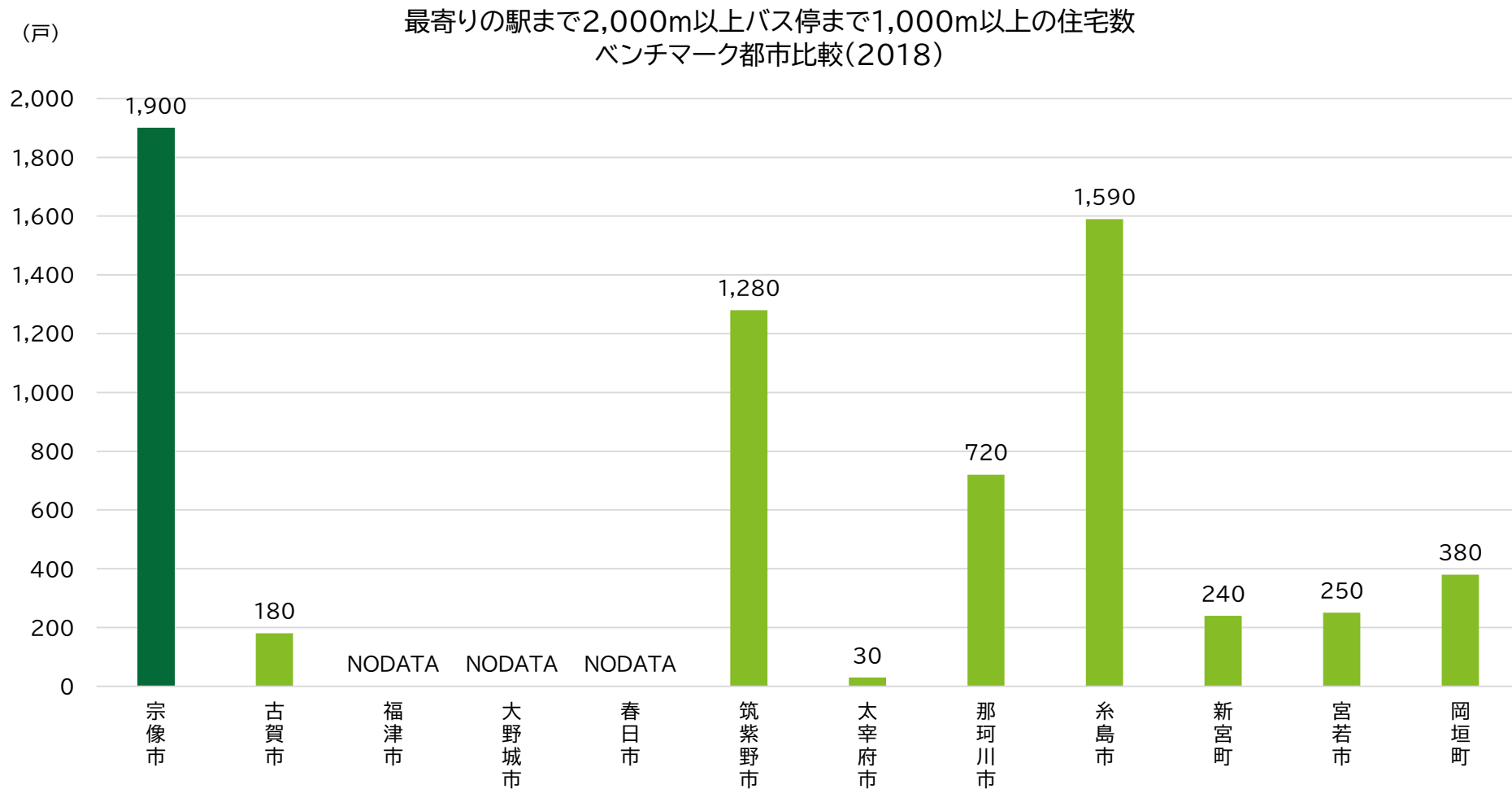
1住宅当たり延べ面積(借家)のベンチマーク都市比較(2018)



V.生活環境 | 1.住宅

最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅

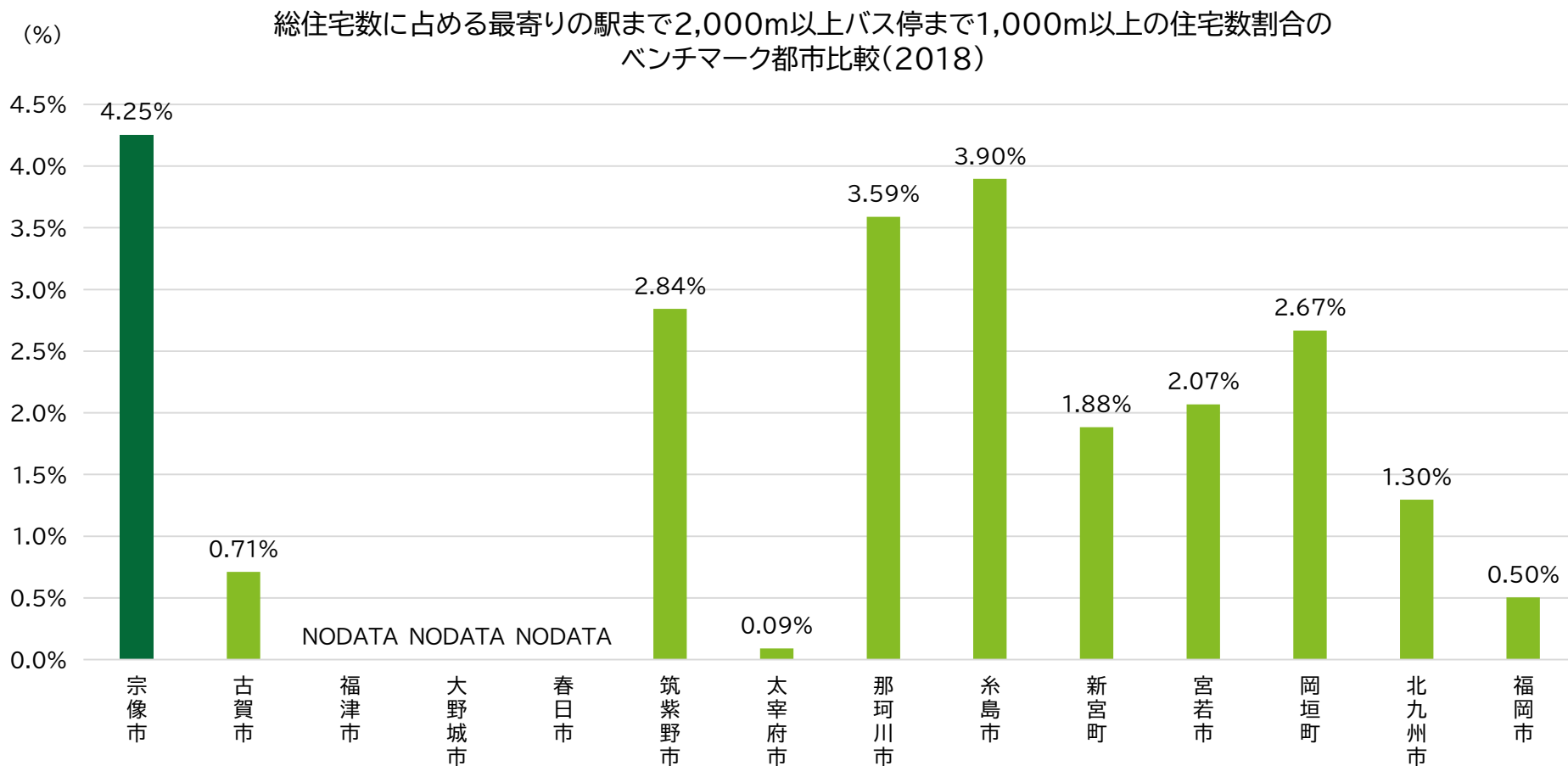
✓ 宗像市は、ベンチマーク都市と比較すると最寄りの駅・バス停まで比較的遠い住宅数が最も多く、2番目に多い糸島市を大きく上回っている。



V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅数の割合

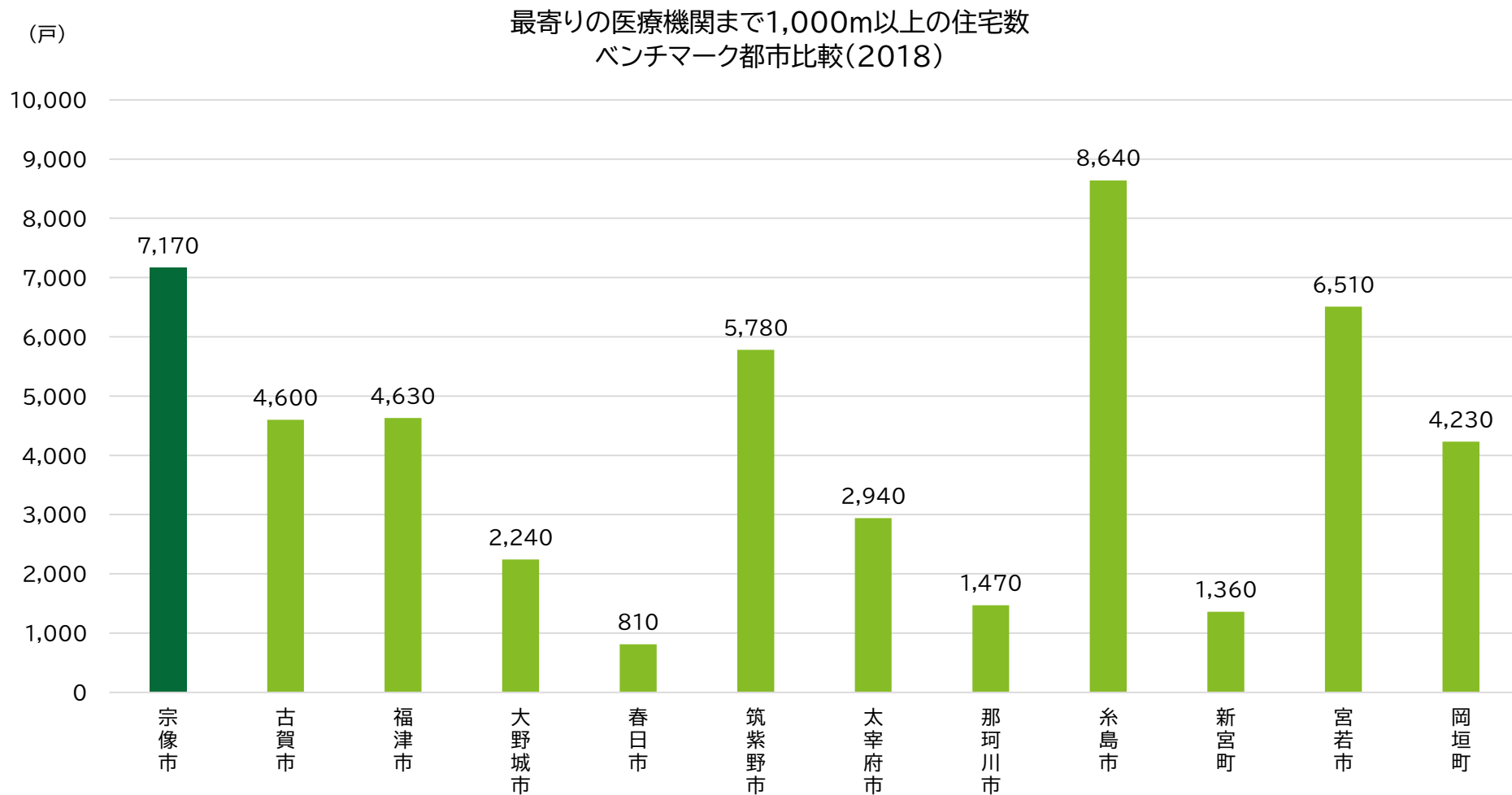
✓ 最寄りの駅・バス停まで比較的遠い住宅数を総住宅数に占める割合で見ると、宗像市は実数同様、ベンチマーク都市と比較すると最も高い割合となり、他市との差も大きいことから、公共交通機関へのアクセスが悪い位置にある住宅が多いことが推察される。



V.生活環境 | 1.住宅

最寄りの医療機関まで1,000m以上の住宅数

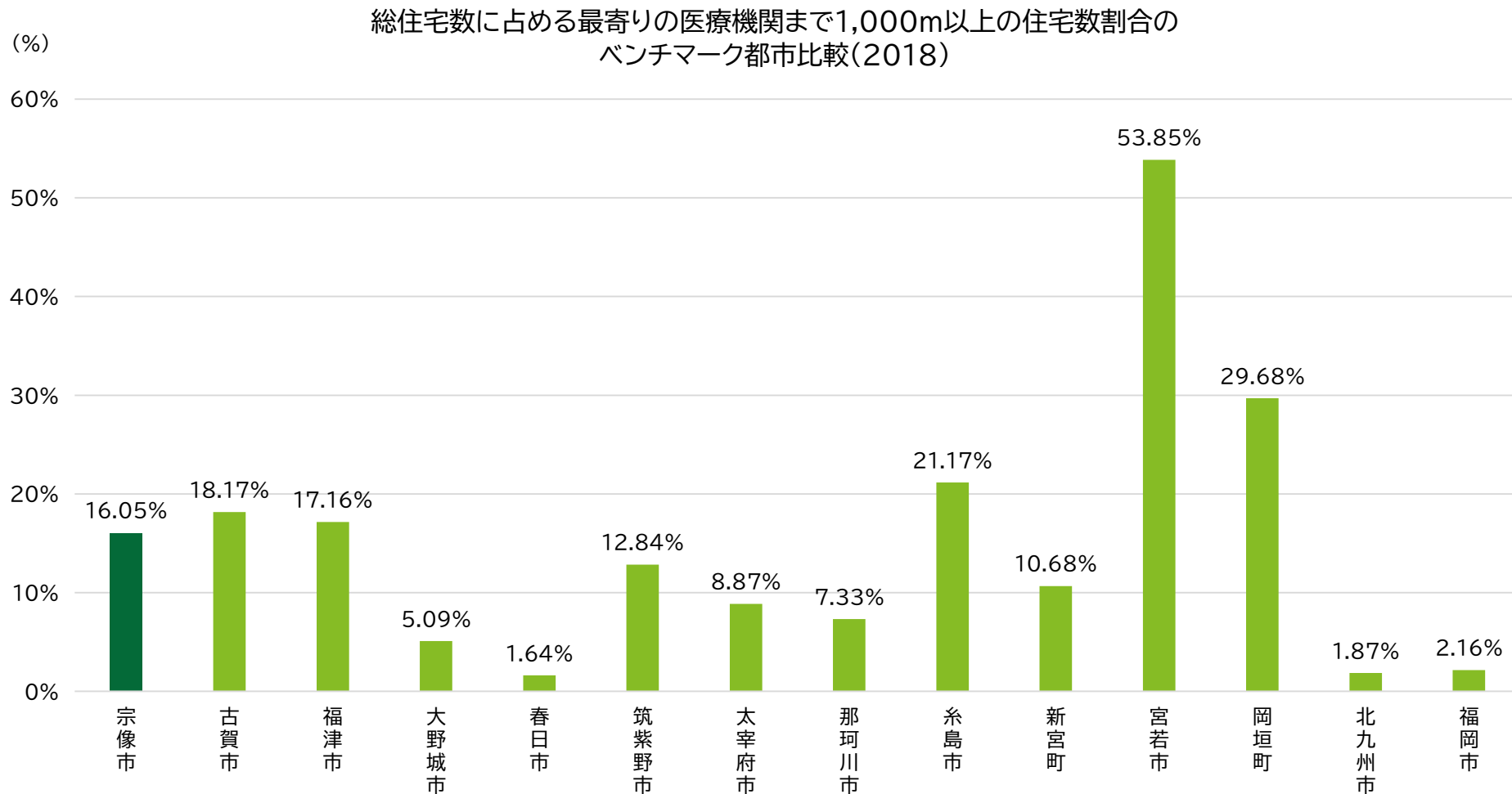
✓ 最寄りの医療機関まで1km以上ある住宅数は、宗像市は比較的多いが糸島市よりは少ない。



V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める最寄りの医療機関まで1,000m以上の住宅数の割合

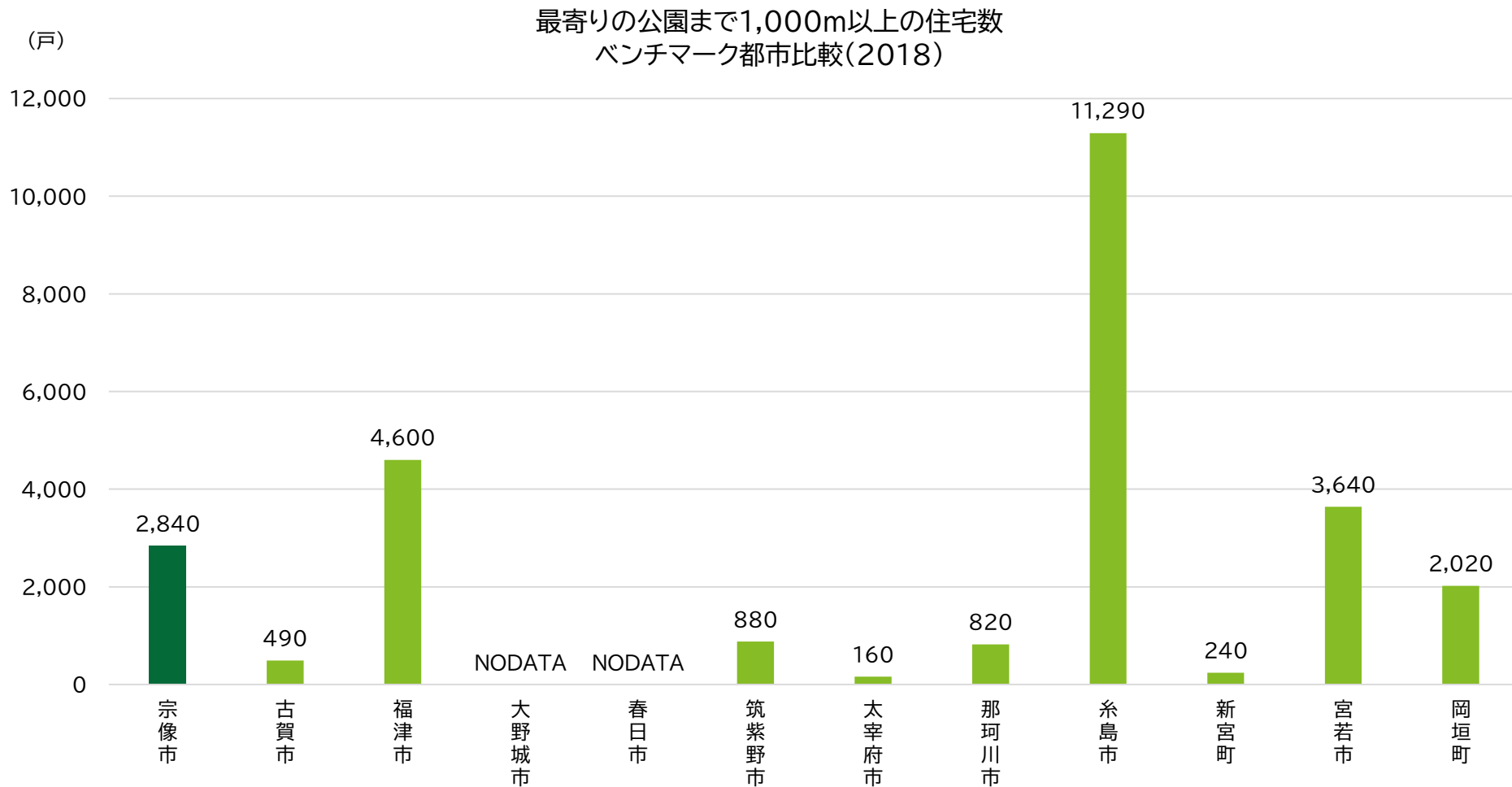
✓ 最寄りの医療機関まで遠い住宅数を総住宅数に占める割合で見ると、宗像市はやや多いものの宮若市、岡垣町、糸島市などを下回っており、市の医療機関へのアクセスは、公共交通機関へのアクセスより課題感が小さいと捉えられる。



V.生活環境 | 1.住宅

最寄りの公園まで1,000m以上の住宅数

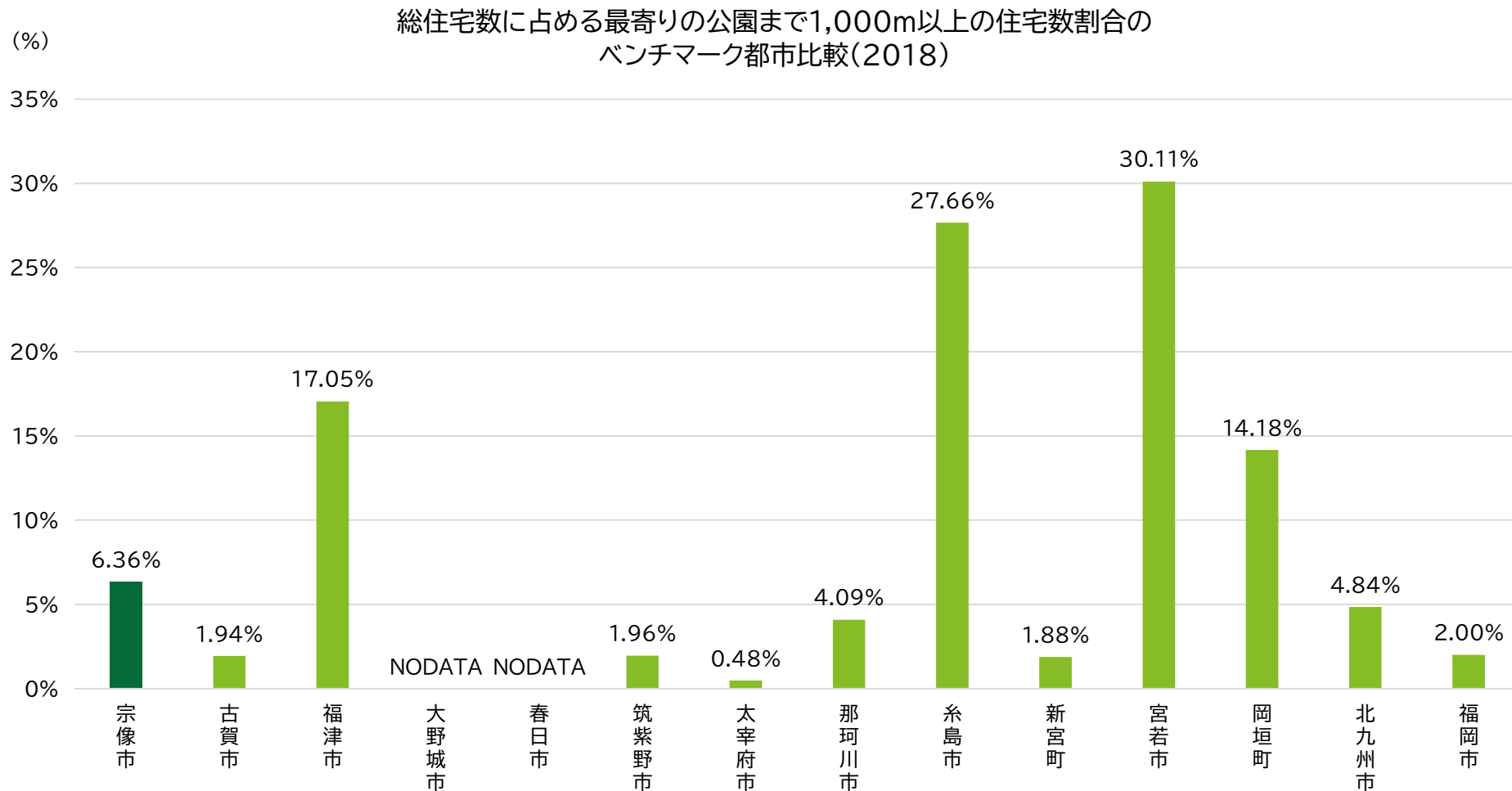
✓ 宗像市は、最寄りの公園まで1km以上ある住宅数はやや多いものの、糸島市、福津市を大きく下回る。



V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める最寄りの公園まで1,000m以上の住宅数の割合

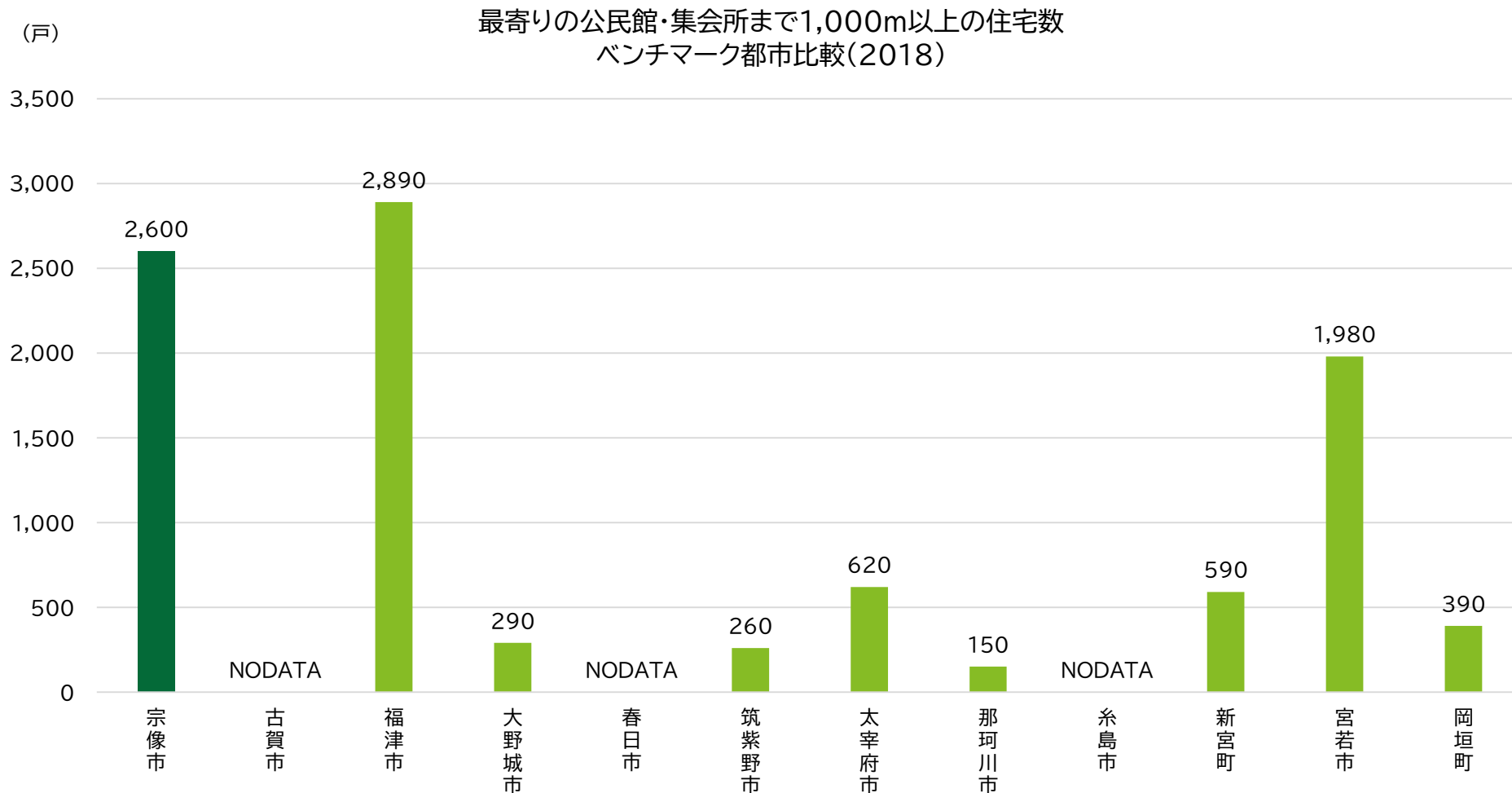
✓ 最寄りの公園まで遠い住宅数を割合比較すると、宗像市は比較的低い割合であり、宮若市、糸島市、福津市、岡垣町などと比べると公園へのアクセスが良い位置にある住宅が多いことがわかる。



V.生活環境 | 1.住宅

最寄りの公民館・集会所まで1,000m以上の住宅数

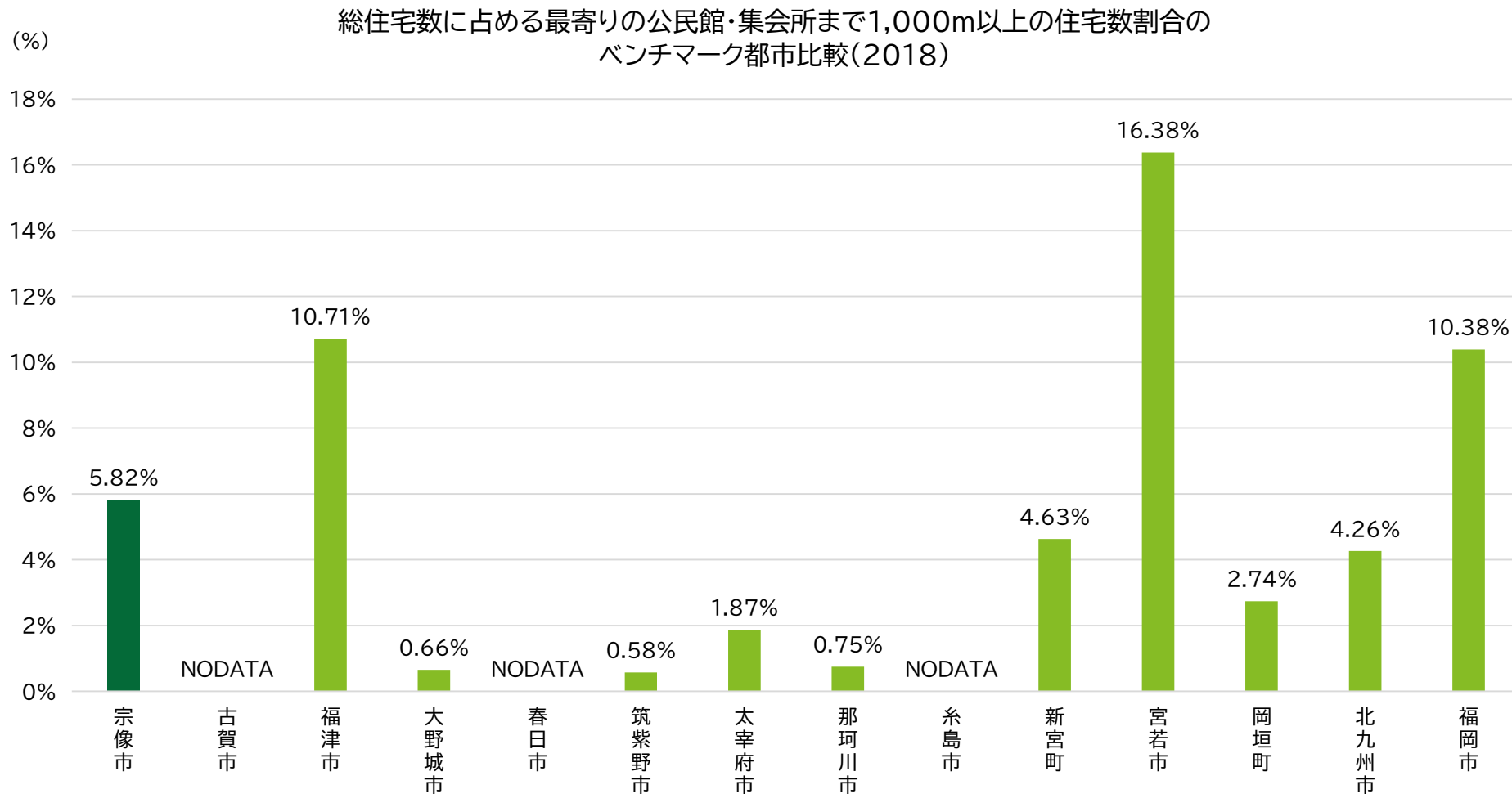
✓ 最寄りの公民館・集会所まで1km以上ある住宅数は、ベンチマーク都市と比較すると宗像市が福津市に次いで2番目に多い。



V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める最寄りの公民館・集会所まで1,000m以上の住宅数の割合

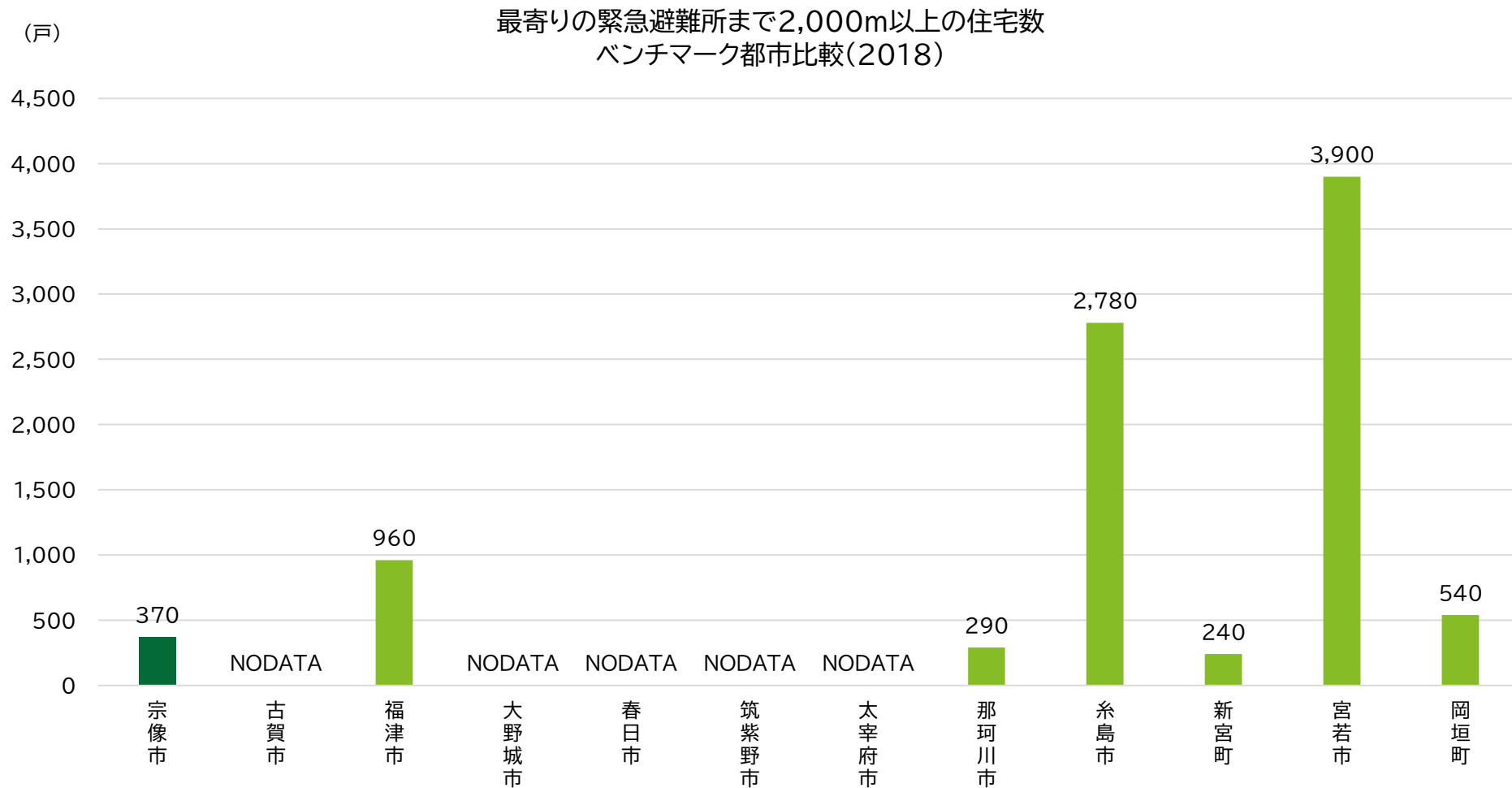
✓ 最寄りの公民館・集会所まで遠い住宅数を割合比較すると、宗像市は宮若市、福津市、福岡市を大きく下回ってはいるが、筑紫野市や大野城市と比べると、公民館・集会所までのアクセスが悪い位置にある住宅は多いことがわかる。



V.生活環境 | 1.住宅

最寄りの緊急避難所まで2,000m以上の住宅数

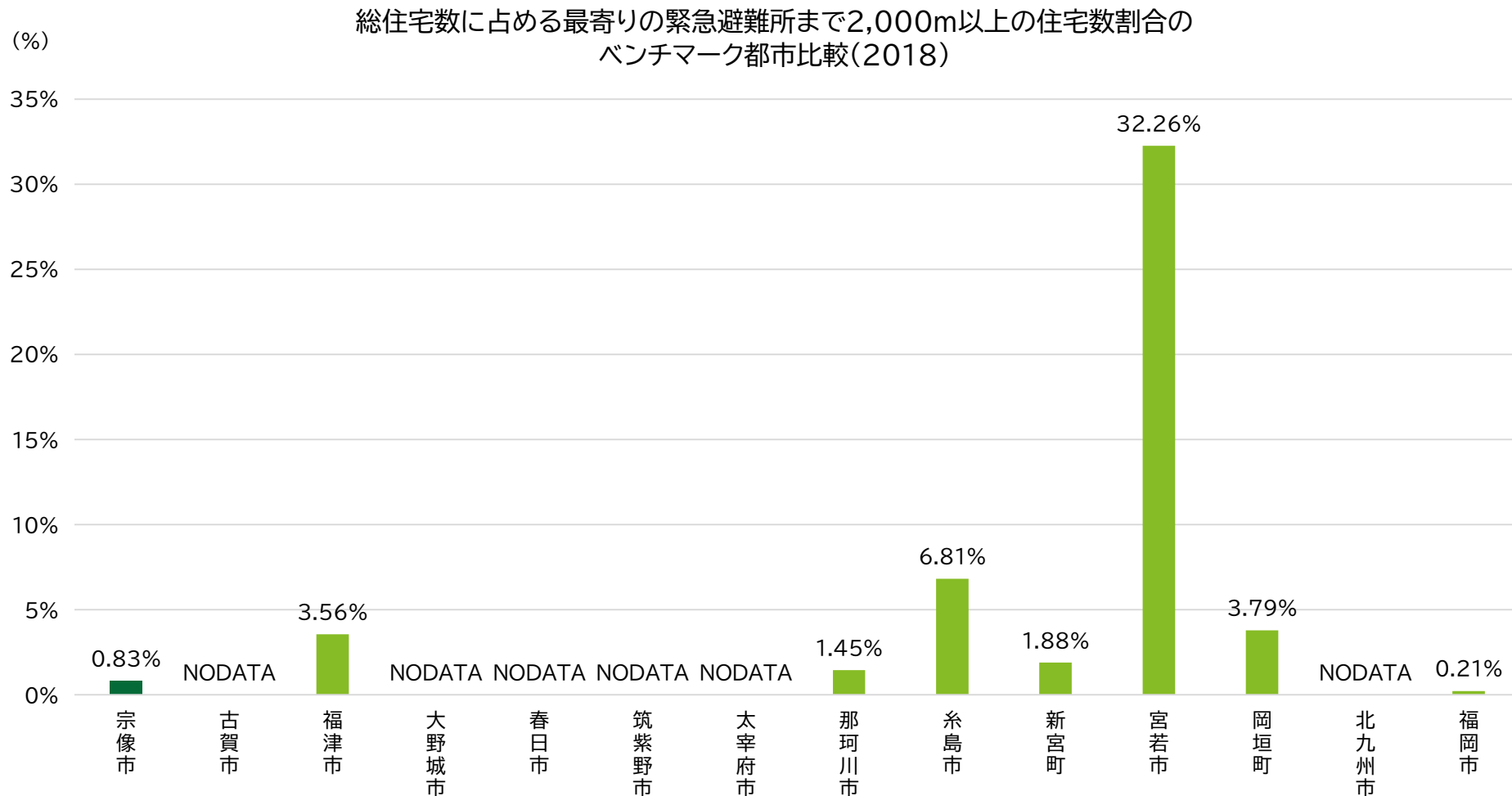
✓ 最寄りの緊急避難所まで2km以上ある住宅数は、ベンチマーク都市の中では宮若市、糸島市が圧倒的に多く、宗像市は比較的少ない方であるといえる。



V.生活環境 | 1.住宅

総住宅数に占める最寄りの緊急避難所まで2,000m以上の住宅数の割合

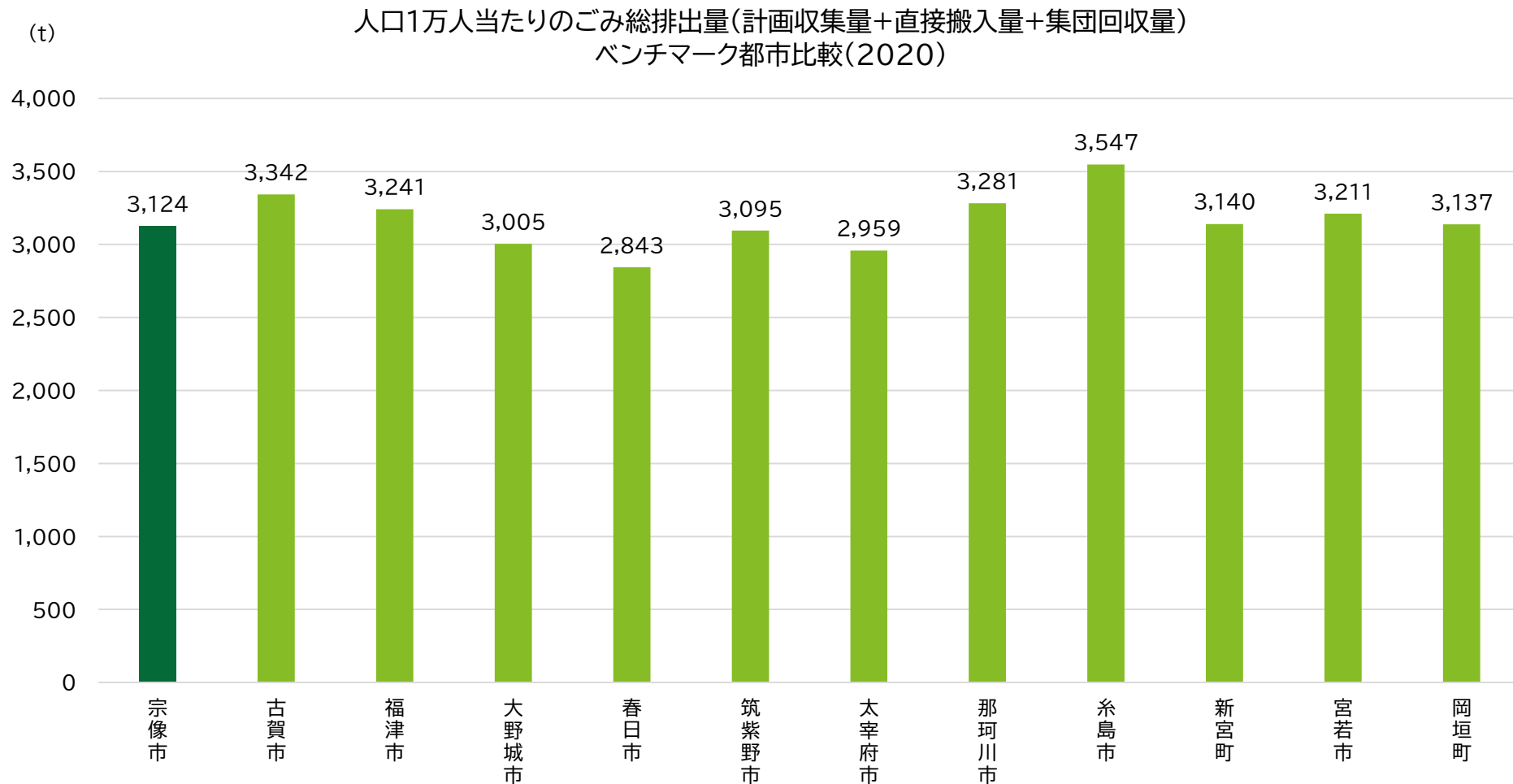
✓ 最寄りの緊急避難所まで遠い住宅数をデータのあるベンチマーク都市と比較すると、宗像市は福岡市に次いで2番目に低く、住宅地の緊急避難所の整備はそこまで大きな問題ではないと推察される。



V.生活環境 | 2.環境

1万人当たりのごみ総排出量(計画収集量+直接搬入量+集団回収量)

✓ 宗像市の人口1万人当たりのごみ総排出量は、ベンチマーク都市と比較するとおおよそ平均的な水準であるが、市によって大きな差はほとんどみられず、1人が出すごみの量は全市町同程度であることがわかる。

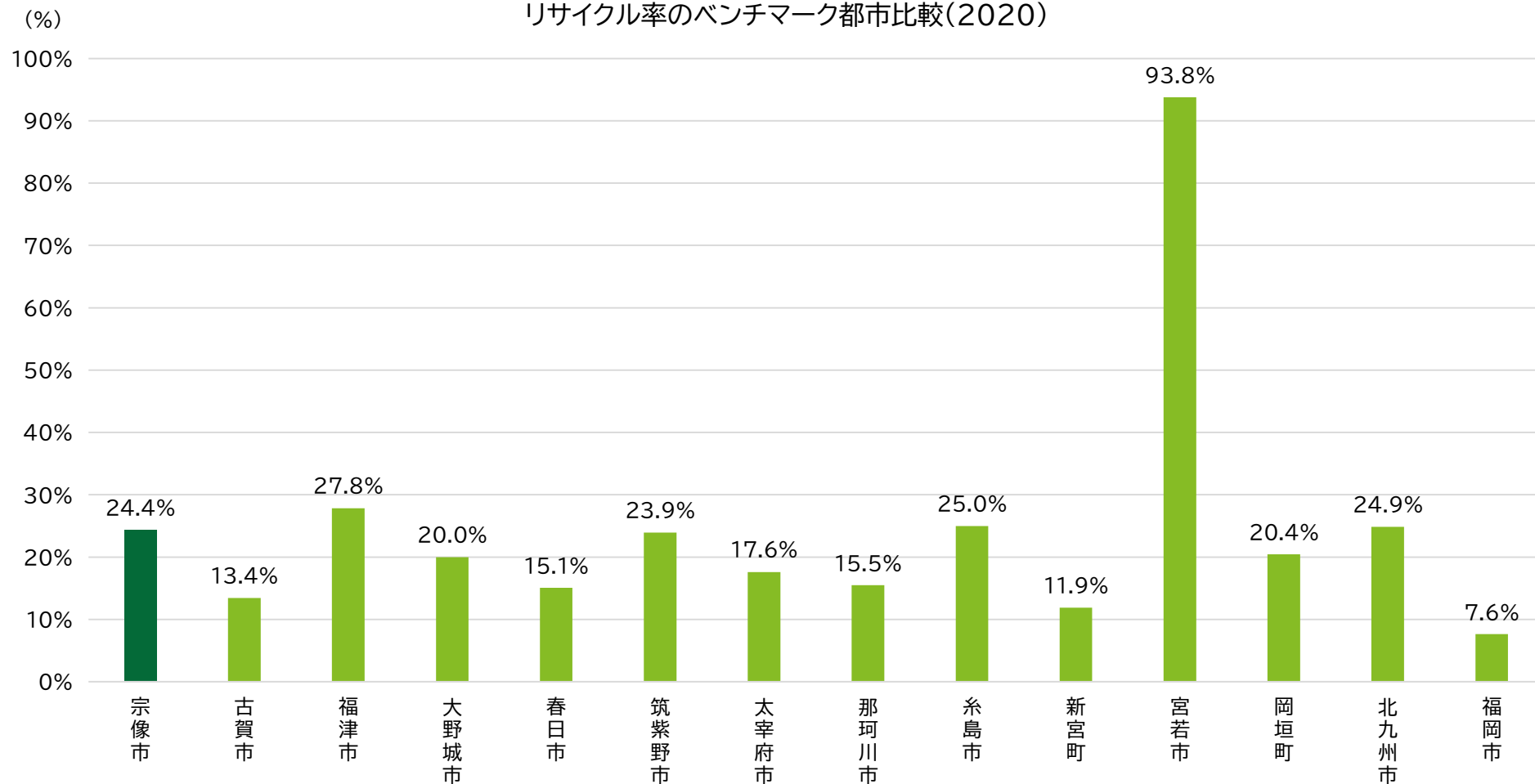


V.生活環境 | 2.環境

リサイクル率

- ✓ 宗像市のリサイクル率は24.4%で、ベンチマーク都市の中で圧倒的に多い宮若市を除くとおおよそ平均的な水準であり、北九州市や糸島市と同程度である。
- ✓ 大きな課題感はないといえる。

リサイクル率のベンチマーク都市比較(2020)

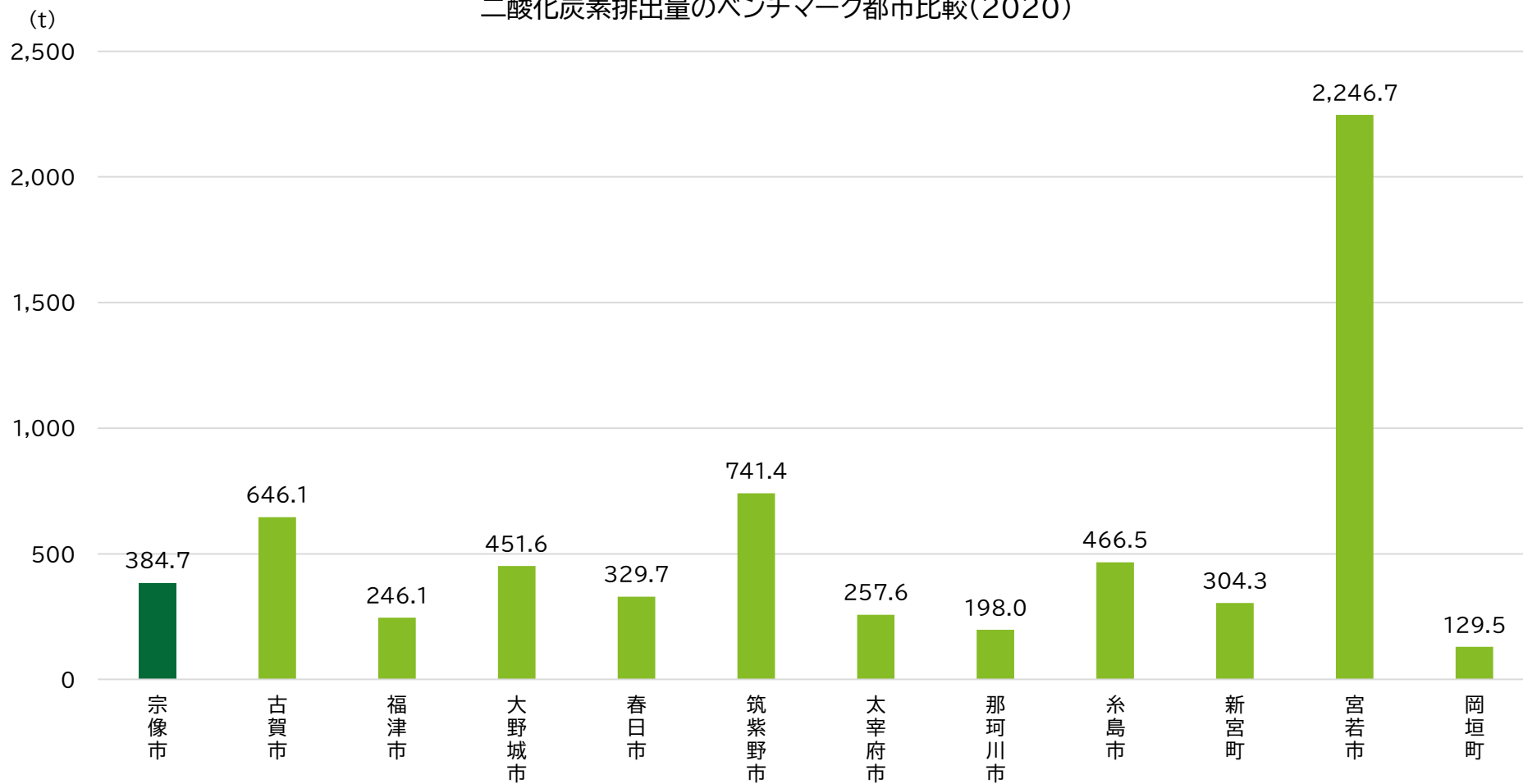


V.生活環境 | 2.環境

二酸化炭素排出量

- ✓ 宗像市の二酸化炭素排出量は、ベンチマーク都市の中で圧倒的に多い宮若市を除くとおおよそ平均的な水準である。
- ✓ リサイクル率同様、大きな課題感はないといえる。

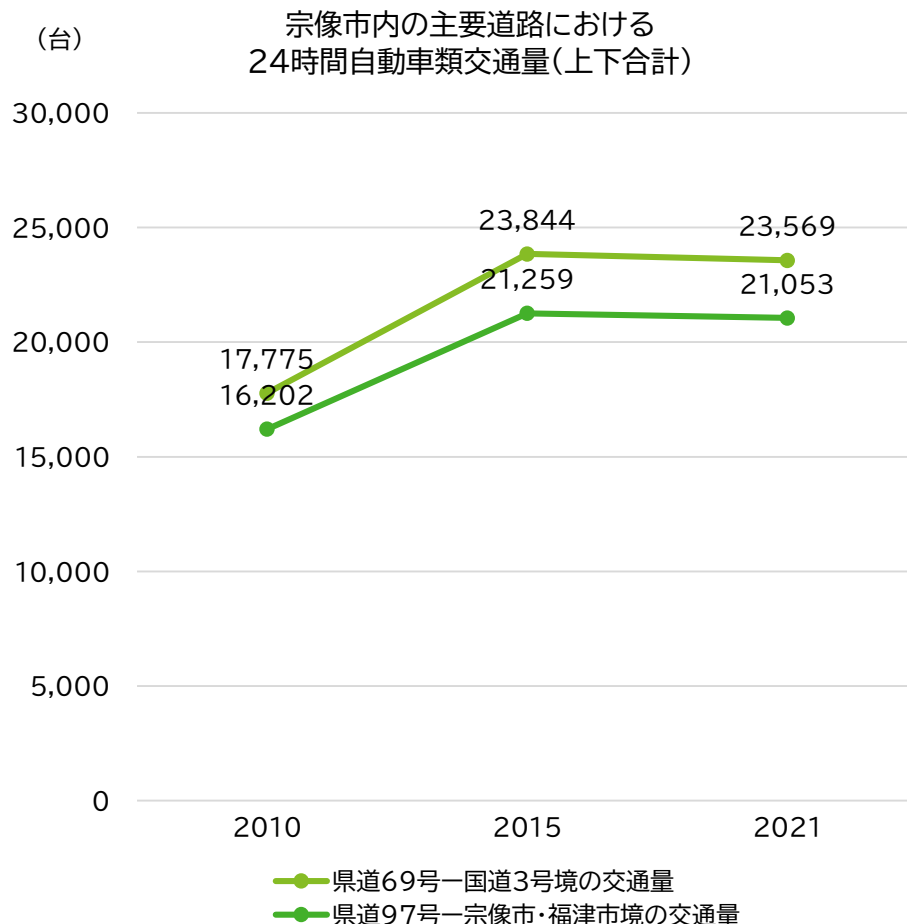
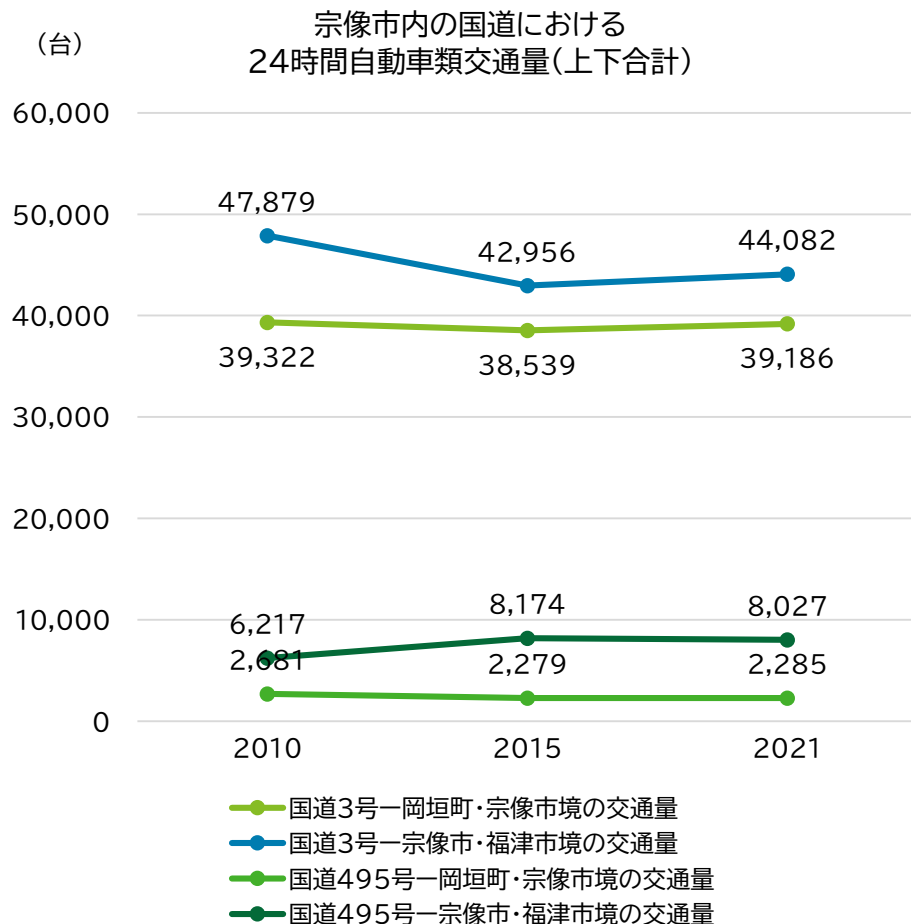
二酸化炭素排出量のベンチマーク都市比較(2020)



V.生活環境 | 3.交通

市内の国道・主要道路の交通量推移

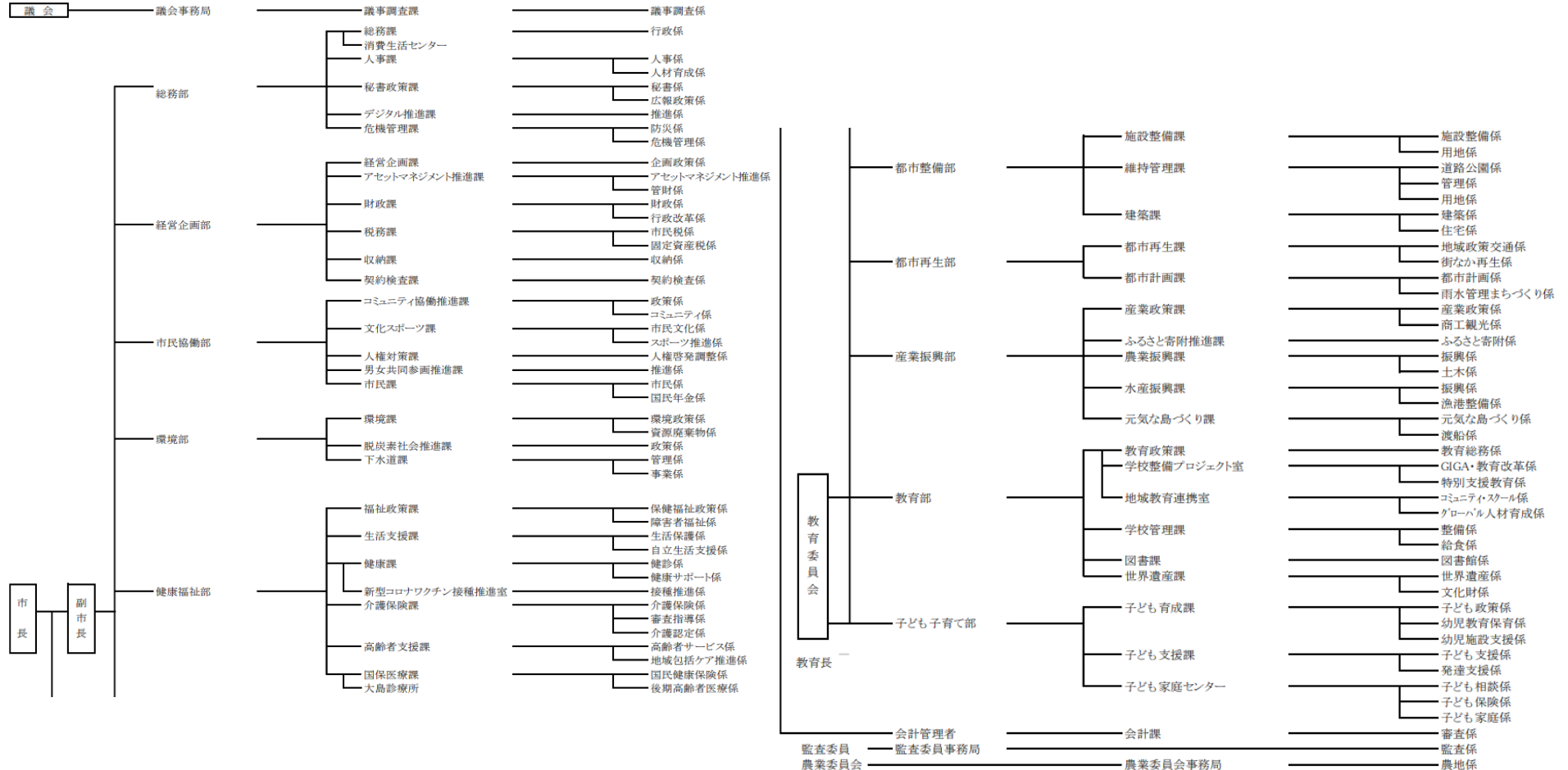
- ✓ 宗像市内を通る国道3号・495号の交通量は過去10年間で大きな変化はみられない。
- ✓ 市内の主要道路である県道69・97号は2010年から2015年に交通量の増加がみられ、2015年以降は横ばいに推移している。
- ✓ 今後も、国道・県道ともに同程度の交通量で推移していくと推察される。



VI.行政 | 1.行政組織

行政組織機構図

- ✓ 市長・副市長の直下に10の部署が設置されている。
- ✓ 議会と教育委員会は別途設置され、教育委員会が10のうち2部署に繋がる構成となっている。

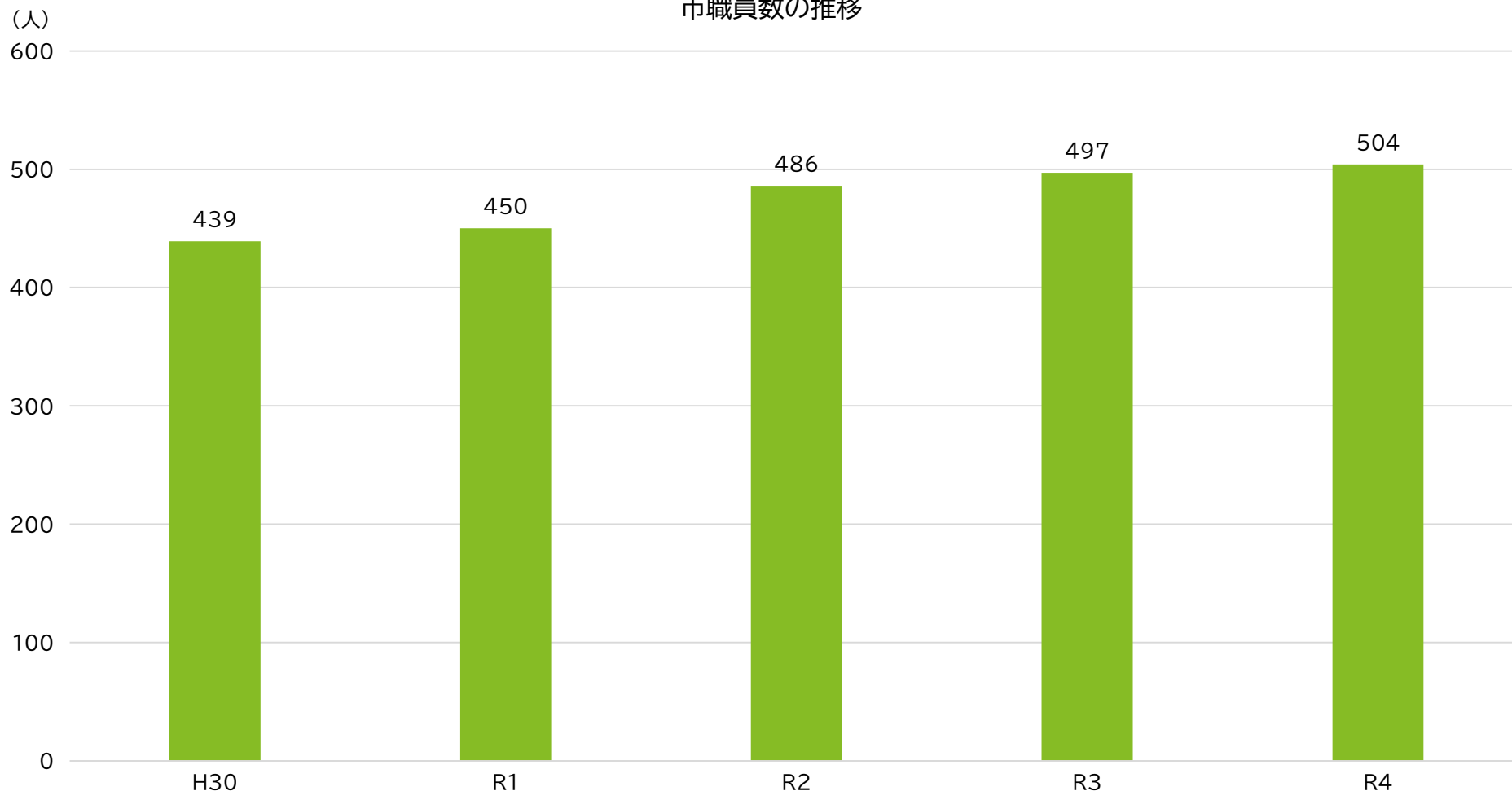


VI.行政 | 1.行政組織

市職員数の推移

- ✓ 宗像市の市職員数は平成30年以降一貫して増加しており、令和4年には平成30年より65人増えて504人となっている。
- ✓ 令和元年から令和2年には30人以上増加しているが、増加幅は年々小さくなっている。
- ✓ 今後も市職員数の増加は見込まれるが、大きく増加することなく令和4年度の水準で推移していくことが推察される。

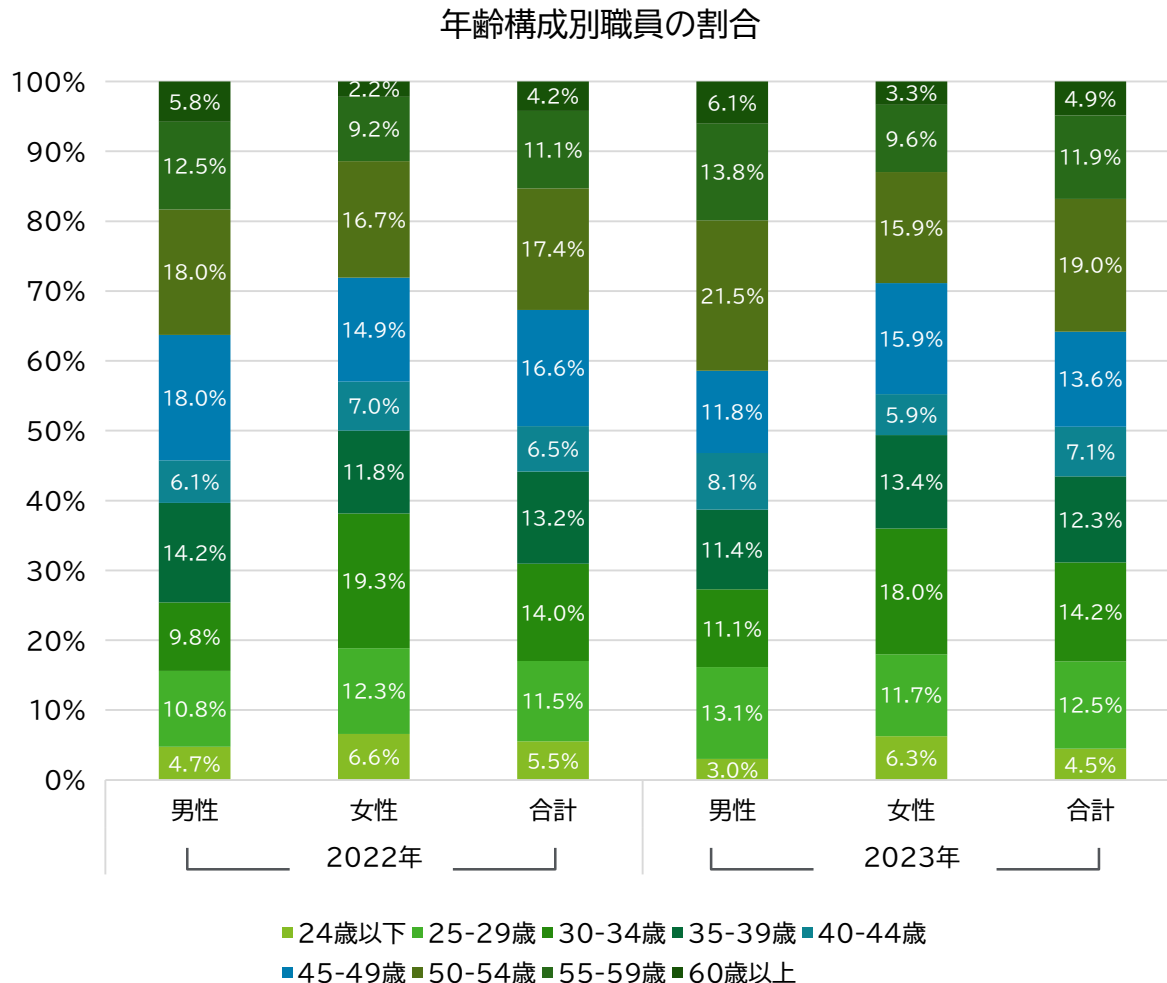
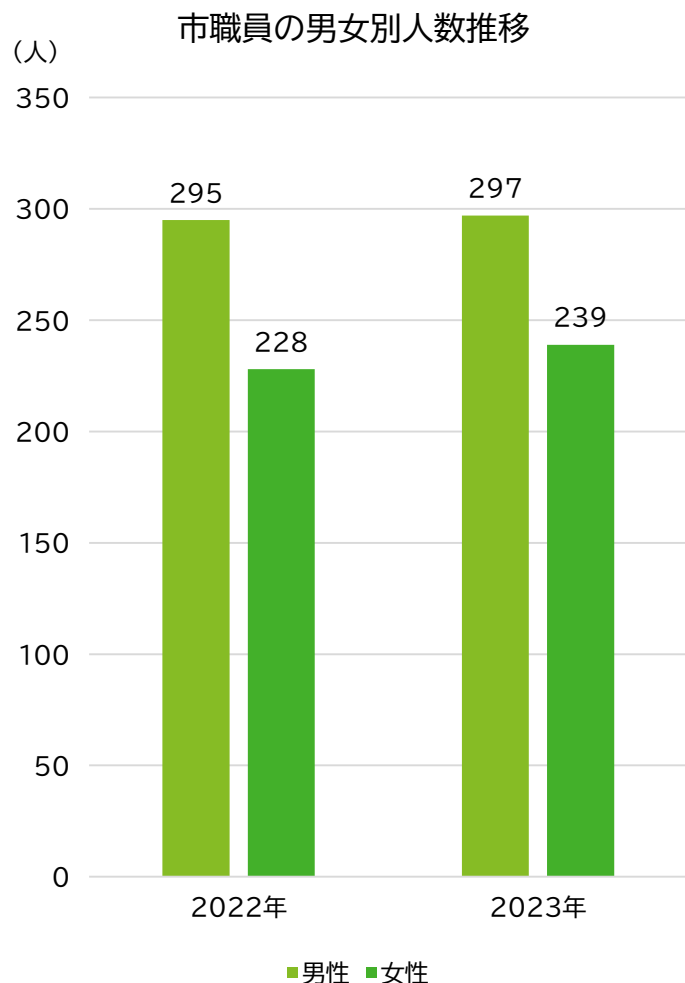
市職員数の推移



VI.行政 | 1.行政組織

市の男女別、年齢構成別職員数

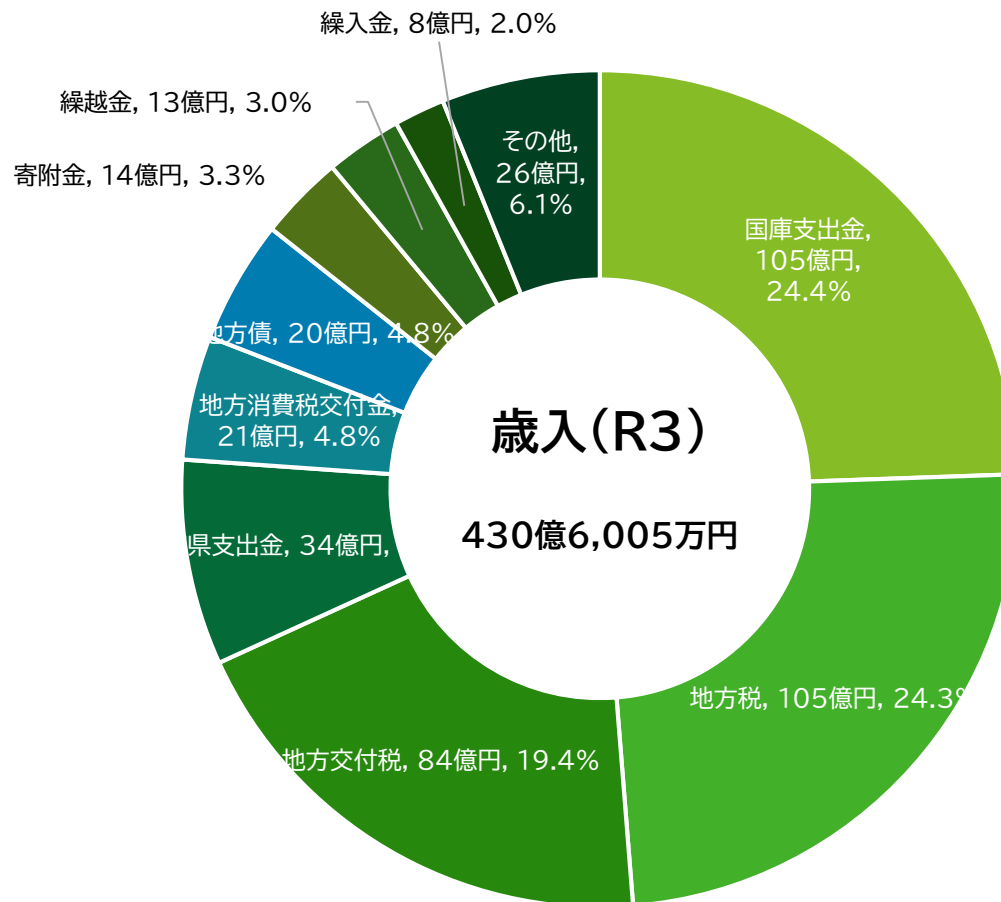
- ✓ 宗像市の市職員の男女別人数は、男性が女性の約1.2～1.3倍である。しかし、女性人数は微増傾向にある。
- ✓ 年齢構成別職員数の割合を見ると、男性は50～54歳の割合が最も多く、女性は30～34歳の割合が最も多くなっている。



VI.行政 | 2.財政

一般会計歳入決算額

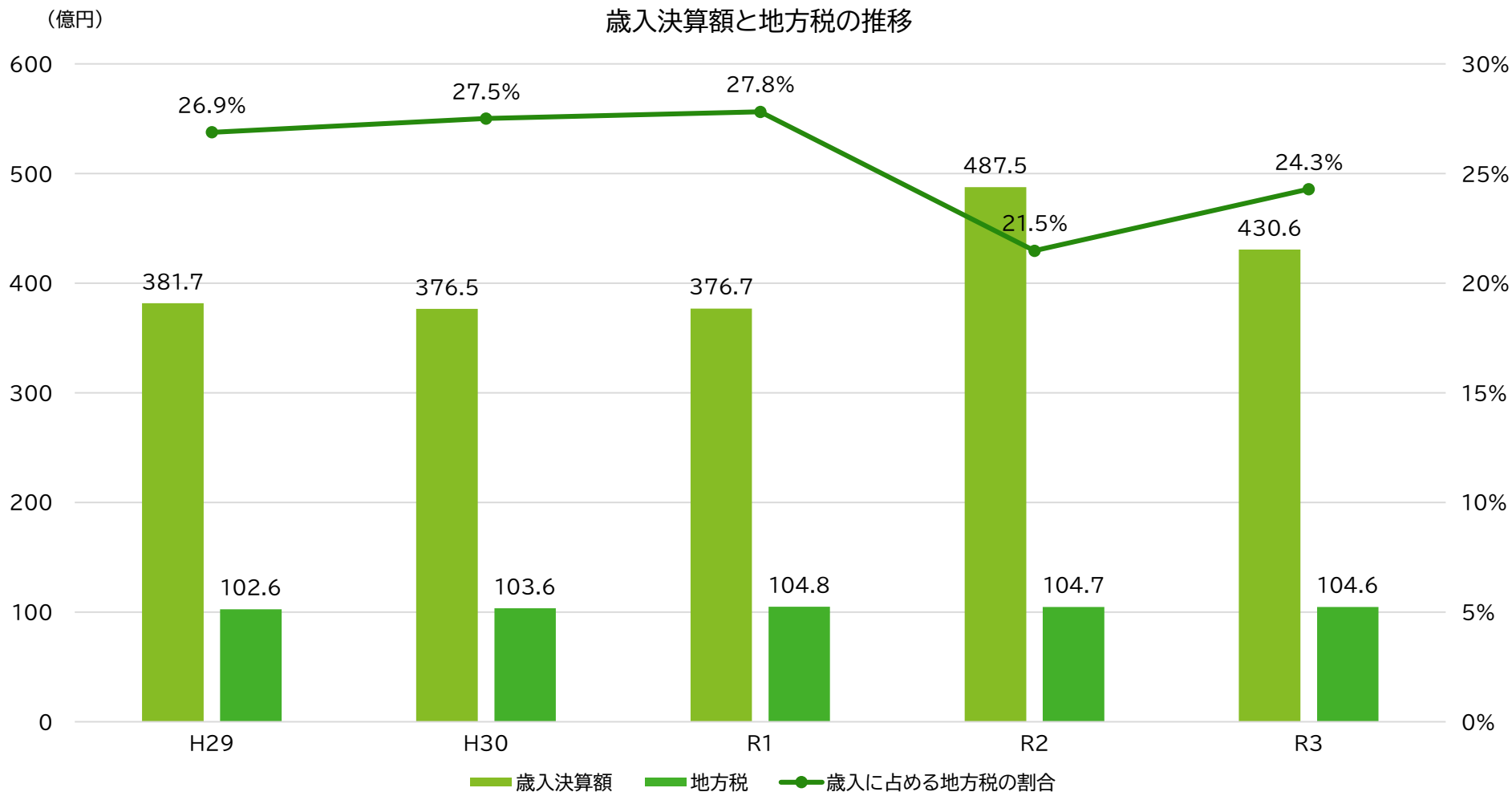
- ✓ 宗像市の令和3年度の一般会計歳入決算総額は430億6,005万円であった。
- ✓ 歳入のうち最も多い割合を占めているのは国庫支出金、次いで地方税、地方交付税であり、この3つで約70%を占めている。



VI.行政 | 2.財政

歳入の推移

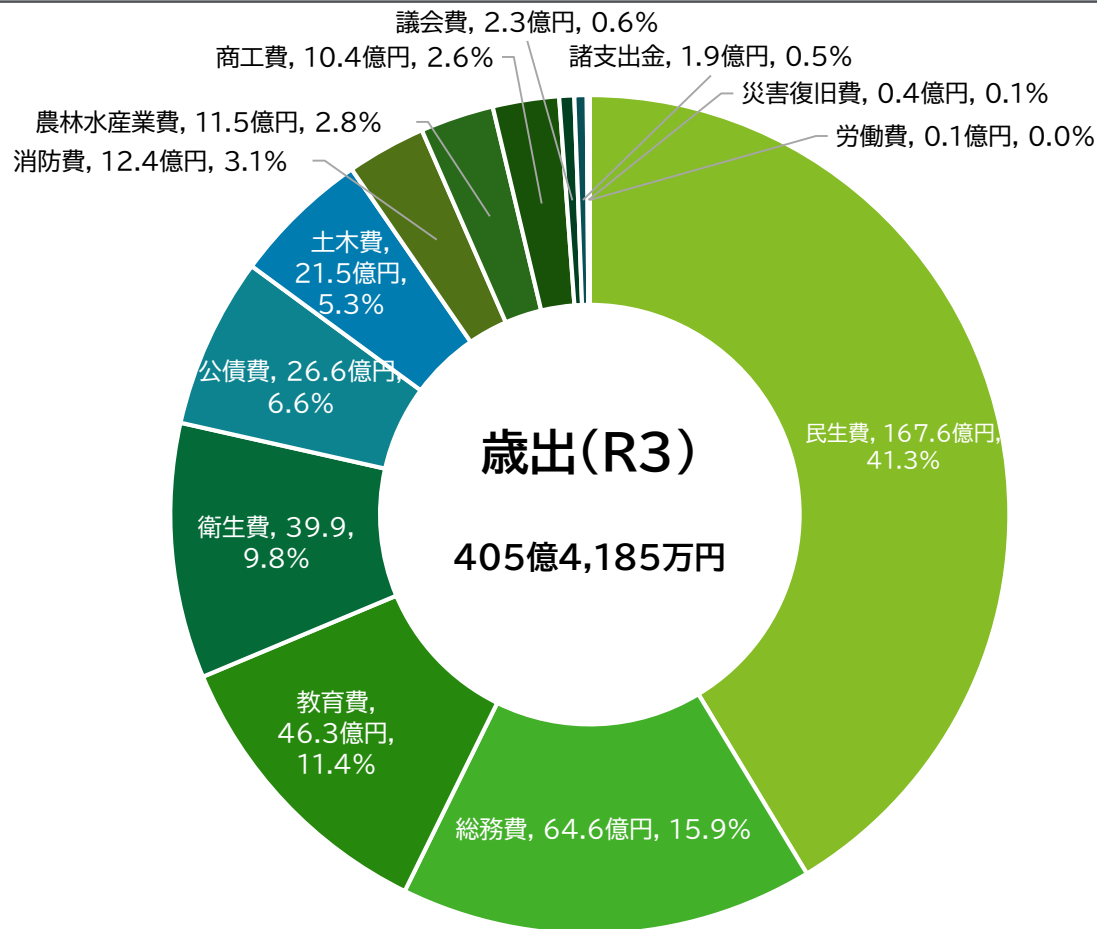
- ✓ 歳入決算額は令和2年に約490億円まで増加し、令和3年に減少するものの約430億円で令和元年以前よりも高い水準である。
- ✓ 一方、地方税はほとんど増減なく100億円前後で推移しており、歳入決算額によって割合が変動している。
- ✓ 今後、歳入決算額は令和3年程度の水準で推移していくことが予想され、地方税は引き続き横ばい推移するとみられる。



VI.行政 | 2.財政

一般会計歳出決算額(目的別)

- ✓ 宗像市の令和3年度の一般会計歳出決算総額は405億4,185万円であった。
- ✓ 目的別の歳出に占める割合で見ると、民生費が最も高く、次に高い総務費と合わせると2つで60%近い割合を占める。

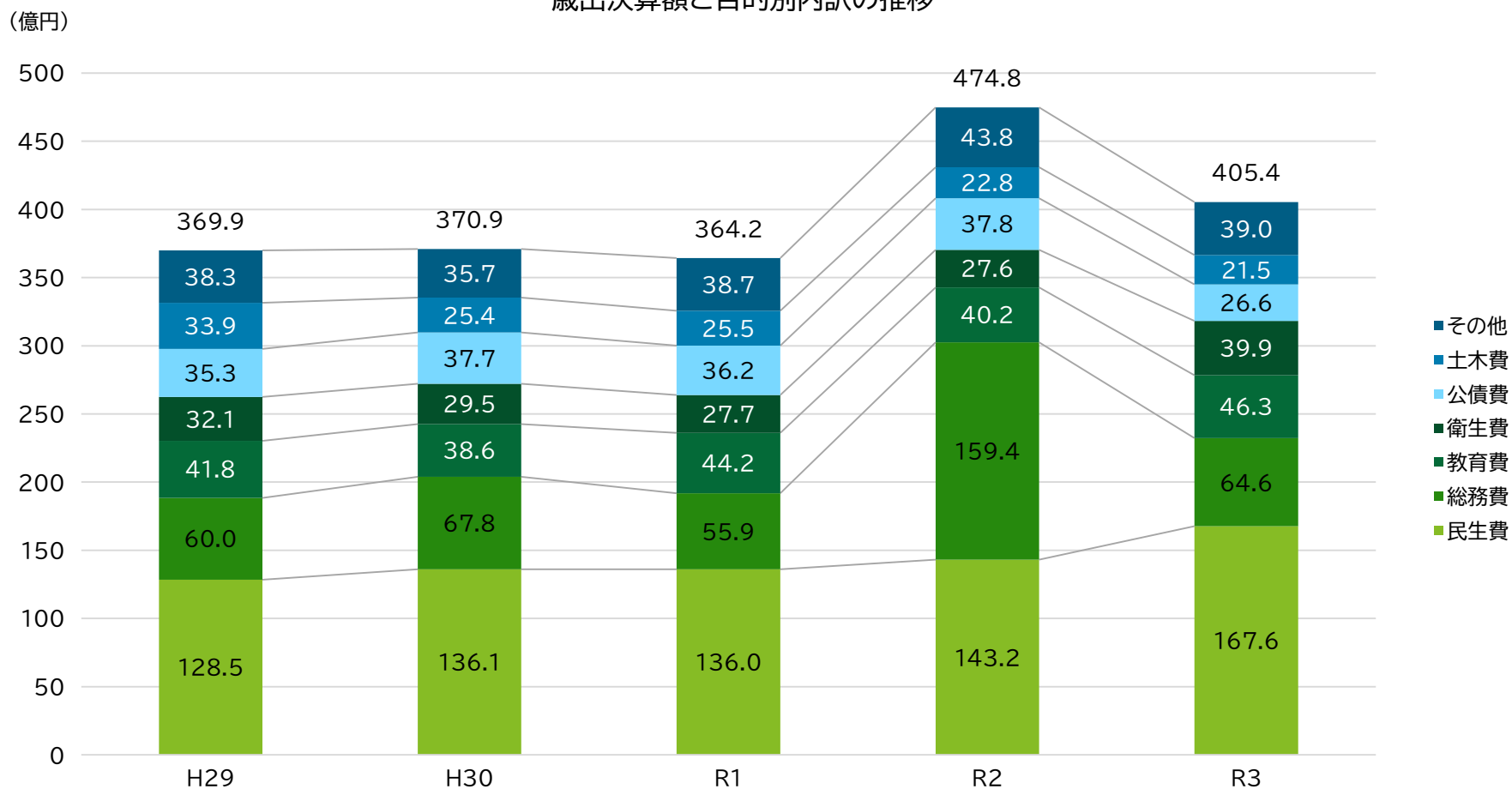


VI.行政 | 2.財政

歳出(目的別)の推移

- ✓ 歳出決算額は歳入と同様令和2年に急激に増加するが、これは総務費の増大に起因していることがわかる。
- ✓ 平成29年以降、一定の増加傾向にあるのは民生費であり、他は比較的増減を繰り返していることが多い。
- ✓ 今後、歳出決算額は令和3年の水準で推移することが予想され、民生費や教育費の拡大によってやや増加傾向となる可能性がある。

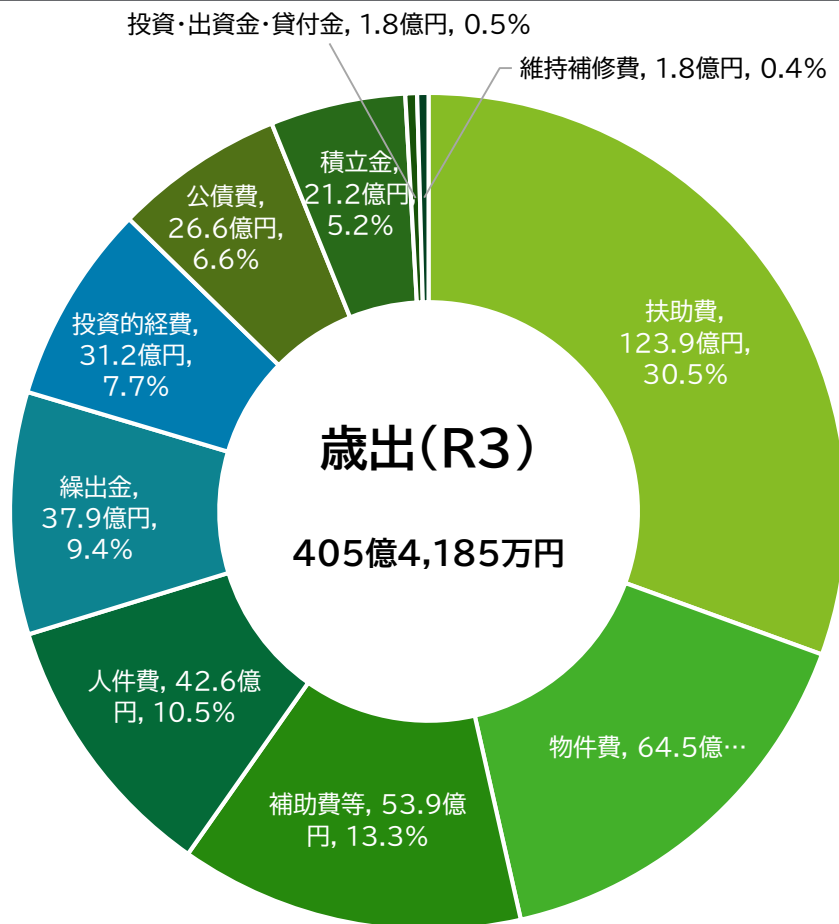
歳出決算額と目的別内訳の推移



VI.行政 | 2.財政

一般会計歳出決算額(性質別)

✓ 性質別の歳出に占める割合で見ると、扶助費が最も高く、30.5%を占めている。次いで物件費、補助費等、人件費の順に決算額が高いことがわかる。

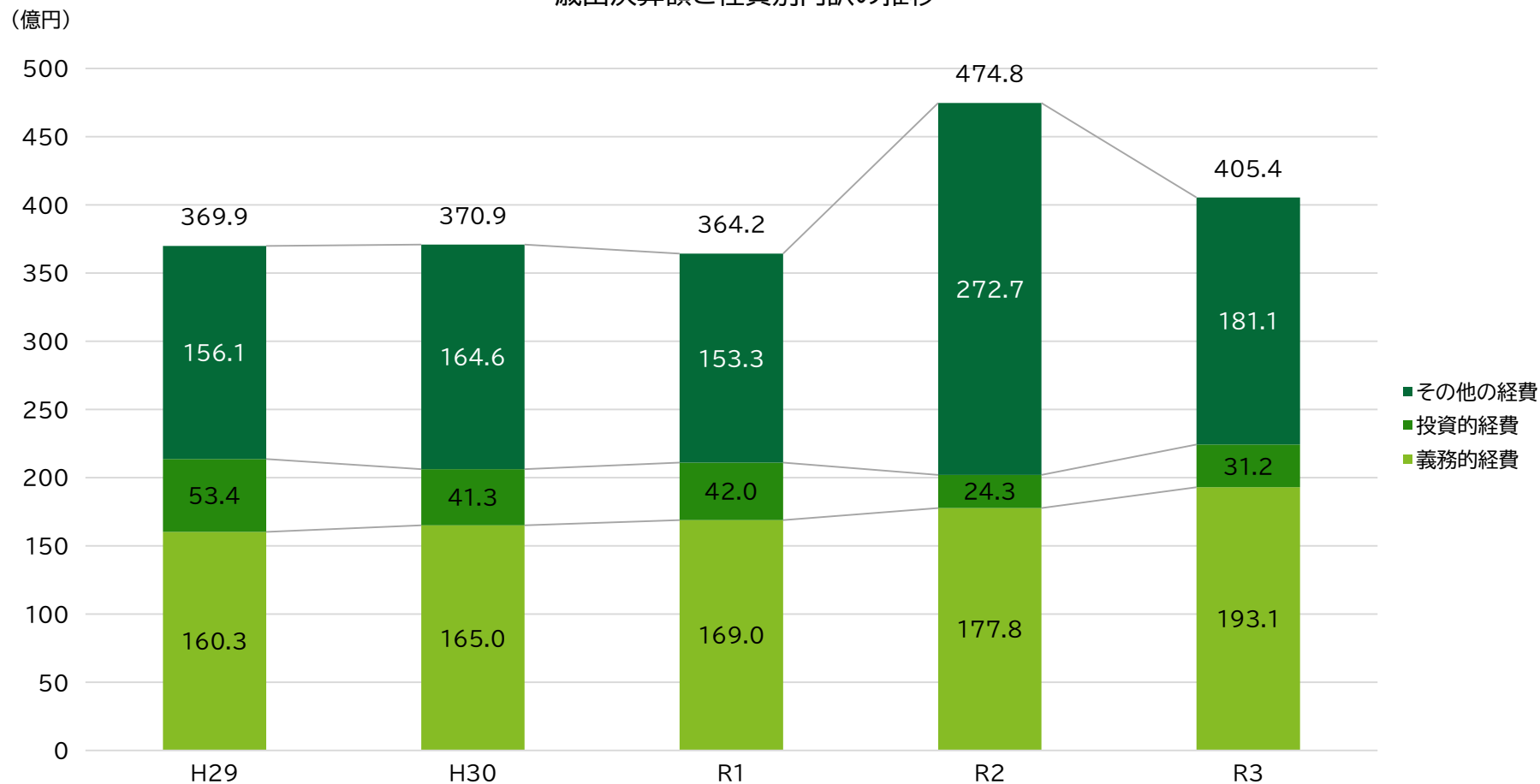


VI.行政 | 2.財政

歳出(性質別)の推移

- ✓ 性質別内訳で推移をみると、平成29年以降一貫して増加しているのは義務的経費である。
- ✓ 一方、投資的経費は令和2年で減少したのち、令和3年に多少増加するも、令和元年の水準までは戻っていない。
- ✓ 今後、義務的経費は継続して増加することが予想され、投資的経費、その他の経費は令和3年の水準を維持または微増するとみられる。

歳出決算額と性質別内訳の推移

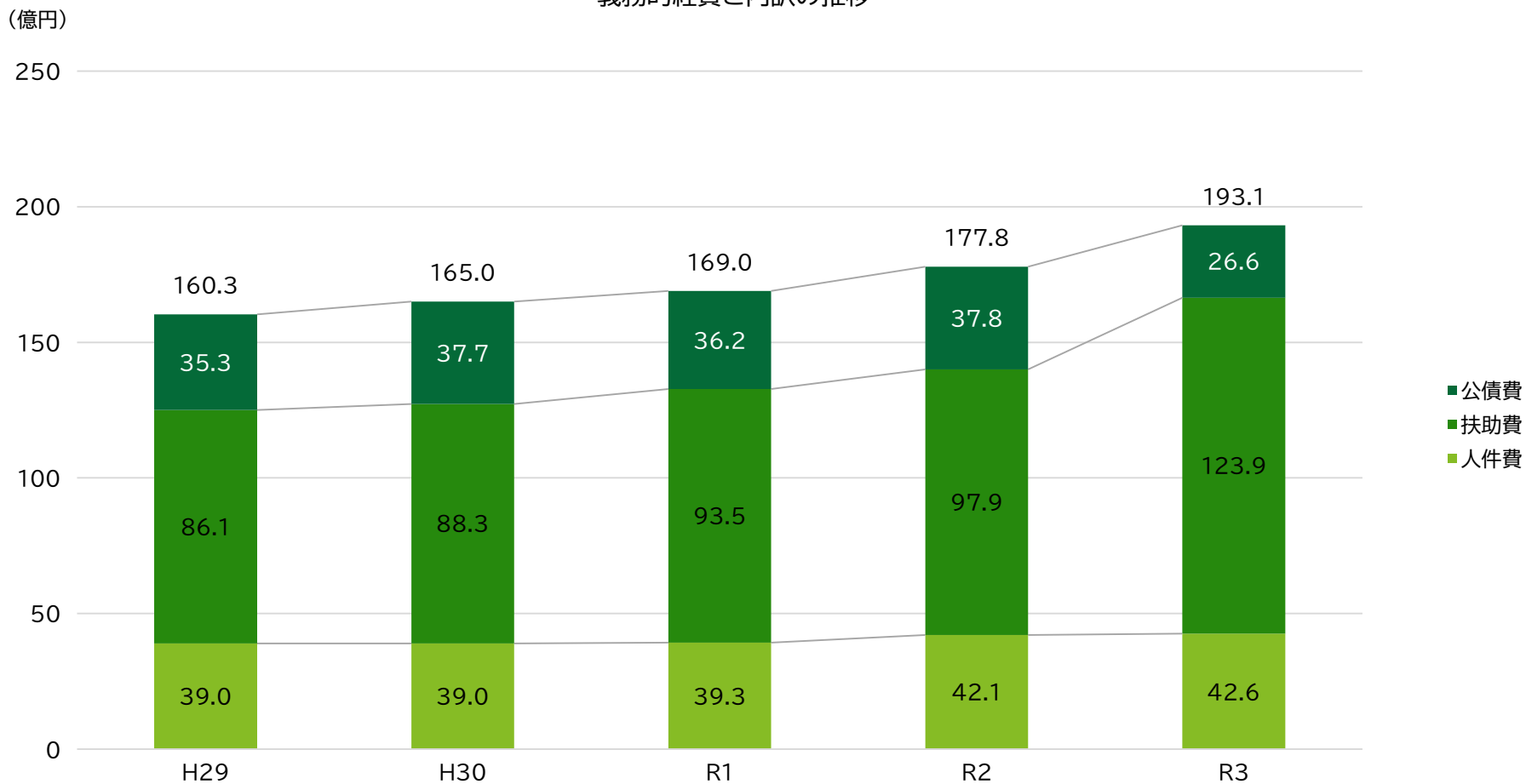


VI.行政 | 2.財政

義務的経費の推移

- ✓ 義務的経費に焦点を当ててみると、扶助費の増加幅が大きく、義務的経費の拡大要因は扶助費にあるといえる。
- ✓ 特に、令和2年から令和3年にかけては扶助費が25億円以上増加しており、人件費も微増傾向にはあるが増加の幅に大きな差がある。
- ✓ 今後、人件費と扶助費のさらなる拡大が予想され、義務的経費全体の増加が見込まれる。

義務的経費と内訳の推移



VI.行政 | 2.財政

市民1人あたりの一般会計歳入歳出決算

- ✓ 宗像市の一般会計歳入歳出決算額を市民1人あたりに換算すると、歳入歳出ともに1人当たり40万円を超える程度となった。
- ✓ 歳入では、国庫支出金と地方税が1人当たり10万円を超え、ここでも金額の高さがうかがえる。歳出では、民生費が唯一10万円を超える。

歳入 (R3)

項目	市民1人当たりの決算額(円)
国庫支出金	108,276
地方税	107,575
地方交付税	86,137
都道府県支出金	35,165
地方消費税交付金	21,213
地方債	21,064
寄附金	14,579
繰越金	13,097
繰入金	8,714
その他	27,120
歳入合計	442,941

歳出 (R3)

項目	市民1人当たりの決算額(円)
民生費	172,421
総務費	66,424
教育費	47,595
衛生費	40,996
公債費	27,410
土木費	22,117
消防費	12,728
農林水産業費	11,829
商工費	10,648
議会費	2,409
諸支出金	1,975
災害復旧費	383
労働費	103
歳出合計	417,037

※令和4年1月1日時点の住民基本台帳人口97,214人で算出している。
小数点以下の端数は四捨五入している。

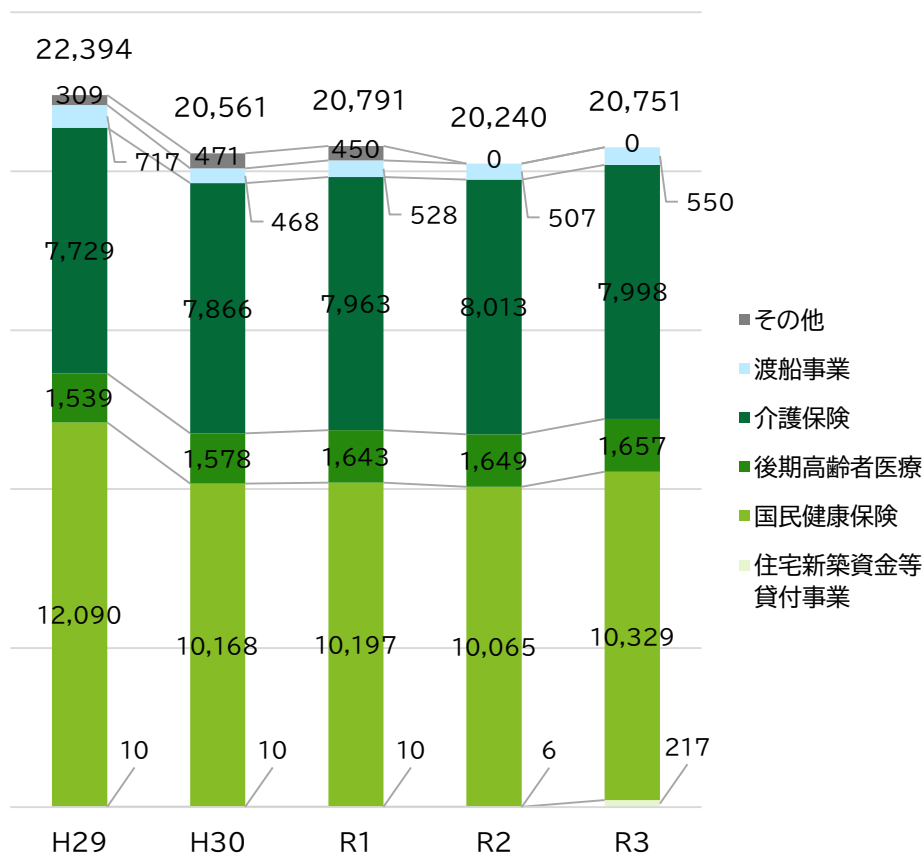
VI.行政 | 2.財政

特別会計の歳入・歳出決算額の推移

- ✓ 特別会計は歳入・歳出ともに概ね200億円前後で推移しており、国民健康保険と介護保険が多くの割合を占めている。
- ✓ 令和3年に住宅新築資金等貸付事業の特別会計が急激に増加しているが、金額の規模は小さいため、全体への影響はそこまでない。
- ✓ 今後は、引き続き200億円前後を推移しつつ、後期高齢者医療や介護保険の歳出を中心に微増していくことが予想される。

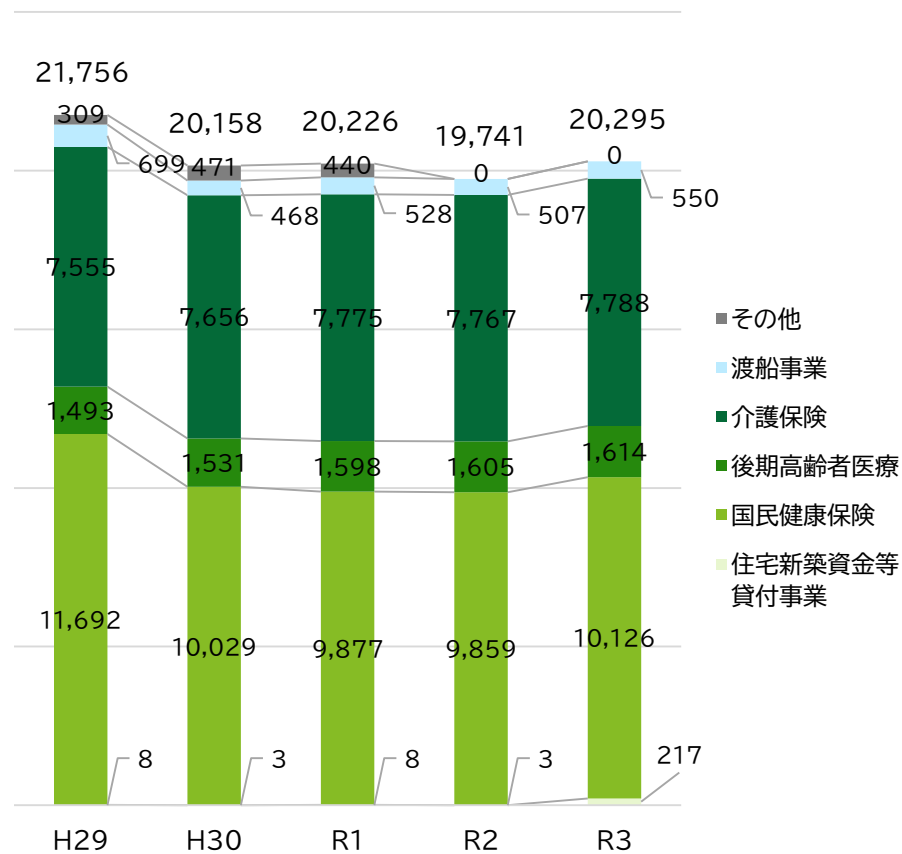
特別会計の推移(歳入)

(百万円)



特別会計の推移(歳出)

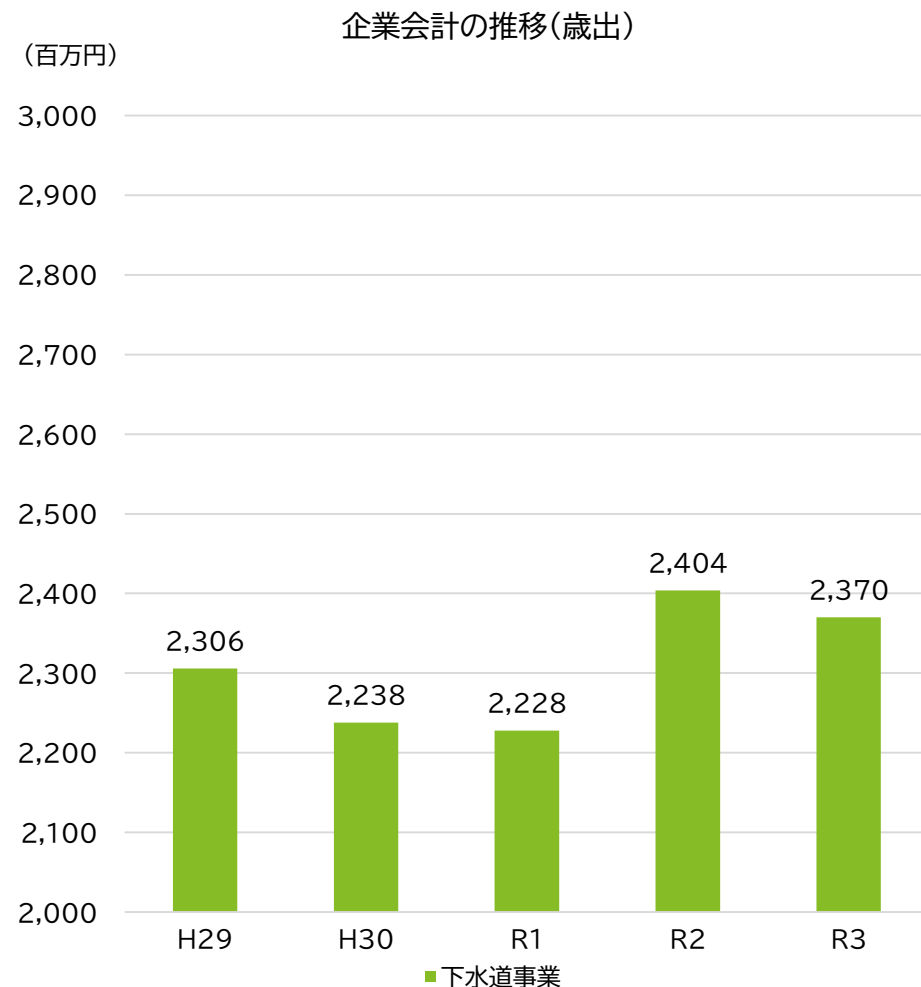
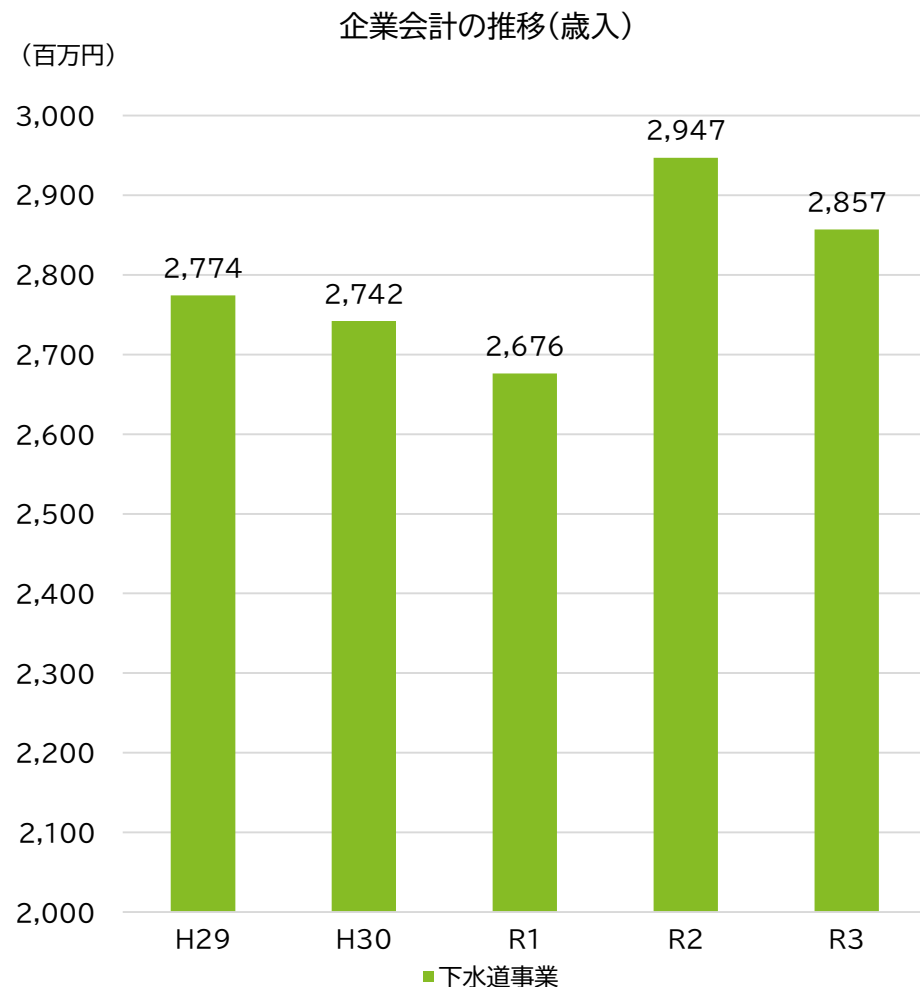
(百万円)



VI.行政 | 2.財政

企業会計の歳入・歳出決算額の推移

- ✓ 宗像市の企業会計は下水道事業会計が主であり、過去5年間は歳入が歳出を上回っていることがわかる。
- ✓ 歳入・歳出ともに令和2年に一度大きく増加し、令和3年に減少するも令和元年以前の水準より少し高くなっている。
- ✓ 今後も、令和3年度の水準を維持しつつ、歳出が歳入より4～5億円程度低い状態が継続すると推察される。

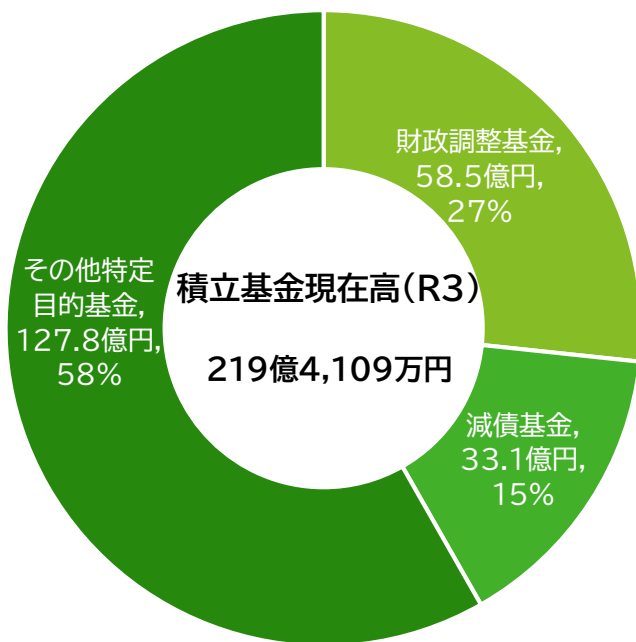


VI.行政 | 2.財政

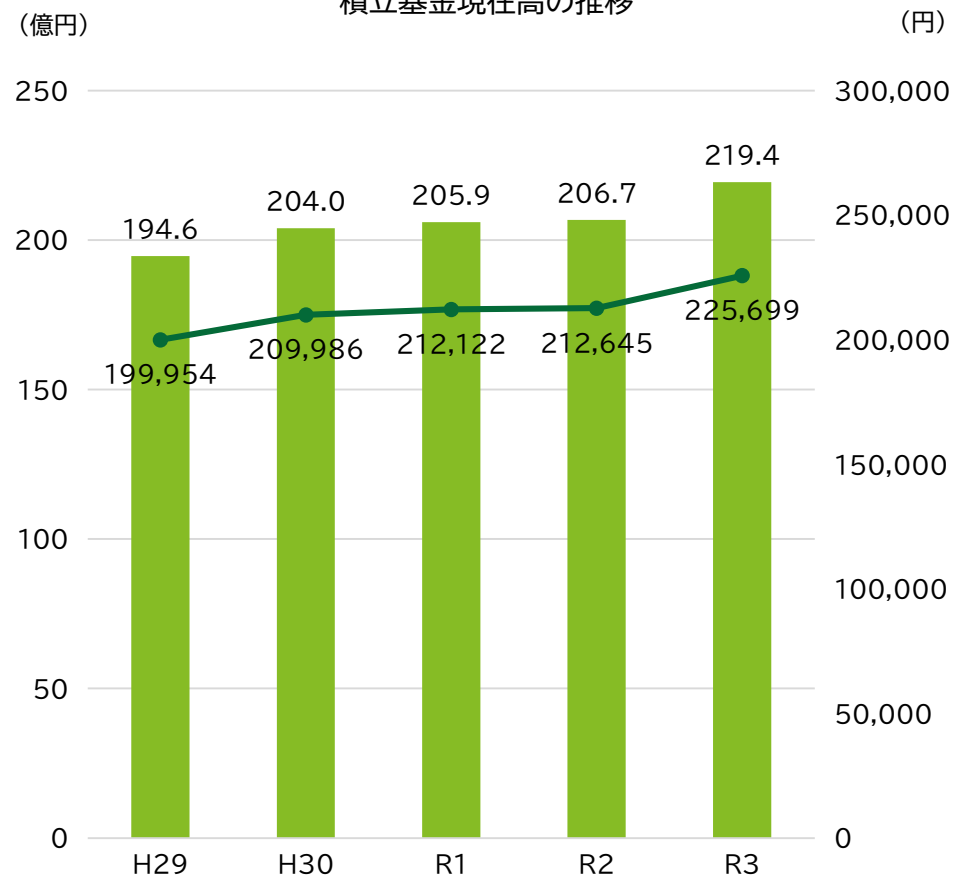
積立基金現在高の推移と内訳

- ✓ 令和3年の積立基金現在高は約220億円であり、内訳をみると財政調整基金・減債基金の合計をその他特定目的基金が上回っている。
- ✓ 過去5年間の推移をみると一貫して増加傾向にあり、特に令和2年から令和3年にかけての増加幅が大きいことがわかる。
- ✓ 今後、積立基金現在高、市民1人当たりの現在高ともに、引き続き増加していくことが予想される。

積立基金現在高の内訳(R3)



積立基金現在高の推移

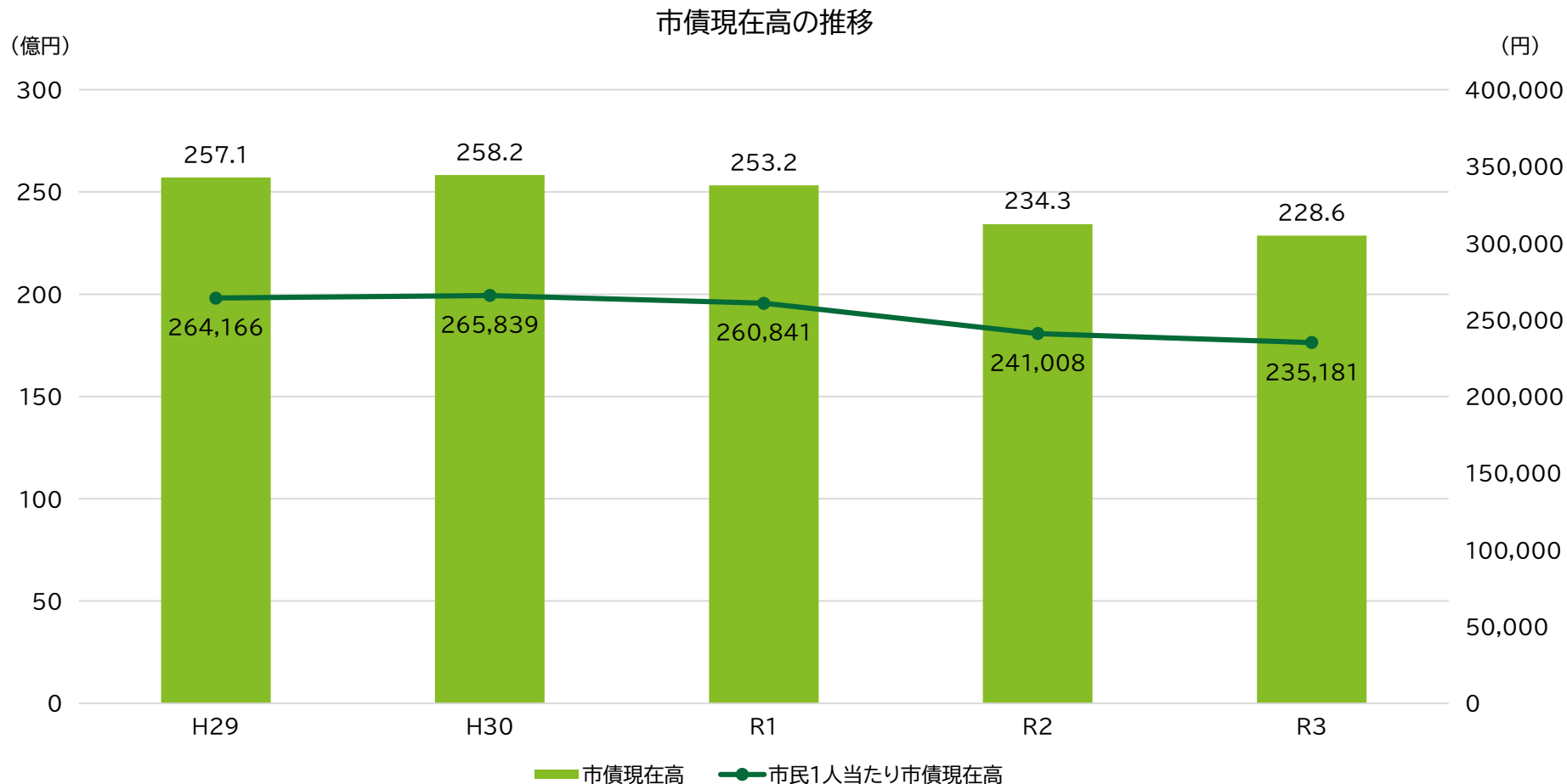


※1人当たりの金額は各年度1月1日時点の住民基本台帳人口で算出している。
小数点以下の端数は四捨五入している。

VI.行政 | 2.財政

市債現在高の推移

- ✓ 市債現在高は過去5年間で平成30年が最も高く、令和元年以降は減少している。
- ✓ 特に令和元年から令和2年にかけて大きく減少しているが、令和2年から令和3年の減少幅は以前の水準に戻っている。
- ✓ 今後、減少傾向は継続することが予想されるが、減少幅はそこまで大きくならないと推察される。



※1人当たりの金額は各年度1月1日時点の住民基本台帳人口で算出している。
小数点以下の端数は四捨五入している。

VI.行政 | 2.財政

債務負担行為額の推移

- ✓ 債務負担行為額は令和元年以降大きく増加しており、令和3年には平成29年の2.5倍以上の128億9,000万円となっている。
- ✓ 今後も、増加傾向が継続することが予想される。

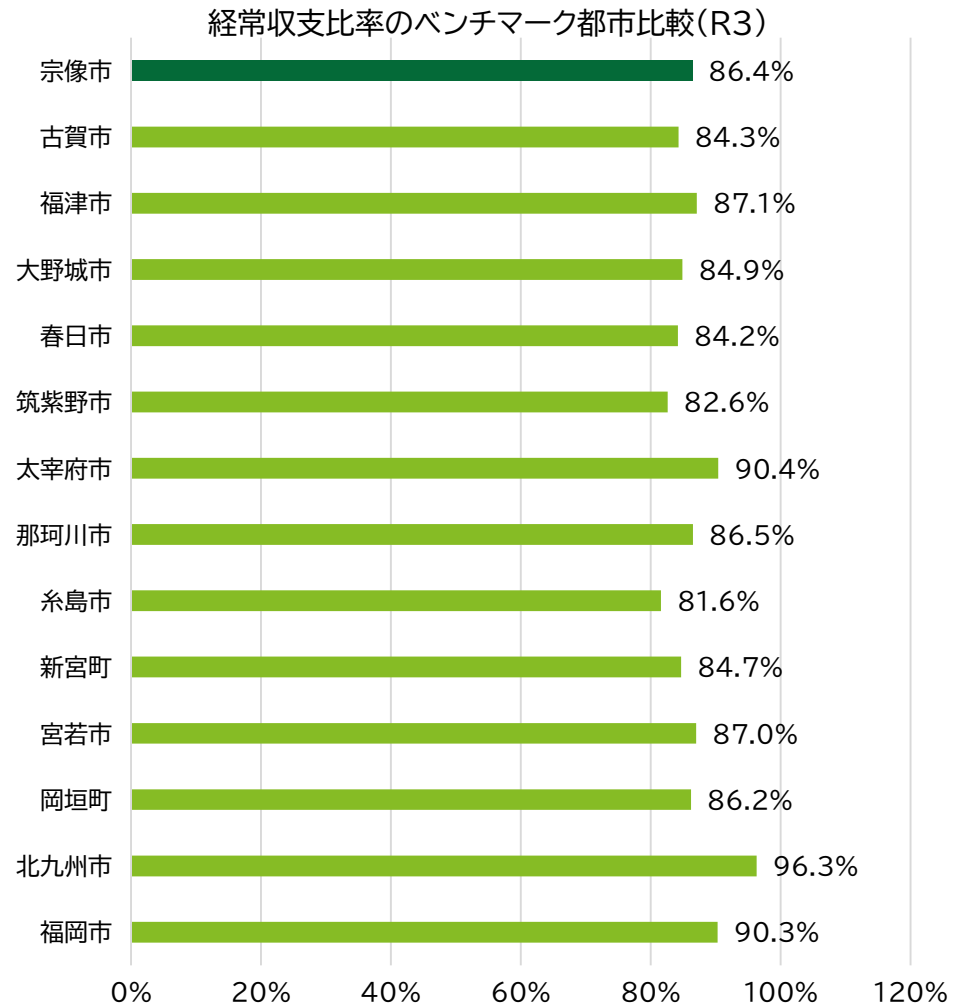
債務負担行為額の推移



VI.行政 | 2.財政

経常収支比率の推移と県内市との比較

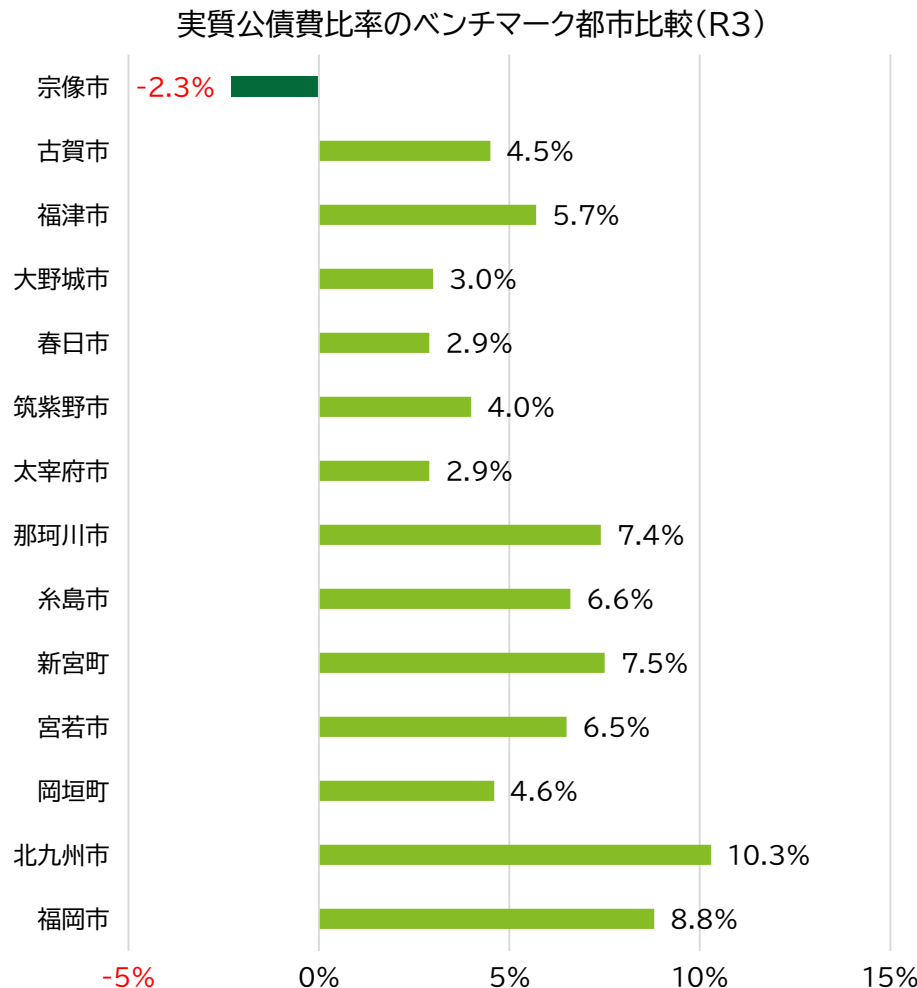
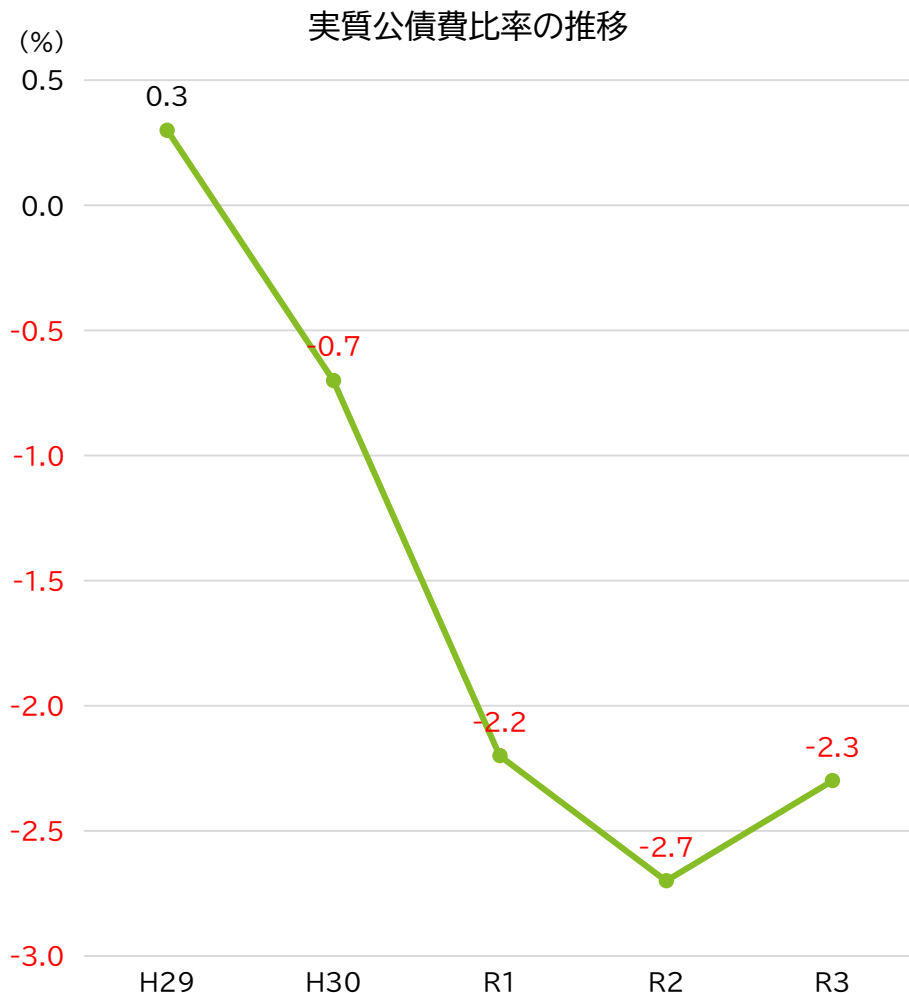
- ✓ 宗像市の経常収支比率は令和2年まで90%を超え、財政構造の硬直化が進んでいたといえるが、令和3年に一気に90%を下回った。
- ✓ 令和3年の数値をベンチマーク都市と比較すると、宗像市は平均的な水準であり、北九州市や福岡市より低い。



VI.行政 | 2.財政

実質公債費比率の推移と県内市との比較

- ✓ 宗像市の実質公債費比率は平成30年以降マイナスとなっており、公債費の観点で財政状況に大きな問題はないといえる。
- ✓ 今後、比率は再び0に近づいていくと予想され、引き続き健全な財政運営を行うことが求められる。
- ✓ ベンチマーク都市と比較すると、実質公債費比率がマイナスとなっているのは宗像市のみである。

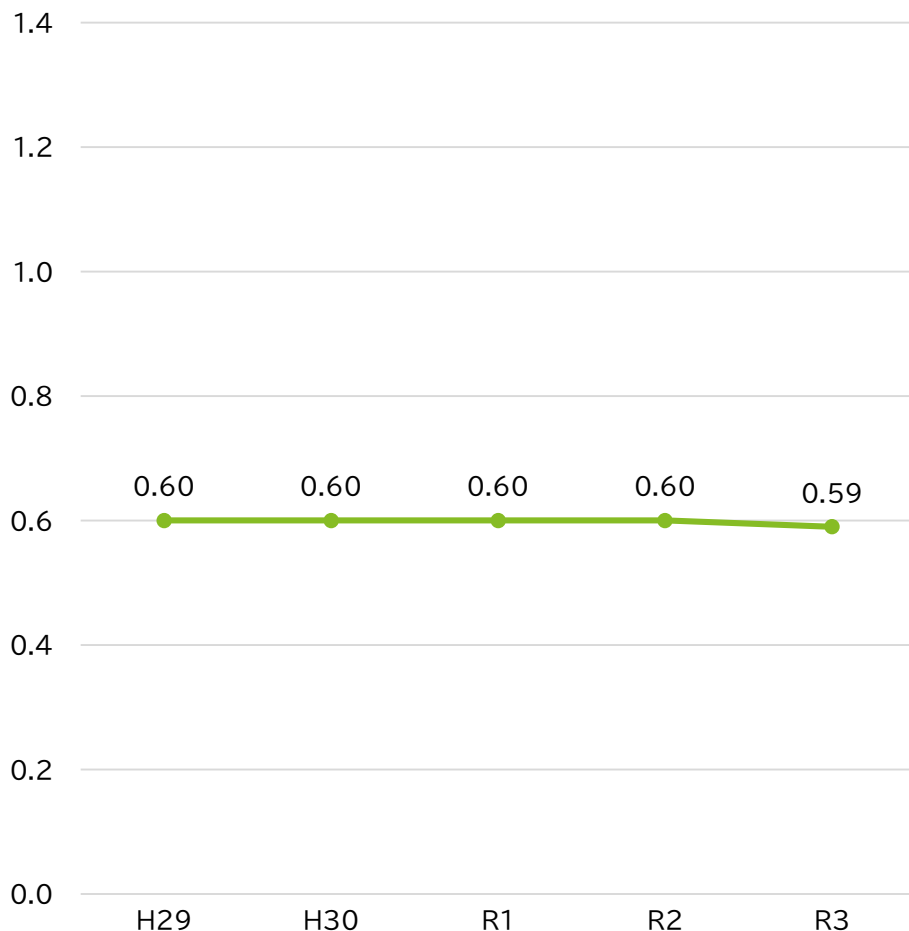


VI.行政 | 2.財政

財政力指数の推移、県内市との比較

- ✓ 宗像市の財政力指数は過去5年間でほとんど変化なく、0.6近くを横ばいに推移している。
- ✓ ベンチマーク都市と比較すると宗像市は比較的低く、財政力がやや弱いことがうかがえる。
- ✓ 今後も同水準を推移していくと推察されるが、ベンチマーク都市の平均値を下回っていることから、財政力向上の余地があるといえる。

財政力指数の推移



財政力指数のベンチマーク都市比較(R3)

